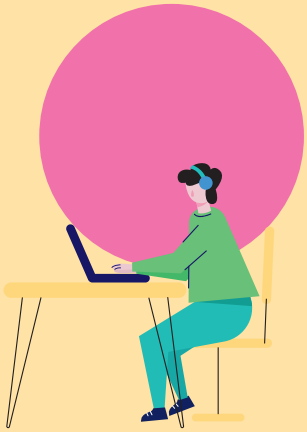
放送大学
卒業研究履修の手引
～2027年度履修者用～



1 放送大学の卒業研究

卒業研究は、全科履修生を対象に１年間、教員が直接研究指導を行う授業形態の選択科目です。
卒業のための必修科目ではありません。指導方法は、WEB会議、メール、電話、対面指導など様々です。

2 授業内容・評価について

４月から約半年間で研究成果を「卒業研究報告書」にまとめ、提出します。報告書の審査に合格すると、所属コース（自コース）の専門科目６単位が認定されます。（授業形態による要件上は、放送授業３単位、面接授業３単位）

3 卒業研究の履修方法

履修の前年度の８月に申請し、審査により履修が認められた方のみ科目登録できます。

P.2「卒業研究履修までの流れ」を
まずは必ずご確認ください。

4

新規履修希望者の申請期間

2026年
8月13日（木）　9：00～
8月20日（木）　17：00まで
※郵送の場合同日必着

▶ 申請は期間中インターネットで行えます！

※2026年度卒業研究履修中の方の再履修申請は
P.32をご確認ください

重　要　本冊子は、申請から履修終了まで使用するので、大切に保管してください。
内容をよく確認し、必要な手続きを所定の期間に行ってください。

目　次

はじめに

卒業研究履修までの流れ…… 2

1．　放送大学における卒業研究 …… 4

2．　卒業研究の申請条件 …… 5

3．　申請前の事前準備について …… 7

4．　卒業研究申請等スケジュール …… 8

5．　卒業研究の申請方法 …… 9

6．　インターネット申請について ……10

7．　申請に関する補足事項 ……12

8．　審査結果の通知・二次申請について ……13

仮決定通知【11月初旬ごろ】
履修否の方を対象とした履修希望申請（二次申請）
本決定通知【1月下旬ごろ】
卒業研究の科目登録【2027年2月中旬～下旬】
登録科目の学費納入【3月上旬～下旬】
卒業研究履修資格の喪失

9．　卒業研究質問箱について ……15

10.　卒業研究の手順等について ……17

11.　指導希望教員の探し方 ……21

12.　履修開始後の流れ ……23

13.　研究するうえで守るべき研究倫理 ……24

14.　研究報告書のまとめ方 ……25

15.　卒業研究報告書の作成 ……29

16.　再履修申請について【2026年度に履修中の方へのご案内】 ……32
(1)　2026年度の卒業研究報告書“未提出者”の再履修希望申請……32
(2)　2026年度の卒業研究報告書を“提出し不合格”となった方の再履修希望申請……32

17.　コース及び教員の指導方針と方法等 ……33
生活と福祉コース ……33
心理と教育コース ……44
社会と産業コース ……58
人間と文化コース ……71
情報コース ……83
自然と環境コース ……98

18.　専任教員別卒業研究テーマ (例示) …… 106

19.　図書館の主な利用方法 …… 121

卒業研究相談票及び質問票
卒業研究申請書等の記入要領
2027年度履修希望者用　卒業研究申請書　様式1
誓約書　様式1−2
修学上の合理的配慮申込届 (学部・卒研用)
2027年度履修希望者用　卒業研究再履修申請書　様式2

卒業研究の最終テーマについて　兼　掲載公開許諾書

はじめに

教員と直接ふれあうことの少ない放送大学において、卒業研究は、指導教員から直接指導を受けることのできる、またとない機会です。そのうえ、卒業研究は、大学におけるこれまでの学習の総仕上げの意義をもつものでもあります。そういう観点から、放送大学では、卒業研究の履修には大いに期待をかけています。

それ以前の科目履修や単位認定試験の準備では、どちらかといえば受け身の学習が中心でしたが、卒業研究では、自分でテーマをみつけ、そのテーマにふさわしい研究方法を模索し、研究の過程あるいは成果を報告書にまとめあげるという、主体的な学習を実行することになります。学問の全く新しい世界をかいまみることができるかもしれません。ここではじめて、研究ということの恐さの一端にふれることもありえます。それだけに、学ぶことの楽しさを実感できる反面、研究を計画し進める途上で壁に突き当たり、苦しむことも多いでしょう。そんなときの手引きをするのが本書のねらいです。

はじめて卒業研究に取り組む人は、あれもしたい、これもやってみたいと手を広げすぎて、収拾がつかなくなることになりがちです。まず、自分の本当に関心を持っていることは何かをよく考え、テーマをできるだけ具体的にしぼることが大切です。そうしてこそ、教員の適切な指導をひきだすことが可能になります。

卒業研究は、教員から日常的に、密度の高い指導を受けながら進めていくのが望ましいことはいうまでもありません。ところが、放送大学のような通信制の大学においては、それはなかなか思うようには実現できません。それゆえ、普通の大学とは違う、さまざまな困難を伴うこともありますが、一方でその困難を少しでも緩和するために、指導教員の側もそれぞれに工夫をこらしています。

研究には、ほんらい孤独な作業という側面がつきまといます。そのため、卒業研究の途上で、つよい孤立感に襲われることも少なくありません。しかし逆に、孤独な探究を続ける者同士の連帯感が生まれることもあります。類似のテーマの追究を通して、新しい友人と出会える例もみられます。卒業研究がそういう出会いの機会にもなることを願っています。

この手引きは、卒業研究のテーマを探す最初の段階から、研究方法を模索し、指導教員から指導を受ける段階を経て、報告書をまとめる最後の段階にいたるまで、いつも座右に置いて活用していただくことを念じて作成しました。

履修希望者は、この手引を十分に熟読して、申請の手続きにおいて漏れのないようにくれぐれも注意してください。

卒業研究履修までの流れ

卒業研究は、研究計画を作成する申請の段階から、念入りな準備が必要です。本ページをロードマップとして、常に確認しながら、余裕をもって準備に取り掛かるようにしてください。

STEP 0
「研究」や「論文」について知る

試験や課題レポートなどの「学習」ではなく、自身で研究を計画し、論文を執筆する活動は未体験の方も多いでしょう。まずは、「研究」や「論文」とは何なのか、つかみましょう。

目安：～2026年6月

P.4-

P.7

STEP 0.5
ガイダンスへの参加（任意）

各コースで卒業研究のガイダンスを実施または動画を公開しています。積極的にご活用ください。

目安：5月下旬から順次

STEP 1
研究テーマ（仮）を決める

自身が取り組みたい研究テーマを決めましょう。テーマは、STEP 2 以降で調整が必要となることがほとんどです。この時点では仮のもので大丈夫です。

目安：6月中旬まで

P.17-

P.18-19

STEP 2
研究領域を明らかにする

当面の研究テーマを決めたら、キーワード検索で関連する論文や学術誌を探してみましょう。学問分野や研究領域が特定できるはずです。

目安：6月中旬まで

STEP 3
研究計画の作成

申請の研究計画を作成する際、類似の先行研究を探すことは不可欠です。研究方法やテーマの着眼点等の違いを明確にしながら、研究の骨格となる具体的な研究計画をつくりましょう。

目安：7月末まで

P.19-20

STEP 4
指導希望教員を決定する

本冊子後半に記載されている、放送大学の専任教員から希望することができます。STEP 3 までの過程で、研究領域が近い教員を探してください。

目安：7月末まで

P.21-22

STEP 4.5
質問箱等の利用（希望者のみ）

より具体的な研究計画を作る上で、研究方法等のアドバイスが欲しい場合や、指導方法等を個別に相談したい場合は、教員へ直接質問できます。学習センターの「所長面談」（P.12）もあります。

受付：6月1日～7月末日【厳守】

P.15-16

STEP 5
履修希望申請

申請条件を満たし、研究計画の作成に問題ない方は、申請方法等を各ページで確認した上で、申請してください。インターネットで申請できます。

受付：8月中旬の所定期間内

P.8-12

STEP 6
履修可否の決定

履修可否は、11 月初旬に仮決定を行い、最終的に 1 月下旬に本決定となります。仮決定で「履修否」の方は、二次申請を行うことができます。

目安：11月初旬、1月下旬

P.13

STEP 7
事前学習を進める

自身の研究テーマに関連する先行研究を 1 本でも多く読む、質問具体的で実現可能な研究方法を吟味するなど、事前学習で論文のパーツを集めましょう。

目安：指導開始（4月）まで

STEP 8
科目登録を行う

1 月の本決定で「履修可」となった方は、期間中に卒業研究の科目登録を行ってください。詳細は「科目登録申請要項」をご確認ください。
※履修可となっても、他の科目と同様に科目登録が必要です！

受付：2月の所定期間内

P.14

STEP 9
学費納入を行う

3 月上旬に科目登録者へ「学費払込取扱票」を送付致します。到着しましたら、早めに学費納入を行ってください。

受付：3月の所定期間内

P.14

4月中旬～いよいよ指導開始です

1．放送大学における卒業研究

(1) 大学教育と卒業論文

放送大学における卒業研究とはどのようなものでしょう。その説明に先立ち、まず本学の卒業研究の原型ともなっている一般大学の卒業論文というものについて、ひととおり見ておくことにしましょう。

意外に思われるかもしれませんが、大学の卒業にあたって論文を提出し審査を受けるという制度は、わが国特有のものです。明治維新の後、近代的な高等教育制度を導入するにあたって当時の指導者たちが手本としたのは、独、英、仏といった西欧諸国、そしてアメリカの大学制度でした。当時、西欧諸国の大学にはいわゆる「卒業」という観念がなく、大学での学習の完了は専門的職業の資格の取得または著作や論文による学位の取得という形で認定されていました。一方、一定量の教養ある中産階級の創出を託されていたアメリカの大学では、必要とされる教科を学習し、それぞれの試験に合格して一定数の単位を取ることによって卒業資格を獲得する、という定型化した形態が一般的でした。簡単にいうと、明治初頭のわが国は、その両者のシステムをともに取り入れてしまったのです。そこで、単位取得による卒業の認定というタイプでありながら卒業のための論文も課すという日本型のシステムが成立することになりました。すでに明治10年の東京大学発足の際にはその原型ができあがっていて、全学部で卒業論文が課せられていたことが当時の履修表を見るとよくわかります。その後、各地に続々と官立、私立の大学が設立されたが、そのほとんど全てが東京大学をモデルとしていたため、論文審査による卒業というシステムも引き継がれ、定着していったと考えられます。

そのように、いわば変則的に誕生したわが国の大学卒業論文ですが、それが現在まで変容を遂げながらも、とにもかくにも続けられてきている背景には、基礎的学習中心の教科の履修と、その成果の応用・発展としての卒業論文とが、それぞれの教育的特性を生かしながら相互補完的に働き合ってきたからに他なりません。事実、すでに教科の履修自体に専門的・実際的な要素が強く認められる法学、医学、経済学などの分野では、卒業論文を課す大学の数がきわめて少なくなっていますし、理学、工学などでは、論文執筆よりも実験や観測、フィールドワーク、機器の制作などを実際に行うことの方によりウエイトが置かれています。それに対して、学問の性格上、哲学、文学、歴史学などの分野では、現在なお卒業論文の執筆それ自体に重きが置かれています。つまり、一口に卒業論文とはいいながら、その内容は学問分野によって大きく異なっているということです。

(2) 放送大学における卒業研究

さて、目を放送大学に転じましょう。放送大学の場合には、さまざまな学問分野が教養学部という一つの学部に集まっているため、卒業論文に関しても、先に見たような専門分野ごとの多様な意見や考え方があり、それを卒業論文の執筆という単一のコンセプトの中に押し込めることは初めから無理がありました。そこで、繰り返し討議・検討を重ねたうえで、結果としての「論文」ではなく、プロセスとしての「研究」を重視し、それを各分野の共通項とするという考えから、卒業論文ではなく卒業研究という名称を採用しました。

そうした経緯からもわかるように、放送大学の場合、卒業研究の幅は非常に広く、また柔軟性に富んでいます。本格的な学術論文に属するものから、課題研究的、あるいは先行する研究動向を整理してまとめた研究ものまで、卒業研究の報告書は種々さまざまなものですが、これでなくてはならないという硬直的なモデルは存在しないと考えてください。

放送大学では、それぞれの科目の履修に際して単位認定試験が課せられていますが、本来、試験というものは、学習の素材として与えられた講義や印刷教材の内容がよく身に付いているか、それをよく理解しているかを調べるためのものであり、いわば受け身の要素が強いです。しかし、卒業研究では、自分で設定した問題、選んだテーマについて、自主的に研究することが求められます。そこにはもちろん正解はありません。自分でデータや資料を集め、自分で分析し、自分なりの論理を組み立てて報告書にまとめるという積極的な作業がどうしても必要となってきます。実はそこにこそ卒業研究の本当の目的があります。

たとえていうならば、大学でいろいろな科目を学び試験にパスして単位を修得していくことは、あちらこちらの土地について広く基礎的な知識を得ることと同じです。しかし、それだけではいかにも物足りません。そこで、それらの土地の中から自分で選んだ場所に、自分で考えた方法で、自分なりの日程にしたがって、つまり自分自身の力で実際に旅をしてみるのです。それによって、事前に得たさまざまな基礎知識も初めて生きてくることになる。卒業研究とはそうしたものだといってよいでしょう。

２．卒業研究の申請条件

2027 年度卒業研究履修希望は、以下 3 つの条件をすべて満たす方のみ申請できます。
自身の在学学期数・修得単位数は、システム WAKABA → 教務情報 → 学生カルテから確認できます。

① 申請時点で放送大学に全科履修生として、在学中であること ※ 1
② 2026 年 4 月時点で放送大学に全科履修生として、2 年以上在学していること ※ 2
③ 2025 年度第 2 学期末までに 62 単位以上の単位を修得していること
（入学時の他大学等の既修得単位を含む） ※ 3

※ 1 現在休学中の方は申請不可。
※ 2 全科履修生として休学・停学期間を除いて 2 年以上在学していること。
なお、2 年次編入学者は 1 年、3 年次編入学者と本学、卒業後再入学者は 2 年在学（入学時点で②を満たす）したものとみなす。
除籍後の再入学者は、過去の在学期間を通算して計算する。
※ 3 2026 年度第 1 学期の 3 年次編入学した方については入学後に通知される他大学等の既修得単位認定も含む。

なお、2024 年度第 2 学期または 2025 年度第 2 学期に入学した方は、特例者として、2026 年度第 1 学期末において、②③の条件を満たす（現在 4 学期目で、履修中科目を合わせて 62 単位以上の単位を修得する）見込みの段階で申請できます。（現在 4 学期目で、履修中科目を合わせて 62 単位に到達する方）

― 卒業研究履修申請対象者一覧表 ―

入学年度	2024		2025		申請に必要な単位数
入学学期	1	2	1	2	
2 年以上在学者	**2024.1 以前入学**				62 単位以上修得
特例者		**1 年次入学**		**2 年次編入学**	申請学期末において 62 単位以上修得見込み

▼申請後の履修条件及び注意事項

（ア） 休学について
申請後、履修終了までの 4 学期間、原則休学できません。休学した場合、卒業研究の履修資格を失います。

（イ） 所属コースの変更について
申請時は 2027 年度に所属予定のコースを申告いただく必要があります。申請後、履修開始までに申告したコースへの変更は可能ですが、履修開始後は履修終了（再履修含む）までコース変更はできません。コース変更を申請した場合、卒業研究が不合格になり、再履修を希望しても卒業研究の再履修資格を失います。

（ウ） 卒業について
申請後、履修開始までの成績により、卒業要件を満たした場合は卒業となり、継続入学にかかわらず履修資格を失います。
卒業要件単位が残り僅かの場合には、履修計画等で修得単位の調整を行ってください。
また、卒業研究は通年科目のため、履修開始後、第 1 学期末で卒業することはできません。

（エ） 在籍期間満了について
2026 年度中または 2027 年度第 1 学期末で在学年限が切れる方は、同一コースへの継続入学申請を必ず行ってく

ださい。継続入学申請及び学費納入が未完の場合、卒業研究の履修資格を失います。なお、卒業研究履修中の第１学期末で在学年限が切れ、第２学期に継続入学される場合は、郵送出願での手続きとなっております。

（オ）　資格取得や卒業時期の希望がある方へ

卒業研究は、履修のための審査がある等、放送授業などに比べて履修計画が難しい科目です。

そのため、希望の卒業時期等がある方は、卒業前の余裕のある時期に履修するなど調整を行ってください。

（カ）　特例者について

上記一覧に示された特例者は該当者が多いパターンを示しています。特例の対象となる年度のそれぞれ第２学期に入学した方で、ご自身が対象となるか不明の場合は、必ず事前に入学・学修支援課卒業判定係までお問い合わせください。

（キ）　2024 年度から適用されている新しいカリキュラムへカリキュラム変更されますと、卒業学期が早まってしまう場合があります。卒業研究の履修を検討されている場合は、あらかじめシステム WAKABA のカリキュラム変更シミュレーションにて事前に確認をしてください。

３．申請前の事前準備について

(1) 各コース主催のガイダンスに参加もしくは動画を閲覧する

コースにより、コース主催のガイダンスの実施もしくは動画の公開を行います。詳細および関連資料についてはシステム WAKABA の学内連絡にて 5 月頃までに周知する予定ですのでご確認ください。

(2) 関連科目の履修

放送大学では、卒業研究や学術的な研究のための文章の書き方について、以下 2 つの授業で中心的に扱っています。「**日本語リテラシー（'26)**」と「**日本語アカデミックライティング（'22)**」をこの順で履修しておくことを推奨しています。また、卒業研究は、各自が所属するコースに関するテーマについて、考究した成果を教員の指導を受けながら最終的にまとめるという性格のものです。そのため、基盤科目・導入科目については履修を完了し、所属コースの専門科目についても研究テーマに関連する科目は最低限履修しておきましょう。

(3) 過去の卒業研究報告書閲覧について

システム WAKABA から、過去 5 年間の卒業研究報告書を閲覧することができます。なお、報告書の全文は、コースにて優秀作品に選出され、著作者が許諾したものに限定して公開しています。（データでの全体公開は、原則以下に公開されているもののみとなります）

▼卒業研究報告書の閲覧方法
システム WAKABA へログイン→ 「授業サポート」 → 「資料室」 → 検索窓に「卒業研究」と入力

(4) キャンパスメールの利用について

卒業研究の指導教員との連絡・事務連絡は、原則**キャンパスメール**を利用することとしています。履修開始前から日常的に確認する習慣をつけておいてください。

メールアドレスは、自分の学生番号（ハイフンなし）@ campus.ouj.ac.jp

▼キャンパスメールの利用方法

方法１：下記 URL からログインする（おすすめ）
https://mail.google.com/a/campus.ouj.ac.jp

方法２：システム WAKABA へログイン→画面左「キャンパスメール」をクリック

日常的にシステム WAKABA を利用しておらず、操作に不安がある方は、最寄りの学習センターや学生サポートセンターを活用し、基本操作を覚えておいてください。卒業研究を履修する場合、特にキャンパスメールは頻繁に使用しますので、履修前に操作に慣れておくことが必要です。

システム WAKABA のログイン ID・pass を忘れてしまった、ログインが行えない場合には、ログイン画面に記載のお問い合わせ先までご連絡ください。パスワードの初期化を行います。

４．卒業研究申請等スケジュール

日程	事　　項	参照ページ
5月下旬～6月（予定）	卒業研究ガイダンスの実施および関係資料の掲載	P.7
6月 1 日（月）～ 7月31日（金）	卒業研究に関する質問の受付① 質問内容：テーマの決定・研究計画に関すること	P.15–16
インターネット申請 **8月13日（木）9：00～** **8月20日（木）17：00** 郵送申請 8月13日（木）～ 8月20日（木）【本部必着】	**卒業研究履修希望一次申請　受付** ※申請条件や申請方法は次頁以降参照	P.9–12
11月初旬	**申請の審査結果通知　（仮決定通知）**	P.13
インターネット申請 **11月12日（木）9：00～** **11月19日（木）17：00** 郵送申請 11月12日（木）～ 11月19日（木）【本部必着】	卒業研究履修希望二次申請　受付 ※8月の申請で履修否となった方のみ対象	P.13
11月23日（月）～11月30日（月）	卒業研究に関する質問の受付② 質問内容：より具体的な研究計画や研究準備に関すること	P.15–16
2027年1月下旬	**申請の最終審査結果通知　（本決定通知）**	P.13
2月中旬～2月下旬 ※詳細な申請期間は、 科目登録申請要項をご確認ください	**科目登録申請** ※1月に履修可の通知があった方のみ	P.14
3月上旬～3月下旬	**授業料の納入**	P.14
4月上旬～4月中旬	指導教員の連絡をもって指導開始	P.23
11月1日（月）【消印有効】	卒業研究報告書の提出　※海外からの提出は同日本部必着	P.23

５．卒業研究の申請方法

卒業研究の履修希望申請は、前述の申請条件を満たした学生本人が行うものとなります。
申請には、研究計画など作成に時間がかかる内容が多く含まれますので、余裕をもって取り組みましょう。

(1) 申請方法

申請は「インターネット申請」と「郵送による申請」の２種類です。どちらかの方法を選択の上、期間中一学生につき、1回のみ申請可能です。申請後の申請内容の修正はできません。

インターネット申請

８月１３日（木）9：00　～　８月２０日（木）17：00

申請用 URL

https://req.qubo.jp/sotuken/form/ouj

システム WAKABA →キャンパスライフ→学習案内　に URL の直リンクを掲載致します。
インターネット申請の場合、郵送期間が省かれるため、こちらでの申請を推奨します。

郵送による申請

８月１３日（木）～　８月２０日（木）【本部必着】

提出先：〒 261−8586　千葉県千葉市美浜区若葉 2−11　放送大学　入学・学修支援課卒業判定係 行
封筒に「卒業研究申請書在中」と朱書きの上、記録の残る追跡可能な簡易書留等で期間内に郵送してください。
普通郵便で送られた場合の未着等にかかる責任は負いかねます。

(2) 郵送による申請の注意事項

・締切間際の申請は、極力インターネット申請をご活用ください。
・締切以降に到着した申請は、不受理となります。余裕をもって郵送してください。
・申請書の到着確認には応じられません。追跡番号等を利用してご自身でご確認ください。
・送付先は、上記に記載の大学本部のみとなり、学習センターや私書箱等では受付できません。
・申請書の返送等は対応できませんので、必ず両面の写しをとって保管してください。

(3) 申請に関する共通の注意事項について

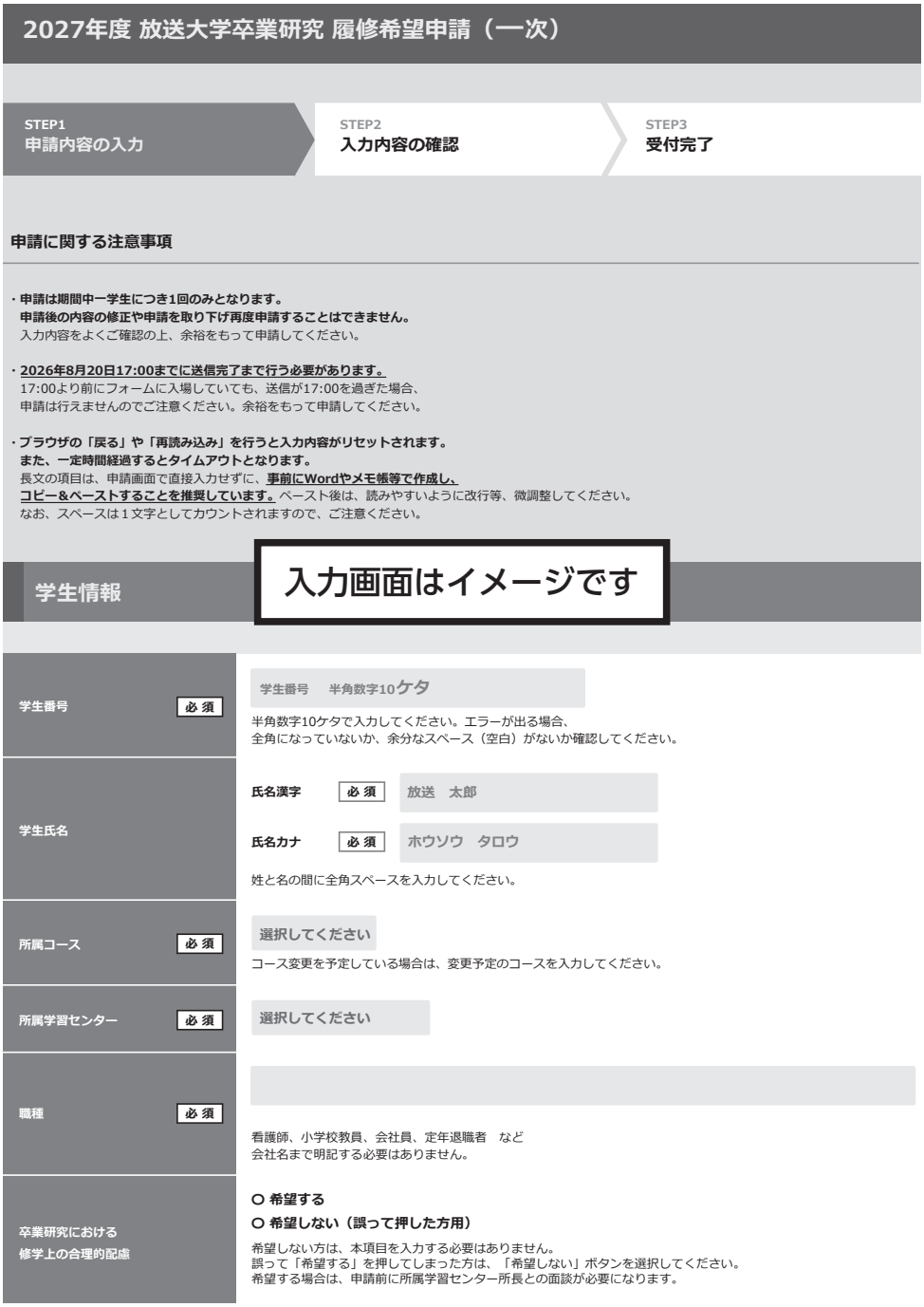
（ア）　申請の重複について
申請は申請方法にかかわらず、期間中一学生につき１回のみとなります。
重複があった場合、先に受付したものを有効とし、以降の申請は無効となります。

（イ）　申請内容の修正について
申請後の内容変更、申請を取り下げ再度申請することは原則できません。
正常に受理できない不備があった場合、事務局より連絡することがあります。

（ウ）　申請の不受理について
以下に該当した場合は、不受理となりますのでご注意ください。
①申請期間外に到着した申請　②申請条件を満たしていない者の申請
③申請期間内に不備が解消せず、受付不可の状態にある申請　④同一学生による重複の申請

6．インターネット申請について

卒業研究の履修希望申請は、研究計画など長文の項目も多いため、インターネット申請を推奨しています。本頁で一部項目について補足致しますので、申請前にご確認ください。



(1) 申請内容についての補足

・連絡先：電話番号とキャンパスメールアドレスを入力

P.7 でも記載の通り、本学の卒業研究の指導に関する教員、大学本部からの連絡は、原則キャンパスメールを使用します。申請の前に必ず操作方法を確認するようにしてください。

・所属コース：2027 年度第 1 学期に所属予定のコースを入力

申請後に所属コースの変更を予定している場合は、所属予定のコースを入力してください。

指導希望教員は所属コース以外に所属する教員も選択できるため、教員に合わせてコースを変更する必要はありませんが、個別の履修可否は指導教員のコースの審査によります。

・研究テーマ：40 字以内で現時点で考えているテーマを入力

4 月以降、指導教員と相談しながら、研究対象を絞り込む、調査方法を変えるなどして、研究テーマを変更することはできます。指導教員の指導範囲外になるような大幅な変更は原則できません。

・指導希望教員：P.33 ～の各コースの教員一覧に記載のある放送大学専任教員の中から選択

本学専任教員以外の教員を指名することはできません。また、審査の結果、他の教員が適任と判断されるなど、必ずしも希望通りになるとは限りませんので、承諾の上申請してください。

！　指導希望教員の探し方は、P.21 ～で詳しく解説していますので、必ずお読みください　！

・放送大学の既修得科目：研究テーマに関連する主なものを入力

今学期履修中の科目も入力可。どの程度関連領域の基礎知識を持っているか等の指標になります。

・既読の先行研究：研究テーマに関連するものを可能な限り入力

本、論文など形態は問いません。申請内容を審査する教員がアクセスできるようタイトルや作者は正確に記載してください。

・現段階での研究計画：1200 字程度で入力

！　研究計画のつくり方は、P.17 ～で詳しく解説していますので、必ずお読みください　！

7．申請に関する補足事項

(1) 卒業研究における修学上の合理的配慮の希望について

障がいのある方に、障がいの特性等に応じた修学支援（本学では「修学上の合理的配慮」と言います。）を行っております。

卒業研究履修において修学上の合理的配慮を希望する場合は、所属学習センターへ連絡し、7月末日までを目途に所長面談を受けてください。所長面談は日程調整の必要があるため、早めに連絡してください。必ず所長面談を受けてください。

▼申請までの流れ

① 面談時には、「修学上の合理的配慮申込届（学部・卒研用）」を必ず持参してください。

面談はどのような合理的配慮が必要か検討するために行うものであり、面談の内容が履修の可否に影響するものではありませんので、ご安心ください。なお、既に修学上の合理的配慮について面談を受けている方についても、卒業研究にあたり配慮が必要な場合もありますので、面談を受けてください。

② 面談終了後、持参した「修学上の合理的配慮申込届（学部・卒研用）」をそのまま所属学習センター所長へご提出ください。

③ インターネット（郵送）申請時に「修学上の合理的配慮」の希望欄がございますので、ご入力（ご記入）ください。

(2) 学習センターにおける所長面談

6月～7月の申請期間前に卒業研究履修希望者を対象に学習センター所長の面談を実施しています。所長面談では、研究テーマの絞り込み、指導教員、研究計画の設計などについて総合的に助言を行います。また、事情により、本部専任教員以外の教員（所属学習センターの教員等）の指導を希望する場合は、必ず面談を受けてください。実施は7月末日までを目途としています。相談は事前予約制となりますので、希望される方は、所属学習センターに早めに相談し、日程調整を行ってください。受付方法・期間等は、学習センターごと異なりますので、所属学習センターへご確認ください。

また、希望者以外にも所長が必要と認める場合には、所長面談を実施する場合があります。前項の修学上の合理的配慮を希望する学生は、必要な配慮の内容等を把握するため、面談が必要となります。

(3) 指導希望教員との事前の内諾等の禁止

卒業研究は、申請時に申告した研究テーマや研究計画などを総合的に判断して、履修可否を審査します。申請前に指導希望教員に履修の約束を取り付けることやそれに類する行為は絶対に行わないでください。卒業研究の履修可否は次頁以降に記載の方法で大学から正式に通知致しますので、その他の方法で履修可否や履修を確約することはありません。

(4) 申請後、学費納入前までに履修希望を取りやめたい場合

申請後に一身上の都合により、卒業研究の履修希望を取りやめたい場合は、以下の申請フォームまたは郵送にて必要事項を入力し、速やかにご連絡ください。以降の審査等のご連絡を停止し、指導希望教員にもその旨通知します。

特に履修可否の決定後は、指導教員が履修予定者の人数等によって、4月以降の指導の準備を行いますので、必ず連絡を行ってください。〔必要事項〕①学生番号　②氏名　③所属コース　④指導希望教員　⑤取りやめの理由

卒業研究履修辞退申請フォーム

https://req.qubo.jp/sotuken/form/decline

8. 審査結果の通知・二次申請について

申請内容等を確認し、指導希望教員及びコースにて審査の上、履修可否を決定致します。
なお、審査中に専任教員が必要と認めた場合に個々に連絡・指導を行うことがあります。
申請結果は（履修可・履修否）のいずれかの内容で次の通り通知します。

(1) 仮決定通知【11 月初旬ごろ】

履修可　審査の結果、申請内容に問題がなく、履修が認められた場合の通知。
1 月下旬に最終的な「本決定通知」を送付します。　→ (3) へ
※履修前のため、4 月の指導開始まで教員に個別に連絡・質問等はできません。

履修否　申請内容のままでは、卒業研究の履修は認められない旨の通知。
申請書内容を修正して再度申請することができます。（二次申請）　→ (2) へ
申請は任意となります。

(2) 履修否の方を対象とした履修希望申請（二次申請）

二次申請は、**仮決定通知において、履修否となった学生のうち再審査を希望する方が対象**です。

インターネット申請（二次）

11 月 12 日（木）9：00　～　11 月 19 日（木）17：00
https://req.qubo.jp/sotuken/form/oujsec

郵送による申請（二次）

11 月 12 日（木）～ 11 月 19 日（木）【本部必着】

郵送による二次申請の様式や発送方法は、履修否の方へ仮決定通知と合わせて通知します。
申請書の作成期間が短いため、極力インターネット申請をご利用ください。

▼二次申請に関する注意事項

・二次申請は、一次審査で「履修否」の方が、研究計画等の加筆・修正を行えるよう実施しています。
　本期間内に新規の申請は受付できません。一次申請と全く異なるテーマで申請することもお控えください。
・仮決定で「履修可」の方で、研究方法等の変更が生じ、やむを得ず指導希望教員の変更等が必要になった場合は、申請期間前に入学・学修支援課までご相談ください。（二次申請で履修否だった場合は、卒業研究は履修できません）
・申請に関する共通の注意事項は、P.9 と共通になりますので再度ご確認ください。

(3) 本決定通知【1 月下旬ごろ】

履修可　仮決定で履修可であった方、二次申請で履修可となった方へ通知。
科目登録、学費納入など履修開始までの手続きも合わせてご案内致します。

履修否　仮決定で履修否であった方、二次申請で履修否となった方へ送付
来年度の卒業研究は履修できないため、次年度以降の申請をご検討ください。

(4) 卒業研究の科目登録 【2027 年 2 月中旬～下旬】

本決定通知にて「履修可」となった方は、卒業研究の科目登録が必要です。科目登録の詳細は、1 月中旬頃より順次送付する「科目登録申請要項 2027 年度第 1 学期」を必ずご確認ください。卒業研究の科目コードは、科目登録時の科目検索で自身の所属コースに対応するコードを確認し、登録してください。

▼科目登録時の注意事項

・卒業研究以外の科目登録も可能ですが、研究計画等と照らし無理のない範囲で行ってください。
　関連科目の履修は、履修開始前に済ませておくことを推奨します。
・申請期間後の登録内容の変更はできないため、科目登録後、卒業研究のみ履修を辞退し、卒業研究以外の登録科目のみを履修することはできません。
・2026 年度第 2 学期末で在学年限満了となる方は、科目登録ではなく、継続入学申請が必要となります。
　入学学期の科目登録で卒業研究を選択してください。

(5) 登録科目の学費納入 【3 月上旬～下旬】

科目登録者へは、2027 年 3 月上旬ごろより順次、学費納入に必要な「学費払込取扱票」を送付致します。

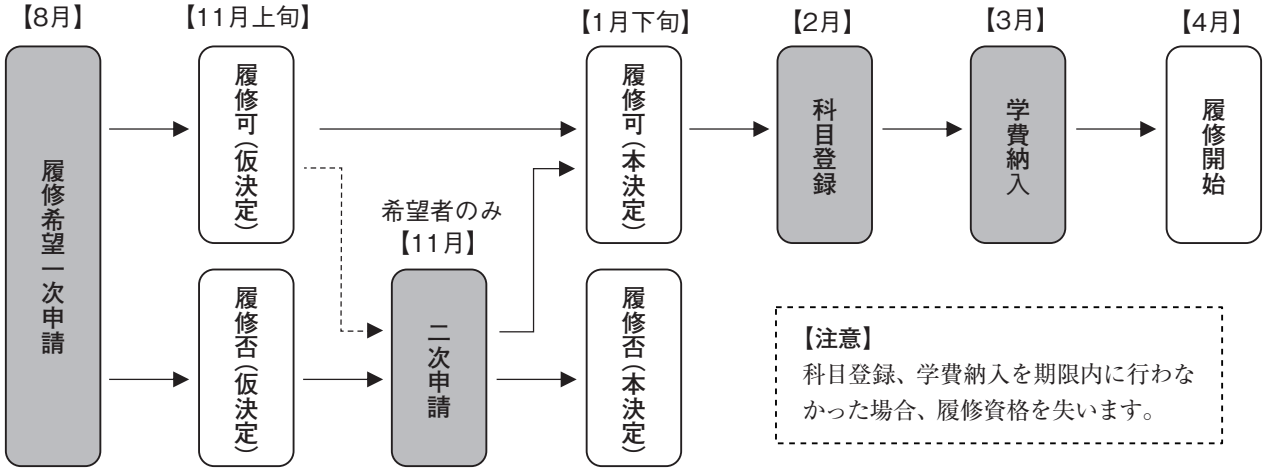
所定の期限内に学費を納入してください。例年、学費納入忘れによって、予期せず履修できなくなる方が散見されるため、メール等で学費納入期限よりも早めの納入をお願いすることがあります。

(6) 卒業研究履修資格の喪失

以下のいずれかに該当した場合、審査結果にかかわらず、来年度の卒業研究の履修はできません。なお、審査は年度ごと行うため、履修可の決定を次年度以降に持ち越すことはできません。

ア） 履修開始前に休学した。
イ） 履修開始前に卒業となった（継続入学にかかわらず履修資格を失います）。
ウ） 卒業研究の科目登録を行わなかった、または科目コードを間違えて登録した。
エ） 次学期の授業料を所定の期限までに納入しなかった。
オ） 卒業研究申請後、学籍が満了となる方で継続入学申請及び学費納入の手続きを行わなかった。
カ） その他、特別にコースにて判断した場合。

申請から履修許可までの流れ



履修否（仮決定）の方で希望する方は、研究計画等を修正し、履修希望二次申請が可能です。
履修否（本決定）となった方は、次年度以降の申請をご検討ください。

９. 卒業研究質問箱について

卒業研究に直接関係する学問的な質問については、本学専任教員が回答する機会を設けております。
申請をする上で研究計画や指導教員について、事前に相談したい場合等に積極的にご活用ください。

(1) 卒業研究質問箱の受付期間

受付は申請期間の前後で１回ずつあり、それぞれ質問できる内容が異なります。また、下記期間以外の質問は受付いたしかねます。

第１回

2026 年 6 月 1 日（月）～ 7 月 31 日（金）
質問対象：申請前段階での研究テーマや研究計画等に関する質問
　　指導可能教員や指導方法等の個別の質問

第２回

2026 年 11 月 23 日（月）～ 11 月 30 日（月）
質問対象：申請後の研究計画等のより具体的な相談
　　事前学習の中で生まれた学問的な質問
（対象者は仮決定で履修可となった方のみです）

(2) 卒業研究質問箱のルール

卒業研究質問箱は、質問時に指定のあった教員が個別に質問内容を確認し、個別に回答を作成致します。
より多くの履修希望者に答えるため、以下のルールに則って、質問を作成してください。

質問項目

①学生番号　②氏名　③所属コース　④研究したい学問分野　⑤検討中の研究テーマ
⑥質問したい教員名（またはコース）　⑦質問本文　　が必要事項になります。

卒業研究質問箱のルール

・質問の対象は、卒業研究に関する研究テーマ・研究計画、研究方法などの学問的な内容または、指導教員（専任教員）へ指導方法等の相談等を行う内容に限ります。審査（履修可否）に関する内容や、卒業研究に関連しない自己の学習に関する質問は受付できません。
・質問の妥当性や回答の必要性などについて、教員による判断のうえ、回答できない場合や教員の諸事情により、回答に時間のかかる場合があります。
・質問は、２週間を目安にキャンパスメールアドレスへ回答を送付致します。（専用フォームの場合）
　２週間経過後も教員から回答がない場合は、事務局より再依頼します。追加の連絡等はせずお待ちください。
・**質問は、現在までに閲覧した先行研究や文献等を明示し、どこまで分かっていて、何につまずいているかを具体的かつ簡潔に作成してください。**作成に当たっては、次頁の（４）質問の一例も必ず確認してください。
・専用フォームで質問する際に添付ファイルが重く容量オーバーした場合には、卒業研究専用メールアドレス（sotu-ken@ouj.ac.jp）宛に添付して送付してください。

(3) 卒業研究質問箱の受付方法

専用フォームでの受付　**【推奨】**

上記受付期間中、以下のURLより受付しております。画面の指示等に従ってご入力ください。
質問の回答は、2週間を目安にキャンパスメールアドレスへ送付されます。

https://req.qubo.jp/sotuken/form/question

郵送での受付

本冊子巻末の「卒業研究相談票及び質問票」をコピーしてご使用ください。
郵送方法については、「卒業研究相談票及び質問票」の裏面に記載がございます。

(4) 質問の一例

Q　いくつか興味のあるテーマを挙げるので、研究として成立しそうなものを選んでいただけないか。

Q　「〇〇」というテーマで研究を考えています。卒研のテーマとして成立しているでしょうか。

A　研究テーマはご自身が決定するものです。教員が選ぶものではありません。また、研究テーマのアイディアや設定のキッカケを挙げただけでは、「研究として成立しているか」判断できません。次頁で紹介しますが、質問する前にそのテーマが属している研究領域を特定し、類似テーマの先行研究をいくつか参照することが必要です。

Q　テーマが漠然としており、どのように研究計画を考えて良いのかわかりません。

A　テーマの定め方、研究計画書の書き方は、P.28でも紹介しているように様々な参考文献があるので、質問する前にまず一読しましょう。誰の（誰を対象として）、何を（何と何の関連を）、どのように（どんな研究デザインで）明らかにしたいのかを明確にし、先行研究をいくつか読み、具体的に質問を作成してください。

Q　先生のおすすめの先行研究・参考文献を教えてください。事前学習は何をすればよいですか。

A　先行研究は、Google Scholarなどでキーワードで絞るなど、学生自身が探すようにしてください。近道はありません。最初は論文の「概要」を読むだけでも、類似の研究か判断はできるでしょう。事前学習は、先行研究をとにかく読むことです。論文の執筆経験がない方は、P.28の参考文献を読むのもよいでしょう。

以下は、上記の内容を踏まえた架空の質問と回答例になります。作成の参考にしてください。

Q　「SNS上の中高生の問題行動」について、SNSの利用時間や発達段階に着目した研究が多いですが、私は保育士のため、「愛着」をキーワードにアンケートを用いた量的調査で研究を行いたいと考えています。先行研究が見当たらず、この設定でよいものか不安があります。先行研究の探し方が悪いのでしょうか。

（先生の回答）　着眼点は非常に学問的に意味があるものだと思います。ただ、「愛着」とSNS上の問題行動を直接結びつけることができるか疑問が残ります。アンケートは、誰を対象にどのような内容の質問を行う想定でしょうか。また、「愛着」と「問題行動」のみであれば、多くの論文がヒットすると思いますので、類似の研究がないか探してみることをおすすめします。

10. 卒業研究の手順等について

ここからは、卒業研究の手順について説明します。先に述べたような理由から、放送大学における卒業研究の性格は多様であり、その手順を一言で示すわけにはいきません。しかし、学問分野と研究テーマの性格をもとに大まかに分けるとすると、ある事柄のあり方、原因、背景、他の事柄との関連などに関する既存の理論を検討して、自分なりの理論を提示することを目的とする研究、そして資料や調査データあるいは実験データなどを分析して、その結果を正確に過不足なく報告することを目的とする研究の二つになります。ここでは、前者を「理論研究型」、後者を「実証研究型」と呼ぶことにします。

まず、理論研究型の場合、研究を進める手順はおおむね次のようになります。

① 研究テーマを決める。
② テーマに関して論理的に検討している著作や論文（理論文献）を精選し、それら先行する理論的研究をノートにとりながら熟読してまとめ、そこから自分なりの検討課題や筋立て（「○○が××なのは△△だからだ」、「○○は△△のとき××になる」等々）を作り、それをもとに大まかな論文構成または章立て（後段参照）にまとめる。
③ 検討課題の検討や筋立ての展開に必要な資料・データを収集して整理する。（資料文献や統計・調査・観測・実験等の結果の収集がこれに含まれます。）
④ 論点を整理し、論理に矛盾のないように章立てを再検討する。
⑤ 論文を執筆する。

理論研究型では、研究の対象がすでに論理性の強い理論そのものであることから、完成度の高い起承転結の整った論文の執筆が重視されています。

なお、②の文献の検討の段階で選ぶ文献には、自説に合ったものだけでなく、批判的な検討の対象となるような著作や論文も含められるべきであることはいうまでもありません。

これに対して、実証研究型の卒業研究の場合の手順は次のとおりです。

① 研究テーマを決める。
② テーマに関する文献をなるべく広範に収集する（精選して熟読する必要はありません）。それらの中で行われている調査・観測・実験などの方法を参考に、自分なりの研究方法を決める。
③ 調査・観測・実験等を実施し、その結果を分析・解釈して、エッセンスを拾い出す。
④ 研究方法の紹介と結果のまとめを中心に論文の構成を検討する。
⑤ 論文を執筆する。

実証研究型では、論文そのものの完成度の高さより、論文に記述された実証プロセスと結果の質に重点が置かれることになります。したがって、このようなタイプの研究の場合、報告書の枚数に関する「…枚以上」といった規定にはあまり意味がありません。あくまでも目安だと考えるべきでしょう。

つまり、誤解を恐れず簡潔に表現するならば、理論研究型では研究を進めつつ同時進行的に論文の原型ができあがっていくのに対し、実証研究型ではひととおり調査・観測・実験等の結果が出てから論文執筆に取り掛かる、ということになります。

ただし、注意しておきたいのは、こうしたタイプの違いは、文系と理系の差異、人文社会系と自然系の差異、といった単純な区分けには対応していないということです。重要な差異は、何らかの筋書きや仮説を説明するための論文か、発見した事実を紹介、記述するための論文か、の違いにあるのであって、学問分野や対象の違いにあるのではありません。また、こうした卒業研究のタイプは、一度決めたら絶対に変えられない、というものではありません。調査を実施するつもりで先行研究を調べ始めたが、すでに多くの結果が出ていることを知り、それらを使って一つの筋立てを説明するという理論研究に方針を変えたり、逆に途中で先行研究の不十分さに気づいて自分で実験を始めたり、といったことも少なくありません。むしろ、固定的な姿勢にこだわることなく、指導教員とも十分相談の機会を持ちながら、柔軟に考えていくべきでしょう。

ところで、放送大学での卒業研究期間は、指導教員が決定する4月から提出期限の11月までの実質半年あまりしかありません。その間に放送科目、面接科目の単位も修得しながら、さらに仕事や家事もこなして…ということになると、上で述べたような本格的な研究はなかなか難しいのが現実です。意気込んで取り掛かったものの途中で挫折してしまうことも決して少なくありません。そのような状況が予想される場合にお勧めしたいのが、「研究ノート型」の卒業研究です。

研究ノート型の卒業研究はおおむね次のような手順で行われます。

① 研究テーマを決める。
② テーマに関する文献をなるべく広範に収集し、ノートをとりながらひととおり読んで、先行研究の成果を理解する。
③ 内容をまとめたノートをもとに、項目別、段階別、賛成反対別、時期別などの基準によって、先行研究を整理する。
④ 研究テーマに関して、論点は何か、どのように研究されてきたか、どんな知見が得られているか、今後の課題は何かなどについてのまとめを中心に論文の構成を検討する。
⑤ 論文を執筆する。

これも誤解を恐れずにいえば、研究ノート型の研究とは、理論研究型の先行研究の整理とまとめの部分だけをより充実したものと考えればよいでしょう。先行研究のまとめは、全ての学術研究の基礎であり、それなしにはあらゆる研究が不可能となるような重要な研究プロセスです。分野にもよりますが、むしろ大学の卒業研究（論文）レベルでは、こうした先行研究のまとめの研究ノートをしっかり作ることの方が望ましいとさえいえます。今後、より重視されてよいタイプの卒業研究だといえるでしょう。

(1) 研究テーマ

さて、実際に卒業研究に取り組むことにしましょう。まず、研究テーマを決めないことには始まりません。卒業研究のテーマを決める際には、少なくとも次の三点を考慮してください。

(i) 研究テーマには自分自身が興味関心を持てるものを選ぶ

卒業研究という一大事業を途中で投げ出すことなく進めていくためには、他の誰のものでもない、自分自身の自発的な興味関心が、研究の推進力として不可欠です。したがって、興味関心の持てる領域を見つけることができたとすれば、それでまず第一の関門は通過したということが言えます。

興味関心は、さしあたり個人的な感情や意識というレベルで生じます。たとえば、人文系であれば、「開高健が好きだ」とか「足利尊氏の生き方は魅力的だ」といった感覚、社会系であれば「夫婦別姓を推進すべきだ」とか「高齢化は大問題だ」といった意見、自然系であれば「宇宙の神秘に魅せられる」とか「クローン技術についてもっと知りたい」といった意識、などです。そのような、いわばプリミティブ（原始的）な感情はかえって学問的な研究の邪魔だ、という考えも確かにあります。しかし、それが研究の原動力になることは、一学生でも一家をなした研究者でも同じことであって、決して興味関心を軽視することはできません。

(ii) 学問的な研究に値するテーマを選ぶ

興味関心が大事と先述しましたが、日常生活上の意識のレベルで止まっていたのでは、それを研究テーマとすることは難しいでしょう。というのも、卒業研究とはいえ学問研究である以上、その分野の他の研究者が学問的興味を持たなければ、ただの個人的関心で終わってしまうからです。卒業研究を途中で断念するケースで往々にして見られるのは、自身の生活・職業体験からくる感覚や感想を絶対視してしまい、独りよがりにその感覚が正しいことの証明を立派な研究と考えてしまう思い込みです。たとえば、青少年問題に関連して常々「最近の親はなっていない」と感じていたとすると、「なっていない親」の事例を是が非でも探し出そうとするのです（結構、すぐに見つかってしまうものですが…）。しかし、分野は何であれ、研究というものは合理性を大原則とするものです。合理性があるということは、自分の感覚に頼らずに、一般的

な概念を使って他人に説明したり議論したりできるということです。「なっていない親」では説明のしようがありません。そのような場合には、たとえばテーマを「青少年の社会化不全の現状とその要因としての親の養育態度」とすれば、現代の青少年が十分社会化されているか、もしされていないとしたら何がその主要な要因か、といったことについて、親の養育態度を中心に合理的な検討をすることができます。

では、どのようなテーマの場合に合理的な検討が可能なのでしょう。研究者はどのようなテーマを研究にふさわしいと考えているのでしょう。…残念ながら、学問分野によっても大きな違いがあり、一言で示せるような定式はありません。しかし、一つだけはっきりした共通項があります。それは多くの研究者や実践者が関心を持ってテーマに取り上げていることは、それだけ研究する価値があるということです。自分が関心を持った分野ではどのようなテーマが研究されているのか、あるいはどのような問題に関心が寄せられているのかを知るための効果的な方法としては、放送大学図書館に多数整備されている学会誌、関連する文献にあたることをお勧めします。新聞や雑誌などのメディアを参考にするのもよいでしょう。何よりも、関連する印刷教材を読み、そこに挙げられている参考文献に目を通すことで、さまざまなヒントが得られます。人の考えないことを考え、しないことをするというのも確かに面白いかもしれませんが、そのためには相応の能力と努力が必要だということを覚悟しなければなりません。

(iii) 自分の置かれた状況や能力で研究可能なテーマを選ぶ

確かに『ドン・キホーテ』を代表作とするセルバンテスの文学は興味深いものですが、スペイン語の素養なしにそれを研究テーマとすることは無謀であるし、大きな実験装置を必要とするような自然系の研究は、本学では困難です。また、指導できる教員が本学にいない場合も研究の遂行は難しくなります。仕事や家事の合間の履修や他の多くの科目との同時履修といった制約条件、さらにそのテーマの研究に必要な関連科目の履修が済んでいるかどうかも考慮すべきでしょう。

ただし、この点をあまり重要視しすぎると、かえってマイナスになることもあります。例えば、本学の卒業研究履修者には、自分の従事する（した）職務に深く関わるテーマを選ぶケースがしばしば見られます。それによって生のデータや専門的な情報を得ることができますし、仕事にも研究結果が活かせる、というのがテーマ選択の理由になっています。確かにそこからすばらしい研究が生まれることもない訳ではありません。しかし、残念ながら、業界だけに通用する視野の狭い研究、データや資料だけが張り付けられた内容の乏しい論文、本質よりも実際の方法論ばかりが論じられた職務上のレポートとかわらない報告書、といった結果に終わってしまう研究も決して少なくありません。そのような場合、卒業研究をやり遂げたという達成感が十分に得られないことはいうまでもありません。そもそも、学問的な研究というものは、対象から距離を持った自由な立場で行われるべきものであって、あまりに対象に近い立場はかえって柔軟で生産的な発想を妨げることもあります。心に留めておいていただきたい点です。

(2) 研究の方法

研究テーマが決まったら、次は研究の方法です。研究の方法が学問分野によって全く異なっていることはいうまでもありません。たとえば、哲学などでは、研究の対象となる哲学者・思想家の著作の徹底的な読み込みが基本となるでしょうし、歴史学では史料との格闘、文化人類学ではフィールドワーク、自然科学では実験や観測がそれぞれ重要な研究方法となるでしょう。同じ研究テーマであっても、指導に当たる教員が異なれば研究方法も大きく違ってくるでしょう。したがって、ここで研究の方法を総論的に述べることはしません。詳しくは「17. コース及び教員の指導方針と方法等」(P.33)を参照してください。研究テーマを決め研究の方法を選択するということは、そのまま指導教員を選ぶことにつながるのだということを理解していただけると思います。テーマや方法の選択がしっかりしていなければ、適切な指導教員も選べないということになります。最も重要なのは、指導教員との連絡を密にし、疑問などが生じたらどんなことでも放置せずに相談することです。自分勝手な了解は決してよい結果を生まないものです。

ただし、放送大学の場合、たとえば、福祉、子どもの発達、産業と環境、というように、コースもそこに属する科目も、学問分野を基準とするより実生活上の諸問題を基準として構成されています。そのため、本学での学習を熱心に進めれば進めるほど、発想やものの見方が個別の学問分野の境界を越え、現実への指向性を強めるようになるのは無理からぬことといえます。学問分野ごとの固定的な方法にこだわることはありません。自由な発想で、豊かな実体験を最大限に生かしながら、どん欲かつ大胆にさまざまな学問分野の研究方法を試みてください。そうした柔軟さ、少し気取っていえば「学際

性」こそ、最も重要な「放送大学らしさ」なのです。

(3) 研究の進め方

(i) 研究を進める上で必要な作業と態度

研究をすすめるにあたって、学生は自分自身の研究課題(リサーチクエッション)を立てて主体的に研究を進めていくことが重要です。しかし研究は、はじめから答えがあるわけではありません。そのために、研究計画の立案後は、様々な資料やデータを収集するところからはじまります。そして、その資料やデータの分析を行い、その結果を総合していきます。こうしたプロセスを経て、あらたな知識を見つけ出していくことになります。そしてこの作業はすべて学生が主体的に進めていきます。

また、こうしたデータ収集や分析など一連のプロセスに対して、謙虚さ、慎重さ、公正さをもって向き合うことが必要です。指導教員等からの指導やコメントに真摯に耳を傾けることなく研究を進めること、自身の思い込みによって論を展開した結果を報告すること、自分にとって都合のよいデータを集め、結果を出すようなことは決してあってはならないことです。

(ii) 研究の方法論と研究の報告の重要性

研究を進めていくには研究の方法論が重要です。これは (2) に示してある通りですが、研究の方法には様々なものがあり、そうした方法は計画立案の段階から放送授業科目や関連図書を通じて自主的に学習することが重要で、研究を進める大事な前提となります。科学研究を進めていくうえで必要な方法は大きなところでは共通していますが、研究領域によって様々な方法があります。したがって、自身の研究のテーマや方向性によって、ふさわしい方法を選んで実施していくことが、研究を成功させるカギになります。

また、研究をまとめ、報告することはきわめて重要なことです。研究の作業はやりっぱなしではなくて、それを総合し、明確に研究者同士でわかる形に記載し、それを公に報告し、批評を受けて改善し、更なる研究をすすめていくことが必要です。このような研究の方法や研究の報告の仕方を学ぶことも卒業研究の履修において重要な目的になっていることを良く理解しましょう。

11. 指導希望教員の探し方

(1) 希望できる指導教員について

卒業研究は原則、学生の設定した研究テーマを指導可能な**放送大学専任教員**が指導にあたります。

放送大学専任教員とは、P.33 ～ P.105 に記載のある、各コースの教員を指します。自身の所属コースに関連する研究テーマ・指導教員を選択することを基本としますが、所属コース以外の専任教員も希望することもできます。ただし、個別の履修可否は指導教員のコースの審査によります。　※修得単位は自身の所属コースのものとなります。

指導教員は放送大学専任教員を基本としますが、「専任教員だけでは十分対応できない分野のテーマを希望する場合」、「学生の居住地等が遠隔地であるため専任教員が指導できない場合」及び「学生が居住地近隣の教員を希望した場合」については、各コースにおいて審査のうえ、客員教員及び非常勤講師等が指導する場合があります。上記に該当する場合は、7月末日までに学習センターの所長面談を受けてください。面談の内容をもとに、教員への依頼等を放送大学が諸事情を勘案して判断します。本学専任教員以外の教員を学生が指名することはできません。（履修の約束を取り付けるようなことはしないでください。）

卒業研究の指導は近年、Web 会議システムや電子メール等の遠隔通信手段を用いた実施が主流となっており、遠隔地の学生や時間の制約がある学生でも柔軟に指導できるようになってきています。教員ごとの指導方針については、P.33 ～以降の各ページを確認し、不明点や事前相談がある場合は、所定の期間中に「卒業研究質問箱」で個別に質問するようにしてください。

(2) 指導教員と研究テーマについて

本学専任教員は、学生の関心をできるだけ尊重して幅広いテーマを指導しています。時々、研究テーマに関する具体的な知識がない教員は指導教員として適任ではないとみなす学生がいますがそれは違います。

放送大学の卒業研究は、結果としての「論文」を重視するのではなく、プロセスとしての「研究」を重視しています。研究テーマの専門でない場合にも、近い研究領域の教員が指導にあたるため、その学問分野の研究方法や論文のまとめ方など、学生の汎用的な「研究」活動を指導することに影響はないものと考え、次項以降で記載する方法を参考に希望教員を決定してください。しかし、研究テーマや研究室の受け入れ状況によっては指導できないこともあることを承知しておいてください。自分自身の関心のみにかたよらず、本学専任教員の研究領域を踏まえてテーマを設定し、関心をもつことでより深い指導につながることもあります。

(3) 教員を決定する際に参考となるページなど

本冊子を含め、本学専任教員の研究実績等は様々な形で公開されております。以下に代表的な方法を記載しますので、指導教員を探す際に参考にしてください。

①本冊子 P.33 ～「コース及び教員の指導方針と方法等」【必読】

教員ごとの指導方針や指導方法などを紹介しています。特に希望する教員の項目は必ず確認してください。

②本冊子 P.106 ～「専任教員別卒業研究テーマ（例示）」

卒業研究を過去履修した学生の研究テーマが確認できます。教員ごと幅広いテーマの指導を行っています。

③放送大学ウェブサイトや公式 Youtube チャンネルでの教員紹介（一部）

https://www.ouj.ac.jp/faculty/

学生へのメッセージや「researchmap」の研究者情報へのリンクもあります。

【公式 Youtube チャンネル】https://www.youtube.com/@TheOpenUniversityofJapan/

※特任教授など本冊子に掲載のない一部教員は、指導教員として希望できません。

④専任教員の担当授業の受講、教員の著書や論文の閲覧

https://www.ouj.ac.jp/kamoku/searchguide/

放送大学のシラバス内「講師名」で検索することで、関連授業を調べることができます。

また、Google Scholar で教員の執筆した論文等を検索して読むことも効果的です。

(4) 卒業研究質問箱を活用しましょう

希望する指導教員を決める際、研究手法の違い等で判断に迷ってしまったら、P.15 ～「卒業研究質問箱」を活用しましょう。

特に心理系の学生に多い質問で、例えば「○○というテーマで研究を考えており、調査方法として▲▲を用いる予定です。研究テーマに近いのは、A 先生ですが、調査方法の領域では B 先生が近いように思えます」といった疑問があった場合、どちらかの先生に質問を行うとよいでしょう。自身で指導可能か、場合によっては適した教員をアドバイスいただけることもあります。

また、仕事や家庭の事情で指導方法や学習時間に制約がある場合も、各教員のページを確認して不安な場合は、事前に相談してみることも大切です。ゼミの人数等が未確定のため、回答できないこともありますが、過去同様の学生がいた場合には、その際の指導等を参考にできる場合があります。なお、近年は Web 会議システム等、時間や場所に制約されない、指導方法も多く取り入れられているため、東京・千葉の学生以外も幅広く履修しています。

(5) 指導教員とのかかわり方

そのようななかで指導教員とはどのように接していけばよいのでしょうか。先にも述べたように、指導教員は答えを知っているわけではありません。答えの獲得に向けての助言をするまでです。つまり、研究の進め方や、まとめ方について指導を行います。研究を進めていくうえでの方法は、一朝一夕で身につけることはできません。一般には卒業研究や修士論文の研究を通じて身につけていくものです。こうした研究の進め方、方法論について思考法も含めて、指導教員は研究者として訓練をされてきています。したがって、その観点でも学生に対して助言、指導を行います。

また、研究のまとめ方、研究論文の書き方については型、作法があります。研究領域によってその型は微妙に異なりますが、型はその研究領域で研究を批評的に見る際に役立つものであるため、研究を公表していく上では非常に大事なものです。このあとの「14. 研究報告書のまとめ方」に示す書き方はその一例です。研究のまとめ方、論文の書き方についても、指導教員の指導を受けながら進めていくことが大切です。

以上から、指導教員と学生との良好な信頼関係が土台にあってこそ卒業研究の成果は得られます。学生は、研究指導の開始にあたって指導教員がどのような方法で指導を進めようとしているのかを良く聞いて理解をしてください。また、仕事や家庭の諸事情も指導教員に伝え、無理のない適切な方法で指導を受ける体制を作ってください。

12. 履修開始後の流れ

(1) 卒業研究の履修開始

4月上旬から中旬にかけて、指導教員から初回の連絡があり、いよいよ指導が開始されます。指導開始後の日程や指導方法に対するご相談は、指導教員と直接行うようにしてください。なお、**メール連絡の場合、原則キャンパスメールアドレスへ連絡致しますので、必ず日常的にメールをチェックするようにしてください。**

※履修中の学生で1学期に学籍が終了する場合は、2学期の継続入学の手続きが必要です（入学・学修支援課からご案内いたします）。

(2) 卒業研究報告書の提出

1　**指導教員の承諾を得てから提出してください。**

2　**提出部数：2部**（1部はコピー可）

3　**本冊子 P. 29 ～ 31 の規定の製本を行い提出**してください。

4　巻末の**「卒業研究の最終テーマについて 兼 掲載公開許諾書」を必ず同封**してください。

▼提出期限・提出先

2027年11月1日（月）〔消印有効〕（※海外から郵送の場合は必着）

〒261−8586 千葉県千葉市美浜区若葉2−11　放送大学 入学・学修支援課卒業判定係行

提出に用いる封筒等に決まりはありません。レターパックなど、卒業研究報告書2部と巻末様式を折り曲げずに入るサイズを郵便局等へ確認し、ご提出ください。また、**記録の残る追跡可能な簡易書留郵便等で送付してください。普通郵便で送られた場合の未着等にかかる責任は負いかねます。**報告書は、**面接審査の際に使用しますので必ずコピーをお取りください。**一度、提出された報告書の返却、差し替え、コピーには応じられません。

(3) 報告書の提出ができない場合

研究進捗等により、卒業研究報告書の提出ができず、提出を辞退したい場合は、以下の申請フォームまたはFAXにて速やかにご連絡ください。提出辞退は、指導教員だけでなく、必ず以下の方法で事務局へもご連絡ください。なお、審査の準備等を行う都合上、提出辞退は遅くとも10月15日までには、必ず申告してください。

※今年度の提出を辞退する場合は、来年度の再履修を希望している場合でも、辞退申告を行ってください。

卒業研究提出辞退申請フォーム

https://req.qubo.jp/sotuken/form/decline

※ FAXの場合：以下の必要事項を記載の上、043−298−4378まで送付してください。

①学生番号　②氏名　③所属コース　④指導教員　⑤取りやめの理由

(4) 報告書の審査と成績について

審査は、指導教員を主査とする複数の審査教員のもとに卒業研究報告書及び面接により総合的に行われます。面接審査の日時や方法等は、報告書の提出後、指導教員より個別に通知されます。

成績評価は、Ⓐ、A、B、C、D、Eの評語で表し、C以上が合格です。審査結果は2月下旬に発送される成績通知をご確認ください。不合格の場合は、別途成績ならびに再履修の案内を送付します。

13. 研究するうえで守るべき研究倫理

研究倫理とは「研究活動を行うにあたり、研究者が遵守しなければならない倫理的原則」のことであり、研究倫理を遵守することは、研究に関わる者の社会的責任です。学術研究に取り組む際は、社会からの信頼の上に成り立っているという自覚に基づき、研究倫理を意識して公正な研究活動を行うことを心がけてください。

研究活動における留意事項

① 研究活動は正確なデータや調査結果に基づいて行い、捏造・改ざん・盗用などの不正行為[*1]をしないこと。

② 研究活動によるデータや調査結果等は、後日の検証が求められた場合に対応できるよう、卒業研究報告書を提出後も十分な期間適切に保管すること。

③ 研究活動及び研究成果の発表によって人権を侵害することがないよう、細心の注意を払うこと。人種、性別、地位、思想・信条、宗教、国籍などによる差別が行われてはなりません。

④ 研究活動によって知り得た個人情報の漏洩に十分注意すること。

⑤ 人を対象とする調査や測定を含む研究を行う際には、研究計画の倫理審査を受ける必要があるか否かについて、研究指導教員と相談しその判断に従うこと。審査には一定の時間を要するため、審査を受ける場合は4月の指導開始前までに十分に準備することを推奨します。詳しくは、放送大学研究倫理委員会のウェブサイト[*2]を参照してください。

＊1 不正行為の定義

＜捏　造＞ 存在しないデータ、研究結果等を作成すること

＜改ざん＞ 研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データや研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること

＜盗　用＞ 他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること

＊2 放送大学研究倫理委員会

https://www.ouj.ac.jp/gakuin/about/irb/

【参　考】

研究倫理教育について（推奨）

・「人を対象とする研究の倫理」（BS 231chまたはシステムWAKABA内＞トップページ右側の学内リンク＞その他のリンク＞放送大学自己学習サイトにて視聴可能）

・文部科学省による「研究活動における不正行為への対応等」（研究倫理教育教材の掲載あり）

https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/fusei/index.htm

※4月以前は指導開始前のため、卒業研究質問箱の受付期間を除き、個別の指導や相談等はできません。

14. 研究報告書のまとめ方

卒業研究の成果は報告書にまとめられなければなりません。基本的には指導教員の方針に従って執筆を進めることになりますが、これが最後の難関です。今まで記述式の通信指導や単位認定試験を数多くこなし、書くことには慣れているはずであっても、報告書を原稿用紙 50 枚、字数にして 2 万字以上（字数・枚数制限については、指導教員に確かめてください）、それも意味のある文章を書かなければならないということになると、未知の世界に足を踏み入れるような、あるいは登っても登っても頂上に着かない高峰に直面するような不安と緊張を感ずるに違いありません。

(1) 章立て

そのような場合、まずお勧めしたいのは、仮のものでよいから、なるべく早い時期に「章立て」を作ってみることです。先述の理論研究型の論文の場合には、特にそれをお勧めします。章立てというのは、論文全体の見取り図のようなもので、目次の粗いものだといってもそれほど的外れではないでしょう。それを指針として研究と執筆を進め、進める中で章立ての不十分な点、矛盾した点が発見されたらその都度修正していく、という作業を続けていくうちに、報告書は次第に論文の体を成していくものです。

具体的に見てみましょう。章立ては、テーマや方法により、文字どおり千差万別ですが、ごく一般的なスタンダード（雛形）は次のようなものです。

① 序 …「はじめに」「序」「序論」「序章」等々、名称はどうであっても構いませんが、この順序で次第に長く、内容も充実したものになります。たとえば「序章」がたった 1 頁だったり、「はじめに」が 10 頁も続いたりするのでは、読み手に違和感を与えます。内容的には「自分がどうしてそのテーマを選んだか」というどちらかといえば個人的な事情ではなく、「なぜそのテーマに研究する価値・意味・必要性があるか」ということに重点を置くべきです。

② 第 1 章 … 第 1 章の初めでは、まず、これから展開しようとする議論で用いられる概念、用語、特定の方法などについて定義をし、意味を紹介します（たとえば「心理的反射の定義」「自我の概念について」「本論文における差別の語義」など）。さらに、これまでその問題についてどのような研究（先行研究）がなされていたか、どんな議論があったか、たとえ少数でもよいからそれらを紹介します。自分なりの論評を加えられるとさらによいでしょう。（先行研究の紹介は第 2 章として独立させてもよいでしょう。）

③ 第 2 章（または第 3 章）… 自分で収集した文献や資料、データなどを用いて「○○はこうなっている」「△△が□□なのは◇◇だからだ」「◎◎と▽▽には強い関係がある」等々といった筋立てを展開し、説明します。実証研究型の場合は、ここの部分で文献や資料、調査データ、実験観測結果からその事実を導き出すプロセスを展開します。資料やデータは必ずしも自前のものでなくてもかまいません。白書、新聞記事、信頼しうる研究者の調査研究、実験の結果など、一定の客観性のあるものであれば、出所を明らかにした上で利用することが可能です。要は、適切な資料、データを適切な場所で用いるということです。この章のボリュームが大きくなりすぎる場合は、内容にしたがって 2 ～ 3 章に分割した方がよいこともあるでしょう。

④ 第 3 章（または第 4 章）… 結論とまとめです。あわせて今後の研究の方向についての展望も述べておくとよいでしょう。終章、結章と名付けても同じことです。単純なまとめだけで済むなら「まとめ」とし、すでに前章でまとめをしてあれば「おわりに」でも十分でしょう。

(2) 資料等の引用と注

資料等を引用したり、注を付けたりするにあたっての留意点をいくつか挙げておきます。

① 既存資料の引用 … 文献、統計データ、先行研究の実験結果等の既存資料は、まず自分なりのテーマに関する筋立てがあって、それへの証拠付け（応援）として用いるべきでしょう。「さしあたり直接の関係はないけれど、頁数が少ないからコピーして付けておこう」という考えはマイナスです。意味をはき違えないようにしましょう。その意味で、既成の図表のコピーを添付するより、時間が許す限り自分なりに工夫した図表を作成する方が、研究には数段プラスになるでしょう。なお、引用したデータ、表、グラフ等には、必ず出所を明記しておくようにしてください。

② 引用の仕方 … 書籍や論文などから文章やデータを引用するときにも、自分の筋立てへの応援としての意味を忘れないようにしてください。決して、ほとんど引用、などという論文にはしないことです。どうしても語句そのままの引用が必要、ということであれば引用箇所を注などによって明らかにすることが必要となります。

③ 注の位置には、「脚注（フットノート）」… 頁ごとにまとめて本文の下方に入れる、「章末注」…章の終わりにその章ごとの番号で注を入れる、「巻末注」…巻末にまとめて通し番号で入れるなどの方法があります。各種文献など参照して、自分でつけやすい方法を選べばよいでしょう。注は引用文献だけでなく、語句や概念の説明にも、また「その問題に対しては別の意見もあるが、本文に入れると全体の筋がぼやけてしまうので紹介だけしておきたい」というような場合にも有効に使えます。むしろ、後の二者の方がより注らしい利用法といえます。下に引用と注のつけ方（ここでは脚注）の一例を示しておきます。（架空例です）

……S・フロイトの提示した「エディプス・コンプレックス」の概念をめぐっては、これまでにも数多くの実証的研究が行われてきたが、最近になって晩婚化との関連を詳細に論ずるものが増えてきた。例えば、桜花子はT県における調査[1]の結果から、「男性の側になお顕著なエディプス・コンプレックス傾向と、女性の側で高まりつつある自立性との間のズレが…現代社会で見られる晩婚化の最大の要因である」[2]と明確に指摘している。

1） T県が19××年に実施した『結婚に関する意識調査』。サンプルは、20～50才の未既婚男女2,000人（男性800人、女性1,200人）である。

2） 桜花子「晩婚化と現代若者の結婚観」梅田香・桃井実編『現代若者論』寿書店（19△△）、135～136頁。

※報告書への参考文献等引用における著作物の取扱いについて

報告書に引用する参考文献等について、文化庁が以下のサイトにて引用方法を掲載しています。

（文化庁）著作者の権利の制限（許諾を得ずに利用できる場合）

https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/textbook/pdf/94081601_01.pdf

上記の資料内の、著作権法第32条第1項「引用」（p.72）において、「報道、批評、研究等の目的で、他人の著作物を「引用」して利用する場合の例外」について記載されており、著作権法上許諾を得ずして使用できるとされています。

なお、その際には「出所の明示」が必要とされているため、引用した著作物については必ず出典を記載することが必要となります。

出典の記載方法や記載物については、指導教員に相談の上、報告書をまとめていきましょう。

【参考】

著作権法第32条第1項

（引用）

第三十二条　公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。

2　国等の周知目的資料は、説明の材料として新聞紙、雑誌その他の刊行物に転載することができる。ただし、これを禁止する旨の表示がある場合は、この限りでない。

また、「国立国会図書館ウェブサイトからのコンテンツの転載」も参考にしてください。

https://www.ndl.go.jp/jp/use/reproduction/index.html

(3) 書式

書式についてもいくつか留意点があります。

① 書き始め … 段落文書の書き起こしは1マスあけて、書き起こしであることを示します。段落の最初の行も同じです。段落は多すぎても少なすぎてもいけません。内容にもよりますが、400字詰め1枚に2～3段落といったところが標準です。

② 句読点 … 句読点（特に読点「、」）の付け方のまずい人には、ずらずら読点なしに言葉をつなげてしまうタイプと、読点でブツブツに切ってしまう傾向のあるタイプとの二種類があります。書いた後で一度自分で読点で切りながら声に出して読んでみて、切り方がおかしいな、と感じたら読点のふり間違いの可能性があります。最後は自分の感覚を信じるしかないものです。

③ 文体 …「である」体と「です・ます」体とを混同する人が時々いますが、卒業研究報告書では前者に統一するようにしてください。ただし、統一がとれていれば、「である体」を強制はしません。

④ 報告書概要 … これは審査教員が参照するものですので、どんなテーマで、章ごとの内容はどのようで、結論はこうであった、ということが簡潔に述べられていればよいでしょう。

⑤ 目次 … 論文全体の設計図、見取り図になるので、できるだけ早めに作るのが望ましいでしょう（要するに章立てのことです）。通常、要約の後、本文の前につけます。（普通は頁数に数えません。）

⑥ 参考文献…巻末か章末にまとめて載せます。本文中に引用した文献は必ず載せるようにしましょう。引用しなくても参照したものは記載した方がよいでしょう。形式は、前頁に示した引用注とほぼ同じで、引用頁だけ抜いた形です。（著者名の 50 音または ABC 順に並べてください。文献の記載法については、指導教員に確かめてください。）

⑦ 謝辞 … 執筆や資料収集への協力者に対する謝辞は忘れないでください。特に調査、インタビュー、予定外の指導等で迷惑をかけた場合には必ず謝意を表しておきましょう。「おわりに」として、研究全体の感想を一緒に述べてもよいでしょう。

以上のような論文執筆の技法に関して最も参考になる方法があります。それはこれまでに同様のテーマで書かれた過去の卒業生の論文を参照することです。過去の論文はコースごとの基準で保管しており、卒業研究を履修中または、過去に履修した方のみ各コースの許可を得たうえで、閲覧することができます。閲覧を希望される場合は、指導教員の許可を得たうえで、入学・学修支援課卒業判定係にお問い合わせください。

なお、システム WAKABA 上でも卒業研究報告書（論文）の一部を閲覧可能です。こちらについては、卒業研究履修の有無に関わらず閲覧できますので、ぜひ活用してください。（P.7（3）参照）

（4）卒業研究に関する注意事項

（i） テーマ決定について

放送大学の卒業研究は、学生の関心をできるだけ尊重して幅広いテーマを指導しています。しかし、研究テーマによっては指導できないこともあることを承知しておいてください。また、自分自身の関心のみにかたよらず、指導を受けたい教員の研究テーマを踏まえて設定し、関心をもつことで、より深い指導につながることもあります。過去の卒業研究テーマについては、「18. 専任教員別卒業研究テーマ（例示）」の頁を参照してください。

（ii） 研究指導担当教員について

放送大学の卒研テーマは幅が広いことを書きましたが、専任教員の数は限られていますので、時には他大学の先生に指導を依頼する場合もあります。しかし、依頼するかどうかは放送大学が諸事情を勘案して判断します。したがって、学生が希望することは一切できません。また、全国の大学教員の誰にでも依頼をしているわけではありません。（P.21 参照）

（iii） 指導教員による研究指導とは

研究テーマに関する具体的な知識がない教員は指導教員として適任ではないとみなす学生が時にはいます。では、「○○県の伝統芸能○○踊り」という研究テーマに関して、○○踊りの知識がない教員は指導者として不適任でしょうか。それは違います。放送大学の卒業研究は、結果としての「論文」を重視するのではなく、プロセスとしての「研究」を重視しています。指導教員は、学生が研究するというプロセスを経験するのを、それぞれの専門の立場から指導します。研究テーマは違っても研究の方法や論文のまとめ方には汎用性がありますから、指導教員はそれらをベースにして、学生が研究テーマにもとづいて研究を進める指導をするのです。また学術的な作法にのっとって卒業研究報告書をまとめるのを指導します。

(Ⅳ) 研究テーマの変更について

研究指導の過程で当初の研究計画の軌道修正を余儀なくされることがあります。たとえば、研究テーマに関係する先行研究がほとんどないことがわかる、予想したようには資料が集められない、研究テーマがばくぜんとしていて研究として成り立ちにくいなどの理由で研究方針を変更せざるをえないことがあります。そのようなこともあらかじめ想定したうえで、指導教員と学生とが十分にコミュニケーションをとって進めてください。

(5) 報告書執筆のための参考書等

研究報告書を執筆する上で有益な参考書はコース・専攻や研究テーマによってさまざまだと思いますが、ここではごく一般的なものだけをあげておきます（出版年順）。

・木下是雄『レポートの組み立て方』(1990) 筑摩書房
・古郡廷治『論文・レポートの文章作法』(1992) 有斐閣
・ロン・フライ著、酒井一夫訳『アメリカ式論文の書き方』(1994) 東京図書
・鷲田小彌太・廣瀬誠『論文・レポートはどう書くか』(1994) 日本実業出版社
・二木紘三『論文・レポートの書き方：理系・技術系編』(1994) 日本実業出版社
・慶應義塾大学通信教育部編『卒業論文の手引』(1995) 慶應通信
・吉田健生『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』(1997) ナカニシヤ出版
・花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル』(1997) 有斐閣
・奥田統己・神成洋・本間徹夫・山﨑哲永『読みやすく考えて調べて書く－小論文から卒論まで－』(2000) 学術図書出版社
・小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(2009) 講談社現代新書
・戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(2012) NHK ブックス
・白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方（第 2 版）』(2013) ミネルヴァ書房

直接には報告書の執筆のノウハウを教えてくれるわけではありませんが、考えるヒントを与えてくれたり、情報収集の方法を示唆してくれたりする参考書もあります。

・立花隆『「知」のソフトウェア』(1984) 講談社現代新書
・野口悠紀雄『「超」整理法』(1993) 中公新書
・小林康夫・船曳建夫編『知の技法』(1994)『知の論理』(1995)『知のモラル』(1996) 東京大学出版会（三冊とも）
・日垣隆『学問のヒント：「知」の最前線がわかる本』(1997) 講談社現代新書

なお、次のような用語辞典類も研究テーマに関するヒントなどを得るには有益な場合があります。

・『現代用語の基礎知識』自由国民社
・『知恵蔵』朝日新聞社（Web 版・有料）
・『imidas』集英社（Web 版・有料）

‘案ずるより産むが安し’—卒業研究のためにあるような諺です。「論文なんてとてもとても」と臆することはありません。まず取り掛かってみましょう。あれこれと研究対象と格闘しているうちに、何とか展望が開けてくるものです。卒業研究報告書には、学生の皆さんが、職業生活や家庭生活の中でこれまで書かれてきた文章と異なる部分もあれば、同じように考えてよい部分もあります。一から考えていかなければならないこともあれば、自身の経験を最大限に生かしてよい部分もあります。臆することなく、しかし、学問に対する謙虚さも忘れず、指導教員と連絡を密にとりながら、悔いの残らないよう、卒業研究に取り組んでください。

成功を祈ります。

15. 卒業研究報告書の作成

① **作成部数：2 部（1 部はコピー可です。指導教員の指示で 3 部以上の提出を求められる場合があります。）**

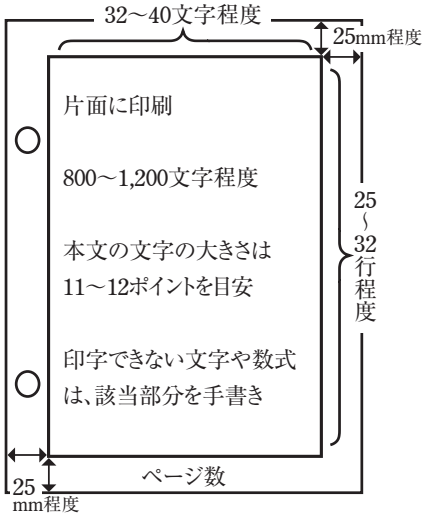
② **仕様**

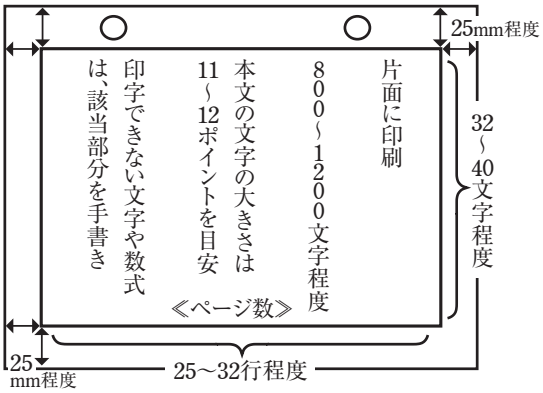
ア. ワープロ・パソコンを使用する場合

A4 判の白地の用紙に印刷し、原則は縦位置、横書きとしますが、指導教員の方針により横位置、縦書きでも差し支えありません。

（縦位置・横書きの例）　　（横位置・縦書きの例）

1 ページあたりの文字数、文字の大きさは目安です。詳細は指導教員の指示に従ってください。





イ. 手書きの場合

原稿用紙（400 字詰 A4 判）を使用し、原則は縦位置、横書きとしますが、指導教員の方針により横位置、縦書きでも差し支えありません。

③ **原稿の枚数**

報告書の枚数は、手書きの場合 50 枚（20,000 字）、ワープロ・パソコンの場合 25 枚（20,000 字）を標準とします。ただし、指導教員によっては、それ以外の場合もあるので詳細については指導教員に必ず相談してください。（字数・枚数制限については、指導教員にお確かめください。大学本部に直接お問い合わせいただいても回答できかねます。）

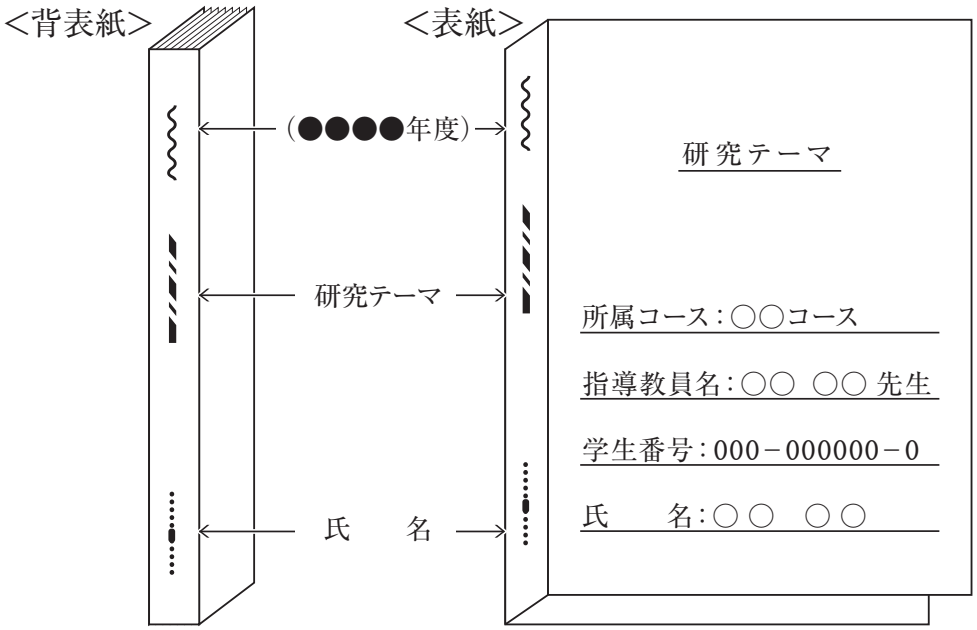
④ **筆記具**

可能な限り、ワープロ・パソコンを使用すること。手書きの場合は、筆記具は黒または青のインク（万年筆、ボールペン等）を使用してください。鉛筆や消せるペンは使用不可です。

⑤ **製本の方法**

市販の A4–S サイズのフラットファイルを 2 冊購入して、報告書を綴じてください。（ファイルのメーカーや色は問いません。）

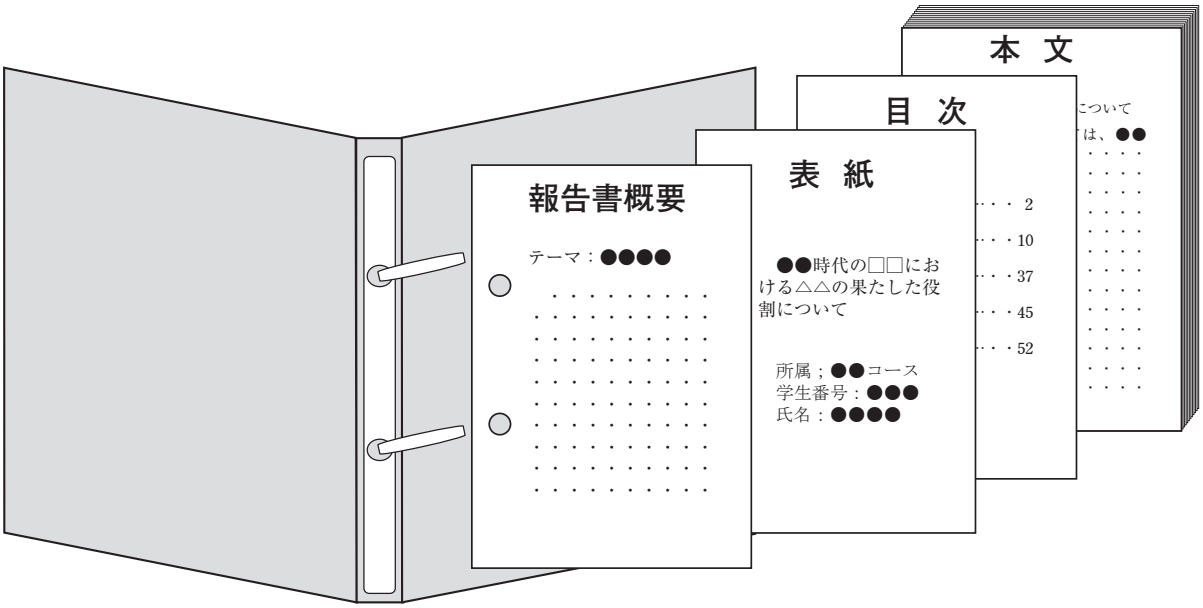
A4 フラットファイルの表面、及び背表紙には、次の図に示すような項目（提出年、研究テーマ、氏名）を記入してください。手書きで構いませんが、シール等を貼る場合ははがれないようしっかりとのり付けしてください。



⑥　**報告書の構成**

報告書概要、表紙、目次、本文の順序で構成します。

— 卒業研究報告書の綴じ順 —



⑦　**報告書概要**

報告書概要は、A4 版用紙 1 枚程度で作成し、報告書の表紙の前に綴じてください。

報告書概要の様式は次ページの例示のように、「報告書概要」の標題を付け、学生番号、氏名、所属コース、研究テーマを記入のうえ、概要を記述してください。

ただし、コースが上記と異なる報告書概要の作成を指示している場合は、コースが定めた報告書概要を報告書の最初に綴じてください。

（例）

報　告　書　概　要

学生番号　851−123456−7
氏　　名　放　送　太　郎
所属コース　生活と福祉コース

研究テーマ→　大都市周辺地域における……

都市化、情報化が急激に進展する……　←概要
……

※報告書のまとめ方については、P.25 の「14. 研究報告書のまとめ方」もご確認ください。

⑧　**最終テーマについて**

卒業研究報告書提出時に、大学に最終テーマを報告する必要があります。

巻末の「卒業研究の最終テーマについて 兼 掲載公開許諾書」に、最終テーマを記入し、卒業研究報告書を提出する際に必ず同封してください。

※履修中（提出前まで）に研究テーマの変更があった場合の大学への報告は不要です。提出時の最終テーマのみ報告が必要です。最終テーマは指導教員と必ず相談のうえ決定してください。

卒業研究報告書の提出方法

1　**指導教員の承諾を得てから提出してください。**
2　**提出部数：2 部**（1 部はコピー可）
3　**本冊子 P. 29 ～ 31 の規定の製本を行い提出**してください。
4　巻末の「**卒業研究の最終テーマについて 兼 掲載公開許諾書」を必ず同封**してください。

▼提出期限・提出先

2027 年 11 月 1 日（月）〔消印有効〕（※海外から郵送の場合は必着）
〒 261−8586　千葉県千葉市美浜区若葉 2−11　放送大学 入学・学修支援課卒業判定係行

※レターパックなど、卒業研究報告書 2 部と巻末様式を折り曲げずに入るサイズを郵便局等へ確認し、余裕をもってご提出ください。

※記録の残る追跡可能な簡易書留郵便等で送付してください。普通郵便で送られた場合の未着等にかかる責任は負いかねます。

※報告書は、面接審査の際、手持ちの参考として必要となりますので、必ず各自コピーをお取りください。
なお、いったん提出された報告書は返却しません。

16. 再履修申請について【2026 年度に履修中の方へのご案内】

2026 年度の卒業研究を履修中の方が、2027 年度に再履修を希望する場合の案内になります

(1) 2026 年度の卒業研究報告書“未提出者”の再履修希望申請

4 月の履修開始から報告書の作成を進めていたが、研究進捗等を理由に 11 月 1 日（日）までに提出が出来なかった方の中で、来年度も引き続き卒業研究の履修を希望される方は、次の期間に申請を行ってください。

インターネット申請（再履修）

11 月 12 日（木）9：00 ～ 11 月 19 日（木）17：00

https://req.qubo.jp/sotuken/form/oujretake

郵送による申請（再履修）

11 月 12 日（木）～ 11 月 19 日（木）【本部必着】

提出先

〒 261−8586　千葉県千葉市美浜区若葉 2−11　放送大学　入学・学修支援課卒業判定係 行

封筒に「卒業研究再履修申請書在中」と朱書きの上、記録の残る追跡可能な簡易書留等で期間内に郵送してください。普通郵便で送られた場合の未着等にかかる責任は負いかねます。

申請後の流れは、P.13 ～ (3) 本決定通知　【1 月下旬ごろ】と同様です。

本決定通知にて履修可否を確認の上、科目登録、授業料納入を行ってください。

▼再履修に関する注意事項

- **再履修の場合も再度科目登録と授業料の納入が必要となります。**
- **再履修希望は、原則進行中の卒業研究と同一教員、同一テーマでの履修で受け付けます。**
- **指導教員と現時点の研究の進捗を確認し、研究計画の見直しも含めて、事前に申請の承諾を得てください。**
- コースで審議の上、必要と判断した場合は、教員の変更等が生じることがあります。
- 履修可否はコースで審査の上決定します。指導教員の事前承諾のみでは履修可とはなりません。
- 再履修申請をする場合は、所属コースの変更はできません。所属コースの変更を行った場合、および、卒業要件を満たし卒業となった場合は、卒業研究の再履修資格を失います。
- **申請に関する共通の注意事項は P.9、申請後の履修条件及び注意事項は P.5 ～ 6 と共通になりますので必ず再度ご確認ください。**

(2) 2026 年度の卒業研究報告書を“提出し不合格”となった方の再履修希望申請

11 月 1 日（日）に報告書を提出し、12 月の審査にて不合格となった方の中で、来年度も引き続き卒業研究の履修を希望される方は、次の期間に申請を行ってください。

申請期間：2 月 1 日（月）～ 2 月 6 日（土）

対象者には、1 月下旬ごろ申請方法等を個別に通知します。

卒業研究報告書を提出していない方は、(1) の対象であり、(2) の期間に申請することはできません。

再履修に関する共通の注意事項は、(1) と共通になりますので再度ご確認ください。

17. コース及び教員の指導方針と方法等

生活と福祉コース

1.「生活と福祉」の考え方

本コースでは、家族、家庭、家計、衣食住、心身の健康、余暇、福祉、看護、介護、スポーツなど、私達の日常生活全般にわたって、生活者を中心に、人と人、人と社会、人と物、人と環境等、さまざまな繋がりにおける、多岐にわたる生活事象を科学として扱っている。

「生活を科学する」ということは、生活事象を一個人、一家庭の問題としてとらえるのではなく、より広く、普遍的にとらえ、実証的、論理的に考察するということである。そうすることで、バラバラにみえる生活事象は、個人だけでなく、広く社会全体、人類全体の知となって生活の質の向上にも貢献できる。

生活事象の大きな特徴は、どの事象をとってもそれだけが独立して存在するものではなく、さまざまな現象と関わって生じることである。生活事象は非常に複雑で、学際的な内容から成り立っており、「生活と福祉」コースでは、その周辺をカバーする裾野の広い視野が重要であり、同時に専門分野の基礎知識の取得と深い認識が前提となる。

現代の生活は、個人・家庭のレベルで自己完結してはいない。社会の動きはさまざまの形で生活に影響している。「生活と福祉」コースでは現在と近未来社会の生活をさまざまな角度からみつめた放送授業と面接授業を通して学生に多くのことを発信している。

2. 卒業研究のテーマの決め方

「卒業研究のテーマの申請時期だ、さて何にしよう…」という迷いは、卒業研究に取り組もうとしている皆さんにはありえないことと思う。多くの人は、日常生活や、職務の中で興味、関心をもった事象や、問題に感じた点がすでにいくつも頭の中にあるくらいの段階ではないだろうか。

卒業研究を履修するためには、なるべく早い時期からアンテナを張り巡らせ、論文作成を念頭に置いて興味、関心を集中することが必要である。そして、研究テーマを絞り込んでいくために、関連する授業科目の履修にくわえて、資料を集めたり、文献を読んだりして、知識の不備を補い、理解と認識を深めるという作業が必要不可欠である。そうすることにより初めて問題がより明確になり、それと同時に「そのテーマが研究に値するか」否かも明らかになる。それは能動的学習である卒業研究の第一歩である。

最終的なテーマ決定は教員の指導を受けるとしても、「こんなことに興味がある、関心がある」程度ではなく、それに続く文献検索作業をできるだけ進めてから教員に相談すると、テーマも早く具体化し、研究もより深められる。具体的なテーマとしては、個人の生活体験を大切にしながらも、それに引きずられることなく、客観化、普遍化できるテーマであるかどうか十分な吟味が必要である。

3. 研究の方法とまとめ方

研究の方法やまとめ方は、テーマによって人文科学的であったり、社会科学的であったり、自然科学的であったりする。多くの場合、研究にはまずテーマについて、既知の事実と問題点を知る、仮説を立てる、文献調査をする等の共通の基本的な研究手法がある。さらに、実地調査、実験等により「生データ」を収集し、整理、分析・解析し、仮説の検証と独自の理論の構築をするという流れが一般的であろう。教員ごとに指導方針があるため、テーマと指導教員を決めたら、本冊子の各教員の説明を参照して頂きたい。

卒業研究の論文は感想文やエッセイではない。学問的根拠を明らかにした上で自分の考えを論じるものである。テーマが身近な日常生活の中から出てきた個人的体験に発するものであればなおさらのこと、この点に留意して研究し、まとめなければならない。自分でデータを出して分析し、新知見を得る本格的な研究ができる条件の整った学生は稀であり、そのような条件がなくても悲観するには及ばない。ある主題についてさまざまな文献、資料を精読し、総合するような文献研究も研究として認めている。ただ文献レビューの仕方には学生の独創性が必要である。

学生が職場でたずさわっている職務の中で、データが生まれている場合、上司・同僚の諒解を得て、卒業研究としてそ

のデータをまとめるのもよい方法である。

また、最近は指導教員と学生のやりとりを、パソコンメールにより行うことが一般的であるので、メールを使いこなせるようになっていることが求められる。(資料添付などに対応できるよう、携帯電話やスマートフォンではなく、パソコン上でのメール環境を整えること。) さらに指導は Zoom で行われることが多い。Zoom 環境も整えておくこと。

なお、「生活と福祉コース」では卒業研究の発表会を 12 月に大学本部、学習センター、Zoom 等にて開催している。

生活と福祉コース

専門分野	氏　　名	掲載頁
食品科学・食生活論	朝倉　富子	35
老年看護学	井出　　訓	35
精神医学・神経科学	糸川　昌成	36
障害法・障害学・福祉政策	川島　　聡	36
環境生理学・健康工学	川原　靖弘	37
家族社会学・家族政策論	下夷　美幸	38
運動生理学・体力医科学・生化学	関根　紀子	38
内科学・公衆衛生学・地域医療学・病院管理学	田城　孝雄	39
基礎看護学・保健医療社会学	戸ヶ里泰典	40
リスクマネジメント論・リスクコミュニケーション論・生活経営学	奈良由美子	41
臨床看護学・看護アセスメント学	山内　豊明	41
社会福祉学・貧困・生活問題論	山田　知子	42

生活と福祉コース	朝倉　富子	専門：食品科学・食生活論

1．指導方針

大学における卒業研究は、それまでに学んだ知識、問題解決のための方法論を活かし、自身の研究分野における問題点を見出し、その解決について学術的にアプローチをすることです。学術的アプローチとは、明確な研究目的とそれを解決するための手段、得られた結果の解釈と考察を行うことです。得られた結果が客観的かつ意味のあるもので有ることが求められます。まず、どのような課題に取り組むかを決めるのが重要です。未解決の課題は授業の中で取り上げられることもありますし、自ら文献・資料を調べる中で見出すこともあります。課題の設定と解決方法について、期間内に卒論として完成可能かどうかを面接によって審査し、可能と判断されたテーマについて、具体的な計画を共に考えながら指導する予定です。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門は、食品科学です。特に味覚を中心とした研究を行っています。具体的には新規味覚受容体の探索をはじめとする味覚伝達メカニズムの解明です。生理学的手法（官能評価を含む）、分子生物学的手法を用いて、これらの課題に取り組んできました。味覚の中でも塩味は健康との関連が深く、塩分の過剰摂取は世界的な健康課題の一つです。その解決策として塩味増強剤の創出にも取り組んでいます。遺伝子、タンパク質、代謝産物を網羅的に解析するいわゆるオミクス解析が盛んになっています。これらの手法を用いて食品の機能性成分の解析や、近年注目を集めているノンコーディングRNAの作用についても研究しています。このような実験科学だけでなく、食生活の問題点や課題に関する研究にも関心が有ります。

3．指導領域

食品学、栄養学、食生活論に関するテーマを受け入れます。具体的な研究テーマと手法については相談の上決定します。

4．指導のプロセス

個別指導又は集団指導を、原則として月一回程度ZOOMを用いて行います。必要に応じてメールによる指導も行います。4月の卒論開始時点で目的・方法が確立していることが望ましい。

5．履修者への希望・その他

実験系の卒論を希望する場合、データの取得方法、実験の場所などが確保されていることが必須です。資料などによる調査研究も可能ですが、論文の検索方法を習得していること、簡単な統計処理が出来ることが必要です。食品学、栄養学といった食生活を理解する上で必要な知識と、化学、生物の基礎的知識があることを希望します。

生活と福祉コース	井出　　訓	専門：老年看護学

1．指導方針

卒業研究は、学生の皆さん自身が積み上げてきた学習や経験をもとに、いま何に興味を持ち、何を知りたいと感じているのかを明確にし、それを「知る」という高みに向かって一歩一歩あゆみを進めていくプロセスなのだと思います。教員は、そうした歩みの道を照らし、背中を押し、歩むべき先の目標を示すという形で共に歩みを進めていく同士でありたいと願っています。学生の皆さんには、主体的、積極的な取り組みとともに、登り始めたら高みからの眺めを見るまで諦めない意志とを期待します。

2．専門領域と主な研究方法

専門は老年看護学です。高齢者の健康問題、特に認知機能や物忘れといった記憶にかかわる事柄を中心に測定ツールの開発、介入効果の測定といった量的な研究を行ってきました。また、高齢者のスピリチュアリティといったキーワードのもとに、スピリチュアリティとは何かといった問題や、世代間の捉え方の違いなども研究しています。近年では、認知症高齢者へのケア、予防的なかかわりに関する研究や、認知症の人が安心して暮らせるまちづくりをキーワードとした地域社会におけるサポートシステムの構築なども行っています。

3．指導領域

高齢者の、病気、健康、医療、看護、介護、老い、死などをテーマ・キーワードとする研究を指導しますが、基本的に「高齢者の健康」に関する（資する）研究であることとします。

4．指導のプロセス

短期間での研究遂行となりますので、卒業研究に取り組む時点にはすでにテーマのみならず、具体的な研究課題と計画が明確になっていることが前提となります。指導は、月例のゼミ（Web ゼミを基本とする）と e-mail によるものが中心となりますが、必要に応じ個別の面接指導を随時実施します。パソコン及び基本ソフト（word, powerpoint, excel）の使用方法はもとより、量的研究に際しては、一定の統計解析方法を習得していて、統計解析ソフトの使用経験があることが望まれます。また、国内外の学術論文の検索方法、レビュー方法、研究方法論、統計学、論文執筆方法に関する一定の知識を有しているものとして対応します。

5．履修者への希望・その他

知りたいこととそれにまつわるキーワードを早い時期に選び出し、関連する基礎的な文献をレビューしていくことをお勧めします。また、コンピュータの使用は必須です。文書作成や表計算などの操作は習得しておいてください。また、研究遂行上の不明点は文献等を自ら調べ、主体的に研究を実施しまとめていく主体性を前提としています。パソコンの使用方法（e-mail、基本ソフト）や文献検索方法、研究方法論、基礎統計学の科目を履修していることが望まれます。

生活と福祉コース	糸川　昌成	専門：精神医学・神経科学

1．指導方針

卒業研究は、それまで大学で学んできたことを卒業論文の形で完成させる過程をさします。卒業論文は学術論文ですので、感想文や思いの羅列ではなく、論理的で科学的な文献としての条件をそなえる必要があります。また、学術論文としての様式を整え、作法にのっとって執筆される必要があります。それら、論理性、科学性、様式などを、精神医学と神経科学について研究指導をいたします。そのためには、学生自らが主体的に取り組む姿勢が求められます。そして、研究の結果、新しい知見を見出す必要があります。知見の新規性・独創性を担保するためには先行研究に精通している必要があり、自ら選んだ研究領域に関する最新の文献をフォローしていることが求められます。以上のような過程をサポートする指導を行います。

2．専門領域と主な研究方法

神経科学と精神医学を専門領域とするので、こうした領域をテーマとした質的･量的研究が研究方法となります。長年、中枢神経系の実験科学にたずさわっていましたので、その関係から脳と心の関係について最近は関心を深めています。

3．指導領域

精神医学、メンタルヘルス、神経科学、脳と心といった領域を指導可能です。フィールド調査や資料分析などについて質的・量的研究を指導します。

4．指導のプロセス

指導は月１回のズームを用いたゼミとメールによる集団指導が中心となります。適宜、必要に応じで個別の指導も行います。ゼミでは、研究の進捗や成果を発表し参加者で質疑応答を行って、情報の共有と切磋琢磨をめざします。

5．履修者への希望・その他

限られた期間で卒業論文までまとめる必要があるので、計画性と主体性、自主性が求められます。文書作成、表計算、文献の検索ができることが必要です。

生活と福祉コース	川島　　聡	専門：障害法・障害学・福祉政策

1．指導方針

卒業研究は、みなさんの問題関心に沿って行われ、みなさんの執筆する学術論文として結実します。学術論文を執筆するあたっては、謙虚さをもって先人（先行研究）から学び、その上に新たな知見を得る必要があります。フリースタイルで思いついたことを何でも書いてよいわけではありません。注の付け方や引用の仕方を含め、適切な作法に従って書かなければなりません。論理的な考え方も必要です。しかも主体的に取り組まなければ、良いものは出来上がりません。みなさんの主体性の発揮を前提として、教員は学術論文を書き上げるまでに必要なサポートをします。

2．専門領域と主な研究方法

障害法、障害学、福祉政策を専門としています。国際人権法も研究しています。障害者権利条約、障害者差別解消法などを検討対象としてきました。障害の概念（障害のモデルを含む）、差別の概念（合理的配慮の不提供を含む）、人権の原理なども関心をもって検討してきました。判決文を読み込んだり当事者や研究者の執筆した文献を検討したりして、解釈論や立法論に向き合ってきました。障害者就労、障害児教育などの分野で実態調査にも関わってきました。経済学、社会学など他の学問分野の研究者との学際的な研究にも従事してきました。

3．指導領域

障害者 and/or 人権に関連するテーマは、基本的に指導可能です。

4．指導のプロセス

月1回程度、ゼミで研究発表をしていただきディスカッションをして、みなさんの研究内容を深めていく予定です。できれば本部（千葉）あるいは文京センターでの対面ゼミを考えていますが、みなさんの事情も考慮に入れてオンラインのゼミにする可能性もあります。ゼミの開催形態は柔軟に考えるつもりです。ゼミのほか、zoom や E メール等による個別の指導も必要に応じて行います。

5．履修者への希望・その他

みなさんがご自身の問題関心に照らして主体的に研究をしたいという強い意欲をもつことが必要です。4 月の開講からなるべく早い段階で、ご自身の卒業研究にとって必要となる基本的な文献は一通り読み終えてほしいところです。最低限のパソコンスキル（ワード、E メール、インターネット）は身に着けておいてください。日本語表現や注の付け方、文献の書き方なども、一定のレベルに達するまで推敲や再検討を求めることがありますので、ご留意ください。

生活と福祉コース	川原　靖弘	専門：環境生理学・健康工学

1．指導方針

多くの研究は、「背景」→「目的」→「目的を達成するための手段の説明」→「その手段を用いた調査・実験」→「調査・実験に基づく結果」→「結果に基づく考察」という構成で完成されます。関心のある分野で自らテーマを設定し、そのテーマを既存の研究や時代のニーズ（背景）と比較し、その流れの中で何をあきらかにすれば良いか考え、研究の目的を設定し、研究計画を立てるところから始まります。

私もそうでしたが、初めて研究を始める方にとっては、日々問題視していたこと、未知のことを、初めて自らの手で客観的に明らかにしていくことになるので、結果を見る度に気持ちが高揚し、研究終了時は大きな達成感が得られると思います。限られた期間ですが、研究を進めるプロセスを通して、定めたテーマの研究目的を達成するための学術的なアプローチ方法を実践できるように支援したいと考えています。

2．専門領域と主な研究方法

日常生活における健康、認知･行動、まちづくりについて、認知科学やヒューマンインタフェースデザインの視点から研究しています。生活者が豊かな体験のできる生活環境をつくるためには、人の行動や取り巻く環境の変化を、把握･予測し、生活者に個別に有用な情報や環境を提供することが必要になります。そのために、人間や環境から得られるデータを収集し、解析することを重要な研究手段としています。そのなかで、センサの開発、ヒューマンインタフェースのデザイン、人間や環境のデータを用いた解析・評価を行っています。

健康工学、認知科学、リハビリテーション科学、地理空間情報、音／音楽情報処理、環境モニタリングなどが経験のある応用分野です。

3．指導領域

生活、健康、文化、環境など、実生活と接点のある領域において、研究の目的に対し客観的な考察を述べられるよう、情報収集の方法、データの解析・評価の方法などの設定や実施に関して指導が可能です。また卒業研究報告書の作成と発表については、指導方針を踏まえて指導致します。

4．指導のプロセス

ゼミ形式による集団指導、または個別指導を行いますが、原則として 1 ヶ月に一度、放送大学（文京学習センター等）で、

研究会を開いて研究指導をします。

本部から遠方の方も、遠隔教育用のコミュニケーションツール及び情報共有ツールも併用し、可能な範囲で個別指導にて対応していますので、希望の指導場所や研究実施形態も含め相談してください。

5．履修者への希望・その他

卒業研究の期間は限られていますので、身近なところで実施可能な研究テーマを設定することが望ましいです。文書作成、表計算、メール、インターネットについて、パソコンで利用可能な環境を整えて基本を習得した上で卒業研究に取り組んでください。

生活と福祉コース	下夷　美幸	専門：家族社会学・家族政策論

1．指導方針

卒業研究は、大学での学びの総仕上げと位置づけられます。自分自身が設定したテーマで学術論文を完成させるという営みは、決して容易なことではありませんが、明確な問題関心とその問題を解明したいという強い研究意欲があれば（そしてもちろん、たゆみなく努力を続ければ）、やり遂げることができます。積極的に履修し、学問的充実感を手にして大学での学びを締めくくっていただきたいと思います。

卒業研究においては、履修者の主体性が最も重要です。論文のテーマ設定、調査の実施・分析、考察、論文執筆のすべてを履修者が主体的に責任を持って行います。教員は論文完成までの、履修者の主体的な研究活動を支援していきます。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門は家族社会学です。大きな問題関心は、家族と国家の関係にあり、国家による家族への介入的な支援のあり方について考えています。主な研究対象は、家族に関わる福祉および司法の制度・政策です。研究方法としては、理論研究と質的データに基づく実証研究との統合をめざしています。

3．指導領域

卒業研究では、家族やジェンダーをめぐる社会問題、および関連する制度・政策に関するテーマを受け入れたいと思います。研究方法は主として質的研究です。インタビュー調査や資料分析による研究を指導します。

4．指導のプロセス

ゼミ形式による集団指導を中心とし、必要に応じて個別指導も取り入れます。具体的には、月1回程度、ウェブ会議システム（Zoom）を利用して、卒論・修論指導のためのゼミを行います。ゼミは、報告者が自身の研究成果を発表し、全員で討議する形式で進めていきます。これは、論文完成までのプロセスを、ゼミの仲間と共有し、相互に高めあうことを目標に行うものです。履修者はできるだけ出席してください。出席できない場合でも、課題等の提出を求めますので、滞りなく着実に研究を進めてください。

5．履修者への希望・その他

4月開講時までに、「研究テーマ、問題関心と研究目的、研究方法、主要参考文献」について具体的に検討しておいてください。

履修にあたっては、パソコンの利用環境、とくにインターネットの通信環境を整えておいてください。

生活と福祉コース	関根　紀子	専門：運動生理学・体力医科学・生化学

1．指導方針

みなさんのこれまでの経験や学習を通して感じている疑問や興味に対し、科学的な手続きに基づいて研究に取り組んでいただきます。自主的にテーマを設定し、それに即した実験または測定を行うフィールドがあり、データを収集して分析することが求められます。そのためには、卒業研究で何を明らかにするのか、明確な研究目的を持つことが必要です。なお放送大学には実験施設がありませんので、研究を行う対象者や測定装置などといった環境をご自身で用意できることが望ましいです。また、科学的な研究の進め方についてある程度習得していることが必要です。

履修に当たっては、自主的かつ計画的に取り組むことが大切です。教員は研究を進めるための支援を行い、時には軌道修正を促すような助言を行いますが、逐一指示は行いません。みなさんの積極的な取り組みを期待します。

2．専門領域と主な研究方法

運動生理学、特に筋生理学、筋生化学を専門としています。運動・トレーニングや不活動が健康や身体パフォーマンスにおよぼす影響について、動物やヒトの骨格筋サンプルを採取し、タンパク質や遺伝子の動きを分析しています。現在は特に横隔膜の筋萎縮について取り組んでいます。このほか、運動、発育期、生活習慣病などをキーワードとするような研究にも、主に実験動物を用いた手法で研究に取り組んでいます。

3．指導領域

運動生理学、トレーニング科学、スポーツバイオメカニクスといった運動・健康・スポーツに加え、リハビリテーションなどの医療に関わるテーマを広く受け入れたいと思います。実験的研究が中心となりますが、文献考察を用いた研究についても対応可能です。

4．指導のプロセス

指導はメールによるものが中心となりますが、必要に応じてオンライン会議（Zoom）や対面による面接指導を行います。基本的なソフトウェアの使用法は習得済みであることとして指導を進めます。また、研究の進め方や論文の書き方についても積極的な自己学習が望まれます。

5．履修者への希望・その他

履修期間がとても短いので，研究内容もさることながら期間内に完了する研究計画を立ててください。研究を進める過程で、グラフを作成したり統計解析を行ったりする必要がありますので、パソコンの使用は必須です。また、先行研究などの文献を調査することが求められますので、必要な情報をインターネット等で検索する方法などを習得していることが望ましいです。研究倫理審査を要とする研究、もしくは必要かどうか判断を迷う研究を計画している場合は、個別に判断しますので卒研質問箱を利用して相談してください。必要と判断された場合は、短い履修期間を圧迫しないよう、速やかに申請準備に着手していただきますので、その心づもりをしておいてください。

生活と福祉コース	田城　孝雄	専門：内科学・公衆衛生学・地域医療学・病院管理学

1．指導方針

【大学教育での卒業研究の位置付け】

学会誌に投稿できるレベルを目指す。

【どのような考え方で指導するか】

学部卒・学士であるが、放送大学という通信制大学という特性を考慮し、自立した研究者として接する。

【基本姿勢】

卒業研究を開始する時点で、目的・方法が確立していることが望ましい。

2．専門領域と主な研究方法

【自分の研究領域】

医療提供体制の研究、地域医療・地域医療連携、地域包括ケア、疾病管理、病院管理、医療管理、医療政策

【テーマ】

保健・医療・介護・福祉の連携

基礎自治体に於ける在宅医療推進協議会の構造と機能

地域医療の再生

【関心対象】

地域・基礎自治体に於ける医療・介護

3．指導領域

【卒業研究として指導可能な領域】

地域医療連携、保健・医療・介護・福祉の連携、医療政策、医療提供体制の在り方

【研究方法】

聞き取り調査、質問紙調査、事例研究

4．指導のプロセス

【提出までのおおまかなスケジュール】

卒業研究を開始する時点で、目的・方法が確立していることが望ましい。

【指導の場所】

大学本部または文京学習センター

【通信手段】

電子メール

【集団・個別の別】

個人

5．履修者への希望・その他

【履修にあたっての心構え】

自立した研究者

【必要な基礎知識】

特に無いが、地域医療・地域包括ケアの経験・専門知識、または行政の経験がある方が望ましい。

【履修しておいてほしい科目】

特になし

生活と福祉コース	戸ヶ里 泰典	専門：基礎看護学・保健医療社会学

1．指導方針

卒業研究では、これまで学んできた学習内容や自身の経験を照らし合わせて自主的にテーマを設定し、自主的に調査フィールドを探し、データを収集し、分析を行い、研究を進めていくことになる。したがって、4月から10月という短い履修期間であるため、研究計画書は指導開始の4月時点で確定し、すぐにも実査開始できる状況である必要がある。また、興味本位ではなく、厳密な研究手続きのもとで研究を実施することが求められ、こうした科学的方法論について一定の内容を習得していることが指導の前提になる。さらに、修了後も学会発表や、投稿論文化するなど、高い研究水準を追求でき、かつ、粘り強くその研究テーマと付き合っていけることが望まれる。

他方で、研究遂行上の不明点は自主的にインターネット上を検索したり文献を調べたりして主体的に解決をはかることが前提で、それでも不明の際に教員は支援するというスタンスにしたい。

2．専門領域と主な研究方法

一つは健康生成論とストレス対処能力概念SOCをはじめとしたストレスを乗り越える力に関する諸概念に関する理論的研究で、その測定方法と、形成・発達支援の方法を研究している。二つ目は、健康情報とヘルスリテラシーに関する研究で、手に入れた健康情報が自己に有用か判断する力とその習得方法に関する研究をしている。研究方法のジャンルとしては、調査研究を専ら行っており、量的調査によりデータを収集し、統計学的手法を用いてデータ解析を行っている。

3．指導領域

疫学、健康教育学、保健医療社会学など。文献検討ではなく、人を対象とし、調査により対象者からデータを収集して分析を行う研究。

4．指導のプロセス

基本的にはe-mailないしZoomによる個別指導となる。必要時にゼミ形式による集団指導を行う。夏前までには研究フィールドが確保され研究倫理審査を終え実査を開始でき、9月下旬には分析を終え論文執筆に入ることが期待される。短期間での研究遂行となるため、パソコンおよび基本ソフト（Word、Excel、Powerpoint）の使用方法はもとより、Zoomを活用した指導を行うため、Zoomの使用方法は既修得である必要がある。統計解析ソフトの使用経験があり、解析方法についてある程度獲得していることが望ましい。また論文を解読できる程度の英語力、ならびに国内外の学術論文の検索方法やレビュー方法、研究方法論、統計学、論文執筆方法に関する一定の知識を有しているものとして対応する。

5．履修者への希望・その他

受け身ではなく、自ら調べ、実施し、まとめていく、主体的に研究を進めていく心構えが望まれる。基礎知識としては、パソコンの使用方法（e-mail、基本ソフト）、国内外の文献検索方法、研究方法論、基礎統計学を習得していることが必須である。したがって、これらに関連する科目を履修していることが望まれる。

生活と福祉コース	奈良 由美子	専門:リスクマネジメント論・リスクコミュニケーション論・生活経営学

1．指導方針

卒業研究レポートを完成させるまでの過程において、一貫して研究の主体は学生自身です。研究の過程では、学生自らが目的を設定し、その目的を達成するための方法を検討して実践し、結果をまとめ、考察を行うことになります。教員は、学生の研究の過程を見守り、ディスカッションを通じて研究を活性化させ、研究が脇道に逸れそうなときには軌道修正を行うといった役割を遂行します。

学術的な文章としての論文には、その要件として、論理性、客観性、独創性が求められます。みなさんにも、科学的方法論にもとづいた厳密な手続きを用いながら、新しい知見を導いてほしいと考えています。

2．専門領域と主な研究方法

わたし自身は、生活の安全と安心に資することを目指しながら、生活を基点としたリスクマネジメント、リスクコミュニケーション、リスクガバナンスに関する研究を行っています。おもな研究方法は、質問紙調査やインタビュー調査等により一次データを収集し、これを分析・考察することです。またフィールドにて課題解決型のアクションリサーチを行うこともあります。

3．指導領域

上記に述べた内容がわたし自身の専門領域すなわち得意分野ではありますが、もとより生活は多様な要素から成り立っています。したがって卒業研究の指導でも、生活を構成するそのほかの諸資源や諸関係に関するテーマについてもなるべく受け入れたいと思います。研究方法としては、質問紙やインタビュー等による調査研究のほか、文献考察を用いた研究についても指導します。

4．指導のプロセス

月１回程度、オンライン会議あるいは面談によるグループゼミを開催しますので、可能な限り出席して下さい。ゼミでは、研究の進捗と方向性についてディスカッションを行います。その他、必要に応じて電子メール等による指導も行うこともあります。なお、「やりたいテーマ」が果たして「（在学中に）できるテーマ」であるか、また独創性のある課題設定になっているかの見極めをなるべく早い段階で行う必要があります。そのためにも、とくに年次の前半のゼミには可能な限り出席することが望ましいと言えます。

5．履修者への希望・その他

履修前に、取り組みたいテーマについての文献資料（とくに先行研究）を早めに収集し目を通しておいて下さい。とくに、論文のまとめ方を学ぶためにも、学術論文は必ず読んでおくこと。また、用いる研究手法に関連する概要書も読んでおいて下さい。コンピュータの基本操作を習得していることは大前提です。さらに、量的研究を予定している場合には、一定の統計解析方法を習得しており、統計解析ソフトの使用経験のあることが求められます。

生活と福祉コース	山内　豊明	専門：臨床看護学・看護アセスメント学

1．指導方針

解決したい課題を明らかにすることがまず何よりも大切であり、このステップには研究全体の半分以上のエネルギーをかけてもおかしくないものである。その先には、漠然と頭に思い浮かぶ「疑問」を明確（crystal clear）に言語化（verbalize）してみること、そしてそれが探究可能な（researchable）課題であるのかを検討し、もしも探究可能あるいは解答可能（answerable）なものであると見越せたならば、これまでに報告されている関連研究成果を検索し、どうしたらその具体的な疑問を解決できるかについてのプランを立てていくというプロセスを正しくたどる必要がある。つまり単なる興味本位では

なく、厳密な研究手続きのもとで研究を実施することが求められるが、4 月から 10 月までという短い履修期間であるため、研究計画書については 4 月時点で確定しすぐにでも取りかかることができる程度の準備状況が必要である。実際の研究成果は学外での学会発表・学術論文に投稿できるレベルを目指したいと考えている。

2．専門領域と主な研究方法

医療看護実践場面における状況把握と臨床における推論、すなわちアセスメントを中心に研究を進めている。さらにそれらの成果を広く還元できるような教育研修体制の構築や整備に尽力したいと考えている。

3．指導領域

フィジカルアセスメントに関する方法論の構築、検証及びその普及方法の開発等。

4．指導のプロセス

短期間での研究遂行となるため、卒業研究に取り組む時点にはすでにテーマのみならず、具体的な研究課題が明確になっていることが前提である。指導は、月例のゼミと e-mail によるものが中心となるが、必要に応じ個別の面接指導を実施する。パソコン及び基本ソフトの使用方法はもとより、量的研究に際しては、一定の統計解析方法をすでに習得してあり、統計解析ソフトの使用経験も必要である。また論文を解読できる英語力、並びに国内外の学術論文の検索方法、レビュー方法、研究方法論、統計学、論文執筆方法に関する一定の知識を有しているものとして対応する。

5．履修者への希望・その他

研究遂行上の不明点は文献等を自ら調べ、主体的に研究を実施しまとめていくという、受け身でなく主体的に研究を進めていく者、すなわち自立した者であるということを前提とする。

生活と福祉コース	山田　知子	専門：社会福祉学・貧困・生活問題論

1．指導方針

卒業研究は、放送大学での学びの集大成です。働きながら研究論文を書きあげるのは時間との闘いで大変かもしれませんが、書き上げた時の達成感は大きいので、ぜひ、挑戦してほしいと思います。皆さんはこれまでの学びのなかで、必ず、もっと掘り下げてみたい、というテーマを一つや二つはもっていると思います。そういうテーマを同じような関心をもつ教員、仲間とともに議論し、高めあう場が卒研だと思います。教員として、そういう場を提供し、サポートしたいと思います。

論文を書くためには、まず、テーマに関する先行研究を読み漁り、自らのテーマが研究に相当するものかを確認しなければなりません。社会福祉に関するテーマは広範ですが、どんどん絞込み、あなただけの視点をもつ独創的で社会発信力のある精度の高い論文をめざしてください。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門領域は社会福祉学ですが、とくに高齢者福祉の施策と実践、女性と福祉、貧困や生活問題の実態と社会的対応、社会福祉分野で働く人々の労働実態などに興味があり、研究テーマとしています。個人の生活問題がどのような背景のもとで作り出されるのか、社会システムとして社会福祉施策や関連サービスはどのように機能しているのか、していないのか、生活調査をもとにした実証的な研究を手掛けています。また、社会福祉施設などで働く人々の労働環境についても女性労働との関連で研究しています。

3．指導領域

社会福祉に関連するテーマ、とくに高齢者や女性、貧困、生活問題に関するテーマ、地域福祉（地域開発と生活破壊、コミュニティの崩壊と再生）や社会福祉関連分野で働く人々に関するテーマが指導可能範囲です。

4．指導のプロセス

隔月ペースのゼミナールと個別指導をミックスして展開したいと思います。前半は研究テーマの絞込み、先行研究、研究方法の妥当性などについて検討します。中間報告会のプレゼンなど、いくつかハードルを設け、それらを乗り越えることで精度の高い論文作成を目指したいと思います。指導はメールと ZOOM で行います。とくにゼミは ZOOM で行いますので積極的に参加してください。

5．履修者への希望・その他

社会福祉の研究は、人の暮らしに迫るものであり、リアリティが要求されます。同時に研究ですから客観性、科学的根拠

が求められます。少子高齢社会、リーマンショック、3.11、コロナ・ショックによる生活破壊、時代は激しく変化していて、私たちの生活も大きく影響を受けています。論文執筆を通して、社会の底に注目し、生活困難な人々に照準を合わせ、そこから社会の問題をえぐり世に問う、また、具体的な問題解決をはかるための方法手段を考える、という社会福祉研究の醍醐味をぜひ味わっていただきたいと思います。社会福祉に関心を持つすべての人、それから、当事者、その家族、社会福祉の施設や団体など現場で働く人も歓迎します。

心理と教育コース

「心理と教育」コースにおける学習テーマの中心は、コース名称から明らかであるが、固有の学問分野・領域名でいうと心理学、臨床心理学、教育学に関わるものである。このコースで卒業研究を行おうとする場合、おそらくその三つの領域のいずれかに属するテーマを選ぶことになるだろう。本コースでの研究対象は、感じ、思い、行動するわれわれ人間、そして育ち、知り、変化し、悩むわれわれ人間そのものに直接関わる事柄であり、最も身近な研究対象をもつ学問分野だということができる。そのことがこの分野での研究を容易にも、また逆に難しくもしている。これらの学問分野としての特性を踏まえた上で、卒業研究を進め論文を書くにあたっての基本的留意点をいくつかあげておくことにする。

まず、研究テーマである。これを設定しないことには何も始まらない。テーマ設定は問題設定とも呼ばれるが、往々にして、それを「問題（problem）」ではなく「災厄（trouble）」と捉え、本当は興味がないにもかかわらず「校内暴力」や「いじめ」といった問題性のありそうな状況をテーマに選んでしまって、ただその問題の羅列と思い付きの解決策の提示に終わる例が多く見られる。研究上の問題とは、「～は何故…になるのか」「～はどうなっているのか」といった問いかけであって、むしろ「疑問（question）」と呼ぶのが相応しい。例えば「なぜ赤が女性色なのか」、「最近話題になる教育改革って何だろう」、「通信簿は何の役に立つのか」等々、ごく日常的な疑問から出発することで、自然とテーマの大枠は定まってくるものである。とりたててジャーナリスティックな問題状況を取り上げる必要はない。テーマは身近なところにいくらでもある。もう一度、身の回り、自分と周囲の経験、最近見聞したり読んだりした事柄などを振り返ってみて欲しい。

しかし、本コースの領域がごく身近に研究対象を持ち、他の分野に比べて日常生活に接近したテーマを立てやすいことには、困った側面もある。それは、書き上げた論文が、自分と自分の周囲の人間の心理や発達の実体験を材料として、それらへの通り一遍の主観的な感想を加えた、いわゆる「体験記」あるいは「生活雑感」になってしまう危険性があることである。研究は、その対象と接触しているよりも、むしろ少し離れて客観的な観察が可能な位置からの方が適切に進められるものである。とりわけ、職業生活や家庭生活に関わる事柄をテーマにしようとする場合は、そのことに十分留意していただきたい。

さて、テーマが決まったら、できるだけ早く下調べに着手したい。まず始めに、テーマとした事柄や概念の基本的な意味あるいは社会での扱われ方など、辞典類、用語集等で調べ、整理しておくのもいいだろう。知っているつもりでも意外な思い違いをしていたり、より多面的な内容を知らされたりすることは案外少なくないものである。その程度の下調べなら、研究指導が始まる４月まで待つ必要は全くない。積極的に行動を開始しよう。

指導教員が決まり、テーマが確認され、提出までの研究計画についての指導を受けたら、いよいよ本格的な始動である。研究テーマあるいは研究方法によって進め方はさまざまであるが、どのような形をとる場合でも、次の二つのことはしっかり守っていただきたい。一つは、指導教員とのコミュニケーションを絶やさないことである。教員と学生との接触機会の乏しさは遠隔教育の宿命であるが、多様なメディアを利用すればそれを少しでも補うことが可能である。教員からの働きかけをただ待っているのではなく、積極的に質問をし、アドバイスを受けるよう心掛けたい。もう一つは、資料やデータ、先行研究、文献などを探す際に骨惜しみをしないことである。図書館はもちろん、例えば各官庁や企業の中にある図書室、資料室など、素材となるものはどこにでもある。最近では、インターネット上のウェブサイトから資料を得ることも容易になっている。そうした情報検索の技術も卒業研究にあたっての基礎的リテラシーの一つとして欠かせない。

ここで、卒業研究と論文のメリットということについて簡単にふれておこう。優れた研究論文には、全般的に優れているというよりも、何か明確な「メリット（長所、売り物、価値）」を持っているものが多い。卒業論文もその例外ではない。一般に、研究と論文のメリットは次のような観点で判定される。

①**研究テーマのよさ**　学問的に重要と思われるテーマであるか、現代社会で関心を集めているタイムリーなテーマであるか、あるテーマに対するユニークで鋭い着眼点があるか、など

②**緻密で丹念な学習**　先行研究や文献は十分収集されているか、関係する理論や学説は適切に整理されているか、先行研究や理論への的確な批判がなされているか、など

③**新たな事実の発見**　調査や資料の発掘によって新しい事実が発見されているか、事例や調査結果から潜在的な傾向や法則性を独自に発見しているか、など

④**情報収集における実践的努力**　調査・観察などに労力を惜しまず取り組んでいるか、適切なフィールドワークが十分行わ

れているか、など

⑤**文章構成力**　研究の成果が説得力のある文章にまとめられているか、論理の流れが体系的に構成されているか、など

これらの全てを満たす必要はない。このうち一点でも評価できればそれは間違いなく優れた卒業研究であり卒業論文である。ただ単位を取るというだけではいかにも勿体ない。この機会に優れた研究、優れた論文に挑戦しよう。

最後に、これだけは強調しておきたい。放送大学での科目履修は基本的に孤独なものであり、また面接授業などでの学生同士の触れ合いも、短期間で限定的である。それに対し、卒業研究では、1年間同じゼミに出席したり連絡を取り合ったりする「学友」を持つことができる。その存在は、場合によっては研究そのものの成果にも劣らない一生の宝ともなり得る。是非、「学友」とともに卒業研究に取り組んで欲しい。

心理と教育コース

専門分野	氏　　名	掲載頁
教育経済学・比較教育・遠隔高等教育	苑　　復傑	46
情報教育・初等中等教育におけるICT活用・カリキュラム研究	小林　祐紀	46
教育政策・教育行財政学	櫻井　直輝	47
臨床心理学	佐藤　仁美	48
教育心理学・認知心理学	進藤　聡彦	48
臨床心理学	高梨利恵子	49
認知心理学・情報生態学	高橋　秀明	50
臨床心理学	中島　正雄	50
高等教育論・教育社会学	橋本　鉱市	51
臨床心理学	橋本　朋広	52
臨床心理学	波田野茂幸	53
社会教育、生涯学習、成人教育	松本　　大	53
臨床心理学	丸山　広人	54
発達心理学・文化心理学	向田久美子	55
臨床心理学・福祉心理学	村松　健司	56
社会心理学・認知心理学	森　津太子	57

心理と教育コース	苑　　復傑	専門：教育経済学・比較教育・遠隔高等教育

1．指導方針

卒業研究は大学で学習したものの総括です。学生自身が特定のテーマを設定して、これまで学んできた専門知識を用いて情報や資料を収集し、学生自身が考え、またさらに必要な学習をすることが求められます。ここで取り組む課題について、学問的、または社会的な意味を自ら吟味し、追求していくものでなければなりません。教員は学生が設定した課題について、専門的な見地から方向付けをし、問題の立て方から、論文の組み立て方、資料の使い方など、研究方法をアドバイスしていきます。論文には記述の正確さと、明確な論理の展開が要求されます。

2．専門領域と主な研究方法

専門領域は、教育経済学、比較教育、遠隔高等教育です。高等教育の政策･制度、大学の管理運営、国際化、大学のICT活用などの課題について、中国・日本・アメリカなどの比較の視点から研究しています。世界各国の大学は、それぞれ独自の歴史や論理をもっていますが、直面する問題には多くの類似点があります。それに、大学の内部組織のようなミクロの視点から、大学外の政治･経済の変化、グローバル化、情報化、市場化など、マクロの視点まで含めて、統計データ、政策文書、実態調査などを通じてアプローチしています。

3．指導領域

高等教育政策・制度、大学組織の研究、大学の国際化、学生・研究者の国際移動、大学におけるICT活用など遠隔教育の研究について、指導を行います。特に、これらの事象の中国の大学との比較研究に重点を置きたいと思います。

知識経済化、情報化、グローバル化の潮流の中で、高等教育の重要性は生活の中でも感じられてきました。世界的にみても大学教育はエリート段階から、大衆化段階、ユニバーサル段階と発展してきており、また生涯学習も浸透してきています。しかし、高等教育の拡大は構造的な矛盾も孕んでいます。そのような高等教育の実態を把握するためには、実証データとともに、国際比較が不可欠です。

4．指導のプロセス

学生の状況に合わせて進めたいと考えています。月1回程度のペースでセミナーを開催し、対面または、Web会議システムを使ってリモートで指導を行います。さらにe-mailなどによる個別指導も行います。

5．履修者への希望・その他

卒業研究は、課題の設定によるところが大きいです。

現代の高等教育は、さまざまな課題と問題を孕んでおります。質的な水準の高度化、国際競争、生涯学習の進展などにかかわる、社会経済、大学の動きについて、常に注目してください。それらに関連する新聞記事や研究書籍、論文を読み、それを研究課題の設定に繋げてください。

心理と教育コース	小林　祐紀	専門：情報教育・初等中等教育におけるICT活用・カリキュラム研究

1．指導方針

卒業研究は、学士課程の学修の総まとめといえます。これまでの学修経験をもとに、ご自身の課題意識を大事にしながら研究を進めていきます。興味関心のあることを卒業研究のテーマにすることは当然ですが、より重要なことは研究可能な「問い」を見出すことです。卒業研究を通じて得られる技術や能力、そして考え方は将来にわたり多様な場面で生かされるものと考えています。

2．専門領域と主な研究方法

専門は情報教育、情報教育に関わるカリキュラム研究、初等中等教育におけるICT活用、小学校段階におけるプログラミング教育です。近年は情報活用能力育成のためには、どのようなカリキュラムであるべきかについて関心があります。教育実践研究を主としています。研究においては、質問紙調査等の定量的な手法や参与観察・インタビュー調査等の定性的な手法を、必要に応じて組み合わせながら研究しています。

3．指導領域

初等中等教育におけるICT活用、情報教育に関わるカリキュラム研究、教育工学的な視点からの授業研究や授業開発、小

学校段階におけるプログラミング教育、情報モラル教育等について対応可能です。また教育実践を理解するために、フィールドワークを大切にしています。

4．指導のプロセス

卒業研究の指導は、オンラインミーティング及び必要に応じて対面によるゼミナールによって実施します。学生同士の学び合いを重視し、定期的な開催を原則します。また学生個人の進捗状況に合わせて、オンライン形式、電子メール等によって個別指導を行います。秋頃には執筆に入ることができるように、問いの設定、先行研究の調査等について、逆算しながらスケジュールを立てることになります。

5．履修者への希望・その他

これまでの学生生活を通じて、アカデミックスキルを修得していることが必要です。また卒業論文を執筆するイメージを持つために、関連する先行研究（論文）、研究方法や論文の書き方に関する書籍等を読んでおくことは重要です。

心理と教育コース	櫻井　直輝	専門：教育政策・教育行財政学

1．指導方針

卒業研究は、大学での学修の総まとめにあたります。これまで学修されてきたことやそれに基づく興味・関心、あるいは放送大学に入学されるきっかけとなった「教育」に対する興味関心に正面から向き合い、取り組む事ができる最初の機会が卒業研究だと思います。そうした興味関心を大切にしながら各自が取り組みたいテーマに寄り添った指導をしていきたいと考えています。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門領域は、教育政策・教育行財政学です。これまでに、①学校統廃合政策、②地方分権改革期の地方教育行財政改革、③教員スタンダード政策と教師教育の日米比較、④過疎自治体の教育改革、⑤学校の働き方改革、⑥学校における労働安全衛生管理体制、について研究を進めてきました。

研究方法としては、政策過程分析や教育政策の効果に関する実証的な分析を中心としています。政策文書や行政担当者等へのインタビュー、自治体アンケートを対象に定性的・定量的分析を行っています。

3．指導領域

教育政策、教育行財政、学校経営、教職員人事、教師教育、教育法制度等についてはある程度対応出来ると思います。一方で、教育内容や指導方法に関わる領域は専門外になりますので、指導はできません。

4．指導のプロセス

履修者のニーズに対応した形で指導を進めていきたいと考えています。原則はオンラインによる個別指導を予定しています。指定した形式で作業結果や検討状況を報告していただき、それに対してコメントを返す、ディスカッションを行うような流れを考えています。卒業研究報告書にはMS Wordの添削・コメント機能を利用しますので、予め使用できる環境の準備や操作方法に習熟して臨んでください。MS Word以外のアプリケーションを使用する場合は相談してください。

2名以上の履修者がいる場合はゼミ形式での指導を行う可能性があります。遠隔地の方を含む場合はオンラインが基本となりますが、履修者の移動負担が少ない場合は対面での実施も検討します。また、機会があれば他大学の卒論ゼミなどにも参加したいと思っています。

5．履修者への希望・その他

●事前の学習について

ご自身の興味関心を研究上の「問い」にするためにも、先行研究との対話が重要です。関係のあると思われる書籍や論文を積極的に読み込んでいただけるとよいと思います。また、並行して研究方法や論文の書き方のような書籍にも目を通してみてください。

卒業研究の指導開始後に書き方の勉強からスタートすることになると、それだけ調査や分析にかける時間が少なくなってしまいます。また、指導も文書の添削が中心になってしまい、内容に関わる具体的な指導が困難になる場合があります。

文章の書き方について、木下是雄（1981）『理科系の作文技術』中央公論新社は参考になると思います。

●アンケートについて

アンケートを実施する方は、基本的な統計学の知識や分析手法を身につけていることを前提とします。

●倫理審査を要する調査研究について

指導の期間に鑑みると、卒業研究において適切な指導ができません。

心理と教育コース	佐藤　仁美	専門：臨床心理学

1．指導方針

卒業研究は、これまでのご自身の学びを通した学術的興味・追究心の集大成といえるものだと思います。ただ、やりたいという気持ちだけでは、とても完成まで行き着きません。大学で積み上げられたことの中からテーマを1つに絞り、掘り下げて頂きたいと考えております。

私の卒研指導は、ゼミ形式で行います。論文作成にあたっては、ほんの少しヒントを与えますが、ご自身の積極的な探究と、ゼミ生同士での活発な意見交換を通して積み上げて頂きたいと考えています。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門分野は、視覚的コミュニケーションを中核とした芸術療法で、文献研究と事例研究を主に行っています。研究対象としては、思春期・青年期を中心に、その表現・イメージに興味があります。

3．指導領域

人間の表現に関することや、あらゆる形でのコミュニケーションに関わる研究を試みようと考えている方を優先いたしますが、特にテーマは限定しません。ただし、被験者に負担を強いる研究はお断り致します。

4．指導のプロセス

ゼミは、基本的に月1回、火曜日か土曜日の午前、千葉SCか文京SCにて、グループで行います。感染症の状況によっては、Zoomでのオンライン開催もあり得ます。年間4回以上の出席が必要です。個人指導・Eメールや電話・FAXでの指導は致しません。申請前に、なさりたい研究について、質問票にてお問い合わせくださることをおすすめ致します。

5．履修者への希望・その他

グループ指導で行うため、自分だけ完成すればよいという考えの方はご遠慮ください。仲間と意見を交換しながら互いに学びあうことを大切にしていきたいと思います。自己管理ができて、互いに学びあうことを望む方を希望いたします。

心理と教育コース	進藤　聡彦	専門：教育心理学・認知心理学

1．指導方針

卒業研究を終えた後で、「研究するということが分かった気がした」「放送大学で学んだ大きな成果の1つが卒業研究だった」「研究の過程は苦しかったけれど、今思えば楽しかった」「研究を終えたら、分からないことが増えた。次の研究をしたくなった」などの感想をもってもらえるようになることが、私の指導上の目標です。さらに、「卒業研究のテーマに関することなら、他の誰にも負けない自信がある」と言ってもらえるようになったとしたら、指導した者としては望外の喜びです。そしてここに挙げた目標は皆さんにとっても目標になるはずです。

ただし、こうした私の、そして皆さんの目標が達せられるのは、皆さん自身が労を惜しまず手足を動かし、頭をフル動員して頑張ったときです。皆さんが頑張ることができるように、ガイド役の私も頑張りたいと思っています。

2．専門領域と主な研究方法

私自身の研究領域は教育心理学です。教育心理学のなかにも多様な領域がありますが、私の研究の中心は「教授学習心理学」に分類されるものです。これは主に学校教育で取り上げられる学習内容について、子ども達の理解の実態を解明したり、理解の促進や内発的動機づけを高めたりする教え方を明らかにしたりする領域です。併せて、どうして子どもはそう考えるのか、こう教えるとなぜ理解が深まるのかといった認知のメカニズムを明らかにしようとします。研究法としては、実験や調査を行うことが多く、量的なデータに基づき研究を進めています。

3．指導領域

上記のように私の専門領域は、教育心理学・認知心理学なので、これらの領域もしくは近接領域のテーマが望ましいですが、他の領域でも皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。その意味では、私の専門外のテーマを選んだ皆さんの卒業研究を通して、私自身もそのテーマについて勉強する機会にしたいと考えています。

4．指導のプロセス

月1回程度、都内の学習センターを会場に対面で、またはWeb会議システムを使ってリモートで卒業研究ゼミを開催したいと思います。論文の完成に向けて、その都度、進捗状況と次回の方向性について話し合いたいと思っています。できるだけ出席してもらい、自身の研究を進めるとともに、他の方の研究についてもコメントをしてほしいと思います。なお、必要に応じてE-mailや面談による個別指導も行っていきたいと考えています。

5．履修者への希望・その他

1つの研究を完成するまでには、関連の論文を読んだり、細かなデータ分析をしたりといったことが必要です。それが面倒で途中で投げ出したくなることもあるかもしれません。しかし、研究とはそういうもので、苦しみの反面、完成したときの喜びや充実感は大きいに違いありません。頑張って、卒業研究にトライしてもらえればと思います。

なお、一般に心理学の研究は、問題と目的の設定、実験・調査計画の立案、データの収集、結果の分析などのプロセスを踏みます。そう考えるとあまり時間がありません。そのためには、事前に一定の知識が必要です。例えば、実験や調査といった研究法や、基礎的な統計学について習得しておくことが必要です。また、領域を問わず心理学関連の授業をなるべく多く履修して、心理学の考え方に触れておくことや学術誌の論文を読んでみることもお勧めします。

心理と教育コース	高梨 利恵子	専門：臨床心理学

1．指導方針

学士課程での学びの集大成として、臨床心理学的な問いとそれに対する探求を学術論文としてまとめ上げます。これまでの科目履修において、入学時にもっていた素朴な関心や問題意識を、学問的に深めてこられたことと思います。あるいは本格的に学問に触れる中で、新たな問いや関心の発見があった方もおられるでしょう。卒業研究では、このような体系化された知識を踏まえ問いを立てて、適した方法を選択して論じていくことになります。

指導の方法としては、ゼミ形式のディスカッションを通して、お互いに学び合う形式をとり、研究の一つ一つのプロセスを深めていきます。倫理や時間といったさまざまな配慮や制約を十分に踏まえながら、みなさんの自由で積極的な探求を歓迎します。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門分野は主に精神科医療における心理臨床であり、認知行動療法の実践、研究を通して技法の開発や効果検証を行ってきました。認知行動療法は、「物事のとらえ方が気分や行動に影響をする」という非常にわかりやすい理論に基づき、こころという目に見えない対象へのアクセシビリティやリテラシーを高めることで、主体的な生き方を支援していきます。関心領域の一つに、このように人々のヘルスリテラシーを高めることがあります。

また、働く人々に対する復職支援に長く携わっていたことから、ストレスマネジメントや働く人のメンタルヘルスにも関心があります。

そして、心理職の養成や現場の臨床心理士、公認心理師のマネジメントの経験から、心理職のトレーニングや専門性について実践、研究をしています。量的・質的どちらの研究法も用い、組み合わせによるアプローチも重視しています。

3．指導領域

2．にあげたものが私の経験や専門領域となりますが、卒業研究としては、広く臨床心理学やメンタルヘルスに関するテーマが含まれます。認知行動理論に基づき、日常的なレベルでの不安、落ち込み、満足感、やる気といった感情状態とそのマネジメントについて研究することなども考えられます。なお、学士課程での研究の範囲を、技術的、および倫理的な面から考え、事例研究は指導の対象といたしません。

4．指導のプロセス

原則、4月から10月に月1回（8月は除く）、東京文京学習センター、もしくは幕張本部において対面のゼミ形式による指

導を行います。ゼミ指導４回以上の出席を、卒業研究提出の前提といたします。

個人指導やメール、電話、郵便、FAX などの通信指導は原則いたしません。

ゼミとしての指導効果を鑑みて、５名定員とします。

提出までの大まかなスケジュールとしては、４月に研究テーマの絞り込み、５月を研究方法と研究スケジュールの決定、６月よりデータや資料の収集開始、７月を中間発表会といたします。

５．履修者への希望・その他

研究のプレゼンテーションや、他者の研究発表を聞きディスカッションを行うことは、研究活動の重要な側面であると考えて指導をします。

卒業研究指導では、限られた時間の中で、研究の問いや研究方法、結果の解釈についてディスカッションを深めていくことが中心であり、統計や質的研究法などの具体的指導を一つ一つ行うことはできません。したがって、これらの方法の具体的なやり方については、各自で事前に修得をしておいてください。

心理と教育コース	高橋　秀明	専門：認知心理学・情報生態学

１．指導方針

卒業研究とその報告書の作成は、「心理と教育」コースにおける学習の集大成と言えます。研究は学生が自ら行うものです。つまり、自ら問題を設定し、方法を選び実践し、結果をまとめ、考察するということです。指導教官の役割は、学生の研究を見守り、必要に応じて軌道修正をすることです。時には厳しい批判を行ったり、あえて反対の意見や考えをぶつけることもあります。研究には、論理性と独自性とが必要ですが、いわゆる「追試」も意味がありますので認めます。

２．専門領域と主な研究方法

問題解決の過程を記述し、影響要因を分析し、人間にとって望ましい問題解決に導くためのメディアや方法をデザインする、ということをさまざまな事例を対象にして実践しています。実験的な手法ばかりでなく、調査や事例分析やインタビューなど、それぞれの事例に則した方法論を使っています。

３．指導領域

問題解決ということを、広い意味で捉えることができます。認知心理学の基本的なテーマから、認知工学や情報工学、メディアや情報の心理学、テレビゲームの心理学、科学コミュニケーションなどの応用的なテーマに対しても指導可能です。

４．指導のプロセス

毎月１回のゼミ形式での指導を基本にしますが、必要に応じて、個別の指導も随時実施いたします。受講生の状況に応じて、対面での指導ばかりでなく、インターネットを活用して、電子メール、Web 会議システムなどでの指導も行っています。

５．履修者への希望・その他

自分なりの問題意識、リサーチクエスチョン、仮説を持って欲しいと希望しています。何ごとも締切厳守です。

心理と教育コース	中島　正雄	専門：臨床心理学

１．指導方針

卒業研究は自分で問いを見つけ、その問いに答えるべく自分で舵を取って進めていく作業です。これまでは講師によって準備された授業を受けるという受け身的な勉強が主だったと思いますので、これまでの授業と卒業研究の違いに戸惑ったり、あるいは関心のあるテーマを自由に選ぶということが難しくて研究が進まなかったりすることもあると思います。もちろんこの戸惑いや難しさに時間をかけることにも意味はありますが、卒業研究は短い履修期間であるため、指導開始の４月時点でおおよそ研究計画がかたまっていることが大切です。卒業研究を書き終えるまで、みなさんの主体的な試行錯誤に必要なサポートをします。

２．専門領域と主な研究方法

臨床心理学の中の教育領域でこれまで臨床に携わってきました。具体的には思春期・青年期の人が集まるフリースクールにおける生活臨床や、大学生への相談活動である学生相談を行ってきました。研究は、思春期・青年期の不登校・ひきこも

りに関するテーマ、学生相談に関するテーマ、カウンセラーの成長プロセスや成長支援（カウンセラーの研修やスーパービジョンなど）に関するテーマに関心があります。

3．指導領域

不登校・ひきこもりに関するテーマ、学生相談に関するテーマ、カウンセラーの成長や成長支援のテーマを中心に、臨床心理学が扱う領域を広く対象にします。研究方法は文献研究やインタビュー調査、参与観察法など、主として質的研究を指導します。

4．指導のプロセス

月に1回（8月を除く）、Web会議システムによる個人ゼミ形式で指導を行います。必要時にはWeb会議システムによる集団ゼミ形式で指導を行います。郵便、e-mailでの通信指導は行いません。

5．履修者への希望・その他

履修にあたっては、パソコンの利用環境、インターネットの通信環境を整えておいてください。また、短期間の履修になりますので、卒業研究に取り組む時にはテーマや具体的な研究計画が明確になっていることが必要です。そのために、事前に先行研究や研究方法論等をある程度学んでおいてください。なお、倫理審査を伴う研究をする場合には時間がかかることが予想されますので、事前の研究計画によって履修の可否を判断したり、話し合いの中で研究方法の変更を提案したりすることがあります。

心理と教育コース	橋本　鉱市	専門：高等教育論・教育社会学

1．指導方針

卒業研究をはじめ研究論文は、理論×方法論×対象の掛け算から成り立っていると思います。興味・関心・問題のある分析対象をいかに選び、どのような理論的なバックグランドに依拠して、適切な分析アプローチでいかに実証的に解明していくか、これまでの学習の成果が問われることとなります。また卒業研究（研究論文）の作成・執筆には、精確な論述作法、厳密な資料･データの取り扱い、高い研究倫理なども必要になります。卒業研究を通して、これまでの学習のアウトカムを形あるものにするとともに、こうした学術的なスタイルや構え方についても学ぶことが出来ると思います。

2．専門領域と主な研究方法

広く高等教育全般に関わる諸事象を、主に歴史社会学的なアプローチによって研究してきました。専門職論、高等教育の政策過程、学問領域・内容の制度化、学位・資格・教育プログラム、大学組織の分化など、研究対象は多岐にわたりますが、近代から現代の高等教育をめぐる制度・組織・政策・言説を、大きな歴史的な流れの中で相対化する地道な作業を続けています。

3．指導領域

（高等）教育に関わる政策、制度、組織、政治、言説、人材養成などについて、とくに歴史的なアプローチでの解明に関心・興味のある方には適合的かと思います。なお指導期間に限りもあるため、設計や実施に長期間を要するアンケート調査などは想定しておりません。テキストや史資料を丹念に読み解いていくことが必要となりますので、そうした根気ある作業が得意な方に向いているかと思います。

4．指導のプロセス

履修学生の興味、関心、環境に対応して指導を行いたいと思います。基本的には、月に1回（8月を除く）、Web会議システムによる集団ゼミ形式（できるだけ横のつながりを作りたいと思います）の指導を行います。

5．履修者への希望・その他

（高等）教育の歴史社会学的な研究は、現代社会の様々な課題や問題が、どのようなメカニズムによって起こり、またいかなるプロセスを経て変容し、今日のあり方を決めているのかについて、深く突き詰めてみようとする姿勢が重要です。そのためには、私たちがいま生きる社会の問題について、広くかつ鋭いアンテナを張っておくことが、是非必要です。放送大学での授業はもちろん、多種多様なメディア媒体や作品（小説からマンガ、アニメ、映画など）まで、雑食と大食いを期待します。

心理と教育コース	橋本　朋広	専門：臨床心理学

1．指導方針

学士課程の科目履修では、学問体系として整理された知識や理論を正確に理解し、それを使って現象を体系的に見る視点を身につけることが主な目標になります。知識や理論は、先人たちが地道な実践活動や研究活動を通して創造したものと言えます。

しかし、卒業研究では、みなさん自身が新しい知識や理論を創造するという冒険へ歩みを進めます。そのため、探究すべき現象の輪郭を定め、その現象について問いを立て、その問いに関連する先行研究を精査し、自分は何を明らかにしていくのか、そのためにどのような方法を用いるのかを明確にし、その上で必要な根拠資料を収集・整理・解釈する作業が必要になります。

指導に際しては、先行研究をしっかり調べ、研究目的を明確にし、しっかりした方法論に基づいて研究を進めることを重視しています。したがって、卒業研究の履修希望者には、先行研究の検討をふまえた目的意識の明確な研究計画の作成を望みます。

2．専門領域と主な研究方法

専門領域はユング心理学です。特に、イメージや象徴に関心を持っています。心理療法における変容過程では、クライアントが想像力を働かせて、自己や他者、そして世界を見つめ直し、新しい人生観や世界観を創造していきます。この過程はどのように展開するのか、この過程を進展させたり停滞させたりする要因は何かといった問題を事例研究によって探求しています。また、日本の祭りのフィールドワークを行い、祭りに表現された日本人の救済イメージを探っています。

その他、心理アセスメントの領域で、ロールシャッハ法を中心とした投影法を研究しています。投影法を使って心の発達や病理の構造を明らかにし、その理解を心理療法の実践に活用する方法を探っています。

3．指導領域

指導可能な領域は、ユング心理学、夢分析、表現療法などです。また、民俗や儀礼、文芸作品や芸術作品などをユング心理学の観点から解釈する研究も指導可能です。研究方法としては、文献研究や質的研究が中心になります（研究方法については「5．履修者への希望・その他」に記した注意を参照してください）。

4．指導のプロセス

4月～9月の各月1回（8月は実施しない）、ゼミ方式のグループ指導を行います（4回以上の出席必須）。指導は、Web会議システムで行います。ゼミは、火曜日または日曜日に行う予定です。必要に応じてWeb会議システムやe-mailで個別指導を行います。指導の質を保つため人数の上限は5名となります。

ゼミでは、毎回各自の進捗状況を報告してもらいます。仲間の研究報告を聞くことで、問いの設定、方法の選択、分析や解釈の仕方を学ぶと同時に、自分の研究発表について仲間からの意見をもらい、研究をより普遍的なものへ洗練させていくのがねらいです。

なお、ゼミでの指導では、WordやExcelによる文書作成、Web会議システムの使用は必須となります。それらの使用方法は事前にマスターしておいてください。

5．履修者への希望・その他

卒業研究の完成までには半年しかありません。分析方法を逐一教授する時間的余裕はありませんので、質的研究を考えている方は、KJ法やM–GTAなど自分が採用する予定の分析方法を事前に修得しておいてください。また、人間を対象とする調査研究を実施する場合には大学の倫理審査を受けてもらうことを方針としていますので、研究計画が不十分な場合、半年では研究を終了できない可能性があります。そのため、人間を対象とする調査研究を希望する方については、卒研申請書の提出の段階で、先行研究の精査を含め、綿密な研究計画が作成できているかどうかを履修の可否の判定基準とします。なお、事例研究については、実施に際して十分に倫理的配慮の行き届いた手続きをふまえる必要があり、場合によっては事例を用いた研究ができない可能性もあり得るので、卒業研究では指導を引き受けていません。

心理と教育コース	波田野 茂幸	専門：臨床心理学

1．指導方針

卒業研究は、これまでの学習成果を研究論文という形でまとめていく取り組みです。卒業論文作成を通して自らの興味関心や活動などを捉えなおし、今後に向けた区切りの意味を作りたいと考えている方もおられるでしょう。

しかし、臨床心理学において研究を行うには、自分の思いだけでは進めていけません。研究フィールド、対象者、倫理的配慮など、現実に即した枠組みの中で、かつ、論文作成に必要な時間確保も踏まえた上での取り組みが必要となります。その意味で、自ら取り組む意欲とモチベーションの維持、テーマに即した研究手法の採用、研究を行う上での様々な交渉や調整なども求められてきます。

したがって、実行可能なテーマに絞り込んでいくことが肝要と考えます。指導に当たっては、ゼミ形式にて行いたいと考えています。私の役割は皆様の取り組むプロセスを見守り、ゼミ内でのディスカッションや多少のコメントを通して軌道修正へのかじ取りをしていくことにあると考えています。

2．専門領域と主な研究方法

私は長らく教育相談において子どもの心理療法（遊戯療法や箱庭療法等）、親のカウンセリング、学校へのコンサルテーションを行ってきました。そこから、学童・児童館職員へのコンサルテーション、子育て支援など活動が広がっていきました。研究としての関心も、児童思春期の心理療法、発達障害児への心理的支援、最近は、地域の中で子どもや家族への支援にあたっている施設（療育・学童保育・児童館など）に出向き、地域の中で心理臨床家がどのような貢献ができるのかについて考えながら実践をしています。また、大規模臨床心理士養成校の経験から、心理職の養成教育についても関心があります。そのような実践的活動について事例研究を中心にして行っています。

3．指導領域

子どもの心理臨床に関すること、子育て支援に関すること、教育相談臨床などの実践的な研究テーマに関心がある方を優先したいと考えていますが、臨床心理に関するテーマであれば検討をします。研究方法としては、テーマに即して質問紙調査やインタビューによる質的研究を行うか検討する必要があると考えます。

4．指導のプロセス

4 月から 10 月まで月 1 回（8 月は除く）ゼミ形式でグループによる指導を実施します。

毎月出席をしてメンバーとディスカッションや指導、助言を行います。4 回以上の出席を卒業研究の前提条件とします。この点に注意してください。

ゼミは、原則として東京多摩学習センターでの実施を予定しています。個人指導、メールや電話、郵便、FAX 等の通信指導は行いません。なお、コロナ感染拡大等の社会情勢によって、Zoom 等によるオンライン形式で実施する場合もあります。指導においては、毎回各自の進捗報告を求めます。ゼミ形式ですので 5 名までといたします。

5．履修者への希望・その他

ゼミ形式でのグループ指導では、様々な視点や意見交換ができる貴重な機会となります。主体的に対話を重ねていくなかで自己発見が起こるものです。他者のテーマにも関心をもち、意見交換ができる場を大切にしたいと考えていますので、そのような姿勢を保てることを期待します。また、事前に自らの研究テーマに関する図書や論文についてレビューをし、研究手法に関するテキストも通読してください。自身のテーマに関連する授業に関しても、受講をお勧めします。また、倫理審査を伴う内容やデリケートな内容を対象としたアンケート、実験等の実施は指導回数が限られる卒業研究では難しい場合があると考えます。なお、個別の質問は卒業研究質問箱を利用してください。

心理と教育コース	松本　大	専門：社会教育、生涯学習、成人教育

1．指導方針

卒業研究は、大学における学びを自らのものにする営みです。自ら「問い」を見つけ、他者とともに探究し、自分なりの「答え」を導き出すことは、研究のあり方であると同時に、大学における学びの中心です。卒業研究とは、こうした学びを身につけることです。そこには、試行錯誤を重ねながら自分の考えを深め、ときに変化させながら、自分を形成していく学びがあり

ます。

また、卒業研究とは、他者とともにある学びでもあります。ここでいう他者とは、一緒に卒業研究に取り組む仲間だけではなく、先行研究として道を照らしてくれる先達や、学術的なコミュニティをも含みます。卒業研究とは、先行研究を広く集め、その世界と対話しながらそこに学び、学術的なコミュニティへの参加を深めていくことでもあります。

したがって、私が卒業研究において皆さんに求めるのは、主体的に学ぶ姿勢、学びを通して自分が変化・成長することを楽しむ姿勢、先行研究や他者の知見に敬意を払い、その知見にワクワクできることです。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門領域は、社会教育・生涯学習・成人教育です。生活課題・地域課題の解決のために学び協働する実践や、そうした営みへの支援のあり方について、「成人の学習」という観点から研究しています。具体的には、社会教育実践・地域づくりにおける学習、社会教育施設における学習、社会教育・成人教育に関わる職員の専門性、ナラティブやライフストーリーと成人学習の関係等を主な研究対象としています。研究方法としては、理論研究に加え、インタビューや参与観察等を用いた質的研究を中心としています。

3．指導領域

社会教育、生涯学習、成人教育に関わる領域であれば、幅広く指導可能です。一見すると「学習」とは見えない実践であっても、そこに人びとの自己教育・相互教育の営みがあるのであれば、それを学習の実践として広くとらえ直す視点を大事にしています。また、社会教育の領域であれば、子どもの社会教育や地域学校協働活動も指導可能です。

指導可能な研究方法としては、質的研究が基本となります。

4．指導のプロセス

月１回程度、ウェブ会議システム（Zoom）を利用し、ゼミ形式で研究指導を行うことを基本とします。各自の研究内容について、ゼミの仲間と協働的に探究することを重視します。必要に応じて、メール等による個別指導も行います。

5．履修者への希望・その他

事前に先行研究を収集し、自身の研究関心をある程度固めておくことが望まれます。一方で、自分の考えに固執しすぎず、他者からのフィードバックを受けとめながら、幅広い考えや領域に自分自身を開いていく姿勢も重要です。また、研究方法や論文の書き方の基礎については、自ら文献を探し主体的に学んでいくことを期待します。

心理と教育コース	丸山　広人	専門：臨床心理学

1．指導方針

卒業研究は学士課程の集大成として位置づけられます。これまでの学びを振り返っていただくと、様々な領域の研究が思い返されることでしょう。そして、いろいろなところに興味が向いているかもしれません。しかし、卒業研究は、そのなかから一つを選んで深く問い続けられるテーマを設定しなければなりません。テーマ設定は時間のかかる作業ですが、これをおろそかにすると研究は継続しませんので、時間をかけてでも良質な問いの生成を大切にしたいと思います。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門領域は教育領域の心理臨床です。教師や保護者、児童生徒および学生を対象とした心理臨床です。学校や家庭という場は日々変化し、その中で過ごすメンバーも変化しますし、各々の関係性も変わります。したがって、そこでの心理臨床は、変化に向けた徴候を察知し、場の変化に乗じた支援が必要になります。その中で子どもたちが自分を知るという学びを得られることが成長を促進するようです。最近のテーマは、学ぶということや知るということを発達と絡めながら、心理臨床の視点から考え直すことです。

研究の方法は、参与観察を用いてきました。参与観察法というのは、人々が生活する場の中に入っていくので、普段の自然な場面を見られるのが魅力的ではあるのですが、自分のテーマに関わる場面をいつも見られるとは限りません。根気のいる作業です。しかし、現場で起こっていることから研究を立ち上げるということは、教師や保護者との協働を進めていく上では非常に役立ちます。研究が実践に役立つ方法論としての参与観察法というものを考えてきました。

3．指導領域

教育領域での心理臨床になりますので、児童生徒あるいは学生の成長や学びということ、学校や家庭と子どもの成長など

に興味があります。学校での心理臨床では、教師と生徒の関係性や子どもの成長というところに劇的な変化がもたらされることがあります。それは、偶然やハプニングを通して現れることが多いようです。時が熟したと言えるようなプロセスを経て良質な変化がもたらされることもあります。学問では、偶然やハプニングといったものは非科学的なノイズとして排除される傾向にありますが、むしろそのようなところの意味を捉えながら支援を考えるような研究を大切にしたいと思っています。

研究方法としては、文献研究を中心に指導したいと思います。卒業研究は研究期間が限られているため、倫理審査を伴うようなアンケート調査やインタビュー調査の研究指導は行っておりません。

4．指導のプロセス

月に1度、Web会議システムを用いて、30分～45分程度、個人ゼミ形式で行いたいと思います。郵便、e-mail、faxなどでの通信指導は行いませんのでご注意ください。

5．履修者への希望・その他

研究期間が短いため、自分の研究テーマに関わる文献（学術論文も含む）のいくつかには目を通しておいていただきたいと思います。とくに、そこでの研究方法はどのようなものが使われているのかというところに関心を向けてほしいと思います。心理学には様々な方法論がありますが、それを一から説明することは限られた時間の中では難しいので、自分の興味ある方法論についてもある程度事前に学んでおいていただきたいと思います。

心理と教育コース	向田 久美子	専門：発達心理学・文化心理学

1．指導方針

卒業研究は、例えてみれば、一つの山に登るようなものだと思います。あちこち散策したり、遊覧したりするのではなく、狙いを定めて、一歩ずつ歩みを進めていく。最初は気楽に登っていても、だんだん苦しくなってきたり、その過程で思わぬ発見があったり・・・。そして頂上にたどりついたとき、すなわち報告書を仕上げたときの達成感や爽快感、これらは通常の授業では得られないものでしょう。

その伴走者となるのが、教員です。みなさんがどちらへ進んだらよいかわからなくなったとき、助言やサポートを提供します。ゼミのメンバーは、登山仲間と言えるでしょう。登る山やルートは違っても、互いに励まし合い、刺激し合う、そうした関係づくりも支援していきたいと思っています。いずれにせよ、登る（研究をする）のはみなさん一人ひとりです。主体的な取り組みを歓迎します。

2．専門領域と主な研究方法

私自身は、発達と文化との関連に興味をもっています。人の日常的な認識や行動を規定する枠組み（スクリプト）が、文化圏によってどう異なり（あるいは類似し）、発達段階によってどう変化するのか、に関心があります。研究方法としては、作文やインタビュー、既存のテキスト（昔話や絵本、記事など）の内容分析を中心に、質的・量的双方からアプローチを行っています。

3．指導領域

広く発達に関するものであれば、どのようなテーマでも構いません。ただし、自分で何らかのデータが取れることが条件です。テーマとしては、子ども・青年の発達と環境（家庭、仲間、学校、習い事、メディア、地域、文化など）との関わり、成人の発達と経験（仕事、結婚、子育て、介護など）との関わり等が挙げられます。方法に関しては、観察や実験、質問紙調査やインタビュー、内容分析など、テーマに応じて決めていきましょう。

4．指導のプロセス

月に1回程度、対面（東京都内・千葉の学習センター）もしくはWeb会議システムにより卒業研究ゼミを開きます。ゼミでは、その都度、進捗状況を発表していただきます。多少プレッシャーになるかもしれませんが、そのような機会があることで、研究の進展につながると思います。また、仲間と出会い、意見交換する貴重な機会にもなりますので、できるだけ出席してください。その他、必要に応じてE-mailや面談による個別指導も行います。

5．履修者への希望・その他

限られた時間の中で報告書を仕上げるためには、あまり欲張らず、焦点を絞り込むことが大切です。また、研究を具現化していくためには、心理学の基礎知識とともに、研究方法や統計手法について一通り習得しておくことも重要になります。

関連する授業を履修しておくことをお勧めします。

焦点を絞り込むことができたら、書籍だけでなく、学術論文にも目を通していきましょう。最初は「？」と思うことも多いかもしれませんが(特に統計に関する記述)、数をこなすことによって、少しずつ慣れてくるものです。そうすると、研究の仕方や報告書の書き方なども自ずとわかってきます。山頂をめざして、共に頑張っていきましょう。

心理と教育コース	村松　健司	専門：臨床心理学・福祉心理学

1．指導方針

研究は、自分が関心のあるものを普遍的価値にするための知的な作業です。最初はどう取り組んでいいのかど惑うことがあるかもしれません。ただ、ずっとあることについて考えていると、ふと「ああ、そういうことなのか」と思いがけないキーワードやまとめのためのヒントに気がつくことがあります。研究は、その積み重ねであり、この「気づきの束」をひとつの作品に仕上げていくための創造的な活動なのです。

私は、学生の頃自ら書いた小論文を今でも持っています。その小論文自体は論文で言えば、せいぜい「項」にあたるくらいの小さな論考ですが、これを積み上げていけば、何か自分にとって必要なことに気がつける想いがしてずっと捨てられずにきました。自分が卒論を書くとき、この「自己論集」はずいぶん私を支えてくれました。自分が何に関心があって、それをさらに明確にするためにどうすればいいのか。そして、これから具体的に何をすればいいのか。この一連の作業をかたちにするために、まずは先達の研究などを調べる必要があります。自分の論拠が独りよがりにならないためと、新奇性があるかを確かめるためです。みなさんには、先行研究をよく読むことをお願いしたいと思います。

そのあとは、自分だけでは明確にならないことがありますので、ゼミでの対話を通して研究の輪郭をはっきりさせて行ければと考えます。

2．専門領域と主な研究方法

専門領域は福祉心理学です。とくに子ども、青年を中心に臨床と研究をしてきました。児童虐待や発達障碍、ひきこもり、子育て支援など福祉心理学が扱う困難は心理臨床家だけでは対応できないので、多職種連携・協働の在り方も探求してきました。専門家集団を捉えるとき、システム論的視点が役に立ちます。そして、それはクライエントや家族の困難を理解しようとする際にも重要です。クライエント支援では、ケースをどうとらえるかという方法論であるケースフォーミュレーションが効果的と考え、その研究と実践を行ってきました。

また、児童虐待の支援と先行研究から、彼らのへ教育支援の充実が求められると考え、効果的な学校の実践をフィールドワークの手法を使って分析してきました。研究手法は主に質的研究法を用いています。

ようやく、虐待当事者の声を国や地方公共団体の施策に反映させようとする動きが出てきましたが、まだ社会的養護（社会的養育）という言葉を知らない先生や、一般の方も少なくありません。これまでの研究成果を一般向けにご紹介し、困難を持つ子どもや家族に関心を寄せていただけるコミュニティへのアプローチをライフワークにしていきたいと考えています。

3．指導領域

指導可能な領域は、福祉心理学、コミュニティアプローチ、家族心理学、統合的心理療法などです。また、フィールドワークやエスノグラフィーなども指導ができます。受講生には先行研究を輪読し、研究方法への理解を深めてもらうことになります。

4．指導のプロセス

4月から8月を除く毎月一回、計6回のゼミを行います。当然ですが、ゼミに出ないと論文が書けませんので、やむを得ない場合を除き、出席するようにしてください。ゼミはオンラインで行い、必要に応じてメールを用いての個別指導を行います。ゼミはグループを基本とします。あまり大人数になると、個別の発表時間や議論の時間が少なくなってしまいますので、ゼミの人数は小グループ（5名まで）を基本にします。ゼミの曜日は火曜日、もしくは木曜日を予定しています。

初回のゼミは各自の関心に基づき、他の人と共有したい論文の紹介を行います。研究は自分のためだけに行うのではなく、それをどう他者や社会に還元していくかが問われるからです。2回目のゼミから、自分が研究したいテーマを徐々に絞って、それを報告してもらうことになります。3回目、遅くても夏休み前の4回目までにテーマを設定し、夏休みにそれを深め、ゼミの仲間の意見も参考にしながら論文作成を目指します。

論文を書くのは孤独な作業ですが、苦労を共にする仲間がいることがその作業を支えてくれると私は思っています。そういう意味では、ゼミはグループ活動そのものです。機能的なグループになるよう、メンバーみなさんの協力をお願いします。ただ、グループがあまり得意でない人もいるかもしれませんので、そういった人も参加が可能になるよう、私がファシリテーターとなれるよう努力したいと思います。

5．履修者への希望・その他

卒業研究に充てられる時間は多くはありません。人を対象にする研究では、大学の倫理審査で承認される必要があります。目的は卒論を完成させることですので、進捗状況によっては、手法の変更を提案することがあります。また、各種の分析方法をゼミで取り上げる時間はありませんので、適宜紹介する文献を購読し、理解を深めてください。メールで答えられる質問には対応しますが、メールというツールには限界がありますので、その際も別の文献等を紹介し、自己学習してもらうことになります。

心理と教育コース	森　津太子	専門：社会心理学・認知心理学

1．指導方針

卒業研究の指導教員として私が果たすことができる役割は次の2つだと思っています。1つ目は皆さんの研究が脇道に逸れそうになったときに軌道修正をすることです。研究の主体はあくまで皆さん自身ですので、私から具体的なテーマや目標を与えることは致しません。私ができるのは若干の道案内だけです。リサーチ・クエスチョン（研究設問）と、それに対する自分なりの解答（仮説）を持って、卒業研究を申請してください。

2つ目の役割は、敢えて皆さんに反対の意見や考えをぶつけることです。先に書いたことと矛盾するように聞こえるかもしれませんが、自身の思い込みを確証することだけを目的とした研究は歓迎しません。常に「自分の仮説は正しいのか」「正しいといえる根拠は何か」「本当に他の仮説は成り立ち得ないか」と自問する、よい意味での批判的な姿勢を求めます。そうした姿勢を試す意図で私は皆さんの意見にどんどん反論する役目を担います。

2．専門領域と主な研究方法

専門は社会的認知です。社会的認知は社会心理学と認知心理学の境界領域ともいえる分野で、さまざまな社会的現象の背後にある心理的な基盤を、主に情報処理アプローチと呼ばれる方略を用いて明らかにすることを目的としています。具体的には、他者の印象形成、偏見・ステレオタイプ、原因の帰属、社会的推論、意思決定などが守備範囲です。

3．指導領域

上記の専門領域に近いテーマが望ましく、希望者が多い場合には専門領域に近いテーマの方を優先しますが、人間の心理、行動に関することであれば、領域はあまり絞りません。ただし、「興味深い現象を記述する」ということにとどまるのではなく、「そのような心理、行動を生じさせる原因は何か」を探究するお手伝いをしたいと考えています。原因を探求するには目に見える事実が必要です。そこで文献研究ではなく、実験、調査、観察、面接などの心理学的な研究手法を用いてデータを収集、分析することを基本とします。

4．指導のプロセス

月に1回程度、卒業研究ゼミを対面（東京文京学習センター・大学本部）もしくはWeb会議システムで開きます。可能なかぎり出席してください。その他、必要に応じて、ゼミの掲示板、E-mailによる個別指導を行います。

5．履修者への希望・その他

私が担当する卒業研究では、先行研究の読み込みを重視します。ゼミの中でも文献収集の仕方などを指導しますが、できればその前に関連図書、そして何よりも学術論文に触れておいてください。多くの論文に触れることで最新の研究知見に明るくなるだけでなく、学術論文の書式に慣れることができます。長い文章や学術的な文章の執筆経験がない方は、基盤科目「日本語アカデミックライティング（'22）」を履修しておくこともお勧めします。また研究には手法の知識も必要ですので、「心理学研究法（'20）」を履習しておいてください。

社会と産業コース

みなさんはこれまで放送大学の授業を通じて多くのことを学んでこられました。特定分野につき確からしいと考えられてきた理論すなわち仮説や解釈の体系を学習し、単位認定試験によりその学習成果について確認を受けました。

それに対して論文執筆は、先行研究を知ることに止まらず、みずから新しく仮説や解釈を提案し、先行研究よりも高い説明力を持つことを論証してみせる営みです。これまでに存在しなかった仮説を提唱するのですから、かなりの労力を要します。「卒業研究」は、その作業の全体もしくはその一部を自分でやり遂げることを目指します。

それは次のような手続きになります。まずテーマを考え、そのテーマに関して有力とされる先行研究を探します。次に先行研究を正確に要約し、そのテーマについてどれだけ的確に説明しているのか、不足や不備があるのかを考察します。そのうえで新説を提案し、それが先行研究を塗り替えるか、もしくは欠点を補っていることを説明します。さらに何らかの方法で、その新説が正しいことを論証します。

上述したのは人文学や自然科学も含めすべての分野に通じるプロセスですが、加えて、人文学では論証に際して原典・古典や既存文献の「解釈」が重視され、自然科学においては「実験」を用いた因果関係の特定が重視されます。社会科学においても「解釈」や「実験」を行う場合がありますが、その他に研究対象とする現象と「社会」との様々な関係について質的・量的な調査を通じて「実証」する場合もあるという点に特徴があります。

そうしたことを前提にしますと、

先行研究を探す：google で検索しただけでは不十分。多様なやり方で先行研究を検索し、テーマに対し過不足ないだけの文献を集める。

先行研究の要約を行う：ネットに出ている他人の要約をコピー＆ペーストすることは厳禁。あくまで自分で読み、他人の読みと比較しながらレジュメを作成する。

テーマを練り直す：レジュメを作成する過程で、自分が立脚しようとしていた学術領域が正確でなかったり、テーマを絞り込み表現を変えた方が良いと気づくことも少なくない。そうした違和感を持たないなら、先行研究の読み方が浅い可能性もある。

新説を提案する：自分の主張を述べるだけでなく、先行研究とはどこが違うのか、不足や不備を解消できているのかを説明する。新説には、テーマに関連して社会が何からの形で描かれているはずである。

新説を論証する：推論やデータによって新説が正しいことを読者に納得させる。自説の単なる演説や押しつけになってはならない。論文の途中で挙げたデータや判断は、論拠が引用や調査によってすべて注や参考文献で明示され、読者がチェックできるように提示されなければならない。

といったことが必要になります。

面倒くさいことを述べているようですが、そうした手続きを実際に行ってみることで得られるものは小さくありません。私たちは興味を持っているテーマについてすみずみまで理解しているとは限りません。テーマを的確に説明している定説をすべて知っているとも限りません。自分が正しいと考える新説は、他人からすればデータや論理の用い方を誤っているかもしれませんし、本当に新しい説なのか、またその説がテーマを十分に説明できているのかも分かりません。研究とはそれらの疑問をひとつひとつ点検していくプロセスですから、社会にかんする「曖昧な思い込み」が解消され、自分のものの考え方を意識するようになります。つまり自分と社会についての理解が深まります。

卒業研究の研究指導自体は４月に始まりますが、それから卒業研究報告書の提出までには半年ほどの時間しかありません。上に述べたことを半年間で終えるのは相当に難しい作業でだと覚悟してください。卒業研究の履修申請の段階から、先行研究の収集と読解を始めておいてください。先行研究をある程度読み進めていれば、４月の以降の研究指導もよりスムーズとなります。また４月までに「卒業研究履修の手引」を熟読しておいて下さい。研究テーマや研究方法などについて不明な点があれば、「卒業研究質問箱」あるいは「卒業研究相談票及び質問票」により、事務を通じてご質問いただけます。

また、自ら社会調査（インタビューやいわゆる「アンケート」）を行う場合は周到な調査設計を行う必要があり、調査内容によっては放送大学の研究倫理審査を受けていただく必要がある場合もあります。自分で調査を行おうと考えている場合は、事前に社会調査についての教科書を読んだり授業を受けたりして、基礎知識を身に着けておいてください。基礎知識なしに

いいかげんな発想・方法で行う社会調査には学術的な価値はありませんし、調査対象者にも迷惑をかけますので、そのような調査については教員が実施を止める場合もあります。

研究のスケジュールは、9月には論文の目次（章立て）を固め、10月中旬までに草稿を提出して指導教員による指摘を仰ぎ、修正を経て10月末に最終稿を提出するというのが一応の目処になります。その過程に同伴し、アドヴァイスするのが指導教員の役割です。

Zoom、電子メール、インターネット閲覧・検索、ワードプロセッサ、表計算等についてのPCのスキルは受講する上で必須です。卒業研究の履修期間中に教員が詳細を説明したり教えたりする余裕はありません。所属の学習センターでご相談の上、事前に修得しておいてください。

指導の方法は教員により異なります。遠隔地の学生が多ければ、月1回程度のゼミをWeb会議システム（Zoom）で開催することが基本となるでしょう。電子メール等で個別指導したり、時には対面で指導したり、履修者の研究の進捗状況によっては大学院と合同での勉強会もありえます。それぞれの指導方針については各教員の頁をご覧ください。

社会と産業コースの教員一同、みなさんが卒業研究に挑戦し、充実した最終年度を過ごされることに期待しています。

社会と産業コース

専門分野	氏　　名	掲載頁
知的財産法	井上由里子	60
西洋政治思想史・国際関係思想	川出　良枝	60
社会学・都市社会学	北川由紀彦	61
経済思想史・環境思想	桑田　　学	62
会計学	齋藤　正章	63
国際政治学・日本政治外交史	白鳥潤一郎	64
都市社会学・地域社会学・コミュニティ論	玉野　和志	65
都市交通計画・地域交通政策・都市工学	中村　文彦	65
経営学・人的資源管理	原田　順子	66
農業経済学・世界の食料需給及び将来見通し	古橋　　元	67
建築学・環境デザイン	堀部　安嗣	67
オペレーションズ・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント	松井　美樹	68
経済思想・社会経済学	松原隆一郎	68
政治思想史・政治理論	山岡　龍一	69
商法（保険法）	李　　鳴	70

社会と産業コース	井上 由里子	専門：知的財産法

1．指導方針

卒業研究は、皆さんが日ごろ抱いている問題意識を「学術的な問い（リサーチクエスチョン）」へと転換し、学術的方法論を用いて答えを導き出す知的探究のプロセスです。「巨人の肩の上に立つ」というメタファーでしばしば語られるように、先人の研究成果を土台とした広い視野は新たな知見の創出に繋がります。こうしたことから、指導においては、先行研究の調査と読み込みを重視します。

2．専門領域と主な研究方法

私の研究領域は、知的財産法です。知的財産法は財産的価値を有する情報の保護と利用に関する法制度の総称で、特許法、著作権法、意匠法、商標法、不正競争防止法、種苗法、地理的表示法などさまざまな法律が含まれます。

私自身が特に関心をもって研究を進めてきたのは著作権法と商標法の領域ですが、知的財産法全般について、授業で教え、審議会等での政策立案にも携わってきました。法学の伝統的な方法論である法解釈論、理論研究、立法政策論などに加え、心理学、社会学などとの学際研究にも関心をもっています。

3．指導領域

専門的知見に基づき助言できるのは知的財産法領域です。そのほかの法学分野でもテーマによっては指導可能ですので、卒業研究質問箱を通じてご相談ください。

4．指導のプロセス

8月半ばまでは、月1回程度、Zoomによる個別またはゼミ形式の指導の場で研究計画の進捗を報告していただきます。8月半ば以降は、提出された論文ドラフトに基づきメールまたはZoom等による個別指導を行います。

5．履修者への希望・その他

●知的財産法に関する基礎知識を有していることが大前提です。知的財産法全般あるいは、研究テーマに関連する法律の入門書を通読してください（島並良ほか『特許法入門（第2版）』（2021年、有斐閣）、島並良ほか『著作権法入門（第4版）』（2024年、有斐閣）、茶園成樹編『商標法（第3版）』（2025年、有斐閣）、茶園成樹編『不正競争防止法（第2版）』（2019年、有斐閣）など）。

●履修開始までに、より専門性の高い教科書や専門書等で研究テーマに関連する具体的論点を把握するとともに、先行文献の調査を進め、具体的な研究計画を立ててください。

●知的財産法の文献の調べ方については、https://webpark2085.sakura.ne.jp/chite1.htm参照。曽我謙悟「先行研究を読むとはいかなる営みなのか―大学院新入生への1つのアドバイス（上・中・下）」書斎の窓635号～637号（Web上で閲覧可能）は、大学院生向けではありますが、「論文を書くための先行文献の読み方」を学ぶのに有用です。研究計画の立て方については、小熊英二『基礎からわかる 論文の書き方』（2022年、講談社）も参考にしてください。

社会と産業コース	川出　良枝	専門：西洋政治思想史・国際関係思想

1．指導方針

大学における学びは、授業において教員が伝える内容を正確に理解するところから始まります。理解できるまで努力し、単位が認定されることが課題です。これらは基本的には受動的な学習です。卒業研究はそうした地道な作業を重ねた後に、さらに一歩踏み出すステップとして位置づけられます。会得した知見を生かして、今度は皆さんが能動的に自らの問いを立てる番です。自らが立てた問いに対する解答を導き出し、それを説得力のある「論」としてまとめることが卒業研究の目的です。

「論」としてまとめるとは、単純に述べれば論文を書く、ということです。論文を書くためには色々なテクニックや作法があります。与えられた時間と標準的な字数（20,000字）を考えて、その範囲で答えが出せる問いかどうかを最初に徹底的に精査することがきわめて重要です。類似の課題設定に対して、これまでどのような解答が導き出されてきたかをふまえることも大切です。捏造や盗用は厳禁です。証拠や論拠を挙げながら一歩一歩着実に推論し、最後に結論として最初の問いにきちんと答えを出さなくてはいけません。

論文の名に値する論文を書き上げるためにはどんな作業が必要か。それをお伝えすることが私の基本的な指導方針です。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門領域は近代フランス（特に18世紀）の政治思想史です。思想家でいえば、特にモンテスキューやルソーについて研究を進めてきました。フランス以外の近現代の政治思想家（ホッブズ、ヒューム、アダム・スミス、バーリン）、あるいは16世紀から20世紀にいたるフランス思想の流れ（ボダン、トクヴィル、フーコー）にも関心があります。思想家というよりはテーマに注目する研究も行ってきました。例を挙げれば、リベラリズムやデモクラシー、多元主義、寛容、公共の利益、分配の正義など。また、平和と戦争の問題にも関心があります。特に、平和を永続させるための具体的な制度を構想したり、平和を実現する条件を模索した理論家について討究しました（拙著『平和の追求―18世紀フランスのコスモポリタニズム』として刊行）。そもそも国家とは何か、戦争とは何か、主権とは何かといった理論的・哲学的問いも私のテーマです。関連して、コスモポリタニズム・連邦主義・多文化主義、ナショナリズム・パトリオティズム・国家理性論といった思想潮流にも目を向けています。

私が用いる方法は基本的には文献を元にそれを解釈して議論するというものです。特に有名無名を問わず、思想家や文筆家の作品を分析する、という方法を主として用います。

3．指導領域

私の専門領域や関心対象と完全に重なる必要はありませんが、政治思想史、政治哲学、国際関係思想、あるいは隣接する社会思想史といったジャンルに分類されるテーマであれば指導可能です。広くフランス思想一般、フランス政治一般についても、場合によってはお力になれると思います。近代以降の日本の政治思想のなかで、西洋思想の影響を強く受けた思想（たとえば、中江兆民や福沢諭吉の思想）についても指導可能です。

用いる方法は文献研究です。本や論文を読むことが苦にならない方を歓迎します。

4．指導のプロセス

「卒業研究履修の手引き」には、詳細かつ懇切丁寧な説明があり、これに添って指導する予定です。

標準的なスケジュールは以下のようなものです。7月末を目処に、①全体の詳細な章立て（「目次」に相当するもの）、②用いる文献の一覧（「参考文献一覧」）を提出してください。これらは後で修正可能ですが、書き始める前に必ずこの二つを用意するのが成功の秘訣です。

①と②について教員の指導を受けた後に、いよいよ執筆を開始します。原則として、1章ごとにe-mail（電子メール）への添付の形で原稿を提出してください。遅くとも10月半ばまでにすべての章を含む「初稿」を提出します。初稿に対する教員の助言にもとづいて、完成原稿を作成します。

e-mail（電子メール）やWeb会議システム、それらが難しい場合には郵送という手段を用いた個別指導を基本とします。履修者のご希望を勘案して、柔軟に対処していきます。

5．履修者への希望・その他

放送大学の政治学関連の科目はできるかぎり網羅的に履修しておいてください。法学、経済学、あるいは歴史学や哲学なども大いに関連するので、興味や関心に応じて履修しておいてください。

社会と産業コース	北川 由紀彦	専門：社会学・都市社会学

1．指導方針

卒業研究の基本的なねらいは、自分が関心を持っている（理解を深めたいと思う）現象や問題について、学部で学んだ知識を基礎としながら、主体的に調べ、学び、考え、結論を導きだし、学術論文に要求される一定の形式をふまえた論文として書き上げる、というプロセスを実際に行ってみる、ということです。

教員は、学生がおこなう研究の個々の段階（テーマの絞り込み、先行研究の探索・読解、データの収集・分析、論理展開、論文の執筆等）に応じて指導や助言をする役割を担いますが、研究の主体は学生自身ですので、自発的かつ計画的に取り組んでください。

また、学部で学んだこと全てを卒業研究に盛り込む必要はありませんし、自分が関心を持っていること全てを卒業研究の中で論じきることもできません。限られた期間の中で論文としてまとめあげることができるように、テーマを徹底的に絞り

込むことが最も重要です。

2．専門領域と主な研究方法

私自身は社会学、都市社会学を専門として、「社会的排除」をめぐる問題の社会学的研究（この社会においてどのような人々がどのようなメカニズムにより社会的に不利な位置におかれているのか）を研究テーマとしてきました。より具体的には、いわゆる「ホームレス」の人たちをはじめとした都市の貧しい人々の実態およびそうした人々への社会的な支援や対応のあり方とその問題・課題について、各種の社会調査（質問紙調査、聴き取り調査等）を実施するなどして実証的に検討しています。

3．指導領域

社会学に関わるテーマであればおおむね指導可能です。現実の社会現象や社会問題に関して、具体的なデータに基づいて（必要であれば自分でも調査を行い）検討・考察を行う、という研究方法で取り組もうとする方を歓迎しますが、テーマに応じてできるだけ柔軟に相談・対応したいと思います。

4．指導のプロセス

月1回程度の個別指導（Web会議システム、電子メール等によるリモート指導）を基本とします。また、履修者の希望と研究の進捗状況によっては、大学院と合同のゼミ（リモート開催）に参加していただいての指導もおこないます。スケジュールとしては、9月までに論文の構成（章立て）を確定、10月初旬に草稿を提出（修正等を指示）、11月に最終稿を提出、という流れで書き上げていただくことを目標とします。

5．履修者への希望・その他

あらかじめ肝に命じておいてほしいことは、「研究」と「実践」とは基本的に別のことであるということです。「研究」とは、まだ明らかになっていないことを明らかにする、という営みであり、直接に社会問題等の解決のための活動を行うなどして「実践」することとは別のことです（研究には研究の価値があり、実践には実践の価値がありますので、どちらが優れているというようなことではありません）。卒業研究はあくまで「研究」として行っていただく営みですので、「実践」と混同しないようにしてください。また、卒業研究の履修申請書に研究計画として書いていただいた研究上の「問い」（何を明らかにしようとしているか）や研究方法が実際に研究を進めていく過程で変わっていくことはしばしばあることですが、申請の段階でできるだけ具体的な研究計画を立ててみてください。

研究指導が正式に開始される4月から卒業研究報告書提出までの期間は非常に限られています。履修申請をおこなって履修が許可されてから研究指導が開始される4月までの期間も無駄にせず、先行研究の探索・読解などを自身で進めるように心がけてください。PCに関するスキル（電子メール、インターネット閲覧・検索、ワードプロセッサ、表計算等）も一通り身につけておいてください。

また、研究の遂行にあたって自分でなんらかの社会調査を行いたい、という場合は、調査の設計、実施、データの整理・分析という作業に大変な時間と労力、費用を要します。さらに調査テーマによっては対象者への慎重な倫理的配慮を盛り込んだ綿密な調査計画を立てることが必要になりますので、覚悟して臨んでください。その場合、必ず、社会調査に関する科目をひと通り履修しておいてください。

社会と産業コース	桑田　　学	専門：経済思想史・環境思想

1．指導方針

卒業研究は、大学生活の集大成であるとともに、自分にとっての一つの「礎」になりうるものです。大学生活とこれまでの経験から学んだことをフルに発揮して自分自身の問題意識を研ぎ澄まし、すぐれた「作品」を完成させてください。

もっとも、すぐれた「問い」を発見し、妥当な「答え」を導くには、自分自身の直観や経験だけに頼るのではなく、自分が関心をもったテーマについて、これまでどのように論じられ、何が主張されてきたのかを、先行研究を渉猟するなかで十分に吟味するプロセスが不可欠です。そのような一見遠回りと思える作業に地道に取り組む姿勢がなければ、卒業研究の完成は難しいことを十分に理解してください。

2．専門領域と主な研究方法

これまで、経済思想、社会思想、環境思想を横断するような形で研究してきました。人間の経済は、人間同士の社会関係に

閉じられたものではなく、物質やエネルギーの採取から、廃棄物の廃棄にいたる自然生態系との相互作用・物質代謝の上に成り立ちますが、近代の経済学はごく少数の例外はあれ、このような事実に十分な注意を払ってきませんでした。私自身は、この問題に思想史や概念史の方法をつうじて、つまり近代以後の経済学を中心とする社会科学の展開において「自然」や「環境」はどのように学問的認識の対象とされてきたのかを再検討するという観点からアプローチしています(『経済的思考の転回』以文社、『人新世の経済思想史』青土社など)。また、現代の環境危機と科学技術をめぐる思想・倫理学的な研究にも関心をもっています(『未来の環境倫理学』勁草書房、『科学技術社会論の挑戦』東京大学出版会など)。いずれにせよ、文献研究が主たる方法となります。

3．指導領域

経済や環境にかかわる特定の思想家、あるいは社会科学上のテーマや概念に即した思想史・歴史・理論的研究。文献研究が中心となるので、粘り強く文献渉猟に取り組める方を歓迎します。

4．指導のプロセス

メール、オンライン会議システムなどを活用して、基本的に個別指導(場合によっては集団指導)を行う予定です。なおWeb会議システム(Zoom)に接続するための環境(インターネット接続、PC等)は各自ご用意ください。可能な範囲で学習センターでの面談(ゼミ)の実施も検討します。テーマに関する先行研究の渉猟、レジュメ作成と報告を繰り返しながら、論文の構成作成・執筆へと進めていただきます。

5．履修者への希望・その他

学術論文の書き方についての本を最低一冊は読んでください(本冊子の「報告書執筆のための参考書等」も参照)。また関心のあるテーマについて日ごろから広く文献についての情報を集め、目を通す努力をしてください。まずはテーマに関する複数の新書や入門書・概説書をつうじて基本的な概念や用語に触れ、基礎体力をつけてください。その後、徐々により専門的な学術書や学術論文を複数、読み進めていってください。学術書や学術論文については、書かれている内容すべてを一気に理解しようとするのではなく、論述のスタイルや文章の構造とともに、テーマについて何が問題とされているのかを大きく掴んでいくことが大切です。

社会と産業コース	齋藤　正章	専門：会計学

1．指導方針

学生の皆さんにとって、これまでの学習は、授業を聞き、その理解度を通信指導や単位認定試験で確認するというインプット中心の受動的な作業がほとんどであったと思う。一方、卒業研究は、自らテーマを設定し、それに対する考えや意見を理論・データを援用しながら他者へ発信するというアウトプット中心の能動的な作業であるといえる。

このアウトプットの作業は、思うほど簡単な作業ではない。「書きたい気持ちと書く能力のギャップ」に直面し、書きたいと思っていたことの半分も書けないことに気づくことが多いからである。理解不足、勉強不足といった現実を直視しなくてはならないだろう。しかし、卒業研究を書き上げることから得られる喜びや達成感は、その苦労に比例して大きくなる。また、苦労を補って余りある学習上の効果がもたらされるであろう。つまり、結果(提出される論文の質)ではなく、それを書き上げるプロセスに卒業研究の意義が見いだされるのである(さらに、結果がよければいうことないのであるが)。

卒業研究における私の役割は、学生の皆さんが論文を書き上げるための助言を行うことであり、主役はあくまでも皆さん自身であることを留意していただきたい。

2．専門領域と主な研究方法

専門領域：管理会計論とくに業績評価会計論

研究方法：情報経済学的アプローチ(例えば、組織の経済学、ゲーム理論、契約理論、リスクと情報の経済学等による)

3．指導領域

研究の専門は管理会計であるが、指導の方は会計学全般を対象とする。考えられる領域をあげると以下のようになる。

①財務会計関係

簿記論、財務諸表論、会計監査論、税務会計論、国際会計論

②管理会計関係

原価計算論、意思決定会計論、業績評価会計論、会計情報システム論

③その他

会計学に関する史的研究、環境会計、自治体会計、経営分析、内部監査、財務管理論ないし企業財務論等

4．指導のプロセス

面接指導と通信指導（随時：電話、FAX、E-mail）を基本とする。可能であればゼミナール形式の指導も行う。

5．履修者への希望・その他

テーマを選定する際に、社会と産業コースは学際的な色彩が強いので、必ずしも会計プロパーの問題ではないが会計の問題が大なり小なり絡んでいるといった場合があるかもしれない。すべてに対してではないが学際的な対応もある程度考えているので、迷っているときは相談してほしい。会計の扱う領域は案外広いのである。

社会と産業コース	白鳥 潤一郎	専門：国際政治学・日本政治外交史

1．指導方針

卒業研究は、大学における学びの集大成と位置付けています。一貫した論理と確固とした構成が求められる論文には、それまで学んできたことや学習姿勢が自ずと反映されます。大学院進学者を除けば、多くの学生にとって人生で最も長い文章を書く貴重な経験であり、それは大学以外の場ではなかなか得られるものではありません（論文ではなく、オーラル・ヒストリーの制作を卒業研究とすることも可能ですが、その場合にも解説や解題の執筆では一定量の文章執筆が必要となります）。

指導に際しては、テーマ設定は各自の興味関心を尊重する一方で、議論の構成や叙述・論述の形式については、論理的かつ客観的に書く方法を学生が体得することを目指します。

2．専門領域と主な研究方法

学問分野としては国際政治学と日本政治外交史にまたがる形で研究をしてきました。具体的には、第二次世界大戦後の日本外交を中心に、外交文書を主史料に用いた歴史的なアプローチに基づく著書・論文を発表しています。史料館での調査や文献資料が基本ですが、関係者へのインタビューも積極的に実施している他、日記等の未公刊史料の翻刻や公刊、オーラル・ヒストリーも手掛けています。現在は、主要国首脳会議（サミット）やエネルギーをめぐる国際政治についても研究を行い、また日本の政治や外交に関する通史執筆にも携わっています。

3．指導領域

国際政治と日本の政治外交を中心に、比較政治などの隣接領域についても指導は可能です。また、オーラル・ヒストリーの制作をもって卒業研究とすることも受け付けています。

4．指導のプロセス

学生と個別に相談しながら具体的なスケジュールや指導方法を決めていきます（E-mail・電話・Zoom はある程度使えることを前提に指導します）。個別指導を基本としますが、学習レベル次第に応じて大学院ゼミと合同での指導も行うこともあります。履修を希望する学生は質問箱や学習センターの担当者を通じて早めにご連絡ください。E-mail や電話、Zoom 等でやり取りをしながら、学生の希望も勘案しつつ段階的に指導を進めていきたいと考えています。なお、最終審査は大学全体の方針に則りますが、指導のために幕張の本部や関東の学習センターに来て頂く必要はありません。

5．履修者への希望・その他

論文形式の場合は山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書）もしくは戸田山和久『論文の教室』（NHK ブックス）、オーラル・ヒストリー形式の場合は御厨貴『オーラル・ヒストリー』（中公新書）もしくは御厨貴編『オーラル・ヒストリー入門』（岩波テキストブックス）に目を通した上で履修希望を提出してください。

なお、1つのテーマを深く掘り下げるためには、隣接領域も含めて幅広く学ぶことが欠かせません。放送大学が設置している政治系科目は幅広く履修することを推奨します。また、卒業研究で取り上げたいと考えているテーマについては、放送大学の印刷教材はもちろん、一般に広く流通している書籍や教科書だけでなく、注がついた学術論文を読むようにしてください。

社会と産業コース	玉野　和志	専門：都市社会学・地域社会学・コミュニティ論

1．指導方針

大学では各自の関心にもとづき、自由に課題を設定して、研究を進めていくことが最大限尊重されなければなりません。しかしながら、自らが依拠する学問分野については、それぞれの学問原理（ディシプリン）にもとづく基本的な視点、対象、論理、方法を身につけ、既存研究をふまえた検討を行うだけの力量の修得が求められます。卒業研究はその意味で各自の関心にもとづく独自の課題に対して、どの程度それぞれの学問原理にもとづいた検討が行えたかを評価するもので、非常に重要な位置付けをもつものです。

したがって、課題の設定については、各自の関心にもとづき、意欲的に取り組めるテーマを自ら設定いただくことになりますが、その内容については、先行研究をどこまで理解し、活用できているか、検討の方法については適切であるか、対象を的確に設定できているか、論理的な展開に無理はないか、さらに結論に社会的な意義があるか、等について重視しながら、指導をしていくことになります。

2．専門領域と主な研究方法

私の依拠する専門分野は社会学です。視点、対象、方法、先行研究に関しては、社会学全般の蓄積について指導が可能です。具体的な研究領域としては、都市を中心とした地域社会における人々の織りなす社会的な世界を対象としています。それらをふまえて地方自治体の政策や市民の自治的な活動がどのように連動していくかに関心をもっています。自治会・町内会、NPO などの市民活動団体、コミュニティ政策などについて、量的・質的な様々な実証的な方法にもとづく調査研究に従事しています。

3．指導領域

社会学全般について指導は可能です。学説や理論についても、ある程度対応できますが、都市や地域を中心とした社会現象全般に関する実証的な研究に関心のある方を歓迎します。政治や経済との関連について関心を広げていくことについても、ある程度対応できると思います。調査や研究の方法については、量的、質的、文書資料等、様々な方法について、指導が可能です。

4．指導のプロセス

まずは問題を設定し、先行研究を確認し、独自に調査や資料収集を行い、執筆を進めるというだいたいのスケジュールを確認しながら、定期的に指導を行っていくつもりです。できれば、オンラインを活用し、集団的に指導を進めたいと考えていますが、必要に応じて、対面での個別の指導も行います。

5．履修者への希望・その他

自らの関心で課題を設定した場合、十分な先行研究が見当たらないテーマになることもあります。その場合は他の学問領域の業績にも当たる必要があり、少し苦労するかもしれません。そういう意味では、前もって社会学の既存研究領域を見渡しながら、自分自身の課題を設定するのもよいかもしれません。社会学の入門的なテキストの多くに前もって目を通しておくとスムーズに研究を進められるかもしれません。自分自身の課題を探しながら、様々な授業を履修しておくとよいでしょう。

社会と産業コース	中村　文彦	専門：都市交通計画・地域交通政策・都市工学

1．指導方針

卒業研究は、学部での研究活動の集大成として、これまでの学びを総動員して、自ら課題設定し、自主的に取り組んでいくとても意義のある知的な活動の機会です。

都市交通、地域交通の分野は、きわめて身近な問題が多く、関心が高い人も多いと思いますが、取り組むにあたっては、問題の本質がどこにあるのか、それをどのように課題設定するか、限られた時間の中で、どのように取り組んでいってどのような成果につなげるか、その準備がとても重要で、そこで十分に悩み抜くことが必要かつ有意義と思います。

指導の場面では、まず、最初の課題設定と取り組み方について十分に時間をかけて議論していくことを重視し、そのうえで研究活動を伴走していきます。

2．専門領域と主な研究方法

都市交通計画にかかるさまざまなテーマに関心をもち、いろいろなかたちで取り組んできました。移動手段別に言えば、歩行者、自転車、電動キックボード、自動車、バス、路面電車、ロープウェイ、モノレールから電車まで、施設別に言えば、道路空間、広場、駅前広場等、最近の話題では、自動運転や MaaS（Mobility as a Service）にも携わってきました。特に公共交通機関にかかわる課題では、運輸事業者、地方自治体、政府とも数多く関わり、公・民・学の連携を通した地域の生活環境の改善にも多少なりとも貢献してきました。また、先進国、途上国問わず海外事例の調査も精力的に行ってきました。

基礎的な理論と現場での体感が乖離しないよう、現場に入り込んで議論を重ね、常に俯瞰的な視座で考察を深めるアプローチで研究をしていますが、卒業研究では、さまざまな文献や公開資料、インタビュー等を通した活動を中心に、議論を尽くして学びを深めていければと考えています。

3．指導領域

上に述べたような都市交通のさまざまな場面での課題および都市交通計画の需要予測や政策評価にかかる理論的課題について指導することができます。モビリティ（移動のしやすさ）のさまざまな視点、そして、モビリティとまちづくりの連携の課題についても指導いたします。

研究方法としては、先行研究や実務文献のレビューを通した課題の絞り込みと仮説設定に十分に時間をかけた上で、文献研究、インタビューやヒアリング作業、可能な場合にはデータ解析を通してとりまとめていく流れを基本とします。

4．指導のプロセス

月に一度の対面（Web 会議システム等オンラインも可）での集団形式を基本とした研究討議をベースとし、研究進捗相談は個別にメールをベースとして受け付けます。

5．履修者への希望・その他

都市交通にかかる入門書（岡並木「都市と交通」岩波新書（1981）、新谷洋二・原田昇編著「都市交通計画第三版」技報堂出版（2017）等）は予め読んでおくことが望ましいです。全体を見渡す俯瞰力と個別事例に深く掘り進む集中力を併せ持つことを期待しています。いわゆる乗り物マニアを否定はしませんが、例えば鉄道さえ保存されれば良いというような議論ではなく、常に客観的な議論ができることは研究遂行上の必須条件です。

社会と産業コース	原田　順子	専門：経営学・人的資源管理

1．指導方針

本学で卒業研究を選択する学生は意欲があり、取り組みたいテーマが明確であると思います。それを学問的に体系付けて研究するために、下記の点を重視して指導しております。

(1) 先行研究の調査

(2) 論文の形式の理解

(3) 実証研究

2．専門領域と主な研究方法

＊人的資源管理（Human Resource Management）、特に多様な人材の雇用管理に関する事象について研究しています。

＊研究方法はテーマによりますが、インタビュー、アンケートなどです。

3．指導領域

＊人的資源管理全般

＊ビジネスと女性に関わること（例：企業内における女性に関連した事柄、女性に関連するビジネス、女性と起業／等）

＊日本企業の人事制度に関すること（人事考課、昇進／等）など

4．指導のプロセス

随時メールを受付けると共に、月に 1 回ほど Web 会議システム（Zoom）を利用したゼミ（各自の研究報告と討論による集団指導）を開催します。対面ゼミ（本部または東京周辺の学習センターにて）を実施する場合も、Web 会議システムによるゼミは行います。なお Web 会議システムに接続するための環境（インターネット接続、PC 等）は各自ご用意ください。

5．履修者への希望・その他

意欲が第一ですが、経営学の基礎知識が必要です。また、論文を執筆するには手書きよりもパソコンの方が格段に楽で効率が良いです。パソコン（とりわけ、ワープロと図表作成）に不慣れな場合は、練習しておくことをお勧めいたします。

社会と産業コース	古橋　　元	専門：農業経済学・世界の食料需給及び将来見通し

1．指導方針

卒業研究は、在学時に学んださまざまな学習の要素を自分なりに組み上げて一つの形に仕上げる大切な取り組みの一つだといえる。卒業研究を仕上げる過程において、学習の成果を報告する機会を持ち、その報告のために、学習を繰り返し、筋道をたててレジュメをつくり、それを説明する。その報告に対して、先生方と学生の皆さんで互いにコメントをして、課題を深化させることが可能と考えている。そのような卒業研究をまとめる過程を通して、多くを学ぶという指導を行いたい。

2．専門領域と主な研究方法

私の研究領域は、世界における食料需給及び将来見通しに関する研究や農産物等のコモディティ市場の動向について研究を行っている。また、アジア、欧米における地域の農業・食料関連政策について研究を行っている。食料・農業・農村の現状やその課題と将来見通しについて、農業経済学を軸に、統計分析や文献研究を行い、それらの個性や課題を把握するように努めている。これは地域研究の領域に通じる。

3．指導領域

指導領域について、①途上国だけでなく主要先進国の食料需給やその政策、農業や食料あるいは農村開発、農産物等の国際コモディティ市場における課題、②日本における農業・農村や食料等に関する課題を領域とする。具体的な卒業研究申請書を基に、指導可能か相談する。

4．指導のプロセス

4月から10月まで、月1回程度でゼミ（勉強会）を行う。参加者は、そのゼミでレジュメを作成して研究の報告を行う(20~30分程度)。このゼミ参加のため、学習・調査、レジュメ作成、報告、議論を通じて、報告内容の修正等の作業を繰り返し、最終的な報告書をまとめる。このゼミにおいて、討議・指導・助言を行う。

5．履修者への希望・その他

4月開始から11月の提出までの短期間でまとめることになるため、双方向のコミュニケーションを大切にし、丁寧に課題を絞り意欲的に方法を見つける努力が必要で、密度の高い学習・研究・調査・報告を行い、確かな成果を期待したい。

社会と産業コース	堀部　安嗣	専門：建築学・環境デザイン

1．指導方針

卒業研究は自分自身で「問い」をたてて取り組むものです。普段の生活や身の回りの些細なこと、もしくは関心があって継続的に学んできたことからテーマが見つけられるかもしれません。大学で学んできた知識や経験をもとに自発的に研究を進め、論証し、結論を導きましょう。私は研究に取り組むみなさんのお手伝いをする立場として、必要に応じたアドバイスをしていきます。

2．専門領域と主な研究方法

・建築設計

どんな建物を設計するときも小さな住宅の設計で考えていることを背骨に取り組んでいます。建築の基本とも言える住宅の設計を中心に、質の高い建築のあり方を探っています。

・建築を作る環境

「住む」ということは何か。自然・身体・経済・社会・文化・信仰など建築をとりまく様々な環境から建築を考えています。

3．指導領域

建築と設計に関わること。また、上記2で述べたように「住む」ということの視野を広げて研究するのであれば、直接的に建築に関わるテーマでなくてもアドバイスは可能です。

4．指導のプロセス

学習センターでの面談のほかメール、オンライン会議システムなども使用します。

詳細は指導を希望する学生と相談して決定します。

5．履修者への希望・その他

予備知識の習得のため関連授業を履修したり、関心のある分野の本を読んでおくことが望ましいです。

社会と産業コース	松井　美樹	専門：オペレーションズ・マネジメント、サプライチェーン・マネジメント

1．指導方針

卒業研究は学部での研究活動の集大成として、習得してきた理論や方法論を現実の問題解決に向けて動員し、新しい知見や課題を見出す知的作業です。経営学関係の卒業研究では、最初の段階である研究対象の確定とテーマの設定が重要となります。そういった研究がなぜ必要であるのか、構想に至った経緯など研究動機も明確でなければなりません。研究課題とその方法論を明確にして、それぞれの研究を推進してもらいます。この過程でクリティカルな道標に到達できるようアドバイスをしますが、各自がのめり込める研究テーマと研究課題を見つけ出すことが何よりも重要です。次の段階として、その研究課題にどうアプローチし、どういった方法論を用いて分析を進めるか、得られた結果をいかに解釈し、インプリケーションにつなげるか、最終的に論文としてこれらをどう纏めるかについても、必要に応じて指導します。

2．専門領域と主な研究方法

製造企業やサービス提供事業のオペレーションに関わる諸問題、さらにはこれらの連鎖によって形作られるサプライチェーンに関する諸問題に対して、理論と実証の両面からアプローチしています。特に、製造企業の経営構造や国際比較分析、品質マネジメント、リーン生産、新製品開発、技術開発などについて論文を発表してきました。最近は、実証研究に主力を置き、サプライチェーン･マネジメントや品質マネジメントが持続可能性に及ぼす影響やe-サービスの品質マネジメント、オンライン・ショッピングの利用動機などのテーマに取り組んでいます。

3．指導領域

経営学の中でモノに関する意思決定問題を対象とします。いわゆる企業の経営だけでなく、様々な組織や個人の意思決定も対象となります。理論研究でも実証研究でも対応可能です。

4．指導のプロセス

4月から研究テーマ、研究課題に関する検討をはじめ、7月初旬までにはこれらを確定させ、実質的な研究に入ります。11月までに論文として取りまとめてもらいます。

指導の場所は、適当な学習センターあるいはZoomによるオンライン会議を活用します。ゼミ形式の集団指導の形を基本とし、必要に応じて個別指導も行います。

5．履修者への希望・その他

自らの発想で新たな研究テーマを開拓していこうという気概をもった学生を希望します。

経営学の基礎科目と統計学は履修しておくとよいと思います。

社会と産業コース	松原 隆一郎	専門：経済思想・社会経済学

1．指導方針

大学での授業は特定領域で生き延びてきた仮説を体系立て、説明することを中心としています。また単位認定試験は、授業で説明された仮説について正確に理解しているか、知っているのかがチェックされます。

対照的に卒業研究は、先行研究について「知っているのか」ではなく、新しいテーマを「問い」、問いに新説で「答え」、新説を「論証」する独創性を追求します。このプロセスは一筋縄ではいかず、途中で思ったように進まないことも稀ではありません。しかし振り出しに戻ってテーマを絞ったり答えの範囲を狭めたり論証方法を変えると、いつか全体がつながるものです。

諦めず修正の必要性を織り込んで、期日に沿って卒論を仕上げるようにして下さい。

2．専門領域と主な研究方法

① 消費経済論（拙著『消費資本主義のゆくえ』）

② 日常景観論（同『失われた景観』『書庫を建てる』『無電柱革命』）

③ 社会経済学（同『経済政策』）

④ 経済思想（同『経済思想入門』『ケインズとハイエク』）

3．指導領域

消費経済論

日常景観論

社会経済学

経済思想

4．指導のプロセス

メール・Zoom・幕張など学習センターでの面談

5．履修者への希望・その他

「卒業研究履修の手引き」を熟読して下さい。

社会と産業コース	山岡　龍一	専門：政治思想史・政治理論

1．指導方針

卒業研究とは、大学で自ら学んできた「知識」のすべてを投入するものではなく、「学ぶ」という「過程」で得た能力（＝教養）によって、意味のあるテーマを発見・創造し、論文という形式に結晶化させることだと考える。指導においては「内容」よりも、テーマの設定、議論の構成、論述の形式等の、「方法」に重点をおき、学生が主体的に論じたいことを、論理的かつ客観的に書けるようにすることを目指す。

2．専門領域と主な研究方法

政治に関連するテーマの「理論的」研究。例えば自由、平等、正義といった観念の政治理論的意味を、過去の思想家の歴史研究や、現代政治理論における論争等の研究によって明らかにしていく。または特定の思想家に光を当てて、その思想家の思想の歴史的位置づけを考えたり、あるいはさまざまな理論的テーマを発見していったりする。いずれにせよ文献研究が主たる方法。これまではジョン・ロックの思想の研究を通じて、自由主義の問題を研究してきた。

3．指導領域

政治に関するテーマの理論的な研究。何らかの理論（例えば民主主義や自由主義）や特定の思想家についての研究が望ましいが、そうでなくても、歴史（思想史）的・理論的な分析が可能ならば、政治に関する限りどのようなトピックでもよい。

4．指導のプロセス

必要に応じて、学習センター等で勉強会を開くが、基本的には個別に面接や郵便、E-mail 等の手段を用いて指導をしていく。研究とは基本的に個人的営みだが、指導教員や他の学生との交流も大事である。したがって、研究過程の途中で、たとえ不完全でもエッセイを書いたり発表をしたりすることが不可欠となる。

5．履修者への希望・その他

社会科学の議論では、適切な「問い」をたてることがまず第一に重要である。適切な「問い」の発見には、普段からの社会的問題意識の涵養と同時に、基本的な学問的知識（理論）の獲得が不可欠である。したがって、政治・社会の理論に関する基礎的な知識を履修者は最低限度持っていること（つまり基本的文献を理解するうえであまり困難がないこと）が望まれる。できれば既に（あいまいでもいいから）自分自身で特定の問題について悩み、深く考え、研究したことがあるとよい。政治学関係の科目の他、歴史学、哲学関係の科目を履修しておくとさらによい。

社会と産業コース	李　　鳴	専門：商法（保険法）

1．指導方針

卒業研究は、学部教育の最後を締めくくるものであり、その目的は次の二つと考えます。一つ目は、これまで放送大学で学んだことの集大成を「論文」という形にすること、二つ目は、論文を書く「過程」そのものを学ぶことです。自分の論文を完成させることによって達成感や満足感が得られ、新たなステップに進む自信にも繋がります。

基本的な指導方針は、理論と実務との融合を図る視点に立って、卒業研究すなわち卒業論文を執筆することを通じて、課題の設定、文献の調査、論点の整理、論理的考察、論文の作成といった一連の過程における基礎的な方法をしっかり身につけ、卒業後も自分自身で研究を進めることができること、そして、法的なものの見方を涵養し、現実社会の中で直面するさまざまな問題を適切に解決するための能力を育むことです。

私自身の通信教育による学習経験を生かし、放送大学の通信制という特性を踏まえ、一人ひとりの学生の個性と目的志向に合わせて、合理的な学習方法、スケジュールの設定と自己管理、モチベーションの維持などを適切に指導・サポートします。

2．専門領域と主な研究方法

専門領域は商法です。主に保険法を研究していますが、保険業法、民法（債権、親族、相続等）、民事執行法、破産法、個人情報保護法、特定商取引法、消費者契約法等の法律にも及んでいます。授業科目として、「一般市民のための法学入門」などを担当しています。

研究方法として、常に理論と実務の両視点に立脚し、問題点の所在を取り上げて、それに関する法律の立法変遷の追跡、立法・改正の背景と過程の確認によって立法趣旨を正しく理解し、学説の議論、重要な判例・裁判例、さらに比較法的見地から欧米その他の国の立法例を俯瞰したうえ、解釈論的・立法論的な理論構成を明らかにするとともに、問題の解決を試みるよう努め、今後に残された課題を指摘します。時にはアンケート調査などの社会学的手法を用いる場合もあります。

3．指導領域

専門領域は上記２に記載したとおりですが、それ以外に民事法学を中心とする法律分野に関するテーマについても指導することが可能です。

研究方法は上記２をご参照ください。

4．指導のプロセス

提出までの大まかなスケジュールは、次のとおりです。4–5 月は、文献の収集、先行研究のレビュー、テーマの絞り込み、論文骨子の構成、原稿執筆計画表の作成。6–9 月は、初稿の執筆。10 月中旬までは、助言を踏まえ、原稿の推敲と修正。10 月下旬をめどに、最終原稿の完成・提出。論文の分量は、2 万字（パソコンを用いる場合は 1000 字詰で 20 頁、原稿用紙を用いる場合は 400 字詰で 50 枚）以上を目安とします。

指導の形式は、直接対面か双方向通信手段による個別指導とゼミ形式による集団指導の組み合わせです。通信手段による個別指導は、e-mail、Web 会議システム（Zoom）、Skype、郵便、FAX といった多様な手段を用いて適宜に対応します。ゼミ形式による集団指導は、大学院との合同ゼミとし、約 2 カ月に 1 回対面と Zoom の併用にて行います。

5．履修者への希望・その他

パソコンの基本的な操作やインターネットの利用に慣れるとともに、研究テーマに関する授業科目の履修などにより、基礎的知識、予備的知識を習得しておくことが望まれます。特に民法は最も基本的なルールを定めており、すべての法律の基礎とも言われていますので、ぜひ履修しておいてください。

多忙な仕事や日常生活を送りながら卒業研究を行うことは容易ではありませんが、良い論文の完成を目指す皆さんには、次の 4 つの心構えをお願いします。①最後まで諦めない強靭な精神、②時間を確保する強い意志、③緻密で丹念な研究、④効率よく取り組む要領。

人間と文化コース

人間と文化コースには、哲学・芸術、歴史学・地域文化、文学・言語文化、人類学・比較文化など、人文学の諸分野があります。人間に対する関心を中心としつつ、古今東西の人間社会とそこでの文化現象全般を研究の対象としています。そのため、多様で、広く、深いこの対象を相手にして、現代に生きる自分が、何かをつかみたい、理解したいと思うなら、常日頃の学習において受身で授業を受けるのではなく、自らすすんで学ぶ姿勢が大切です。しかも、これらの諸分野は、一つの問いに対して、答えが一つと定式化された「正解」があるわけではありません。いかに問うのか、求める側の問いが適切に出されてはじめて、答えが見えてきます。自らが問題意識をもつことが、すべての探究の始まりです。学生の皆さんは、真に知りたいことに対して、自ら求めていく積極性をもつことが大事です。卒業研究は、そのためのよい機会です。また大学院に進学して探求を深めたいと思っている人も、論文作成の基礎力を養うために、まず卒業研究に取り組んでいただきたいと思います。

卒業研究を作成するためには、(1) 研究の課題（テーマ）を自ら設定し、(2) 設定した課題（テーマ）について、適切な材料を選び、筋道だった方法で、客観的で説得力ある論理の道筋にそって分析や解釈をして、(3) 自分なりに結論づけをするという手順になります。この手順は、人文学のいずれの専門分野にもあてはまる基本的なことです。ただし、専門分野ごとに具体的方法は少しずつ異なっているので、卒業研究履修の過程で指導教員の指示に従いながら、実践を通して習得していってください。

研究の課題（テーマ）は、どのような問題を研究するのかを、自ら設定します。人文学の諸分野は、人間および人間社会、そして人間の文化的営みの総体を対象とするので、どのように探っていっても、そのすべてを研究の対象に包括することなどできようはずがありません。そこで、自分の問題関心を繰り返し考え直して、自分が、本当に何を明らかにしたいのかを見極めることから始めます。その課題に関わる先行研究をよく調べ、関係する論文や著作をよく読み、その課題をいかに研究するのかを明確にすることが大切でしょう。先行研究を読んで、これまでに明らかにされてきたことを知るとともに、自分の知りたいことは何かを明確にして、初めは先人のやり方を辿ることで方法を学びながら、そこではまだ明らかになっていないことや、その解明に疑問を呈していくことで、自分なりの問題意識をはっきりさせていきます。そのためにも、卒業研究に取り組む前に、一連の日本語リテラシー科目をはじめ、毎学期のさまざまな科目の学習を通して、関連ある論文や著作の論理的な読み解き方を身につけて、さらにその中で自分が論文を書いていく訓練をされるようにお勧めします。

次に、設定した課題（テーマ）に相応しい材料を選び、それを分析し、解釈する方法を明確に意識して、その方法に従って、論拠や典拠を明示して、客観的に説得力を持った論を展開することが求められます。その研究方法で明らかになることと、明らかにならないことを自覚しておく必要があります。

私たちは、ともすれば自分の経験や、社会の価値観などによる影響から免れ難く、さまざまな先見にしばられがちです。研究にあたっては、そのことを自覚しながら、より適切な材料や研究方法をとることによって自分の「思い込み」を越えるよう努める必要があります。先行研究をもっと広げて調べる必要があることもありますし、先行研究に今までとは違った意味が見出されることもあります。問題をより深く追求する中で、研究材料や研究方法を再検討することや、さらに問題意識をより適切に設定し直すこともあります。

独りよがりに陥らないためにも、指導教員とよく連絡をとって指導を受け、同じような関心をもつ学友と対話したり交流したりすることが大切でしょう。なお、自らの方法を磨くためには、他の分野の方法を理解しておくことも有効です。

最後に、研究で論じてきた内容に基づいて、結論を書きます。この研究によって明らかになった事柄と、今後究明しなければならない課題を明示することが大切です。「文は人なり」とよく言われますが、結論をまとめる際には、分析の結果のみならず、書き手の思想も表現されます。人間と文化コースで卒業研究を重視する意味も、ここにあります。

人間と文化コース

専門分野	氏　　名	掲載頁
異文化間コミュニケーション、英語	大橋　理枝	73
文化人類学	大村　敬一	73
ヨーロッパ中世史・都市史	河原　　温	74
(近世) 中国史・東洋史・史学史	小二田　章	74
日本中世史	近藤　成一	75
日本近世史	杉森　哲也	76
日本古典文学、平安文学、源氏物語	高木　和子	77
言語学・日本語学・コミュニケーション論	滝浦　真人	77
博物館学・アンデス文明論	鶴見　英成	78
フランス文学・翻訳論・映画論	野崎　　歓	79
西洋美術史	船岡美穂子	79
中国語学	宮本　　徹	80
英語圏文学、カルチュラル・スタディーズ、映画研究	宮本陽一郎	81
哲学・倫理学・思想史	森　　一郎	82

人間と文化コース	大橋　理枝	専門：異文化間コミュニケーション、英語

1．指導方針

卒業研究を行うに当って最も重要な点は、自分で研究課題を発見し、それに対して自分で答えをみつけることだと思います。関心のある分野について、何がどこまで既にわかっているのかを明らかにし、それを踏まえた上で「ここはどうなっているんだろう？」と思う点を探し、その点について他人を説得できるような答えを提示することを目標とします。授業を受けている時には、教科書に書いてあることや講義で言われたことをそのまま信じてしまいがちですが、卒業研究を行うに当っては、自分が読んだことや聞いたことに対して一歩距離をおき、客観的に、場合によっては批判的に、向き合うことが大切です。

研究指導と銘打ってはいても、研究とは各自が個々に行うことが基本ですから、あくまで私はその方法や内容、書き方などに関してアドバイスするだけです。ただし、何が他人の言ったことで何が自分の言ったことなのか、どこまでが既知の事実でどこからが意見・推測に過ぎないのか、を区別することは学問研究を行う際の大原則なので、この点に関しては十分に注意してください。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門は異文化間コミュニケーションで、日本人とアメリカ人の話し方の違いに興味があります。また、第二言語習得やバイリンガリズム、そしてバイカルチュアリズムに関しても興味を持っており、留学生や移民の異文化適応に関する問題や帰国生の本国再適応に関する問題などにも関心を持っています。

3．指導領域

一番得意なのは異文化間コミュニケーションの分野ですが、対人コミュニケーションの分野全体を含め、上に挙げた分野や関連分野なら私自身も興味を持ってアドバイスできると思います、ですが、私の関心は人間の言動や心理的な側面にあり、制度的な面ではないということを申し添えさせていただきます。

4．指導のプロセス

卒業研究申請書を提出される前に質問票でご相談ください。場所や方法は個別に考慮するつもりなので、具体的なことは履修者が確定してから決めます。

5．履修者への希望・その他

自発的に取り組んでください。自分で研究計画を立て、それを自分でこなしていくためには、強い意志ややる気が必要です。また、テーマを選ぶ際に、自分で扱える範囲かどうかという点と、自分が興味を持ち続けられるものであるかどうかという点に注意してください。

人間と文化コース	大村　敬一	専門：文化人類学

1．指導方針

卒業研究は大学での勉学の成果を主体的にまとめるものとしてとても重要なものです。とくに私の専門とする文化人類学では、文献調査あるいは社会の現場での観察や聞き取りで自ら調べあげた資料を整理して考察し、その考察から導き出した主張を一貫した論理のもとで説得力をもって記述することが求められるため、具体性に基づいた論理的な思考を鍛え上げることが不可欠です。また、ひとりよがりの見方や論理に陥らないために、文献による先行研究の理解も重要です。自らの調査で得た資料を先行研究で行われている議論につきあわせることで新たな発見や視点を見出し、それらを説得力のある論理的な議論として展開する意志をもった学生諸君が参加してくれることを望みます。

2．専門領域と主な研究方法

私自身は、北米先住民、とくにカナダ極北圏のイヌイトを主なフィールドに、イヌイトの言語、知識、生業（狩猟・漁撈・罠猟・採集）、世界観（存在論）、芸術、子どもの社会化過程、グローバリゼーションや地球環境変動に対する先住諸民族の対応などを研究してきました。また、そのフィールド調査に基づいて「人類はどこから来て、何者であり、どこに行こうとしているのか」という問いを追求し、人類の社会性や学習能力の進化史的基盤を探究するとともに、人類の宇宙進出にともなう人類の変容などについて考察しています。

3．指導領域

もっとも得意な地域は北米、とくに極北圏で、もっとも得意な分野は認知人類学、先住民研究、生業研究、芸術人類学ですが、文化人類学の視点からの研究であれば、どのような地域や分野でも指導対象とします。

4．指導のプロセス

まず、研究テーマの概要、研究計画、参考文献一覧を提出していただき、テーマの絞り込みをした上で、個別指導をしていきます。基本的にはＥメール、必要に応じて面接指導を行います。テーマや人数に応じて、ゼミ形式の指導も検討します。

5．履修者への希望・その他

卒業研究に取り組むにあたっては、先人が蓄積してきた知恵と自らの調査に基づいて、自らが立てた問いを深く掘り下げて探究し、その考察から自らの主張を論理的に展開することが求められます。そのためには、先行研究の地道な読解、粘り強い調査、日常生活のなかで抱く素朴な疑問を問いにまで磨き上げる忍耐力、論理的な飛躍を徹底して避けながらあくまでも論理的に問いを探究する粘り強さが必要であり、何よりも地道な努力と不屈の精神が欠かせません。遠隔型教育において、卒業研究を完遂することには心理的にも難しいところがあると思いますが、焦らず、粘り強く、頑張りましょう。

人間と文化コース	河原　　温	専門：ヨーロッパ中世史・都市史

1．指導方針

卒業研究は、大学生活の締め括りとして、自らの関心に従って研究課題を設定し、先行研究を踏まえながら、自分なりの結論を導く一連のプロセスといえるでしょう。歴史特に外国史の研究は、外国語の習得という課題があり、可能な限り現地の国の言葉を学びながら取り組んでいただくのが理想ですが、日本史、外国史を問わずまずは歴史学の方法論（史料の読み方や文献の利用の仕方等）を学び、自分の追求したい問題を、納得のいくまで調べて、それを自分の文章として表現することが大事ではないかと思います。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門は、ヨーロッパ中世・ルネサンス期の都市史、社会史です。特にネーデルラントの都市社会における様々な団体（ギルドや兄弟会等）に属した人々の相互のつながり、絆の在り方を研究しています。ヨーロッパの歴史を都市史の視点から再考することをめざしています。

3．指導領域

専門は、ヨーロッパ中世史ですが、広く西洋史（ヨーロッパ史、アメリカ史）及び西洋文化史、宗教史に関するテーマで卒業研究を希望される方を中心に、ご相談に応じます。

4．指導のプロセス

卒論研究の指導は、オンライン（Zoom）でのゼミを基本とします。ゼミは、隔月１回のペースで、土曜日ないし日曜日に行います。ゼミでは、各自の卒業研究の原稿の一部を報告する形で行います。ゼミ以外では、随時メールによる指導を行います。

5．履修者への希望・その他

ゼミへの参加者は、外国史特にヨーロッパ（アメリカ）史で卒業研究をまとめる方が中心となると思いますので、日本語の研究文献だけではなく、外国語（特に英語）も可能な限り勉強していただきたいと思います（外国語の文献を利用できることが望ましいですが、もちろんそれが必須条件というわけではありません）。

放送大学の外国文学、外国文化研究（人類学等）の科目をできるだけ受講しておいてください。

人間と文化コース	小二田　章	専門：（近世）中国史・東洋史・史学史

1．指導方針

学校における「学び」は、講義や教科書・教材を通して知識・技術などを身につけていくものですが、大学生活の仕上げ・最終確認である卒業研究は、自分で設定した研究課題を調べ考え結論を出すという、それまでとは異なる作業になります。歴史の研究においては、過去の「事実」を可能な限り「自分で明らかにする」ことが求められます。この「明らかにする」作業の有効な手順・方法を学び、それを過去の史料とそれが作られた時代・地域に即して遂行していくことが、卒業研究を行う上

で必要不可欠な要素です。このような過程を経て卒業研究を完成させることこそが、最大の「学び」ではないかと思います。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門は、近世中国史（11 世紀宋代～ 19 世紀清朝）で、特に宋代に始まり現在も伝統が続く「地方志」（地方を描く総合的書物）の編纂とその背景を中心に研究しています。主なフィールドとしては、南宋の臨時首都・臨安であった杭州という都市です。また、地方志に影響を受ける形で東アジア全域に広がった同様の書物を「地方史誌」と定義し、それらを含めた世界史上の地方を描く書物の比較史の構築を目指しています。

3．指導領域

専門は中国史ですが、東アジア漢字文化圏の歴史、さらには広く東洋史（欧米アフリカ以外の地域）のテーマで卒業研究を希望される方のご相談に応じます。

4．指導のプロセス

卒業研究の指導は、ゼミと個別指導を併用いたします。ゼミ（同じ指導教員の学生が集まるグループ討議）は、基本 Zoom による Web 会議にて行います。ゼミは、最初に卒業研究の方向性確認、文献・史料の探し方などチュートリアルを行ったあと、各自の卒業研究の原稿の一部を報告し討議する形で行います。実施日程・会場などは、学生と相談の上決定します。ゼミ以外では、随時 Zoom またはメールによる個別指導を行います。

5．履修者への希望・その他

前述の最初のゼミの時に説明しますが、自分のやりたい卒業研究の内容がどこまで明らかにされているのか、を理解するのが大変重要と思います。ぜひ、先行研究を探す努力のほか、関連しそうな放送大学の科目（他地域の歴史、同地域の歴史以外も含む）を受講しておいてください。

また、ゼミへの参加者は、外国史またはアジア交流史で卒業研究をまとめる方が中心となると思います。日本語の研究文献以外にも可能性をひろげるために、外国語（対象となる地域の言語、英語）もできれば受講しておいてください（外国語の文献を利用できることが望ましいですが、もちろんそれが必須条件というわけではありません）。

人間と文化コース	近藤　成一	専門：日本中世史

1．指導方針

歴史を楽しむ方法は好き好きでいいと思いますが、一歩踏み込んで学問として研究するというのであれば、史料に基づいて立論するという方法が必要になりますし、また歴史学に限ったことではないのですけれども、学問という形式によって著述を行うのであれば、先行研究を踏まえて課題を設定することが大切になります。論文を書くというのは、このような学問の手続きを実際に踏まえるということですね。この経験をすることによって、自分自身の学問をしているのだという実感を得られると思います。

実際に自分で論文を書くという経験をみなさんにしていただくために、研究史の検討、史料の分析、得られた知見にもとづく考察、論文の執筆というそれぞれの段階を進める上での助言を、みなさんご自身の具体的な研究課題に沿って行います。

2．専門領域と主な研究方法

日本史学は古代・中世・近世・近現代という 4 つの時代ごとの領域に分かれており、それぞれ別のコミュニティを形成しているのですが、私は中世史のコミュニティに属しています。自分自身の研究の中心は鎌倉時代の政治史、制度史で、古文書の残り方から古文書を残した制度の実態を明らかにし、制度の変化から政治の動きを読み取るという方法を主要に用いています。

2016 年 4 月に本学に着任するまでの 34 年間は、東京大学史料編纂所において『大日本史料』第五編（1221–1333）の編纂に従事していました。本学に着任してからは、『歴史のなかの人間（'22）』『古代中世の日本（'23）』などを担当しています。

3．指導領域

日本史学は杉森哲也教授（近世史）と 2 人で担当します。したがって中世以前を対象として研究することを希望される方の指導を担当させていただきます。

4．指導のプロセス

ゼミと個別指導を併用いたします。ゼミというのは、指導教員を同じくする履修者が集まって、グループ討議をする場で

す。履修者各人が自分のテーマについて発表を行うとともに、他の履修者の発表を聞き、相互に意見を述べて、議論するわけです。自分はこう思うというだけではなくて、自分がこう思うという内容をほかの人が納得できるように説明できてこそ学問として成り立つわけですから、自分の研究を他人に説明すること、他人の研究を聞いて理解することがとても大切です。ゼミは修士課程、博士後期課程に所属する学生と合同で行います。修論･博論の準備をしている方々の話を聞くのも、得がたい機会です。

ゼミは原則として、オンライン会議システム（Zoom）を利用して行います。

5．履修者への希望・その他

先行研究をきちんと読むことがまずは大切です。一つの論文を読むことで、そこに引用されている別の論文への手がかりが得られますし、論文から論文へと芋づる式に関係論文を渉猟していきながら、ご自身の研究テーマについて、どのような史料を用いて、どのようなことが論じられているかがわかってきます。それによってご自身の研究テーマもより具体的になり、考察の焦点もしぼられてきます。

それともう一つ。先行研究を中心に論文を読み進めていくことで、お手本になる論文を発見してください。このような論文を書けたらいいなという論文を見つけることができたら、それをまねてみましょう。学問は先人を模倣することから始まります。もちろん模倣は盗用とは異なります。研究倫理の問題にも十分注意を払いながら、適切に模倣することは十分有意義だと思います。

なお、「人間と文化コース」に属する先生方は、それぞれ専門を異にしても、土台となる方法は共通しています。ですから、日本史で論文を書くと決めておられる方でも、杉森先生や私が執筆した部分だけではなく、コースのほかの先生方がお書きになったところもお読みになると、すごく参考になりますよ。

人間と文化コース	杉森　哲也	専門：日本近世史

1．指導方針

卒業研究は、人間と文化コースにおいて、重要な意味を持っています。卒業研究に取り組むということは、課題を設定し、それを論証し、結論を導くという一連の過程を、自分自身で行うことを意味します。受け身の学習とは全く異なる、自ら進める学習ということになります。その経験は、今後の学習・研究において、大きな財産となることでしょう。私の基本的な指導方針は、卒業研究すなわち論文を作成する際の基礎的な方法をきちんと身につけ、その後も自分で学習・研究を進めて行けるようにすることです。

2．専門領域と主な研究方法

日本史学の場合、まず古代・中世・近世・近代という4つの時代区分に基づく専門領域があります。さらにその専門領域の中で、政治史・経済史・社会史などの分野に専門が分かれます。私の専門領域は近世史、すなわち16世紀後期から19世紀中期までの歴史です。そしてその中で、三都（江戸・京都・大坂）を中心とした都市社会史を専門としています。

3．指導領域

人間と文化コースにおける日本史学の専任教員は、近藤成一特任教授と私の2名です。近藤先生の専門領域は中世史、私の専門領域は近世史です。このため近世史の中の諸テーマについて、指導をお引き受け致します。

4．指導のプロセス

卒業研究の指導は、オンラインでのゼミを基本とします。具体的には、4月からゼミを開始し、以後毎月1回のペースで10月まで行います。曜日は土曜日または日曜日です。

5．履修者への希望・その他

指導はオンライン（Zoomという無料アプリを使用します）で実施します。このため、①パソコンがネットに接続していること、②パソコンにはwebカメラとマイクが附属していることが、卒業研究履修のための必要条件となります。

人間と文化コース	高木　和子	専門：日本古典文学、平安文学、源氏物語

1．指導方針

文学は読んで楽しむものです。一方で、知識が増えたり、批評の方法を知ったりすることで、より深く理解が進み、面白さが増すものでもあります。卒業研究では、文学作品を対象に研究し、論理的な文章で論じることが求められます。自身の素朴な読書体験を冷静に客観的に整理し、自らの言葉で表現することを通して、対象を別の形で表現し直す楽しみを味わっていただければと思います。

2．専門領域と主な研究方法

日本古典文学、ことに平安文学を研究の中心としています。10 世紀から 11 世紀にかけて成立した『古今集』『伊勢物語』『源氏物語』など、その後の文学史にも大きな影響を与えた和歌や物語が主な研究対象です。個々の作品の内部の表現、テクストの配列や構成や構造などの分析を通して、その背後に見通せる時代の思考や文学史的状況を明らかにすることに関心を持っています。

研究の方法としては、対象とするテクストを読んで、表現に即して誠実に向き合うことを心がけており、理論先行型の研究ではありません。研究成果の発信の形としては、学術論文、注釈書、一般書等を手掛けており、授業のほか講演などを通しても随時発信しています。

3．指導領域

2に記した通り、平安時代の和歌や物語を専門とするため、それらに影響を与えた古代の文学や、影響を受けて生まれた後代の作品などを得意としますが、そのほか、日本文学なら何でも一応のご相談に応じます。奇をてらった方法に走るのでなく、作品自体をよく読んで、その読解や分析を中心とするのが、文学研究の基本だと考えています。

4．指導のプロセス

オンラインでの研究指導を基本とします。

5．履修者への希望・その他

文学関係の科目を幅広く受講し、日本文学全般についての知識や文学研究の方法についての知見を多く身につけてください。

人間と文化コース	滝浦　真人	専門：言語学・日本語学・コミュニケーション論

1．指導方針

放送大学での学習の総仕上げとして、決められたテーマの学びという枠を越え、自分で決めたテーマでの研究をまとめたい――そう思った人のために「卒業研究」はあります。でも、挑戦はしたいが、最後までやり通せるだろうか？――期待も大きいけれど不安も大きいのが「卒業研究」でしょう。

それもそのはず、一応「標準」とされている分量で 2 万字（ワープロ打ちで 25 枚）の長さがあり――そんな長い文章を書く機会は一生の間でもそうありません――、しかも、考えてみたいテーマはあっても、何をどうすれば「研究」になるのか、皆目見当がつかない――「研究」なんてしたことがないのが普通です――という人も多いと思います。

その不安を一つ一つ解消しながら論文が完成されるのを見届けるために、「指導教員」はいます。研究には「方法」があります。それを踏まえながら一歩ずつ進んでいけば、真面目な「研究」になります。指導教員はそのプロセスの指導に当たります。「創造的」な研究である必要はありません。プロセスを踏んでみたい人、挑戦してみませんか？

2．専門領域と主な研究方法

専門は言語学ですが、“仕組み”よりは“働き”、“構造”よりは“機能”への関心が強く、「語用論」と呼ばれる領域を中心に研究しています。なかでも、言葉と対人関係についての関心（「ポライトネス」という言葉を使います）を強く持っています。

3．指導領域

自分の専門は上に述べたとおりですが、指導可能な範囲は広く、言語学や日本語学、コミュニケーション論に関わるテーマであれば、対応可能な場合が多いと思います。

成功の秘訣は実はテーマ設定にあります。ですので、お考えのテーマや方法が現実的か（自分自身が楽しめるか）どうかを

判断するために、事前にご相談いただくのがいいと思います。卒業研究申請書を出す前に、質問票や面接などを申し込んでください。

4．指導のプロセス

指導の形式は、人数や所属センターの場所などを見てから決めますが、基本的にはZoomによるオンラインでの指導とします。人数が多い、あるいは場所が比較的近いといった場合はゼミ形式にするかもしれません。そうでなければ、個人指導を基本にして進めていきます。

プロセスは、研究計画の作成から、先行研究のレビュー、自分なりの考察、そして全体的な考察と結論、へと進んでいきます。メールや面談を適宜取り入れながら指導します。

5．履修者への希望・その他

指導教員は「よき立会人」でありたいと思っています。完成までのプロセスはコミュニケーションのプロセスでもあります。それを楽しむ気持ちを持ってもらえたらと思います。

人間と文化コース	鶴見　英成	専門：博物館学・アンデス文明論

1．指導方針

人間が作り出したモノ全般、すなわち物質文化を研究対象とする履修生を想定して述べます。大学教育を通じて物質文化に対する見方を育て、それを結実させたものとして、私は卒業研究を位置づけます。

博物館を例にとって説明しましょう。昆虫や岩石は、人間の作ったものではありません。だからその価値・意味を人間が決めることはできません。自然史系の博物館では、館のポリシーに合致する資料ならば、無尽蔵に収集することが望ましいとされます。しかし人間が作り出す道具や美術品などの物質文化は、人間のものなので、人間が価値・意味を判断します。文化史系の博物館や美術館では、収集する／しないという判断がなされます。ある人にとっては宝物でも、別の人にとってはゴミ、といった事態が起こりうるのが物質文化です。

自身が関心を寄せる物質文化について、なぜ追求する意味があるのか、客観的に語れるようになって下さい。その言葉に説得力があれば、着実な学習を積んだ上で研究の入り口に立っていると評価し、その先のサポートをさせていただきます。

2．専門領域と主な研究方法

中央アンデス地域における独自な文明のなりたちについて、とくに工芸品や自然環境などの物質的側面から研究しています。放送大学においては博物館学関連科目を担当します。主としてコレクションを分析する立場から博物館と関わってきましたが、その過程で展示公開や情報発信などの実験・実践を積んできました。

3．指導領域

物質文化の研究について指導できます。モノじたいについて掘り下げるのみならず、社会的な意味を問う視点を求めます。

博物館に関する研究、とくに資料論、資料保存論、展示論、情報・メディア論の分野は指導可能です（ただし自然科学分野や工学分野に関する高度な専門性を要する課題は対応できないことがあります）。教育、政策、地域連携といったテーマは必ずしもカバーできないかと思います。

なお専門とするアンデス文明論については、一次資料がないためレビュー論文に限ります。スペイン語・英語の精読が必須となります。

4．指導のプロセス

研究テーマの概要と、それに即した具体的な研究計画、参考文献一覧を提出していただきます。それらを検討して方針を定め、個別指導に移ります。基本的にはオンラインでのゼミ形式で指導を行います。

5．履修者への希望・その他

どのようなテーマを探求しても良いのですが、比較的短い期間に成果をまとめる必要がありますので、漠然としたアイデアの段階にとどめず、必要なデータの収集や議論の見通しなどについて、ある程度の準備を進めてから臨むようにしましょう。

人間と文化コース	野崎　　歓	専門：フランス文学・翻訳論・映画論

1．指導方針

自分の関心のある対象について、あれこれ調べ、くわしい情報を得る。それは日々の暮らしのうちでだれしも、多かれ少なかれ、行っていることでしょう。

卒業研究の基盤にも、そうした個人的な興味にもとづく知識への欲求があるべきです。しかしながら、それを卒業研究として価値あるものに発展させるためには、三つの事柄が重要になってくるはずです。

①学術的な知識を深めること：インターネットで得られるような知識に留まることなく、重要な文献を広く参照し、その分野の研究がどのように進展してきたかを知る。

②論理的な構成を整えること：単に感想を綴ったり、調べたことを羅列的に記したりするのではなく、研究論文としての明快な論理、論旨を練り上げる。

③文章表現を磨くこと：論文の実質をなす「言葉」自体を、人に読んでもらうに値するレベルにまで推敲する。

以上の3点を心がけるならば、大学生活の総まとめとして、充実した研究成果を仕上げることが可能になるはずです。指導においてもこれらの点を中心に、研究の進展のためのお手伝いをするつもりです。ただし最も大切なのは学生の自発的な意志であることは、忘れないでいただきたいと思います。

2．専門領域と主な研究方法

狭義の専門はフランスの文学、とりわけ19世紀のロマン主義、および現代小説です。同時に小説作品の翻訳にも力を注ぎ、18世紀から21世紀まで、幅広い作品を紹介してきました。そこから、日本文学における翻訳文学の位置や、海外文学の影響といった問題にも関心が広がり、谷崎潤一郎や井伏鱒二、大江健三郎に関して考察を試みました。

同時に、映画および映画史にも専門的な関心を抱き、フランスの映画批評家アンドレ・バザンの仕事に注目してそのリアリズム論を研究するかたわら、ジャン・ルノワールや香港映画に関し著作を発表してきました。文学作品の映画化、アダプテーションの問題にも関心を寄せています。

文学・翻訳・映画という三つの領域のあいだを揺れ動きながら研究を続けていますが、根本にあるのは個々の「作品」とできるだけ真剣に向かいあい、そこから豊かなものを汲み上げたいという願望です。

3．指導領域

2で示したような当方のこれまでの研究領域に合致する研究であれば指導できます。

4．指導のプロセス

まず卒業研究のテーマを確定させるために、話しあいを重ねる必要があるでしょう。それ以降の段階においても、個々の希望や必要にしたがって相談に応じ、指導を行います。個別の指導はE-mailないしZoomで行います。また研究発表のためのゼミを原則として月1回Zoomで開催します。

5．履修者への希望・その他

文学その他、芸術全般に広く親しんでいること、そして放送大学の文学・人文学系の科目を多く受講していることを希望します。「作品」に対し素直に心を開き、「作品」と活発な対話を営む姿勢が大切です。

人間と文化コース	船岡 美穂子	専門：西洋美術史

1．指導方針

卒業研究は、大学で学んだ成果をさらに応用・発展させた、重要で価値あるものです。

論文を執筆するとは、テーマを自分で設定し、資料を収集して研究史を丹念に把握し、自らの問題提起に沿って調査して、明確な論述を組み立て、結論を導きだすということです。小説や随筆、感想文とも異なりますし、また、各講義で課されて勉学の内容をまとめるレポートとも異なります。従って、最初に経験する学術論文とも言うべき卒業研究には、形式・内容ともに守るべき約束事、手続きがいくつもあります。それは時として厳しく、また煩雑なものと感じられることがあるかも知れません。しかし、論文作法を身につけて論理的に思考し、文章を鍛錬し論述することを通じてしか得られない、学問的な深い理解と喜びとをぜひ経験していただきたいと思います。卒業研究が完成した暁には、きっと芸術作品がこれまでとは違った

ものに感じられるでしょう。さらには物事に対する見方そのものも変わっているかも知れません。

とりわけ日本ではしばしば、芸術作品というものは感性だけをたよりにして鑑賞すれば良いと捉えられる傾向が否めません。もちろん、芸術作品を自由に楽しんで鑑賞することも一つの方法ではあるでしょう。しかし、自己満足にとどまることなく、卒業研究を通じて学術的・専門的なアプローチを学ぶことで培われる、知性と感性の両方を働かせて芸術作品をより深く味わう術は、財産になることでしょう。

2．専門領域と主な研究方法

美術史を専門としています。狭い意味での専門領域は、18 世紀フランス美術史です。方法論としては、様式・図像学的分析による作品研究、また当時の文書をはじめとする史料の実証的調査、そして作品をとりまく芸術批評や作品所蔵者等を対象とした受容史研究をはじめ、複数のアプローチから研究を行っています。

3．指導領域

専門は西洋美術史ですが、広く美術史全般のテーマの指導を担当いたします。また、美術史と関連のある文化史のテーマを希望される方からのご相談にも応じます。

4．指導のプロセス

毎月 1 回程度を目安として、本部あるいは東京文京学習センター等に全員集まっての対面形式、もしくは Zoom によるオンライン形式での指導を行います。ゼミ形式をとり、各々の受講生が発表を行い、意見を交わしながら進めます。発表は各自、自分が選んだテーマについて、参考文献を読んで研究史をまとめたり、卒業研究の原稿を報告したりする形で行います。自分の調査研究を他者にわかりやすく伝える力を養うとともに、他の受講生の発表、それに対する意見、また指導の内容をよく聞き、理解することもとても重要です。

5．履修者への希望・その他

人文学の研究は、時間も手間もかかりますが、様々な文献を読み、考察を重ねながら文章を練り上げてゆくプロセス自体が楽しいものです。

卒業研究の段階では、まずは先行研究の成果をしっかりと咀嚼して、研究史を理解することがとりわけ重要です。優れた参考文献を読むことを通じて、知識が広がるばかりでなく、他者の思考の道筋をたどることで、方法論や論述法をあわせて学ぶことができるのです。日頃から積極的に芸術作品に親しみ、それらについての書物をお読みになり、そして他者の意見にも柔軟な姿勢で向き合い吸収しながら、興味関心を広げていただきたいと思います。

あわせて、ご自身のご関心やテーマと関連のある科目、また放送大学の哲学、歴史をはじめとする科目を多く履修しておくことが望ましいです。

また、以下の書物をあらかじめ入手して、少なくとも序章から第 4 章までを 4 月までにお読みになってください。人文科学の分野で論文を書くことがどういうことであるか、その意義と方法論が詳しく説明された優れた書物です。

斉藤孝・西岡達裕著、『学術論文の技法：新訂版』、日本エディタースクール出版部、2005 年（1977 年初版）

美術史特有の専門的な論文作法につきましては、ゼミで具体的にご説明いたします。

人間と文化コース	宮本　　徹	専門：中国語学

1．指導方針

論文としての卒業研究は、これまでの読書・学習の延長線上に位置しつつも、それがあくまで論文であるために、そこには何らかの学問的“新しさ”が求められるものであると考えています。その“新しさ”とは、(1) 結論の新しさ、(2) 用いる資料の新しさ、(3)（たとえ結論は先行研究と同じであっても）論証方法・過程の新しさ、のいずれかではないでしょうか。このような卒業研究をまとめるためには、まず研究対象についての先行研究を十分に踏まえ、現時点で何がどの程度まで明らかになっているかを正確に把握する必要があると思います。

言うまでもなく、研究対象は各人がそれぞれの興味に従い決めてゆくべきものですが、その興味を卒業研究として結実させるためには、上に述べたような基本的手続きを踏むことが大切です。そのための助言を与えていくこと、これが私の指導方針です。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門は文献学的手法による古代中国語の音韻体系の研究です。資料としては主に『説文解字』・各種韻書（発音字典）などの伝世文献と、近年、考古学的発掘によって得られた出土文献資料を扱っています。

3．指導領域

主として中国語音韻史・音韻学史および出土文献資料。または中国語学全般。あるいは中国関連のさまざまなテーマについてもご相談に応じます。

4．指導のプロセス

まずテーマを確定させるにあたって、お互い話し合いながら進めていきたいと考えています。構想が具体化すれば、それ以後は個々の希望に添う形でご相談に応じていきます（東京文京学習センターにおける面接、および郵便・E-mail 等による通信指導）。また、これは人数次第ですが、もし可能であれば研究発表のような形でのゼミを開くことも考えています。

5．履修者への希望・その他

中国語を研究対象とするには、やはり中国語（特に現代中国語）の読解力を備えておく必要があります。また言語研究の一環としての中国語研究には、ある程度の言語学的知識も求められるでしょう。

それ以外の分野では必ずしも中国語の能力は必要とされないかもしれませんが、できるだけ多く関連分野の書物を読んでいただきたいと思います。

人間と文化コース	宮本 陽一郎	専門：英語圏文学、カルチュラル・スタディーズ、映画研究

1．指導方針

Open-mindedness を旨とします。履修者の関心・問題意識に対して開かれた心で接したいと思います。指導教員とは異なる研究領域、異なる着想、異なるアプローチ、異なる立場を歓迎します。

同様に履修者は、他の履修者や指導教員からのフィードバックに開かれた態度で接してください。

2．専門領域と主な研究方法

最も狭い意味での専門領域は、20 世紀アメリカ文学ということになります。これを出発点として、アメリカ合衆国のモダニズム文化およびポストモダニズム文化について、文学だけではなく映画・写真・絵画・音楽・建築などを幅広く扱う、学際的な研究を行ってきました。

研究方法という点では、新歴史主義に基づく歴史資料の調査・読解を基本とした、カルチュラル・スタディーズを行っています。

以上から明らかなように、専門領域に閉ざされた研究よりも、他の領域に開かれた研究を心がけてきました。

3．指導領域

専門知識に基づく指導が可能な領域は、アメリカ文学研究、アメリカ文化研究、映画研究、文化理論です。

学際的な文化研究という立場から、英語圏文学研究、アメリカ研究、大衆文化論、比較文学研究、グローバル文化論、近現代文化論、メディア論、教育論など、文化に関する研究を幅広く指導します。

4．指導のプロセス

論文の書き方についてマニュアルを配布し、これに基づき問題設定、アウトライン作成、情報収集、本論執筆、注記・参考文献リスト作成、序論・結論執筆などの方法について、Zoom による自由参加のミニレクチャーを行います。

論文の途中原稿については、Zoom と電子メールを併用した添削指導を行います。可能な限り Zoom を利用できる環境を整えておいてください。Zoom による個人指導は、随時可能な限り予約を受けつけます。

まとまった結果が出たところで指導を受けようとすると、多くの場合指導を受ける機会を失することになります。むしろ進展がない時に積極的に Zoom による個人指導を受けるよう心がけてください。

5．履修者への希望・その他

放送大学の学生にふさわしいユニークなアプローチに基づく、幅広い説得性をもった卒業論文を期待します。

人間と文化コース	森　　一郎	専門：哲学・倫理学・思想史

1．指導方針

みずから学び、調べ、考えたことを、一定の長さの文章にまとめることは、大学での勉学において非常に重要です。何より、苦心して書き上げた作品は、一生の宝物となります。卒業研究は、卒業に必須ではありませんが、だからこそ学生としての自由な学びの締めくくりとして、かけがえのないものです。

卒業研究に取り組むには、最善のテーマを選ぶことが大事です。自分はいかなる問題関心をもち、何を研究したいか、まずじっくり考え、これと決めたらもうあとには引き返さず、一途に追究していくことです。ただし、自分の思い込みだけでは論文にはなりません。先人たちが考え、後世に伝えられてきた優れたテクストに身をさらして、自分の未熟な考えを鍛え、批判的に見つめ直すことが、肝腎です。

皆さんのそのような険しくも愉しい学びが成就できるよう、いささかなりともお手伝いができればと思っています。

2．専門領域と主な研究方法

私は、哲学、倫理学、思想史を学んできた者です。とりわけ、現代に遠くない三人の哲学者、ニーチェ、ハイデガー、アーレントについて研究してきました。『ツァラトゥストラはこう言った』、『存在と時間』、『活動的生』との出会いは、それぞれ、私の人生を決定するほどの重みをもちました。彼ら先達から刺激を受けて、自分なりに現代日本における哲学の可能性を探究しています。実際の生活経験の場と古今の壮大な思索とを行き来する往還のスタイルを、私は「日々是哲学」と呼んでいます。

3．指導領域

私の狭い意味での専門は、西洋近現代哲学史です。それと関連するかぎりで、近代日本思想史についても研究しています。古代ギリシア哲学やキリスト教思想も、専門とは言えませんが、関心の的です。政治思想や宗教思想、科学技術の問題にも関心を寄せています。そうした問題関心を貫いているのは、いかに生きるべきかという倫理的問いです。その問いを共有しつつ卒業研究の指導に携わることができればと考えています。

4．指導のプロセス

まずテーマや題材について個別に相談したのち、卒業研究ゼミを定期的に設定して、順次発表してもらうことを予定しています。対面で集まるのが理想ですが、オンラインでの開催になる可能性が高いです。

5．履修者への希望・その他

難解な哲学書や思想書を読むのは骨が折れますが、読み解けたときの爽快感は格別です。ふだんから書物に親しみ、考えたことを文章に書き留める習慣を身につけてください。スマホ漬けやAI頼みでは思考停止に陥りますので、気をつけてください。

オンラインでのゼミ開催のために、Zoom 会議に円滑に参加できる環境をご用意ください。

情報コース

放送大学の卒業研究のあらましについては全体の中でも示されていますが、そのエッセンスは、受身的な学習とは異なる能動的な研究の価値と言うことができるでしょう。例として、放送授業科目をとりあげましょう。放送授業科目における学習は、言うまでもなく、放送教材と印刷教材を学習しその内容を理解することが基本で、通信指導および単位認定試験による「確かめ」がこれを補強します。その他にシステムWAKABAには、学生と教員、さらには学生同士のコミュニケーション手段も用意されていますが、基本的には受身の、ともすれば孤独になりがちな学習環境ということができます。これに対して卒業研究では、第一にテーマの選定や研究を進める際の能動性が求められます。と言っても難しい話ではなく、自分が興味をもったこと、もう少し深く知りたいと思ったこと、そして何らかの意味で明らかにしたいことを選べばいいのです。卒業研究の第二の特徴は指導する指導教員の存在です。単に時々質問に答えてもらうばかりでなく、研究全般について指導を受けることができるのです。それでは順を追って卒業研究について説明します。

◎テーマを選定する

情報というキーワードは、現代では世の中のありとあらゆる事柄につけられていますので、テーマを選ぶ範囲はかなり広いと思ってください。その中から研究テーマを選ぶ訳ですが、重要なことは、自分が興味をもって取り組めるテーマであることです。この場合、普通の授業のように「教わる」、「学習する」という態度ではなく、何かを明らかにすることが興味の中心でなくてはいけません。ただこう言っても、半年程度でまとまる研究のテーマを選ぶのはなかなか難しいものです。難しい問題だと思って選んだテーマがほとんど自明のことがらであったり、また逆に、ちょっと思いついたテーマが専門の研究者のライフワークとなるような難しいものであったりします。ここで登場するのが指導教員で、学生さんのバックグラウンドや興味、それに研究期間に応じて、テーマを選んだり絞ったりする手伝いをします。

◎研究を進める

いくら興味をもっているからと言っても、そのテーマに関する予備知識や関連分野の文献等を何も知らない状態では、研究を進めるどころか開始することもできないでしょう。テーマを決めたら、そのテーマについてこれまでにどのような取り組みがなされてきたか、どのようなことが明らかとなり、どのようなことがまだ解っていないかということを把握します。このためには関連するいろいろな先行研究にあたる必要がありますが、それらを理解するための予備知識が必要な場合には、まずそれを学ばなければいけません。扱おうとするデータの数理的構造を理解するための数学理論や、様々なデータの集まりを分析する手段となる統計手法、シーンを認識するための画像処理、といったものや、教育効果を測る方法、大量のデータを蓄え検索する方法、人間の認知について解っていること、などが、選んだテーマに取り組むための予備知識の例となります。このように書くと何かとても大変な一大事業のようですね。実際に、本格的な学術研究に取り組む場合には、このような準備が必要になりますし、研究を進めていくうちにも新たに必要になるのが普通です。卒業研究でも大筋は同じです。ただしここでも時間的な制約がありますので、必要最小限の作業にならざるを得ないでしょう。どのように研究を進めるか、また、研究の進展に応じてテーマをどのようにして絞り込んでいくかについては、指導教員がお手伝いをすることになります。

◎研究をまとめる

研究がある程度の段階まで進み、まとまる可能性が見えてきたら、その内容をきちんと他人にも分かるようにまとめていきます。実はこれがなかなか難しい作業で、自分がわかっていることを他人にきちんと提示するのは容易なことではありません。とくに研究の成果の場合は、広く一般に知られている事実ではなく、自分なりの研究を行った新しい結果を示すわけですから、難しさも一段と大きなものになります。最終報告会での発表のやり方にも、工夫が必要となります。これについても、指導教員の指導のもとで力を尽くすようにしてください。大切なことは、この発表段階もまた、卒業研究の重要な要素であることを充分に認識しておくことです。

◎卒業研究はお薦めです

以上の説明でお分かりだと思いますが、卒業研究は放送大学の通常の科目の学習とはかなり異なります。講師の先生の講義を聴いたり実習をしたりする面接授業とも違います。ある意味では大学院での研究指導の色合いを持っていると言ってもいいかも知れません。

このように卒業研究は、放送大学での学習の締めくくりとして、自己の学習・研究能力を再認識する意味でも、履修する

ことを強くお薦めできる科目です。どうでしょう、やってみませんか。

なお、実際に行われた卒業研究の一部は、システム WAKABA から参照することができます。先人の例を参考として考えてください。

情報コース

専門分野	氏　　名	掲載頁
情報コミュニケーション学・教育工学	青木久美子	85
数理工学	秋光　淳生	86
マルチメディア情報学	浅井紀久夫	86
認知科学	大西　　仁	87
教育工学	加藤　　浩	88
教育工学	近藤　智嗣	88
教育工学	芝﨑　順司	89
計算機科学	鈴木　一史	90
情報学・情報教育学	辰己　丈夫	90
教育工学	辻　　靖彦	91
メディア教育・情報教育	中川　一史	92
要求工学・ソフトウェア工学	中谷多哉子	92
情報環境学	仁科　エミ	93
情報工学・教育工学	葉田　善章	94
教育工学・インストラクショナルデザイン	平岡　斉士	95
デザイン学・情報デザイン	伏見　清香	96
情報工学	柳沼　良知	96

情報コース	青木 久美子	専門：情報コミュニケーション学・教育工学

1．指導方針

放送大学での教育・学習は、ともすると教員からの一方向的な知識付与に陥りがちであり、学生は教員が伝達することを受動的に受け入れることになりがちです。しかしながら、卒業研究では、学生自らがテーマを設定し、授業科目で学んだ知識を生かしながら、自ら情報収集を行い、それを評価・分析し、論理立てて構成して論文にまとめる、というプロセスが必要となってきます。ある意味では、これは学びの究極的な形であり、このプロセスなしでは、学生は本当に学んだとは言い難いほど、大学における学びにおいて重要なものであると考えます。

授業科目を受講していく過程において、また日々生活を送るにあたって生じる様々な問題意識を、仮説やリサーチクエスチョンという形でテーマを設定し、それを検証する、あるいは答えを見つける、という基本的な意味での「研究」を行うスキルは、卒業してからも必ず役に立つスキルであります。そういったスキルが身に付くよう指導していきたいと思います。

2．専門領域と主な研究方法

自身の長年の研究を通していつも根底にあるものは、新しい情報通信技術（ICT）がもたらす影響やその効果的な活用方法です。もちろん、ICT そのもののある程度の理解は必要ですが、ICT の技術そのものよりも、それと人間や社会との関わり合いに興味を持ってきました。技術はあくまでも中立的なツールであり、それを使う人間や社会が、技術にどのような可能性や意味合いを持たせるのかを決定するのであると考えます。そういう観点から、ICT と人との関わり合いのあらゆる側面を研究してきました。最近では、教育分野での ICT の活用に関する研究が主となってきましたが、以前は、大学生の携帯電話活用に関する研究や、インターネット上の商取引等の研究も行いました。米国で修士号・博士号と取得し、また、その後、米国の大学で10年程の教員生活を過ごした後に帰国したため、文化的な差異に関しても大変興味があります。用いる研究手法としては、トライアンギュレーション（量的・質的手法の両方を用いること）を理想としています。

3．指導領域

指導可能な研究領域としては、情報通信技術（ICT）や情報メディアと人や社会に関する社会・人文科学的アプローチ全般にあります。例えば、次のようなトピックが挙げられます。

- ICT や情報メディアが個人の生活や人間関係に及ぼす影響
- ICT の教育・ビジネス・コミュニティにおける活用
- ICT や情報メディアが社会（教育・ビジネス・コミュニティ等）に与える影響
- ソーシャルメディアの活用・影響
- メディアリテラシーやジェネリックスキルに関する研究

研究に用いる手法は、定量的な実証研究から、質的な研究まで、あらゆる手法を使います。リサーチクエスチョンの答えを見出すためにどういった手法をとるのが一番適切であるのか、それを選定するのも研究プロセスにおける重要な要素の一つであると考えます。

4．指導のプロセス

放送大学の学生は有職者であるケースが多く、放送大学のモットーでもある「いつでも、どこでも」学ぶことができる環境をできるだけ保ちたいと思いますので、学生数が少ない場合は学生の都合に合わせて個別指導を行うことも可能です。しかしながら、学生同士で学びあうことも大学における学びの大切な場の一つであると思いますので、対面やネット上での学習会を定期的に開きたいと思います。対面の学習会に参加することが難しい学生に関しては、Web 会議システムや、Skype、Facebook、Zoom といったインターネット上のツールを介して、同期・非同期で指導を行っていきたいと思います。卒業研究の時間は限られているため、出来るだけ効率よく行えるよう指導したいと思いますが、それには学生本人の自主性・自律性と熱意も欠かせないことを忘れないようにしていただきたいと思います。

5．履修者への希望・その他

卒業研究にあたって陥りやすい問題として、壮大な研究テーマを掲げすぎることが往々にしてあります。研究をするぞぉ～と意気込むと、どうしてもそうなりがちなのですが、卒業研究にかけられる時間は限られていますし、学生として研究に使えるリソースも限られています。そういった制約の中で、現実的に論文といった形でまとめられるように、テーマを絞り込んでいくことが大切です。テーマを絞り込んで、明確なリサーチクエスチョンを提示できることが卒業研究を成功させる

大きな第一歩であると言っても過言ではないでしょう。日頃抱いている問題意識を研究テーマとしてできるだけ具体的な形で表現できるように、情報を収集しておくことが必要です。

情報コース	秋光　淳生	専門：数理工学

1．指導方針

実際に卒業研究を始めてみると、卒業研究を行う半年間というのは、思っている以上短いものです。「何かやらなければならないけれど、どうして良いかわからない」という状態で、考えているうちにあっという間に時間が過ぎてしまうということもあります。そこで、指導にあたっては、Web 会議などでの進捗報告を元に、「次に何をしたら良いのか」ということを見つけてもらう、そのためのお手伝いができるようにと考えています。

2．専門領域と主な研究方法

数理工学を専攻し、その中で脳のモデルについて研究をしてきました。脳において情報がどのように表現されているのか、どのように学習が行われているのかということについて、計算機シミュレーションを行いながら研究を行ってきました。

また、こうしたことの工学的な応用として、現在は非常に多くのデータが得られるようになりました。そうしたデータから有用な情報を取り出すか、というデータマイニングといった分野に関心を持っています。

3．指導領域

データから情報を取り出すといった手法ということを主な対象としますが、放送大学における情報化の仕事をしてきましたので、E ラーニングなどに関することも対象としたいと思います。

4．指導のプロセス

場所は東京の学習センターを利用し、大学院生を交えて月に 1 度ゼミを行っています。距離が遠い場合には Web 会議にて参加してもらっています。その他、情報共有の場としてゼミ用に LMS を利用しています。

5．履修者への希望・その他

連絡にあたっては、E-mail や LMS を利用します。インターネットに接続したパソコンを使える環境にあることを希望します。また、卒業研究というのは課題をこなすのとは異なり、主体的に取り組むものです。ですから半年間かけて形になるものを残そう、という強い意識が必要です。

情報コース	浅井 紀久夫	専門：マルチメディア情報学

1．指導方針

大学では専門性を身につけると共に、幅広い知識を習得します。卒業研究では、こうした専門性や知識をベースにして、自らが打ち立てた研究課題に取り組むことにより探求する力を養います。自主性を尊重し、研究課題に取り組む中で生じる問題を解決するための支援を行います。自らやりたいと思った内容を研究するのがよいのですが、その実現性も考える必要があります。文献調査や論理的な文章の書き方など研究に必要な基盤を身に付け、研究への基本姿勢を理解していただきます。

2．専門領域と主な研究方法

視覚、聴覚、触覚などへのマルチメディア処理による情報可視化によって情報の認識性を向上したり、センサからのデータを深層学習等の手法で処理することによって操作を最適化したりする研究をしています。これまでの主な研究として、骨格に基づいて人間の行動を認識したり筋電信号を用いて動作を推定したりするシステム、拡張現実感や触知感覚を利用したインタフェースの開発、没入型ディスプレイによる 3D インタラクション、映像音声による遠隔コミュニケーションの支援などが挙げられます。人とコンピュータをつなぐヒューマンコンピュータインタラクションに関心を持っており、人に関わる問題を、文理融合的な視点で新しい技術や手法によって解決していきます。

3．指導領域

映像・音声・文字といったマルチメディア情報の処理、特にイメージメディアに関わる領域、生成 AI や深層学習に関連する領域を指導可能です。また、機械学習を用いた分類や予測、データを収集・分析してその特徴や特性を抽出し、モデル

化するような取り組みは幅広く扱うことができます。

4．指導のプロセス

指導は、Web会議でのゼミを実施して行います。このゼミで研究進捗状況を報告してもらったり、学生さん同士の情報交換の場を設けたりします。また、日常的な情報交換は電子メールで行います。ゼミは月1回程度、複数人であるいは個別に、状況に応じて実施しています。

5．履修者への希望・その他

楽しく研究していきましょう。そのためにも、コンピュータを扱うための基本的知識を習得していることが望ましいです。卒業研究を成功させるコツは、研究の目的を明確にし、研究の内容を具体的にすることです。この明確化や具体化のプロセスで、研究テーマが多少変容していくことも考えられます。柔軟に対応する心構えと、可能な限りの下調べがあるとよいでしょう。

情報コース	大西　　仁	専門：認知科学

1．指導方針

少なくとも私の専門分野の研究論文は、その研究テーマがなぜ重要で、過去に何がなされて（明らかにされて）きて、何がなされて（明らかにされて）おらず、それに対して自分はどのような方法でアプローチし、どのような成果が得られたか（何が明らかにされたか）を明確に述べる必要があります。研究は自分の興味から始まりますが、研究成果を人に伝える時には、自分の研究の位置づけが重要です。卒業研究、卒業論文の作成では、このような研究のプロセスと論文のフォーマットも学んでもらいます。

2．専門領域と主な研究方法

専門は認知科学です。これまでの主な研究テーマは、推論（帰納と類推）、視覚誘導性の身体動揺、発音学習、技能学習、触覚、視聴覚間の感覚統合、音の協和感覚です。これらの研究テーマには、純粋に科学的探究を目指したものも工学的応用を強く意識したものもあります。

上記の研究のほとんどは、実験法に基づく実験による研究です。実験法に基づく実験というのはおかしな表現ですが、条件を統制した対照実験ということです。また、実験データの解析、理論構築やシミュレーションのために数理モデルを用います。用いるモデルは、統計モデル、微分方程式モデル、ニューラルネットワークなど様々です。

3．指導領域

私自身の研究テーマに近いほうが有効な指導を行えると思いますが、ヒトの認知の情報処理メカニズムを探る研究であれば、感覚・知覚から社会行動まで指導します。また、ヒトの認知やその周辺（人工知能など）のモデルに関する研究も指導できます。場合によっては、担当授業科目に関連する数理モデルに関する研究も指導します。ただし、研究テーマは、パーソナルコンピュータ、ビデオなど、学生が個人で用意できる装置で実施可能なものとします。

研究は、実験、モデル構築、自作あるいは既存のコンピュータプログラムによる計算のうちから1つ以上の方法をとることを想定しています。

4．指導のプロセス

実験研究であれば、遅くとも6月中には研究テーマと方法を決め、7月中には実験を開始し、9月に入ると論文執筆を始めなければ提出期限に間に合わないと思います。

指導は、月1回程度のゼミ形式の集団指導、個人指導、あるいは両方とします。どの方式をとるかは状況に応じて決めます。ゼミはWeb会議等で遠隔地からも参加できるようにします。ゼミでは、学生が進捗を報告し、それに対してアドバイスを与えます。個人指導は、電子メール、Web会議、可能なら対面により行います。

5．履修者への希望・その他

放送大学の卒業研究は実質半年程度の期間しかありません。このような短期間で卒業論文を完成させるには、事前の準備が重要です。自分が研究したいことに関する科目を履修したり、文献を読んでください。先行研究を知るためには学術論文を読む必要があります。学術論文を読むことは研究方法や論文の書き方を学ぶ上でも役に立ちます。また、文書作成やインターネットサービスの利用等、コンピュータの基本的なスキルは必須です。

情報コース	加藤　　浩	専門：教育工学

1．指導方針

「学習とは何か」という問いに対しては様々な答えがあり、それを学習観といいます。一般的な学習観は「学習とは知識を増やすことだ」というものですが、私はそれに与しません。私は「学習とはコミュニティに参加してそこでのアイデンティティを確立していく過程である」という立場（専門用語では正統的周辺参加論といいます）をとっています。したがって、卒業研究もゼミというコミュニティへの参加を重視して指導を進めて行きます。ゼミでは、学生同士が互いに批判し合う（ただし、あたたかく建設的に）という雰囲気を大事にしたいと考えています。

ゼミはテレビ会議システム，連絡はチャットアプリと e-mail を使いますし、卒論はワープロで書いていただきますので、パソコンとインターネット環境は必須です。

2．専門領域と主な研究方法

情報通信技術の教育活用に関する研究開発を行ってきました。簡単にいえば、コンピュータやインターネットを使って、教育の質を向上させる研究です。その中でも、特に協調学習（コンピュータを人間同士を結ぶメディアとして活用する研究）を中心にやってきています。これまでに行ってきた研究テーマの一部を挙げると

・プログラミング教育用のゲーム開発
・学習者の相互評価支援システム
・プロジェクト学習の支援システム
・ドリル教材の適応的問題選択アルゴリズム
・プレゼンテーション教育の支援方法

などがあります。

研究アプローチは、アンケートや計測値などの量的データと発話や自由記述などの質的データの両面から攻めるということを特長にしています。

3．指導領域

教育工学に関する研究テーマならばだいたい指導可能です。学習・教育は学校教育に留まらず、広い意味に解釈していただいて結構です。ただし、思弁的な研究ではなく、実証研究であることを望みます。つまり、何か文献を読んで、それを考察するタイプの研究ではなく、何か自分で調査したり実験したりしてデータを得て、そのデータをもとに議論するようなタイプの研究です。必ずしもコンピュータやインターネットを活用する研究でなければならないということはありません。

4．指導のプロセス

月に一度程度のペースで行うゼミが主な指導の場になります。テレビ会議での出席も含めてゼミへの出席は必須です。ゼミでは、全員が進捗の発表を行い、全員で問題点を検討します。自分の研究だけでなく、他のメンバーの研究についても親身になって検討することが非常に学習になりますので、そういう態度で参加してください。ゼミのスケジュールはメンバーの都合を聞いて決めます。その他には必要に応じて e-mail での個人指導を行います。

5．履修者への希望・その他

最初に壮大なテーマを掲げてしまい、自滅するケースがよく見られます。自分の研究フィールドや卒業研究に割けるリソースをよく考えて、実現可能なテーマに絞り込んでください。また、研究に必要な知識は紹介しますが、それを学ぶのは自律的に行うことを求めます。

情報コース	近藤　智嗣	専門：教育工学

1．指導方針

卒業研究のテーマを決める時は、悩まれる方も多いのではと思います。初めのうちは、テーマを絞りきれず、つい大きなテーマになってしまいがちです。まずは、これまでの卒業研究テーマの例を見てみましょう。具体的にテーマが絞られ、タイトルからだけでも内容をある程度予測できるものが多いことがわかると思います。このテーマの絞り方が研究のオリジナリティにつながります。これまで勉強されてきたことを土台として、自分自身で考え出したオリジナルなアイデアを少しでも

盛り込むこと、これが研究の醍醐味だと思います。そして、研究で使用する素材を作り、十分に計画をたてて実験や調査を行い、得られた結果から何が言えるのか、と考えをめぐらす過程も研究の楽しみです。

この自分の考え出したアイデアや分析した結果を公開するのが研究です。この研究成果が、やがて他の人の研究に引用されるなどして、つぎの研究につながっていくことは、この上ない喜びになると思います。卒業研究は、その最初のステップです。難解な言葉を使う必要はありません。わかりやすいグラフや表、わかりやすい文章の作成方法、分析の方法なども身につけてください。

2．専門領域と主な研究方法

専門領域は複合現実感や展示学になります。これらの領域の中でも特に学習と関連した研究を行っています。学習には、人と人とのコミュニケーションがもちろん重要ですが、メディアによってさらにコミュニケーションの機会を増やしたり、学習の効率を高めたりすることが可能です。私はこれらをめざして、近年は、複合現実感（ミクストリアリティ）という技術を展示に応用する研究等を行っています。研究方法としては、できるだけ客観的なデータを分析して考察するために、学習者の操作や行動を記録し分析する方法を行っています。

3．指導領域

映像、バーチャルリアリティなどのメディアを利用した教育に関連することなど、ご相談に応じます。

4．指導のプロセス

通常はメールでの連絡が中心になると思います。月１回のペースで進捗状況を報告していただき、コメントを加えることになります。月ごとの目標を定め、スモールステップで着実に進めていきたいと思います。進捗状況の報告は、大学本部（千葉）などでの面談かWeb会議システムなどで実施することになります。

5．履修者への希望・その他

最初から研究テーマを絞ることは難しいと思います。まずは、図書館のWebサイトにリンクされているCiNiiなどを利用して、ご自身の興味のある研究論文をいくつか探してみてください。そして、どんな方法で研究されているかを調べておいてください。

情報コース	芝﨑　順司	専門：教育工学

1．指導方針

卒業研究は大学で学ばれたことの集大成です。お忙しい方も多いかと思いますが、普段書く機会があまりない、まとまった分量の文章を論理的に展開しながらまとめていく経験をするよい機会です。ご自身で考えられた卒論のテーマを尊重しながら、一緒に考えて筋の通った研究にしていけたらと思います。

2．専門領域と主な研究方法

コンピュータやモバイルを利用したオンライン学習やコンテンツの評価に関するシステムの開発やその評価に関する研究を行っています。最近では特に映像教材のような時間軸をもったメディアに対する学習者、受け手からの感性的評価をフィードバックするシステムの研究開発を行っています。研究開発だけにとどまらず、実際に開発したeラーニングやWebアンケートのシステムの運用を行っていて、放送大学の提供するeラーニングの運用にもかかわっています。また学習者のメディアリテラシーにも興味をもっています。

3．指導領域

メディアやシステム・ネットワークの教育利用、受け手や送り手としてのメディアリテラシーなど。テーマにあった適切な研究法や調査法をともに考えていきます。

4．指導のプロセス

約月１回のペースでの個別の指導を基本としますが、必要に応じて集団での学び合いの機会も設けます。また状況に応じて随時メール等を利用した指導も加味します。指導はZoomやメールを利用したオンラインで行います。

5．履修者への希望・その他

ご自身が楽しんで取り組める、興味や関心のあるテーマを選び、先行研究を十分踏まえた上で、自ら考え、取り組むことを希望します。

情報コース	鈴木　一史	専門：計算機科学

1．指導方針

まず“勉強”と“研究”の違いについて考えてみましょう。一般に“研究”では、新規性・オリジナリティといったものが必要になります。いきなり、大研究をしようというわけではありませんが、何らかの新規性が見つけられるような研究テーマで、卒業研究が進んでいけばと思います。なお、卒業研究履修日程を見て頂くとわかるように、履修開始から卒業研究報告書提出までの時間が短くなっています。通常、卒業論文は400字の紙で図や表を含めて、50枚前後の分量になります。作成にはそれなりの時間がかかりますので、日程や締め切りに注意して履修してください。

2．専門領域と主な研究方法

計算機科学

3．指導領域

計算機科学全般を扱いますが、特に2次元画像処理や3次元コンピュータグラフィックス関連。ただし、履修者のみなさんが、本当にやりたいと思っている研究テーマを設定するのが一番良いと考えています（ただし、卒論研究として成り立つ内容でなくてはなりません）。

幾つか関連のありそうなキーワードを以下に列挙します。

アルゴリズムとデータ構造、プログラミング言語、画像処理、マルチメディア情報処理、コンピュータグラフィックス

4．指導のプロセス

インターネットを利用したWeb会議システムやE-Mailの利用を考えています。年数回程度の対面授業、卒論ゼミ発表、他の卒論ゼミとの合同発表会等（幕張あるいは東京都内）を行う予定です。

5．履修者への希望・その他

卒業論文を作成するにあたり、必須ではありませんが、コンピュータプログラミング、統計ソフトウェア、科学計算ソフトウェア等に関する簡単な知識があると良いでしょう。

情報コース	辰己　丈夫	専門：情報学・情報教育学

1．指導方針

私自身が大学生のときは、大学での研究は「先生が講義した専門知識を要約し、先生の意図に合うように構成しなおすこと」ではなく、「先生の講義をヒントにして自ら新しい知識を求め、様々な資料を調査し必要なら演習や実験も行って、自ら見出し先生に伝えていくことである」と、誰となく教わっていました。

自分で考えることができるようになること、そして、考えることが重要であるということを自分自身で認識することができるようになることを、卒業研究の目標とします。

2．専門領域と主な研究方法

(1) 情報教育学：情報学の知識を新たな学習者が学ぶための適切な発達段階に応じた方法や、その教育現場の状況、インフラストラクチャーなど。具体的には、主に高等学校の共通教科「情報」や、大学初年次の情報リテラシー教育に関連する項目と、教育機関におけるコンピュータシステム・ネットワークの整備、および管理・運営に関する項目です。他に、音楽と情報教育、アスペルガー症候群と情報支援について研究経験があります。

(2) 情報科学：計算科学、計算量理論、数理論理学、定理自動証明など。

(3) 情報セキュリティ・情報倫理学：情報セキュリティ上の問題点の解決、CIOなどの責任者が持つべきジレンマへの態度、著作権法、個人情報保護、情報に関する哲学的考察。

研究手法としては、発想、調査、理論化、実証などの手順をたどる実験科学的な手法を取りますが、数学的な内容についてはその限りではありません。

3．指導領域

私の研究領域に関連する内容を対象としますが、やや広く考えて頂いても構いません。たとえば、中学校や専門学校などにおける数学教育や理科教育の情報化や、アスペルガー症候群の学習者に対する情報教育なども担当できます。

4．指導のプロセス

原則として個別にLMSなどのシステムやメールを利用して行いますが、必要に応じてZoomなどの遠隔システムや、学習センターなどでの直接の面談や数名によるゼミを行うこともあります。できるかぎり、隔週程度で進捗を報告して頂き、卒業研究の完成を目指します。

5．履修者への希望・その他

冒頭に書いたように、研究は教員から与えられるものをまとめるのではなく、教員から指定された内容を自ら調べ、自ら学ぶことで達成されるものです。履修して欲しい科目としては、自らが研究したいテーマについての基礎科目としますが、その単位を取得していなくても、その分野において高校で学ぶ程度の内容をある程度まで学んでいれば大丈夫です。

情報コース	辻　　靖彦	専門：教育工学

1．指導方針

大学教育において、卒業研究は重要です。なぜなら、学生の皆さんが自ら本や文献を用いて背景を調べ、現状の問題点を洗い出し、解決するための仮説を立て、必要に応じてシステム開発を行い、評価実験によって効果を検証する、といった主体的な活動が求められる数少ない機会だからです。研究には授業のように明確な目標や解答がある訳ではないので、研究を進めることは簡単ではありません。従って、論文提出までには様々な苦労や困難があることも多いです。

研究において、私は2点、大切と感じていることがあります。1つ目は、「自分の好きなことを研究テーマにする」という点です。上で述べたように研究を進めるには主体的な努力が求められますので、自分自身が常日頃から興味を持っていること、知りたいこと、明らかにしたいことに関するテーマを設定することが、推進させる力に繋がると私は思います。もちろんどんなテーマでも良いという訳ではなく、研究テーマには新規性や実現可能性が重要ですので、話し合いながら決める必要があります。もう1つは、「対話を大事にする」という点です。「主体的な学習活動」と何度も書いていますが、研究において、指導教官や別の教員、ゼミ生など様々な人と自身の研究に関する議論をすることで、新しい考え方やアプローチに気づいたり、知らなかった情報や文献を教わったりといったことが多々あります。「主体的に活動する」という言葉の中には、「色々な人と対話をする」という意味合いも含まれていると私は考えています。

色々と書きましたが、研究は困難もありますが、楽しいものでもあります。一緒に作り上げていきましょう。

2．専門領域と主な研究方法

私の専門分野は教育工学です。「教育工学」とは、あまり馴染みの無い言葉かもしれませんが平たく言うと、「どうすれば教育や学習がより効果的・効率的になるか、又はおもしろくなるか」ということをなるべく科学的・工学的な分析手法を用いて明らかにしていく、比較的新しい研究領域です。教育工学では、教育現場における複雑な状況を扱うために、情報工学、心理学、学習科学、統計学など他のさまざまな学問分野のやり方を時に大胆に借りることがあります。特に最近では、ICT（情報コミュニケーション技術）を用いて教育を支援する研究が増えてきています。私自身の研究でも、教育利用のための検索システムの開発や、学習システム及びコンテンツの開発及び実践研究を行っています。ICTの技術面だけではなく、ICTが人の学びや振る舞いにどのような影響を及ぼすか、と言う点にも興味を持っています。

3．指導領域

2．で述べた領域の他に、教育工学、Web、音楽教育に関する研究全般。

4．指導のプロセス

日常的なやり取りは主に電子メールを用います。それに加えて月に一度程度の定期的な打ち合わせやゼミを行いながら研究指導したいと考えています。関東ではない学習センター所属の学生の方については、テレビ会議やビデオチャットを用いてゼミに参加してもらうことも考えております。ゼミについては、情報コースの共同のゼミに参加してもらう予定です。

5．履修者への希望・その他

基本的なコンピュータリテラシーは必須です。その他に情報学、教育学、心理学、統計学に関連する知識があるに超したことはありませんが、必須ではありません。

情報コース	中川　一史	専門：メディア教育・情報教育

1．指導方針

初等中等教育の教育現場やそれに関するところに籍を置いていたり、興味をお持ちの方で、さらに自身の興味関心を高めたいと思っている方を特に応援しています。また、自身の卒業研究が、初等中等教育にどのように還元できるかをぜひ念頭においていただきたいと思います。

2．専門領域と主な研究方法

主な研究テーマとしては、初等中等教育におけるICT活用やメディア教育、情報教育に関心をもっています。また、デジタル教材等の開発についてもテーマとなります。

3．指導領域

初等中等教育におけるICT活用やメディア教育、情報教育に関する内容になります。特に電子黒板や情報端末などの機器活用、デジタル教科書・教材の活用、情報教育におけるカリキュラム、さらに情報モラルなどについての実践的研究や調査研究について。

4．指導のプロセス

指導はE-mailによるものが中心となりますが、個別あるいはグループ指導を行います。できるだけ面接指導も入れながら進めていきたいと考えています。

5．履修者への希望・その他

自ら積極的に課題をもち、調べ、考えを形にしていくことが重要です。そのために、研究テーマに関連する文献をレビューしておくことをおすすめします。

情報コース	中谷 多哉子	専門：要求工学・ソフトウェア工学

1．指導方針

ソフトウェア工学は、開発を工学的に行うための研究分野です。「工学的に行う」とは、開発活動をツールなどによって支援することで、活動の生産性を高め、成果物の品質を高めることをめざし、活動を観察し評価し、改善を行うことを意味します。同様に、要求工学は、要求仕様書という成果物の開発を工学的に行う研究分野です。

卒業研究では、ソフトウェア開発において興味のある、あるいは解決したい課題を一つ見つけて頂きます。その課題の背景を理解し、様々な解決策の中から、適切な解決策を探していきましょう。また、その解決策を適用することによって課題を解決できたということを、どのようにして証明するかについても検討を重ねます。たとえば、プログラムを作って開発の支援を行うことが、解決策になるかもしれません。あるいは、開発成果物を定量的に分析することで、開発プロセスの問題点を発見することができるかもしれません。この場合は、問題を発見することが、「問題が不明である」という課題を解決するための策となります。

ソフトウェアの開発現場では課題が山積していると言われています。まず、課題を見つけることから指導を始め、ディスカッションによって、課題を絞り込んでいき、解決策を発見していきます。

2．専門領域と主な研究方法

私はソフトウェア工学、特に、オブジェクト指向分析手法、モデル化技術、要求抽出に関心を持っています。たとえば、オブジェクト指向分析手法は、ビジネスを分析し、可視化する技術として応用することができます。ビジネスを分析することで、ビジネス活動を支援する情報システムの要求を発見することも可能となります。これまで、要求を抽出するために、RODANと名付けたビジネス領域の分析手法を開発しました。

ここで、要求抽出技術に関する課題を紹介しましょう。企業におけるソフトウェア開発プロジェクトを失敗させる原因の中に、要求抽出や獲得の失敗が挙げられています。しかし、これまで要求獲得がどのように行われ、どのような要求の変更がどのような時期に生じていたのかは、あまり調査されてきませんでした。また、ソフトウェアの開発では、アジャイル開発と呼ばれる繰り返し開発が提唱されるようになっています。しかし、要求獲得をプロジェクトの初期に完了させるように開発計画が立案されているプロジェクトは少なくありません。この問題を解決するために、実際のソフトウェア開発プロジェ

クトの議事録を解析することで、要求獲得プロセスを可視化する研究を行っています。要求獲得プロセスの可視化がツールでも支援されるようになれば、要求獲得プロセスを計画し、予実管理することも可能となります。

3．指導領域

ソフトウェア開発の課題解決を指導可能な領域といたします。以下にキーワードを列挙します。

- モデル化技術
- 要求獲得、要求の仕様化、シナリオ分析、ゴール指向分析
- プロジェクト計画、遂行、管理に関する手法
- 支援ツールの開発
- レビューの計画、実行、管理に関する手法
- ソフトウェア工学、要求工学の教育技術

4．指導のプロセス

提出までのスケジュールは以下のとおりです。

- ～ 6月：課題発見と解決シミュレーション
- ～ 9月：解決策の開発と卒業論文の執筆開始
- ～11月：論文添削と課題解決策への更新と検証

指導は、原則として、ネットワークを介した集団によるゼミを行い、ディスカッションを中心に研究を進めていきます。

5．履修者への希望・その他

必須ではありませんが、Java、C++、その他のオブジェクト指向プログラミング言語のうち、いずれか一つの使用経験を期待します。また、以下の書籍を読んで、課題に取り組むための基礎知識を身につけておいてください。

- （全員）
  - ＊ ソフトウェアエンジニアリング講座1、日経BP、2007。
    - ＋ 講座1の1章、2章、および興味のある章
- （プロジェクト管理の課題に取り組む場合）
  - ＊ マネジメント知識体系ガイド、PMI、第4版以降。
  - ＊ ソフトウェアエンジニアリング講座2、日経BP、2007。
- （要求工学の課題に取り組む場合）
  - ＊ 情報サービス産業協会編、要求工学知識体系、近代科学社、2011。

情報コース	仁科　エミ	専門：情報環境学

1．指導方針

卒業研究では、自ら問題を設定し、その解決のために調査・計測・実験などを行って得られた情報をまとめあげることになります。このような経験は、とりあげたテーマについての理解を深めるだけでなく、新しい問題を発見しそれを自らの手で解決する実力を養うことにつながります。問題発見能力・問題解決能力を磨く場として卒業研究を捉え、その支援をしていきたいと考えています。

2．専門領域と主な研究方法

情報環境学とは、＜物質＞、＜エネルギー＞の概念に＜情報＞を加え、これらが有機的に一体化したものとして環境を捉える発想の枠組のもとに構成される比較的新しい学問領域です。化学反応によって情報処理を行う脳のなかでは、物質と情報とが同じ作用をもつ場合があり、特定の物質の投与や欠乏で引き起こされる反応が、特定の情報の投与や欠乏によって同様に引き起こされる事例が知られはじめました。つまり、ある種の情報は、物質と同じように脳に作用する可能性があるわけです。こうした観点から現代社会の健康・快適・安全・安心への取り組みをみると、物質・エネルギー領域での対策が成熟しているのに対して、情報領域の対策は立ち遅れを否めません。とくに、ビタミンのように人間の健康な生存になくてはならない＜必須栄養素＞に相当する＜必須情報＞については、その存在可能性すらこれまで本格的に検討された形跡をみることができません。

私はこのような問題意識を共有する研究グループの一員として、メディアを介して伝達される音響や映像などのメディア情報が人間に及ぼす影響を、脳科学や生理学・心理学の手法で捉える研究をしています。そのなかで、森林の自然環境音やある種の楽器音などに含まれている人間の可聴域上限をこえる高複雑性超高周波をともなう音が、脳幹・視床・視床下部を含む脳の最高中枢＜基幹脳＞の活動を劇的に高め、環境適応や生体防御を司り健康と深く関わる＜自律神経系・内分泌系・免疫系＞、そして美しさ快さを司り感性や芸術と深く関わる脳の＜報酬系＞の活動を連携して向上させるポジティブな効果を持つことを見出しました。複数の指標で統計的有意に見出されたこれらの効果を総称して、＜ハイパーソニック・エフェクト＞と呼びます。一方、都市環境音や多くのデジタルメディアの音には、こうした効果をもつ超高周波成分がほとんど含まれていないこともわかりました。そこで、可聴域をこえる超高周波の基幹脳活性化効果を応用し、都市環境やメディア情報環境の改善をはかり、＜脳にやさしい情報環境＞を実現するための研究にも取り組んでいます。

3．指導領域

情報環境と人間とのかかわりに関連する研究関心に、できるだけ幅広く対応したいと考えています。ただし、情報環境学のような新しい領域では、文献研究によって明らかにできることには限界があるといわざるをえません。それよりも、視聴覚環境情報の計測・分析、生理・心理学の手法を用いた実験など、実証的な一次データを自ら収集・分析して卒業研究をまとめることをお奨めします。

4．指導のプロセス

当初は、都内の学習センターでの対面指導と電子メールを活用した遠隔指導を併用し、研究のテーマや方法を絞り込みます。それを踏まえておこなう各種の計測・分析や実験は、その内容に応じて適切な設備のある場所で実施することになります。個別指導を基本としますが、相互に研究成果や進捗状況を報告し議論するゼミも行います。

5．履修者への希望・その他

研究指導を受けるためには電子メール、実験結果を分析するためには表計算ソフトウェアなどを使いこなす必要があります。パソコンの基礎的な操作ができるよう心がけてください。

情報コース	葉田　善章	専門：情報工学・教育工学

1．指導方針

卒業研究は、大学でこれまで学んできた知識や経験などをベースに、主体的に研究テーマに取り組む学びの機会です。受け身ではなく、自ら考え、不足する知識を文献などで補いながら取り組む姿勢が大切になります。

研究を始めると時間を経つのが早く感じると思います。熱意を持って取り組まれる皆さんの研究がよりよいものとなるよう、研究指導のアドバイスをしていきたいと思います。

2．専門領域と主な研究方法

情報工学の知識をベースとし、教育に役立つツール構築に関する研究をしてきました。近年では、ユビキタスコンピューティングやクラウドコンピューティング、IoT（Internet of Things、モノのインターネット）を意識しながら、モバイル端末やデジタル家電など新しい技術を使った学習環境について取り組んでいます。先行する類似の研究を調べて違いを明確にするとともに、新しいアイデアを取り入れたシステムの提案や有効性を示すことを目指します。

3．指導領域

教育に限らず、ユビキタスコンピューティングやクラウドコンピューティング、IoT（Internet of Things）など、コンピューターを応用したシステム全般を対象とします。

研究テーマを考える際には、さまざまなアイデアが浮かぶかと思いますが、最終的にはゼミなどを通して研究のポイントを絞りながら、卒業研究を行う期間内に達成できる内容をともに考えたいと思います。研究を進めるには、アイデアはもちろん重要ですが、多くの場合、アイデアを具体化するためにシステム開発を必要としますので、すでに何かしらのプログラミング言語の習得をされていることが望ましいと考えます。

4．指導のプロセス

対面での指導がベストだと考えていますが、お住まいの場所や仕事などの事情で、困難となる場合もあるかと思います。E-mail による質問の受付のほか、Web 会議システムなどのツールも活用し、月一回程度はゼミを持つことを考えています。

指導形態は、集団・個別のどちらも良い面がありますので、研究の進捗などの状況を見ながら双方を取り入れます。

卒業研究は、最後に卒業論文としてまとめますが、日々の研究の積み重ねが論文につながります。ゼミでは、口頭だけでなく、文章の形で取り組んだ内容をまとめていただき、論文を書く準備につなげます。

5．履修者への希望・その他

コンピューターの利用を考えるテーマが主になりますので、研究対象とするパソコンやスマートフォンなどの端末を利用できる環境があり、ある程度、開発ができることが望ましいと考えます。プログラミングが困難であっても、自ら学ぶ意欲のある、最新のモバイル技術などに関心がある方も歓迎します。

情報コース	平岡　斉士	専門：教育工学・インストラクショナルデザイン

1．指導方針

卒業研究は、教わることと自身の知識と技能を試すことの両方が求められます。自動車教習所で例えると、路上教習と卒業検定の中間のようなものかもしれません。研究の手法を学びながら、それを自分自身で実際に試していくというプロセスになります。運転（研究）するのはあくまでドライバー（学習者）自身であり、それが順調で問題なければ教員は見守ることになります。もちろん、危険な場合にブレーキを踏んだり、よりよい方法をアドバイスしたりすることはあります。

路上教習・卒業検定と卒業研究の大きな違いは、目的地とルートをドライバー自身が選べることにあります。自分自身が行きたい目的地を決め、そのためのルートを決めていきます。教員は一緒に目的地を考えることや、目的地に達したかどうかの判断するお手伝いをします。運転中には、カーナビのように懇切丁寧に指示はしませんが、一緒に地図を見て一緒にルートを考えることはします。そういう意味で教員はカーナビではなく、助手席に座っているベテランドライバーのポジションです。カーナビに指示されながら運転しても、どんなルートを通ったか覚えてないことがしばしばあります。でも、自分で地図を見て考えながら運転したときは、ルートを鮮明に覚えていますし、何より楽しい経験となります。卒業研究がそのようなものになるよう、助手席からお手伝いさせていただきます。

2．専門領域と主な研究方法

教育工学を専門としています。バックボーンは認知心理学であり、それを応用したインストラクショナルデザイン（ID）という学問領域において、「学習は学習者がするもの」という立場で、いかにして学習者の学習を支援するかを、多様な手段で研究してきました。特に関心があるのは、日常での経験を活用した学び（たとえば、日々の経験を記録するポートフォリオを活用する）、知識ではなく技能（スキル）を独習するための方法論の確立（たとえば、LMSの自動採点テストを使って技能のチェックをする）、行動につなげるための学び（たとえば、マンガやゲームなどを使って心を揺さぶることで行動につなげる）、幼児・児童の公教育を代替する教育方法の確立（たとえば、オープン教育リソースを使ったLMSによる学び）などです。研究方法としては、上記の内容を実現する学習・教育用のシステムやツールの設計をし、それを実際の対象に近い人たちに使ってもらって（形成的評価）、その結果を踏まえて改善していき、そのプロセスでその学習・教育の目的を達成するためにはどのような設計をすればよいかを一般化していく、いわゆるデザイン研究という手法を取ることが多いです。そこでは主に質的分析を行うことになりますが、質的な分析前提として量的分析ができることが必要であると考えています。すなわち、行き当たりばったりに改善をするのではなく、研究計画をしっかりと設計し、何が操作できる要因で、何が制約条件かを明らかにし、その設計に即して上記の改善プロセスを回していくことになります。

3．指導領域

特に自身の職場や生活などにおける教育的課題を合理的に解決する仕組みを設計することを得意としています。教育改善に関わることならば何でも指導可能ですが、その中でも特に大人の学び（個人の既有の知識やスキルを活用する）や独習（非同期型の学習）の設計を得意としています。個人的にICTの利活用が好きなので、既存のICT（必要に応じて新規開発して）を活用して、効果・効率・魅力的な教育・学習を実現する研究を歓迎します。

4．指導のプロセス

基本的には、LMS・チャットツール・Zoomなどを使った遠隔指導になります。オンデマンドの個別指導をベースにしますが、指導学生同士の自主ゼミと教員とのゼミを連動させる仕組みを構築するつもりです。指導学生同士で互いの研究内容についての確認・質問・改善を行い、そこでの成果や疑問点について教員から指導を受けるというサイクルになります。指

導学生同士の自主ゼミは任意参加であり、不参加でも成績や指導内容に影響することはありませんが、参加する方が研究が効果的・効率的・魅力的に進むと思われます。

5．履修者への希望・その他

教員を「えらい人」と位置づけて「教えてもらう」のではなく、教員を「ガイド役」と位置づけて「アドバイスをもらう」という姿勢を持ってもらいたいです。今や、どの教員よりもGoogle“先生”のほうが知識を持っているので、教員と学生の知識の量は大差ありません。教員がGoogle先生に勝っているものがあるとすれば、個別具体的な事例に知識を適用してアドバイスができることだと考えます。ただし、それはあくまでアドバイスであって指示ではないので、最後は学習者本人が責任を持ってアドバイスを採用するかしないかを判断する必要があります。突き放しているように感じられるかもしれませんが、旅人がどこに行って何をしたいのかは旅人しか判断できません。ガイド役はあくまでアドバイスをするだけであり、ガイド役の想像を超えることを旅人が体験し、その体験を教えてもらえるならば、それはガイド役にとっても学習と言えるでしょう。

情報コース	伏見　清香	専門：デザイン学・情報デザイン

1．指導方針

受講者の自主性を重んじながら、研究としてまとめるための指導を行います。研究には能動的な思考が重要ですが、同時に客観的な視点で俯瞰することも大切です。これはデザインの基本でもあります。制作系と論文系に大別し、調査からプレゼンテーション、論文の書き方等、研究のプロセスに沿い、随時アドバイスを行います。ぜひ、積極的に取り組んでください。

2．専門領域と主な研究方法

デザイン学、図学、展示学等の分野で、主に視覚情報伝達を使用したデザインの研究をおこなっています。具体的には、携帯情報端末を使用した鑑賞支援等、人と情報をつなぐデザインの研究です。学生の指導では実際に販売されているパッケージのデザインやラベルのデザイン、ポスターやピクトグラム、マークなど、ユーザーの視点に立ち社会に発信するデザインの指導を実践しています。屋外広告物や都市景観の社会的活動にも関わっており、制作系と論文系に大別し、指導します。

3．指導領域

情報デザイン、空間デザイン、ビジュアルデザインの分野で研究を進めます。

調査からコンセプトの立案、デザインの実践、制作系ではクライアントの前でのプレゼンテーション、論文系では実証実験におけるデザイン評価等、研究成果をプレゼンテーションや論文としてまとめます。

4．指導のプロセス

卒業研究の指導は、E-mailやWeb会議を使用した個別指導、学習センターでの対面、遠隔指導等で進めます。

5．履修者への希望・その他

まず、今までにどのような研究があるか興味のある関連研究を調べてみましょう。研究テーマの絞込みや研究プロセスの参考になります。また、卒業研究は、主にコンピュータを使用して成果をまとめるため、あらかじめ基本操作を習得しておいてください。

情報コース	柳沼　良知	専門：情報工学

1．指導方針

卒業研究とは、自ら研究課題を設定し、その答えを導き出していく場であると言えると思います。研究指導では、このために必要な、論文の書き方や研究の進め方に対するアドバイスなどを随時行っていきますので、是非、主体的に卒業研究に取り組んで頂きたいと思います。

2．専門領域と主な研究方法

情報工学、特に、音や画像、映像といったマルチメディア情報の処理を専門としています。例えば、ドラマ映像や講義映像などの映像処理や、それらに付随する音声やテキストなどの処理、それらを統合することによる検索手法やデータベース化手法などについて研究を行っています。

３．指導領域

画像処理、映像処理、音声処理、テキスト処理、マルチメディアデータベースや、これらと関連のあるテーマについて、工学的な立場から扱うものを主な対象とします。

４．指導のプロセス

基本的には、E-mail や Web 会議システム等を利用した指導を個別に行いますが、必要に応じて、対面での指導や複数での指導を行います。

５．履修者への希望・その他

基本的に、プログラミングに関する知識は必須と考えてください。

自然と環境コース

【卒業研究の勧め】放送教材や印刷教材を通した学習は、どちらかといえば知識を受け取るものです。それに対し、卒業研究では、「自分で問題を設定し」、「解決し」、「まとめる」ことが含まれます。知識は習得しただけではあまり意味をなしません。必要なのは、既存の知識の整理、組み直しを行い、あるいは現実に起きる問題に対して、しかるべき知識を運用し、新しい知識や知見を創り出していくことです。現実の社会には、答えの分かっていない問題がいくらでもあります。そういう問題について判断し、処理する能力が要求されます。そしてそれらはすべて広い意味での研究です。

厳密な意味での「研究」は、世界中でまだ誰もが解決していない問題あるいは提起していない問題について探求し、その解決を目指すプロセスのことです。とは言え、卒業研究の段階で完全に独創的な研究をするのは難しいものです。そこで卒業研究では、比較的簡単な問題をとりあげて、研究の進め方を個別指導によって学びます。卒業研究は必修ではありませんが、研究の姿勢を学ぶことは、放送大学を卒業する際の締めくくりとして有意義です。

【分野とテーマの選定】自然と環境コースでは、いわゆる自然科学と呼ばれている分野を扱っています。環境分野についても、自然科学の立場から、客観的、実証的に取り組む姿勢をとっています。それぞれの分野は、さらに細かい専門に分かれていますが、学部段階ではそこまで考える必要はありません。一般論的な事柄についてきちんとした論文を書く練習をすることは役に立つものです。ただし、特殊なテーマで、当コースの教員で十分対応しかねるときは、ふさわしい分野の先生に指導協力をお願いすることもあります。自分がおかれた環境や条件に応じて、相当に専門的なテーマを選ぶことも不可能ではありません。

卒業論文を始めようとするとき、テーマとして何を選べばよいか悩むところでしょう。自分が常に興味を持っている事柄を選ぶことが、主体的で積極的な研究を進めていくためになにより大切ですが、具体的な研究テーマまではなかなか絞れないかもしれません。成果に到達できるかどうか、といった実行可能性のことも考えなければならないからです。そこで、最初に履修申請するときには、課題名は漠然としたものでも、卒業研究が始まってから、テーマを絞って課題名を変更してもよいのです。

卒業研究の研究期間は長くはありません。準備だけで終わるということがないよう、テーマの選定と着手前の準備が大切です。

【研究の進め方】最終的に選ぶテーマは、問題としてかなりきちんと定義され、具体的なものでなければなりません。そして、その課題は卒業研究期間内に、その段階としての結果を出せるものである必要があります。もちろん、研究の課題は、1つの問題が解決されると次の問題に広がっていくものですから、すべてを一度に解決することはできません。しかし、それぞれの段階で、その段階としての結論をきちんと出して次に進むことを考えるべきです。

研究を始めるにあたって、このように絞った問題も、一度は可能な限り関連問題へと広げてみることが大切です。そして、自分の問題を全体の中で位置づけます。その認識のうえで、絞られた問題の研究を始めましょう。研究の過程は、次の3段階からなります。まず第1段階では、問題を選んで定式化します。第2段階では、その問題について研究を進め結果を出します。第3段階では、出た結果を自分なりの体系にまとめます。

第1段階では、卒業研究が始まった時点で先生と相談しながら進めます。第2段階は、文献を読んで、そのコピーを切り貼りをするだけではありません。どんなに小さい問題でもよいから、なるべく定量的に実証的に、自分で問題を解決するプロセスが大切です。第3段階では、論理構造と階層構造のしっかりしたまとめを作ることが大切です。さらに、研究課題に関わる未解決の課題や、研究成果の関連問題に対する位置づけと将来に向けての方向性も指摘しましょう。

【予備知識】研究を進めるためには、基礎となる知識とリテラシー(素養と論理的思考)が必要です。それらがないと目的とするテーマに近づくことができず準備で終わってしまいます。それらについては、すでに授業で学んできたはずですが、それらを創造的なことについて使ったことがないと、本当に身についているとは限りません。例えば、物理学の卒業研究をするのに必須の、線形代数などの数学を学んでいないという人がいたりします。だからといって、卒業研究ができないというものではありません。必要なら学べば良いのです。基礎的な知識とリテラシーといっても、研究が進むにつれていくらでも高度なものがあり、実際には、研究を進めながら、必要な知識とリテラシーを身につけていけばよいのです。

【実験的研究と遠隔地の履修者】自然科学の場合は、実験やフィールドワークを伴う課題があります。放送大学では、各学

習センターに僅かな設備はあるにしても、卒業研究に十分応えられる程の実験設備や適切な分野の指導者が、必ずしもそろっているわけではありませんし、新たに補充することもたやすくありません。そこで研究テーマによっては、遠隔地である場合も含めて、最寄りの場所の、適当な分野の先生に指導協力を依頼することも考えられます。ただし、これには協力してくれる人を探す事とか、必要な経費とかの問題もありますので、このような事が必要な学生は、なるべく早い時期に、専任教員に相談してください。

【通信手段の確保】通信教育における個人指導には、先生と学生のコミュニケーションをどうするかという問題があります。教育の方からみると、普通の大学とは違って、直接まとめて指導する機会は多くつくれませんので、個人指導に膨大な時間が要る、という問題があります。そこでお願いしたいことは、手間をかけなくても通信できる手段の確保です。電話やFAXは1対1でしか通信できないうえに、電話では、相手がそこに居ないとコミュニケーションが始まりません。実際、一度の連絡をとるのに10回も電話をかけなければならないという事態が頻発しています。先生が1つのアクションですべての学生に一度に連絡できる方法として、Eメールがあります。これは、ミーティングで指導する日時を決める時などに、きわめて有効に機能します。そしてEメールには、どの時間帯でもどこからでも発信したり受信したりできるというメリットがあります。また、Web会議は、対面での指導を置き換える有用な方法です。通常は、Eメールで文書による指導をうけて、重要な局面ではWeb会議で指導を要請するといった使い分けにより、充実したコミュニケーションを確保するとよいでしょう。

教員･学生間だけでなく、学生どうしのコミュニケーションも重要です。放送大学が一般の大学と違うのは、学生どうしのコミュニケーションが少ないことです。一般の大学では学生どうしが話し合って解決を見出すことのできるような質問も、放送大学では、すべて教員のところへ送られ、教員が個々に答えているので、極めて能率が悪いのです。もっと重要なことは、このために、学生が自分たちで自主的に考えることが阻害されているという点です。それを補うために、Eメールなどを使って、学生どうしのコミュニケーションをとってください。これまでの卒業研究グループでも、それは有効に機能しています。

【研究活動上の安全確保】フィールドワーク、観測や実験を伴う課題においては、常に安全確保を考えて研究活動をしてください。この問題はきわめて重大です。なぜなら、卒業研究を行っているときに、不幸にして事故に遭遇することが起こりうるからです。例えば、交通事故、山での遭難、河川での溺死、実験室での機器操作ミスなどの発生には、不注意や準備不足が伴っている場合が多いのです。放送大学では、先生が学生に直接に会って個人指導することがあまりできないため、学生単独でフィールドワークなどを行うのが普通ですが、細心の注意を払ってください。なお、このことには、対人関係も含まれるでしょう。

最後になりますが、自然と環境コースでの卒業研究を楽しくご一緒できることを願っています。

自然と環境コース

専門分野	氏　　名	掲載頁
理論物理学・高密度物質論・天体核物理学	飯田　　圭	100
数学	石崎　克也	100
地球惑星科学・岩石学	大森　聡一	101
景観生態学・環境生態学	加藤　和弘	101
理論物理学・凝縮系物性理論	岸根順一郎	102
数学	隈部　正博	103
生物学・生物情報学	二河　成男	104
理論化学・計算化学・ナノ科学・環境科学	橋本　健朗	104
理論分子科学	安池　智一	105

自然と環境コース	飯田　　圭	専門：理論物理学・高密度物質論・天体核物理学

1．指導方針

物理学のもつ美しい数学的側面と同時に応用の学問という側面を強調することにより、物理学が多種多様な自然現象の理解にいかに役立っているかのみならず、諸問題が未解決のまま残っていることとそれが故の自然研究の魅力をお伝えできればと思います。とりわけ応用の学問としての側面に触れていただきたい。そこで、具体的な対象が題名に書かれた教科書や専門書を読むことからはじめます。対象としては、例えば原子核、天体、プラズマ、超流動などが挙げられます。この作業は基本の反復にもつながるでしょう。そこで培った知識をいかしつつ、ある特定の現象に関する物理的本質を捉えた問題を互いに協力しあいながら設定し、各自問題を解いてもらいます。

2．専門領域と主な研究手法

物質を際限なく圧縮していきますと、超流動相、固相など、多彩な相状態が次々に出現します。このような相転移現象を理論的に研究することにより、高密度物質からなる系（原子核や中性子星）に見られる多彩な現象の本質にせまります。そのために、関連する実験・観測データをよくみることからはじめます。

3．指導領域

自然現象全般。ただし、再現性があることを条件とさせてください。

4．指導のプロセス

柔軟に対応いたします。

5．履修者への希望・その他

履修される皆さんは様々な動機や専門性を有していらっしゃることでしょう。物理の素養を身に着けることにより、政治、法律からせまい意味での産業に至る広範な領域で、演繹的思考、帰納的思考といった科学的なものの考え方、そこからヒントを得るこつなど、実践の中で活かされうる物理学の価値を見出していただきたい、というのが強い願いです。皆さんが主体であることが何より大事と考えます。主体である以上、ご自身の言動には責任が伴います。主体性が発揮されうる環境、即ち自由闊達な雰囲気の醸成を常日頃心掛けたいと思います。

自然と環境コース	石崎　克也	専門：数学

1．指導方針

数学的内容を理解してまとめることを目標にし、必ずしも研究成果としての新規性（オリジナリティー）を要求することはありません。まとめる過程で、既知の定理やその性質を可視化することや、定理の主張を如実に表す例が構成できれば、卒業研究はさらに良いものになると考えています。

2．専門領域と主な研究手法

微分方程式や差分方程式などの函数方程式が専門領域です。特に、複素数平面上で値分布理論を用いて函数方程式を取り扱っています。定理の一般化のみならず、常に具体例の構築にも気を配るようにしています。また、自励系の函数方程式と複素函数の反復合成の関わりを調べ、複素力学系へ応用することも研究対象にしています。複素数平面というキャンバスに、複素函数をクレヨンとして描かれるフラクタル図形はとても興味深いものです。

3．指導領域

解析学全般、特に、複素函数論、函数方程式論（微分方程式・差分方程式）などの学術書や論文を理解して自分の言葉でまとめることを評価対象とします。数学的性質をわかりやすく図式化をしたり、具体例を考案して教材開発をしたりすることも意味のあることと考えています。また、数理科学の諸現象を記述する具体的な函数方程式に注目して調べることも卒業研究のテーマとすることも可能です。

4．指導のプロセス

電子メールを利用して、 研究の進捗状況の確認と指導を行います。また、およそ月1回の割合で個別に面談（対面またはZoom利用）をして研究を進めていきます。卒業研究のテーマの近い学生が複数いる場合は、集団でゼミナール形式を取る場合もあります。対面の会場は放送大学本部または千葉学習センターを予定しています。

5．履修者への希望・その他

数学に限らず、「なぜだろう」と理由を希求する力を、ここでは、希求力と呼ぶことにしましょう。難しい問題にぶつかっても、希求力があれば直ぐにあきらめるのではなく、大変だけど追い求めてみようという忍耐力が備わるはずです。この忍耐力があれば、反省をし、新たな方法を見いだせるでしょう。そして、自分自信を涵養・陶冶していく力になるでしょう。これらの総合的な力が、新たな希求力を創造し、プラスのスパイラルを生み出すことになるのです。微分積分学や線形代数学の知識はもちろん大切ですが、興味を持つ情熱を忘れないでいてください。

自然と環境コース	大森　聡一	専門：地球惑星科学・岩石学

1．指導方針

教養とは、論理的な思考とそれを支える背景の知識を兼ね備えた能力のことであると考えています。地球惑星科学が対象とする時間や空間のスケールは、一見、日々の生活とはかけ離れています。しかし、情報を主体的に収集し、解析し、複雑なシステムの仕組みを明らかにする、という研究内容は、現代社会が必要とする「教養力」に通じる分野です。このような点を理解して、地球史46億年、宇宙史137億年の「ロマン」を、データと論理的な思考で明らかにしてゆく過程の、難しさと楽しさを体験してもらいたい。

2．専門領域と主な研究方法

地球が生命の住む惑星になった原因を、主に、岩石と大気・海洋の境界や、プレートの沈み込む場所で起きる化学反応に注目して研究しています。これらの場所で起きる化学反応は、地表とマントル間の物質循環を支配し、100万年以上の時間スケールにおける表層環境変化に強く関っています。野外調査、岩石・鉱物の観察と分析、相平衡熱力学計算による鉱物の生成・脱水・脱ガス反応の解析、モデル計算などが主な研究方法です。地球で得た知見は、火星や金星、さらに、地球型惑星一般の生命存在可能性の議論に発展させることができると考えています。

3．指導領域

上記の専門分野に、何かしら関連した領域を希望します。野外調査や分析のほかに、ソフトウェアの開発、文献調査による研究の総合化、文献値のデータ解析による研究も可能です。

4．指導のプロセス

主に電子メール、個別面談（研究室またはweb経由）も可能です。必要に応じて、皆さんの居住地にうかがうこともできます（野外調査などを行っている場合）。

5．履修者への希望・その他

英語の文献を読みこなせると、世界が広がります。英文読解の訓練を心がけていてください。地球科学の知識だけでなく、幅広く放送大学の開講科目に興味を持って、論理的に考える、という練習をしてきてください。

自然と環境コース	加藤　和弘	専門：景観生態学・環境生態学

1．指導方針

自然と環境について様々に学んできた内容を踏まえ、独自の調査により新たな知見を少しでも追加して卒業論文としてまとめることを目指します。卒業研究をなさるかたには、調べてみたい、研究してみたい、という意欲と具体的な対象をお持ちであることを希望します。

2．専門領域と主な研究手法

人間の活動は、人間以外の生物に対して様々な影響を与えています。私自身は、ある場所に生息、生育する生物の種組成や種多様性が、生物を取り巻く条件に応じてどのように変化しているのかを、人間の活動に特に注目して研究してきました。従来の研究の多くは、生物にとっての環境条件として、生物が生息・生育しているその場所におけるものを主に取り上げていました。それだけでなく、その周囲における状況もまた、生物に影響していることがわかってきており、景観生態学と呼ばれる研究領域が作られています。この観点からの研究も行っています。

いずれの場合も、調査はまず、設定された対象地においてどのような生物がどれだけ生きているかを調べることから始ま

ります。現地での生物調査が基本ですが、特別な場合として、既に行われた生物調査結果のデータを対象にして解析を行うこともあります。調査対象地としては、都市緑地や農耕地、河川、ため池、植林地、二次林など、人間の影響が何らかの形で加わっている生物生息地を取り上げることが多いです。

3．指導領域

2．に示した内容に関連するテーマであることとします。生物現象のうち個体より大きなものが主体となるもの、すなわち個体、個体群、生物群集、生態系、ランドスケープに関わるものが対象になるテーマであれば、指導は可能です。但し、対象とする生物によっては、私自身も勉強、研究しながらになることもあります。

野外での調査には、時に危険が伴います。また、技術を要する場合もあります。それぞれのかたの状況に応じて、調査対象やテーマ、あるいは調査方法を、ご希望のものから変更することがあるかもしれませんが、あらかじめご承知おきください。

研究にあたって重要な取組として、関連する既往研究のレビューがあります。研究テーマによっては、それだけで半年以上を要する、つまり卒業研究の期間が終わってしまう場合もあります。その場合には、卒業研究報告書は、既往研究のレビューの形でご提出いただくこともあります。レビューといっても、既往研究の成果を要約するだけではなく、そこから研究上の課題や新たな方向性を見出す努力が求められます。

4．指導のプロセス

最初に、面談、Web会議、E-mailなどにより、具体的な研究テーマを決めます。その後も必要に応じて、面談、Web会議、E-mailなどにより指導します。調査方法の指導や調査対象地の選定などで、特に必要な場合には、私が現地に赴く場合もあります。

5．履修者への希望・その他

関心をお持ちの対象生物あるいは対象地が既に具体的に定まっていれば、研究を始めやすいと思います。研究の資料を電子メールによりやりとりしますので、添付ファイルが利用可能なメールアカウントを用いた電子メールを日常的にご利用になっているか、またはファイル転送サービスが利用可能な情報端末のご利用が可能であることが望ましいです。

研究テーマ例としては、以下を挙げておきます。

・都市緑地における鳥類の種組成と植生の構造との関係
・都市市街地におけるハシブトガラスの生息状況を規定する要因
・里山の林の植生管理と植物の種多様性の関係
・河川中流域における付着珪藻の種組成と水域形状の関係
・河川における微小生息場所のありかたと底生無脊椎動物の種組成の関係
・自然環境学習の場としての都市緑地の現状と課題

自然と環境コース	岸根 順一郎	専門：理論物理学・凝縮系物性理論

1．指導方針

科学研究は「探究のサイクル（Inquiry Cycle）」と呼ばれる流れに沿って進められます。具体的には①問いを立てる、②背景を調査する、③仮説を立てる、④解析・実験をデザインする、⑤仮説を試す、⑥結論を導く、⑦研究報告を準備する、⑧批判を仰ぐ、⑨新たな問いが生まれる、となります。これが研究の1サイクルです。特に出だしの「問いの立て方」が重要で、これが研究の成否を分けるといっても良いでしょう。初めて研究の世界に漕ぎ出す学生さんにとって、最大の難関がこの「テーマ選び」でしょう。放送大学の卒業研究では、基本的に学生さんが自分で研究テーマを決めることになっています。そこでまずは、皆さんがご自分の興味関心に基づいて設定されたテーマを上記の科学的方法論のサイクルにうまく載せるサポートから始めます。また、「卒業論文」は必須要素としてイントロダクション、研究方法、結果、考察、結論、引用文献を含まねばなりません。以上の点を踏まえ、テーマ設定の段階で十分議論し、その後の順調な船出をサポートするように心がけます。もうひとつ、科学研究は孤独に進めるものではありません。「対話」を通して思い込みや些細な誤り、思考の停滞を取り除くことが極めて重要です。以上の点を踏まえて、様々な方法で皆さんの研究活動をサポートしたいと思います。

2．専門領域と主な研究方法

物質は、膨大な数の原子核と電子から構成されています。物質中でほぼ定位置を占める原子核に対し、その約1800分の1

の質量しか持たない電子はふわふわと身軽に動き回り、外部からの刺激に対して敏感に応答します。電子は、物質の機能を決める前衛部隊といえます。個々の電子はマイナスの電気を帯びているだけでなく、極微の磁石としての性質（スピン）を併せ持っています。ここで重要になるのが「個々の電子は単純であるが、これらが膨大な数集まることによって予想もつかない全体的性質を現す」という発想で、創発性（emergence）と呼ばれる考え方です。私はこれまで、電子集団の創発性が、物質の電気的、磁気的性質にどう現れるか、という問題に興味を持って研究してきました。現在の研究目標は、カイラル磁性体と呼ばれる一群の結晶を舞台としてスピントロニクスという新しい電子技術の基礎理論を確立することです。研究に用いる方法は、力学、電磁気学、統計力学、量子力学といった物理学の基本的体系に加えて、場の量子論や数理物理的な手法も併用しています。コンピュータを使うのが苦手なので、研究道具は基本的に「紙と鉛筆」です。

3．指導領域

自然科学を理解したいと望まれる方として次の三つのグループを想定しています。①日々の仕事は直接科学と関係しないが、自然現象の仕組みや科学技術の実態を自ら理解したいと望んでいる方、②理科教員、科学館職員など広い意味の科学教育を職業としており、自然科学の体系をより高い立場から俯瞰したいと望んでいる方、③産業界のエンジニアとして研究開発に携わっている（いた）が、専門領域内での行き詰まりを打破するために基礎的な科学理論を学ぶ必要性を感じている方、以上3グループです。例えば「地球温暖化や自然災害と実生活との折り合い」、「効果的な教育方法の開発」、「技術革新へのブレイクスルー」といった問題意識をお持ちの方々が、科学の方法論を学んでご自分の人生を豊かにするサポートが出来ればと思います。この意味で、私自身の専門研究分野には拘りません。また、私自身の守備範囲を越えるテーマについては、私自身も勉強したり、また適切な専門家を紹介するなどして対応します。

4．指導のプロセス

学生さん個々人の事情（居住地域、生活スタイルなど）を考慮の上、面接や電子メールなどの方法を臨機応変に組み合わせて対応したいと思います。特に、「指導方針」の項で述べた科学的探究のサイクルの各段階で、皆さんの研究が順調に進んでいるかを確認しあいながら指導を進めます。

5．履修者への希望・その他

科学研究の原動力は、自然に対する感受性です。他人にとってはどうでもよい自然現象が自分には気になって仕方がない。だから追求せざるを得ない、というのが研究のベースだと思います。自分が執着した問題に自信を持ってまっすぐ立ち向かいましょう。もちろん基礎的な物理学（力学、電磁気学、統計力学、量子力学）と数学（線形代数、解析学）の知識があるに越したことはありません。しかし、「良いテーマ」が設定できれば研究の手法は後からついてくるものです。ともに対話を重ねながら実りある研究生活を体験していただければと思います。

自然と環境コース	隈部　正博	専門：数学

1．指導方針

卒業研究においては、数学の正確な理解を第一とする。研究のオリジナリティーは要求しない。

2．専門領域と主な研究手法

専門領域は数学基礎論。特に帰納的関数論。

3．指導領域

私が指導できるのは数学およびその周辺にある。また数学（あるいは算数）教育といった事を、数学の生徒による理解という面からの研究も評価する。例えばある本の一部または全部読み理解し、まとめる事や、実験、実習によりあるテーマについて調べる事が研究方法となる。

4．指導のプロセス

指導は、Web 会議システムやメール等で行うが、対面の場合、学生との相談の上で場所を決めたいと思う。

5．履修者への希望・その他

特になし。

自然と環境コース	二河　成男	専門：生物学・生物情報学

1．指導方針

テーマの設定から、論文の執筆まで、主体的に行う姿勢が望まれます。その中で、新しい知見や結論を導けるよう努力することが大切です。したがって、小さなことでもよいから、実験や解析を行って得られた結果、あるいは、原著論文のデータに基づいて考えた新しい解釈、新規な解析方法の提案などを、自分の言葉で論文にまとめることを基本とします。

2．専門領域と主な研究手法

専門領域は、生物情報学、進化学、遺伝学です。DNA や RNA、タンパク質といった分子マーカーを用いて、生物の集団から遺伝子までのさまざまなレベルにおける、進化、多様性、あるいは相互作用について実験、理論的解析の両面からおこなっています。

3．指導領域

上に挙げた分野と関連するテーマであることがもっとも望ましい。生物に関わるテーマであれば、一緒に研究を進めながら指導します。

4．指導のプロセス

面談、Web 会議、E-mail によりテーマを確定させることを目指します。その後は必要に応じて、Web 会議、E-mail、電話あるいは面談により指導します。指導の形式は、集団指導と個別指導を組み合わせて行う予定です。その他随時、質問、相談を受け付けており、E-mail や電話等で返答します。

5．履修者への希望・その他

これまで学んできたことを形にすることが卒業研究の目標の一つです。興味や関心が持てる対象をテーマに選び、自らの力で考え、取り組むことを希望します。

自然と環境コース	橋本　健朗	専門：理論化学・計算化学・ナノ科学・環境科学

1．指導方針

卒業研究を通じて、座学で学んできたことの理解を深めることや、学問自身の不完全さに気づき、問題やその解決策への理解が深まることが大事だと思います。

具体的課題に取り組むことで、(1) 多数の知識の関連を理解し、問題を俯瞰的に捉える力、(2) 知識、技術を創造的活動、課題解決に活用する力、(3) 結果を論理的に記述、発表する力を高めましょう。主体的、能動的に調べること、考えることが大切です。ディスカッション、コミュニケーションを大切にします。卒業研究は、問いを立てることと、読んでもらうものを書くことの訓練にもなります。

2．専門領域と主な研究方法

分子とその集合系の構造、機能、反応の理論研究が専門です。量子力学などに基づく分子計算で、化学原理の理解を深めています。また、コンピューターを使った応用計算で医療に関係する分析用の分子設計など、社会的課題の解決に向けた研究もしています。国内外の科学教育、講義で取り上げる題材、各国の環境基準に関連する調査研究なども行います。

3．指導領域

理論計算を活用して化学の問題を解く課題、化学結合論、量子化学、分子分光学、反応機構の理解を深める課題、原子、分子の理論や計算法に関連する課題、実験研究をされている方が結果の解釈に計算を役立てる課題などが指導可能です。ご自身でテーマを定めることが基本ですが、計算する具体的な分子や課題の紹介が必要ならご相談ください。白書、図書、論文などの調査に基づく課題、国、自治体、各種研究機関等が提供するデータを活用する課題、教材開発の課題等も指導領域とします。例えば、環境基準、温暖化、脱炭素化、SDGs に関する調査あるいは実践研究などです。印刷教材をはじめ、図書や文献をじっくりと読み込み、参考図書も調べて深い理解を得る課題も指導します。実験研究は、ご自身で設備、試料等、必要なものを準備でき、安全も確保できる場合のみ指導します。その場合は、計画、解析、まとめ方の指導になります。

4．指導のプロセス

始まってから早い時期に、テーマや進め方を具体化します。

Zoomで指導します。メールやグループウェアも活用します。内容により事情が許せば面接（本部、所属SCほか）により指導することもあります。大学院生とともに夜ないし休日に、月2，3回、Zoomによりグループディスカッションをします。個別指導は臨機応変に行います。中間発表を8月下旬ごろに行います。個別指導と論文添削で12月頃の発表会に備えます。原子数（計算規模）によりますが、分子計算をされる場合は、ご自宅からネットワークを通じて、幕張本部にある研究用コンピューターおよびソフトウェアを利用していただくことが可能です。無料のソフトウェアをご自分のPCにインストールして研究することもあり得ます。

5．履修者への希望・その他

私の講義や印刷教材をご覧になってください。いずれの科目にも研究の種が含まれていると思います。(1) 化学の理論の理解を深めたい方、(2) 分子計算を体験、活用したい方、(3) 化学が関連する材料、医療、環境等の課題に取り組みたい方、(4) 教科、教材開発、調査研究をしたい方を想定しています。私自身は、国内外の実験家と協力しながらも、主に理論的に分子を設計する研究、反応を解析する研究、化学教育の研究をしています。ゼミなどで他者の意見に耳を傾け、研究の仕方や論文の書き方も積極的に学びましょう。

自然と環境コース	安池　智一	専門：理論分子科学

1．指導方針

デカルトは正しい知識を築くために大事なこととして「吟味する問題のおのおのを、できるかぎり多くの、しかもその問題を最もよく解くために必要なだけの数の、小部分に分かつこと」を挙げています。自然科学の多くの分野は、この還元主義と呼ばれる考え方に基づき、小部分の完璧な理解に基づく統合によって元の問題を議論します。荘子に「混沌に目鼻を付けると混沌は死んでしまう」とあるように、複雑な問題は還元主義で扱えないのではという危惧もありますが、実際にこのシンプルな分割統治の方法に基づいて、壮大な自然科学の体系は作り上げられています。卒業研究では、学生の皆さんのナイーブな問題意識を如何に小部分に分割して自然科学のプロセスに載せるか、その技法を主に身に付けて頂こうと思います。

また、学問の実践においてもう一つ大事なことは、先行研究の調査と適切な評価です。分割した小さな問題のうちのいくつかは、既に先人による研究がある場合がしばしばです。この際一から自分でこれに取り組むのは、人類全体として無駄なことです。これを避けるために先行研究の調査が必要となります。また、調査を通して学問の潮流を知り、自らの問題意識を学問の流れの中に位置づけることで普遍的な問題意識へと昇華させることも、自然科学の営みとしてはとても大事なことです。この観点から、先行研究に関する調査と適切なレビューについても意識的に指導したいと思います。

2．専門領域と主な研究手法

専門は理論分子科学です。幅広く原子分子の関係する動的現象に興味を持っています。現在は例えば、光に応答して金属ナノ粒子の電子が示す電子の集団運動の起源やふるまいを明らかにし、集団性に基づく強い光学応答を利用したこれらナノ粒子のエネルギー変換、イメージング技術への展開に注力しています。手法としては、電子状態理論、量子波束動力学、古典分子動力学法などの計算機シミュレーションを主に用います。

3．指導領域

上記専門領域に関連することでなくても、幅広く対応したいと思います。ご相談ください。

4．指導のプロセス

学生の皆さんの事情や希望に合わせて、面談、メールなどで適宜対応します。

5．履修者への希望・その他

何事も楽しむことだと思います。そのためには、やはりご自分で主体的にテーマを設定することが大事です。是非普段からテーマの種を集めておいてください。

18. 専任教員別卒業研究テーマ（例示）

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
生活と福祉	朝倉富子	○牛海綿状脳症発生後の特定危険部位と肉骨粉・動物性油脂の取扱い状況と有効利用の検討	2023
		○MPN法の論理の流れを明示し、「食品中の対象微生物の存否の意味」を考える。	2024
	井出　訓	○老年期における傾聴の有用性の一考察	2015
		○看護アドボカシーの研究の動向に関する論文レビュー —看護アドボカシーにおける定義及び概念に焦点をあてて—	2016
		○通所型介護予防事業における運動教室参加者の教室終了後の運動継続の状況と今後の課題	2016
		○要支援・要介護高齢者がデイサービス利用を楽しんでいる人と楽しんでいない人との違いについて	2017
		○アダルトチルドレンにおけるスピリチュアルペインについて —自助グループでのナラティヴ・セラピーを考察する	2017
		○看護学生がチームで働く意識を養うために必要な教育的アプローチ —臨地実習の事例に関するインタビューからの分析—	2017
		○看護分野における先行研究から抽出した“その人らしさ”の意味合いの検討	2017
		○小中学生に対して認知症教育がもたらす影響と効果に関する文献研究 —認知症教育の今後について一考察—	2018
		○認知症終末期に食べられなくなったらどうしたいですか？ —看護師と看護師以外の医療従事者の認識の比較—	2018
		○事前情報不足による過度な行動抑制削減の取り組みと倫理的配慮について考える —転倒転落の対策前の実態調査と今後の行動抑制についての考察—	2018
		○心療内科病院に入院する高齢精神疾患患者が退院時に抱える問題の動向と課題	2018
		○外国人看護師の就労継続に向けた要因分析　—フィリピン人EPA看護師の現状から—	2019
		○介護老人保健施設入所の要介護高齢者に対する経口維持支援の改善効果	2019
		○看護職の自己評価に焦点を当てた医療療養病床における終末期看護ケアの実態と課題	2019
		○看護基礎教育におけるアドバンスケアプランニングの教育状況と教員が感じている困難感	2019
		○時代の異なる介護小説を手がかりに「認知症」の捉え方の時代変遷を考察する	2020
		○コロナ渦における人々のアドバンス・ディレクティブに対しての意識変化を明らかにする	2021
		○高齢者の口腔機能低下の実態と介入指導による機能維持と行動変容	2023
		○社会参加の実態と健康に関する生活要因の考察	2024
		○階段利用の頻度が高い団地暮らしの高齢者は健康リスクが低いのか	2024
	川島　聡	○重度知的障害者の現状と課題　—生活と自立をめぐって	2023
		○特別支援教育の現状と今後の課題　—B町のアンケート調査を通して—	2024
		○医療的ケア児支援法の今日的課題	2024
		○脱施設時代における日中生活介護施設　—「居場所」としての意義と課題—	2024
		○高次脳機能障害者支援法制定とその流れ・現状	2025
		○障害者権利委員会が「本人の最善の利益」という言葉の使用を「懸念」した理由	2025
		○意思決定を支えるグループホーム職員の役割	2025
	川原靖弘	○病棟で行われるインシデント事例分析の有効性と事例分析に対する看護師の意識	2013
		○看護師　—患者の有効な関係性の構築における感情労働について既存の文献より考察する	2017
		○運動・スポーツに関するイベント参加と習慣化への考察 —静岡市駿河区でのアンケートによる運動意識調査結果より—	2018
		○築地市場空間の社会史	2018
		○A災害拠点病院のHCUにおける事業継続計画に対する意識調査から見えた現状と課題	2021
		○似合う服を選ぶ基準についての文献調査	2022
		○深層学習による脳波ERPを用いた統合失調症の診断手法の考察	2024
		○人馬の関係構築はいかにして可能になるのか	2025
	下夷美幸	○介護を要する外来透析患者の家族の情報　—看護記録の分析を通して	2019
		○病児保育の現状と課題 —未就学児をもつ働く母親へのインタビュー調査を基にM市の事例—	2021
		○「第一次お産革命」期における出産に関する女性の意識　—婦人雑誌の投稿記事の検討—	2022
		○産後うつをめぐる社会の認識がどのように広がってきたか　—新聞記事の検討を通して—	2023
		○超重症児に携わる病棟看護師が抱くきょうだい児ケアラーへの認識	2025
	関根紀子	○慢性腰痛を軽減する為の効果的なストレッチに関する文献調査	2015
		○転倒・転落防止対応プラン選択アルゴリズムの有効性の検討	2016
		○労働災害転倒数とライフスタイルの変化	2018

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
生活と福祉	関　根　紀　子	○人工膝関節全置換術後の関節可動域の回復に関連する文献的研究	2019
		○筋肉の硬さ評価に関する文献調査	2020
		○血液透析の穿刺部疼痛に対する貼付用局所麻酔剤が疼痛緩和に及ぼす影響	2023
		○効果的な骨盤底筋トレーニングとは　―骨盤底筋障害に悩む女性が継続して実施できる方法	2024
	田　城　孝　雄	○看護領域における非がん高齢者に対する在宅看取りの実践状況 ―2014年から2018年にかけての文献から―	2019
		○子宮頸がん検診の現状と今後　―高精度で効率的な検診で検診間隔は延長できるのか―	2019
		○退院支援看護師の活動報告	2019
		○栃木県北部における救急搬送の現状と課題	2019
		○クリティカル期における退院支援に関する国内文献レビュー	2019
		○入院支援センターにおける入院キャンセル・延期数に繋がった休薬確認電話訪問の実際	2020
		○リンパ浮腫患者の教育入院後のリンパ浮腫の経過とセルフケア行動の実態調査	2020
		○自宅死亡の要因についての文献検討　―奈良県の自宅死亡についての検討―	2020
		○在宅で生活する慢性期頚髄損傷者における健康課題解決のための要件	2020
		○高年妊婦の妊娠届出時からの継続的支援について	2021
		○エキストラバージンオリーブオイルとヒトの口腔内における受容体の作用	2021
		○千葉県地域生活連携シートを用いた印旛地域における医療地域連携の現状と課題	2022
		○医師少数県茨城県におけるリハビリテーション医療の現状	2022
		○3歳児健診における眼科健診と視能訓練士の関わり	2022
		○更年期症状に関する保健指導の重要性　―性差医療の観点を含めた一考察―	2023
		○ハンセン病療養所A園の不自由者棟で入居者を看取る際の介護員に対する必要な取り組み	2023
		○療養病床制度の変遷と1病院への影響　―病院薬剤師の立場から―	2024
		○口腔ケアの歴史と現状からみる歯科衛生士の役割	2025
		○看護師と医療事務職の協働－医療事務職の役割と地位明確化に向けての検討	2025
		○高齢期の健康寿命の延伸と社会的役割　public health の視点から	2025
	戸ヶ里泰典	○基礎看護学領域での看護過程の展開教育における学生の困難と教育上の問題点 ―日本における看護学生を対象とした調査研究のレビューより―	2016
		○救急外来診療中患者の家族におけるニーズと看護問題に関する文献検討	2016
		○基礎看護学実習において学生はどのような経験を振り返るのか ―文献レビューと学生アンケートの結果より―	2017
		○市区町村並びに都道府県におけるアドバンス・ケア・プランニング施策の実態評価と先進事例	2017
		○パーキンソン病患者のオンオフ現象アセスメント　―看護師を対象とした質的研究―	2017
		○糖尿病患者の自己検査用グルコース測定器に関する意識調査 ―千葉県北東部地方中心都市においての検討―	2018
		○産後早期の授乳に対する前向きな向き合い方の変化とその要因 ―A病院における37例の産後1ヶ月間の縦断データより―	2018
		○術後せん妄予防に関する介入においての文献検討	2019
		○非侵襲的陽圧換気療法マスクによる医療関連機器圧迫創傷について	2019
		○看護師長の新人看護師育成におけるストレッサーに関する調査	2019
		○消化器外科病棟における術後せん妄患者に対する対応と看護師のストレス対処力との関連	2020
		○中小規模病院看護管理者における管理者評価に関する知識と取り組みの実態 茨城県中小規模病院看護管理者意識調査より	2020
		○新規採用看護師の年次有給休暇取得に関する知識および手順理解の実態 ―愛知県の一般病院における予備調査―	2020
		○パートナーシップマインドに基づく外来看護システムの経験が外来看護師に与える効果	2021
		○アーロン・アントノフスキーによる健康生成モデルの検証並びに高齢者医療費削減への提言	2023
		○ヘルスリテラシーに着眼した健康政策の実態	2024
		○高次脳機能障害の当事者・家族のニーズと心理社会的支援	2024
		○小児病棟入院患児を対象とした「ジャンボリミッキー」体操の心理社会的効果	2024
		○低身長初産婦の非妊娠時体格指数と妊娠中の体重増加からみた分娩様式との関連性	2024
		○首尾一貫感覚がレジリエンスに及ぼす影響　～サイクリストを対象としたデータ分析より～	2025
	奈良由美子	○診察待ち時間短縮対策の案出および対策実施の効果に関する事例研究 ―A病院における診察待ち時間の実態をふまえて―	2017
		○全国訪問ボランティアナースの会キャンナスの災害ボランティアに関する実態調査 ―継続参加の諸要因と構造―	2017

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
生活と福祉	奈良由美子	○療養病棟における潜在的なリスクに対する危険予知訓練の意義	2018
		○災害時における区役所との通信手段としてのアマチュア無線の有効性 —横浜市都筑区A小学校地域防災拠点における事例研究—	2018
		○神奈川県中津川水系上流地域における水害関連の考察	2018
		○母親へのセルフフットケア啓発に有効な支援の検討	2018
		○巨大地震被災地周辺地域における自助・共助のあり方に関する考察 —千葉県白井市大山口一丁目を事例として—	2018
		○震度5以上の地震発生時の患者の初期対応認識について —A病院外来化学療法センターにおけるアンケート調査から—	2019
		○災害看護初期対応に関連する勉強会導入の意義と課題に関する研究	2020
		○小児看護経験の少ない病棟での小児用転倒・転落リスクアセスメントツール導入後の評価	2022
		○福島第一原発事故後の新規原発建設におけるリスクコミュニケーションについての一考察	2022
		○学校における地震避難訓練の歴史と現状	2022
		○大学の対面授業回帰と学生の不安　—アンケート調査からみえるもの—	2023
		○高齢者の特殊詐欺被害防止に関する一考察	2023
		○老後生活に関する不安要因の考察　—年金制度への理解及び金融リテラシーの観点から—	2023
		○浸水想定区域で活動する消防団の「退避」に関する課題	2024
		○新人看護師が感じるリアリティショックに関する視点の文献的研究	2024
		○福島第一原発事故による病院における避難状況と課題について	2024
		○避難所における避難動物情報の把握の現状と避難動物ラピッドアセスメントシートの提案	2024
		○思い出せる防災　—災害時トイレ行動を支える知識の想起構造と社会的成熟	2025
	山内豊明	○看護師が無意識に行うスピーチロックの調査と分析	2018
		○外国語版評価ツールの日本語化についての真正性と有効性についての検討 —日本語版ECTB評価スケールを例に—	2018
		○看護学実習カンファレンスにおける研究の動向と課題 —効果的な指導方法に焦点をあてた過去15年間の文献検討—	2018
		○術後痛に対する術前オリエンテーションの現状と動向	2019
		○脊椎手術後のドレーン予定外抜去予防の対策を行っての検討 —3つの対策が患者に及ぼす影響についての看護師の認識—	2019
		○手術室看護師の術前訪問におけるラポール形成に至るための要素	2020
		○保育園看護師が行う非外傷性急性腹症のフィジカルアセスメントの使用実態	2020
		○カンボジアとベトナムの保健医療の歴史と看護教育の違いについて —文献調査に基づいて—	2021
		○クリニカル・ラダーと中堅看護師への教育についての考察	2022
		○看護師の転職行動とキャリア発達への影響　—インタビュー調査の分析の報告—	2022
		○下肢切断術を拒否する高齢患者への看護師が抱える困難と課題	2022
		○看護師による注射薬ミキシング時のダブルチェックに関するエラー行動	2023
		○当院における看護師主導の心肺蘇生教育の取り組みと急変時看護実践について	2023
		○プライマリーナーシングにおける、看護師の質的向上と業務の効率化について	2023
		○臨床看護師の呼吸回数測定に対する意識・実態調査	2023
		○下腿掻痒患者の生活指導と下肢のむくみに関する文献検討	2024
		○「リウマチ看護師の看護実践能力尺度」の客観的尺度の指標としての可能性の検討	2024
		○看護師の自律性に関する文献検討　—現任教育で自律性を育むためには—	2024
		○地域中核病院におけるACPの実践状況と関連要因	2025
		○手術室新人看護師の勤務継続を支える要因　—文献検討を通して—	2025
	山田知子	○吉野作造と賛育会　—大正デモクラシーが残したもの	2017
		○団塊世代の平均的な高齢者世帯の今後10年間の公的老齢年金額の推定と家計への影響	2017
		○地域包括支援センター医療職職員の離職要因の研究 —包括医療職職員インタビュー調査をもとに—	2018
		○都市部におけるホームレスの特徴と居住問題から現状のホームレス支援を問い直す	2018
		○孤立する貧困高齢者の現状と課題　—文献検討からの考察—	2019
		○袖ケ浦市の高齢者福祉の現状と課題に対する対策	2019
		○「いのちの電話」の相談ボランティアについて　—減少理由と対策を考える	2019
		○医療機関における聴覚障害者の対応について —先行研究、インタビューを通しての考察と課題—	2019
		○独居高齢者の認知症の予防と近所つきあいにつながる園芸療法について	2020

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
生活と福祉	山田知子	○高齢女性は施設入居をどのように捉えているか　事例研究を通して	2022
		○自己決定を実現する社会へ向けて	2022
		○誰ひとり取り残さない持続可能な支えあう街づくり　―住民アンケートから見えてきたこと	2023
		○高齢者の暮らしと格差　―職業生活からの離脱後の課題と格差に関する考察―	2023
		○潜在看護師が復職へとつながる効果的支援とは ―復職できない要因と復職支援の文献検討	2023
		○要介護認定率が低い地区の特殊要因	2024
		○「生理の貧困」の現代的意味　―歴史的考察とアンケート調査結果から―	2024
		○身近な家族のいない人への葬送・埋葬支援について	2024
		○精神障がい者の就労を考える	2025
		○交代勤務看護師における睡眠障害と睡眠薬依存傾向	2025
		○ボランティア活動の継続要因の実証的研究　―竹とんぼ遊び伝承グループに焦点を当てて―	2025
心理と教育	苑　復傑	○日本と中国の大学通信教育の比較研究　―その教育と学習者の特徴―	2017
		○近代日本の医師養成における教養教育の変遷 ―明治維新後から1990年（大学設置基準大綱化前）まで―	2017
		○日本における私立大学理工学部の誕生	2018
		○働く母親の就業継続と転職活動の実態調査	2020
		○大学中退と再入学　―ユニバーサル化の進展とこれからの高等教育―	2021
		○エンジニア相当職を目指した国立大学の研究教育系技術者の現状と課題	2021
		○パースにおける子女教育と帰国子女の問題点　―日本の教育との比較を念頭において―	2023
		○神奈川県における交通事故の多発要因についての研究	2023
	櫻井直輝	○母子分離のできない知恵遅れのない過疎地の盲児の指導	2023
		○「チーム学校」の現状の課題と改善　―學校現場における他職種との連携に焦点を当てて―	2023
		○中学校社会科　第二次世界大戦の学習にかける授業時間に関するインタビュー調査	2025
	佐藤仁美	○マインドフルネスと少林寺拳法の効用	2018
		○小学校図画工作科における「イメージ」の考察	2018
		○ロスコ生命の色　―ロスコの作品をイメージから読み解く―	2018
		○画面の構成度という視点からコラージュ療法を捉え直す ―スクラップブックとの連関の中で	2020
	進藤聡彦	○看護師養成所（3年課程）1年次の人体の機能と生命活動に関する知識について	2018
		○第一言語と第二言語における言語間差異が抽象概念理解へ及ぼす影響	2018
		○幼児の家庭における絵本の読み聞かせの実態　―読み聞かせの目的を巡って―	2018
		○教員経験者が考える通常の学級における特別支援教育の環境と専門職への期待	2019
		○遠隔学習者の孤独感の低減に関する研究	2019
		○文章題解決を促す図表活用スキルの検討	2019
		○保育所保育指針としつけについて	2020
		○卒業研究の履修と大学への帰属意識の関連-放送大学を例に-	2020
		○環境のデザインが認知・行動・身体・情動に与える影響の検討「アフォーダンス」を探る	2021
		○身近な幼児の特性を踏まえたアプローチカリキュラムと実践	2022
		○理科授業および科学に関連する課外活動が子どもの人格形成に及ぼす影響	2023
		○中学生の数学のつまずきとその支援	2023
		○対面授業形態とオンデマンド授業形態の志向性と学生の特性	2024
		○自閉症スペクトラム傾向のある児童・生徒の学習特性	2025
	高梨利恵子	○ネガティブ感情により引き起こされる情動の涙を防ぐ方法についての検討と考察	2025
		○初期キャリア就労者における反芻傾向が抑うつに及ぼす影響	2025
	高橋秀明	○ITと医療　～色の伝達方法～	2010
		○テレビゲームの変遷とその社会的立場	2011
		○メディアを用いた「食の安全」にかかる情報提供	2014
		○エイジレス・ライフ実践者にみる生涯学習への取り組み方と超高齢期への対応	2020
		○0歳児から「おむつなし育児」を実践する動機づけ	2020
		○動作学習における筋肉の緊張緩和のリラクゼーション行動への転移	2021
		○中年期における生涯学習経験は自尊心の向上に寄与するのか	2021
		○組織における個人情報保護に与える要因について	2022
		○大人を対象としたかけ算九九の7の段の苦手意識の要因について	2022

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
心理と教育	高　橋　秀　明	○COVID-19の感染が疑われる患者の受診体験からみた患者の抱く感情 —愛知県名古屋市の場合—	2023
		○談話に含まれるフィラーが、書きとめた内容の正確に与える影響	2023
		○意図的な笑顔が自己のイメージに及ぼす影響　—セルフ・コンパッションの視点から—	2024
		○後期高齢者の緊急時の援助希求について　—意思決定を支援する—	2024
		○リハビリテーション職者の心理的労働	2024
		○ダイヤモンドアート製作による心理的効果　—気分の変化に着目して—	2025
		○子育て中の保護者の「自分の時間」と「心の安定」について	2025
		○漢字書字に困難を呈する児童生徒への学習支援　—音声言語リハーサルの有効性の検討—	2025
		○運転免許返納に関する心理学的考察　—返納者と家族の事例から—	2025
	橋　本　鉱　市	○教養という虚構	2024
		○少子高齢化における専門学校教育の革新　—教員のリスキリングの必要性と効果—	2024
		○歴史は女性の空白を抱いている　—高校・大学の日本史教科書にみる女性たち—	2025
		○高等専門学校創設に関する歴史的・社会的・制度的考察	2025
	橋　本　朋　広	○オホクニヌシの神話のユング心理学的解釈	2020
		○おしら様の物語を分析心理学的に考察する	2020
		○Buruno Munariの木を読む　—バウムテストの観点から—	2020
		○八百比丘尼の分析心理学的研究	2021
		○「少年、子供」の夢シリーズへの接近法に見るJungの夢分析の実際	2021
		○ユング心理学からみたアラジンと魔法のランプの解釈	2021
		○昔話における日本人の臍イメージに関するユング心理学的研究	2021
		○アンデルセン童話『人魚姫』を通してみる近代人の個性化について	2022
		○「竹取物語」における対象喪失と悲哀の仕事についての一考察	2022
		○漫画『鬼滅の刃』の深層心理学的検討　—鬼／吸血鬼イメージと人間との関係性から—	2023
		○ノンセンスな世界における変化　—「不思議の国のアリス」のユング心理学的解釈—	2023
		○臨死体験における人格変容の要因を分析心理学の観点から考察する	2023
	丸　山　広　人	○自閉症児者の「心の理論」と知覚　特異性とこれからの支援を当事者手記を基に考察する	2022
		○電話相談における相談員の抱える課題とその対応　—頻回通話者に対して—	2022
		○絵本の読み聞かせが養育者に与える影響	2016
		○保育者は、子育て経験をとおしてどのように変化するか —インタビューから考える保育者の成長のプロセス—	2016
		○発達障害児の養育者の障害理解と支援への繋がりにくさについての課題と対応	2023
		○日本におけるアンガーマネジメントの課題とその有用性を高めるための理解の試み	2023
		○愛着障害と環境療法　援助者支援に焦点を当てて	2023
		○障害をもつ子どもを育てる母親の障害受容について	2024
		○チーム学校の成立に向けたキーパーソンの役割と校内連携	2024
		○若年層における職場不適応の予防要因と対応策の検討	2024
		○通信制高校サポート校における心理的支援の効果と課題点	2025
	向 田 久 美 子	○ワーク・ライフ・バランスは幸福感に関連するか ～ワーク・ライフ・バランスと主観的幸福感の相関分析およびソフトウェア開発者とそれ以外の人の差の探索的検討～	2017
		○片付け経験がモノの溜めこみに与える影響について	2017
		○第九交響曲におけるフロー体験　—放送大学合唱団のアンケート調査—	2017
		○子どものメディア利用と睡眠　—幼児期の情緒発達も含めた考察—	2018
		○幼児の着衣でのボタン留め操作と母指対立動作の関係	2018
		○幼児の寝かしつけ負担感に関わる要因についての考察	2018
		○小学生の家庭教育における親の関与と負担感　低学年の子への学習関与に焦点をあてて	2022
		○落ち着きがないを主訴に持つ幼児の療育について —運動機能の評価から児の特徴を捉える—	2022
		○聴覚過敏傾向をもつ児童が感情コントロールできるまでのプロセス	2022
		○ミドルシニアのキャリア探索とセルフ・コンパッションの関係性の検討	2023
		○思春期の自己肯定感と家庭での生活習慣および親との関係性の関連について	2023
		○幼児への読み聞かせに対する母親の考えについての検討	2023
		○放課後児童クラブ（学童保育）で起きるいざこざにおける支援員の関わりについて	2023
		○ASD児の睡眠問題と問題行動、及びその関係性についての事例検討	2024

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
心理と教育	向田久美子	○高齢女性における人生の転機の意味づけ　―ライフストーリー分析を通じての探索―	2025
		○定年退職後の女性のアイデンティティ再構築について　―模索の時期に着目して―	2025
		○ケアギビング行動システムの内的作業モデルと子育てとの関連	2025
		○「考え方のくせを知る」ことが認知的統制に与える影響	2025
		○身体玩弄癖と愛着形成の関連について	2025
		○職場において「相手がASDである」という認識が、ASD者に対する受容に与える影響	2025
	村松健司	○不適切養育と罪悪感　抱えること・考えること・心で心をとらえることを手がかりに	2025
		○LGBT当事者にとって利用しやすい福祉相談窓口のあり方	2025
		○里親養育の課題と支援　―里親に対する心理的支援の必要性について	2025
		○別居親との面会を制限されて育つ子は何を失うか：面会不履行の現状と子の権利	2025
	森津太子	○コロナ禍における読書の効果　―読書療法の理論に基づく文学体験尺度を使った調査―	2022
		○降水確率予報における予報担当者の意思決定	2023
		○会計年度任用職員における職務満足度と仕事の継続について	2023
		○なぜ近年地方移住が増えているか	2023
		○森林映像視聴によるテレワーク時のリラックス効果	2023
		○客観的評価および主観的評価によるスマホの使用時間とスマホ依存傾向との関連性の違い	2023
		○マスクの色が表情からの感情認識に及ぼす影響と顔の魅力の知覚に及ぼす影響	2023
		○＜規範＞の心理学的性質と自律性との関連についての検討	2024
		○高齢者の運転免許証の自主返納を阻む心理的要因に関するプレ高齢者の視点	2024
		○X（旧Twitter）上での自殺をほのめかす投稿の目撃経験の実態調査と緊急性の判断	2024
		○知的障害支援学校教員におけるソーシャル・サポートとストレス反応との関連	2024
		○地平線付近の周辺風景が月の大きさ知覚に及ぼす錯視メカニズムの検証	2024
		○レジ袋有料化政策が消費者の意識と行動に与えた影響	2024
		○中高年のスポーツの価値意識　―マスターズ水泳の視点から―	2024
		○脊柱姿勢の違いが感情と心理的覚醒状態に与える影響	2024
		○青年男性の体臭不安と購買情報探索行動	2025
		○オンラインセルフコーチングがモチベーションに影響を与える心理プロセス	2025
		○見えない価値が報われない：当事者から見るデバリュエーション理論の心理学的再検討	2025
		○地域コミュニティにおける役員回避と参加継続意識	2025
		○社会的カテゴリーとしての「陰キャ」「陽キャ」および対人場面でゆらぐパーソナリティ	2025
社会と産業	北川由紀彦	○日本社会における女性の社会的地位の変化に関する一考察 「女性総合職」が直面した困難に注目して	2016
		○労働時間と労働者の意識から見る日本の働き方の特質	2016
		○「分譲マンション実態調査」についての一考察	2016
		○中小企業基本法改正以降の中小企業の実態と課題　―奈良県を事例に―	2018
		○ニューカマー第2世代のライフコース選択	2018
		○国内モスクから進む日本人のイスラーム理解を促す活動	2018
		○公共施設再整備への住民参加と価値観対立型の合意形成の在り方	2020
		○スマートシティにおけるデータ利活用の課題　―「まえばしID」を事例として―	2021
		○建設関連産業における外国人技術者のキャリア形成についての考察	2021
		○勤め人の趣味・道楽としての謡稽古考	2021
		○「精神障害者保健福祉手帳」を普及・活用しやすくするために何が必要か	2021
		○土地基本調査の系譜と問題	2022
		○生活困窮者の住居用建物が抱える性格と性能の課題研究	2022
		○社会的にネグレクトされたネグレクト　―被虐待児とヤングケアラーの視点から―	2022
		○ローリングストックへの取り組み実態と意識	2023
		○自治会加入率と活力維持向上に向けて　―ある自治会の活動実態からの考察―	2023
		○2010年代末以降のトランスジェンダー排除言説の拡散経緯について	2023
		○ゲイ・バイ男性の人々のゲイバーへの来店行動と動機、空間特性について	2023
		○被災地の復興過程におけるサロン活動への参加実態に関する研究	2024
		○障害のある人は就職するためにどのような経験をするのか　―ある親子の事例から	2024
	桑田　学	○新たな社会の構想と芸術　―フェリックス・ガタリのエコゾフィーからの考察―	2024
		○批判的科学から見た気候変動対策の考察　―レイチェル・カーソン『沈黙の春』からの教え	2025
	齋藤正章	○製薬企業の研究開発費と会計に関する一考察　～資産化と知的財産化を中心として～	2002
		○地方商店街の衰亡原因と復興および代替方策について	2002

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
社会と産業	齋藤正章	○（企業）環境会計の役割と環境税	2004
		○日本の政府会計におけるアカウンタビリティの確保、サブタイトル発生主義の導入による財政再建	2004
		○適正な期間損益計算に有用な減価償却情報に関する研究	2004
		○サーベインス・オクスリー法への取り組み	2005
		○登米市におけるNPM適用の可能性	2006
		○説明責任（アカウンタビリティ）と医療事務員の重要性	2006
		○戦略管理会計研究の誕生の背景と現状	2007
		○中小企業における環境と経営の共生をめざして　―環境経営と環境会計を視点とした考察―	2007
		○中小企業会計の実態と会計事務所の対応	2012
		○重回帰分析による株変動メカニズムの解明	2013
		○中小企業がコールセンターを組織として経営することについての考察	2015
		○消費税の軽減税率制度に関する一考察	2016
		○中小企業の会計処理　―会計処理実務と会計上の利益のズレ―	2019
		○中小企業におけるリスクマネジメント　―企業の健全な成長のために―	2020
		○天候リスクマネジメントに基づく天候デリバティブの活用と今後の展望	2022
		○政策保有株式が企業利益率に及ぼす影響	2023
		○消費税徴収の変化とインボイス制度　―下請け業者と元請け業者の軋轢を中心として―	2024
		○投資初心者の投資戦略に関する一考察　～新NISAを中心として～	2025
	白鳥潤一郎	○貿易自由化と欧州諸国への日本の経済外交　―1961年～1962年	2019
		○パレスチナ紛争の研究　―紛争の要因を分類し解決の糸口を総合的に考察する―	2021
		○日印安全保障協力の深化	2025
		○日本憲法史における「責任の体系」の形成と再構築	2025
	玉野和志	○島の持続可能な地域づくりの取り組みから学ぶこれからの地方の姿	2024
		○保護観察制度の現状と改善策　―再犯の抑止に焦点を当てて―	2024
		○戦前の住宅政策と不動産業の発展は社会にどう影響したか	2025
		○藤沢西部地域の空間形成と構造について　―藤沢駅から辻堂駅沿線にかけて地域の構造―	2025
		○自治会・町内会の在り方とICT利活用　―地域活動のデジタル化を進める視点より―	2025
	原田順子	○イノベーションの連鎖　～販売のイノベーション（自動販売機）についての考察	2015
		○製造メーカーにおける人的資源管理　～多様化する生産現場に対応した人事制度とは～	2015
		○ハンドメイド品販売事業についての一考察	2016
		○女性の力を組織の力に　―育児休業からの復帰と女性活躍の推進の考察―	2016
		○企業文化の分析　～実務担当者の視点から見た組織文化の分析に関する一試論～	2017
		○科学的管理法の発展　―その軌跡を追って―	2017
		○第4次産業革命による労働環境の変革　―技術との共存とこれからの労働のあり方―	2018
		○生涯にわたって活躍できる働き方を考える	2018
		○日本のメンバーシップ型雇用と建設業の一人親方についての考察	2018
		○持続可能な地域密着型（小規模）通所介護事業所（通称デイサービス）の運営	2018
		○若年層のマイカー離れが日本自動車産業に与える影響について	2019
		○日立製作所の人材育成　―経営戦略を具現化する生産技術者―	2019
		○女性の働き方と役割の変化（1975－）	2020
		○家庭内分配と生活経済に関する金融教育の必要性	2020
		○スモールビジネスの顧客・取引先の選択方法をランチェスターの経営戦略から考察	2022
		○交代勤務無線従事者の人材育成とキャリアプランについての当事者研究の視点からの考察	2023
		○育児期における父親の無償労働の現状　―インタビュー調査から―	2024
		○真のフォロワーシップ発揮に個人・組織（リーダー）・社会が成すべきこととは	2024
		○企業におけるワーク・ライフ・バランスの現状と課題　―導入効果の実証分析―	2024
		○SPCとVPCからみるサウスウエスト航空の経営戦略と一考察	2024
	古橋元	○現代の人工林（林業）と新たな焼畑への挑戦	2024
	松井美樹	○車の自動運転に対する期待と不安について	2019
		○大学スポーツ協会UNIVASにおけるビジネス化とは？　―設立趣旨に即した事業を考える―	2020
		○路線バスの運転手から見た、乗客を増やす改善策について	2020
		○日本のマイクロブルワリーへのNeolocalismの適用可能性	2020
		○製品改良案を仮想特許化し対応分析で特徴性を確認する方法　―自動排泄処理装置を例に―	2022
		○日本型MaaSの現状　―MaaS実証実験からみえてくるもの―	2023

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
社会と産業	松井美樹	○ファミリービジネスのコロナ時の危機突破力　―同族企業は対コロナでも最強か？―	2025
	松原隆一郎	○ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』出版の背景の研究　―金利変動に着目して―	2019
		○産業遺産保存のための一提言　―名古屋テレビ塔と昭和塾堂の比較検討を通して―	2021
		○日本の固定価格買取制度（FIT）の功罪　―政策決定までの問題点を探る―	2021
		○地域格差問題の構造	2021
		○社会における産業としてのギャンブル-横浜市の統合型リゾート導入を考える-	2021
		○持続可能な経済社会のための「一人水」概念の導入と考察	2022
		○地域共生社会と美術館　―熊本県・つなぎ美術館の事例から―	2022
		○埼玉県毛呂山町における公共交通の現状と同町の公共交通利用促進策について	2023
		○現代のお金に関する一試論　―低賃金はどこに原因があるのか	2023
		○公共放送のあり方と受信料制度　―なぜ受信料を払わなければいけないのか―	2023
		○日本に消費税は必要なのか	2023
	山岡龍一	○アメリカの保守の起源	2004
		○日本の国会女性議員数低水準の考察	2004
		○カント『永遠平和のために』の視点から見たEU拡大と国連改革	2006
		○國家とは何か。	2006
		○『エミール』におけるエミールとソフィの結婚と生活についての研究	2007
		○公共的討議に向けた原初状態の意義	2008
		○日米安全保障条約締結過程の考察	2011
		○「法の下の平等」はどのように考慮されるべきか。ということの試論	2011
		○人間共同体における「暴力」と、それを支える「正義」の表現	2012
		○A.トクヴィル『アメリカのデモクラシー』の考察　―民主主義と自由について	2012
		○石橋湛山研究　―なぜ小日本主義なのか―	2014
		○未成年者に選挙権を保障しないことはパターナリズムとして正当化できるか	2014
		○ミュルダールの思想　―価値前提明示の方法論、累積的因果関係論、消費の社会化―	2015
		○「アメリカ人」の政治的単一性　リベラリズムの視点から	2016
		○ヘーゲル『精神の現象学』の疎外観	2017
		○ハーバーマスの哲学から読み解くEUの将来	2018
		○直接民主制と代表民主制について	2018
		○デンマークの民主主義の解釈　―「フォルケホイスコーレの実践と歴史」の観点から―	2023
		○シュミットの「政治的なもの」と「自由主義的なもの」	2023
		○性別にもとづく支配における支配者と従属者の気質	2024
	李　鳴	○電気通信事業への参入規制の変容と課題	2018
		○新旧マイナンバー法に関する機密性の比較	2024
		○車両保険金の支払による損害賠償請求権代位の範囲　―買替諸費用の裁判例に基づく考察―	2024
		○消費者契約法９条１項１号「平均的な損害」に関する整理と分析	2025
		○自発的不妊手術は法で認められるべきか？「わたしの体は母体じゃない」訴訟から考える	2025
人間と文化	大橋理枝	○日本語学校における台湾人学習者の学びの考察　―台湾の教育の特徴を背景に	2016
		○少年漫画におけるポリティカル・コレクトネスの考察　―漫画『ドラえもん』を中心に―	2016
		○異文化の中の日本を理解し、異文化の中で日本を語る	2017
		○観光地における外国人観光客との対応に必要なもの：京都での情報発信の観点から	2018
		○クラックホーン・モデルにおける自然価値志向の研究：庭園の観点から	2018
		○プロ野球観戦時に個人が行う応援行動のメッセージ	2019
		○日本の英語教育の現状およびその成果測定方法としての実用英語技能検定（英検）と国際的指標との対応　―Common European Framework of Reference for Languagesに基づいた英検・ケンブリッジ英検・TOEICの比較検討―	2019
		○年少者日本語教育における幼児教育からの観点　―第二言語としての指導法と教材の検討―	2020
		○外国人留学生と日本人学生の学習の比較	2020
		○中国人留学生の日本での就職活動に関する一考察　―福岡へ留学した中国人を対象として―	2020
		○感謝表現とその背景にある発想の差異について	2021
		○多文化共生と地域日本語活動	2022
		○性別の自己決定は可能か　―性別移行の歩みから性別二元制を考える	2023
		○AI翻訳の比較から見る日英言語文化の相違	2023
		○米国版Grammar in Useと一般学習者向け英文法参考書の比較	2023
		○英検準１級要約ライティングの指導方法に関する研究	2025

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
人間と文化	大橋理枝	○AI翻訳の活用方法と、これからの翻訳者の役割についての再考	2025
		○「よくわからないけれど、わかります」ということ	2025
		○チーム医療における医療職同士の対人コミュニケーションのより良い方法について	2025
		○留学生支援とホストファミリー（ホームビジットタイプ）ボランティアについて	2025
	大村敬一	○華僑華人のネットワークから見る中華街の「中華らしさ」 —日本三大中華街と東京中華街構想—	2019
		○アイヌ文化の復興を支えてきた音楽	2022
	河原温	○20世紀前半のイタリア・日本の関係について　—日本における児童書・宣伝を中心に—	2023
		○古代アイルランド社会の変遷、農耕・牧畜を中心に	2023
		○アベラールの倫理学についての一考察	2024
		○アベラールの生涯　—12世紀前半の北フランスの社会の中で	2024
		○インディゴ染料のグローバル経済史	2024
	小二田章	○唐僧義浄が最初に到達した室利佛逝はどこであったか？　—パレンバン説を再考する—	2024
		○天武・持統朝における律令国家構想と藤原京の設計思想	2025
	近藤成一	○僧と社会事業　—重源の事例	2017
		○以仁王事件における源頼政挙兵の動機について	2018
		○平安時代年中行事の意義　—射礼を通しての考察—	2020
		○宇都宮朝綱について	2021
		○朱雀天皇皇女　昌子内親王	2021
		○中世　児玉党・児玉氏の歴史　—越後国妻有地方との関わりを中心に—	2022
		○仏教伝来と丁未の乱を考察する	2022
		○房総半島における弥生中後期の水田稲作の受容と変容について	2022
		○「徒然草」からみる、兼好と中世日本の死生観。	2024
		○北条兼時の生涯　—得宗家における宗頼流の立場—	2025
		○元正天皇即位の意図　—蘇我氏の血統と藤原氏への抵抗—	2025
		○鎌倉幕府における守護・地頭制度の成立と展開	2025
		○小堀桂一郎氏から見た祖父・小堀鞆音の実像	2025
	杉森哲也	○大正昭和期における耕地整理は近代都市の発展に対しどのような影響を及ぼしたか	2023
		○日蘭貿易がオランダ東インド会社解散後も続いた理由について	2023
		○紀州藩主徳川茂承の幕末維新	2023
		○近世後期における八王子千人同心の変容と『桑都日記』	2023
		○阿部正弘の政治手法と日米和親条約締結に至る幕府の対応	2024
		○備中足守藩医石坂桑亀	2024
		○江戸の書家「左潤」を追いかけて	2024
		○島原城の選地における有明海の影響	2024
		○女子高等教育の先駆者　—津田梅子の教育思想—	2025
		○近世への移行における松浦地方の海民の変容について	2025
	滝浦真人	○明治大正期の雑誌における仮名合字表記　—コーパスを用いた通時的分析	2018
		○文化庁実施の国語に関する世論調査による言葉、敬語の使用における意識の変化	2018
		○『アイヌ神謡集』を多面的な観点から読む	2019
		○プロ・サッカー選手のインタビューの談話分析 —ワールドカップ日本代表（男女）の事例を題材として—	2019
		○言葉の社会的規範意識の変化要因の考察　—副詞「全然」の使用法をめぐって—	2020
		○日本語学習者の読点使用に関するコーパス調査：韓国語・英語話者と中国語話者の比較	2021
		○女性を呼ぶ「名ちゃん」は呼ばれる女性にどう影響するか　—5人のケーススタディから—	2021
		○構造主義としてのソシュールの歴史言語学	2021
		○「男はつらいよ」寅さんの口上の研究	2022
		○ノダの関連づけ説再考　—話し手の意図をめぐる考察—	2022
		○明治中期文学作品の作風・文体を計量的解析により探る　—言文一致の観点から—	2022
		○「てくださる」と「ていただく」の変遷　—先行研究・各種コーパスからの考察—	2022
		○なぜ教科書は三人称を立てるのか	2022
		○絵本におけるオノマトペの一考察	2022
		○一段動詞・カ変動詞におけるら抜き現象の定量調査 —TVニュースからの標本抽出による—	2023
		○インターネット社会に於ける依頼表現の変化について	2023

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
人間と文化	滝　浦　真　人	○漢語スル動詞の自他交替と受身形・サレル、使役形・サセル	2024
		○ソシュールの歴史比較言語学から見た『一般言語学講義』の概念と構造主義言語学史	2024
		○打ち言葉「Vてもろて」の意味拡張過程と展開	2025
		○「マア」の語用論的機能と優位性仮説の再検討について	2025
	鶴　見　英　成	○「手掛かりなし標本」の史実的・学術的価値の考察：大型菌類標本の事例を中心に	2025
	野　崎　歓	○『バンド・デシネ　異邦人』の考察	2020
		○小説における語りの研究　―語っているあなたは誰？	2020
		○『失われた時を求めて』　二つの方の交差時に見出されたこと	2020
		○文学作品に描かれた19世紀フランスの政治社会状況　―『赤と黒』と『感情教育』を比べて	2021
		○マルグリット・ユルスナール『東方綺譚』についての考察　―「老絵師の行方」を中心に	2022
		○『失われた時を求めて』における音楽聴取の考察	2022
		○翻訳ストラテジーについて	2023
		○林忠正の生涯と芸術家との交流を再考する	2023
		○「反一物語の力」徴候的読解によるテクストの無意識	2023
		○『失われた時を求めて』　響映する二つの時について見出されたこと	2023
		○ジョルジュ・ブラッサンスの歌詞の研究	2024
		○テレビ放映用洋画日本語吹替の映画史的叙述・映画論的考察	2024
		○モンテイロ・ロバートの人生と児童文学	2024
		○『恋衣』における山川登美子	2024
		○大江健三郎と光の関係性の変化について	2025
		○エルンスト・ルビッチ作品における女性表象	2025
		○中原中也にとって詩の翻訳とは何だったのか　―『ランボオ詩集』を手掛りとして―	2025
		○ディストピアに対抗するケイパビリティ　浦沢直樹『MONSTER』の選択理論的読解	2025
		○田中冬二の詩に描かれるふるさと　―風土・風物に向ける視点―	2025
		○ミラン・クンデラ『無意味の祝祭』を読む	2025
	船　岡　美　穂　子	○ジャン・ロレンツォ・ベルニーニ≪アポロとダフネ≫研究	2024
	宮　本　徹	○時代とともに変化する太公望呂尚	2006
		○中国語で表された日本企業名	2008
		○完本王韻反切譜	2009
		○『春秋左氏伝』の中の女性像について　―二人の姜氏を中心として―	2009
		○『説文解字』の解釈に疑問のある漢字	2012
		○日本人中国語学習者の中国語会話におけるあいづち ―より良いコミュニケーションを目指して―	2012
		○中国新キョウウイグル自治区のモスリムの歴史と現在	2013
		○大衆文化における趙雲の外見的イメージの変化について	2017
		○新刊韻略伝本比較研究	2025
		○建安時代の疫鬼避け：曹植「説疫気」を中心に	2025
		○「烏程漢簡」の書法および用字法の研究	2025
	宮　本　陽　一　郎	○『スミス都へ行く』における理想とは何か　―喜劇と「民主主義の兵器廠」	2021
		○「物語る人」ネリー・ディーン　―『嵐が丘』の物語論的考察―	2022
		○体毛の今日的な意味の広がりとその可能性	2022
		○なぜ高校演劇には恋愛劇が少ないのか	2023
		○『ダロウェイ夫人』と『行人』における三組の男女の関係の分析と比較	2023
		○モータウンの鼓動　―なぜモータウンは、キング牧師のレコードを発売したのか？	2023
		○モーツァルトがクラリネット史で果たした役割に関する研究	2023
		○伊藤野枝　―子を成す自由―	2024
		○スズキ・メソードのアメリカにおける受容	2024
		○アーケードからファミリーへ - ファミコンから見る1980年代ビデオゲームの発展	2024
		○訳詞ポップス（カヴァー・ポップス）の誕生とその影響	2024
		○創造物の幸福とは何か　―メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』―	2024
		○映画『アラビアンナイト　三千年の願い』を分析する	2024
		○大規模災害からの復興支援におけるエンターテインメントの意義	2024
		○生命の源泉「ブルー・レイク」	2024
		○イサム・ノグチ“a sculptor's world”研究：作品「イェル大学庭園」	2024
		○篠田鉱造の実話主義　―『明治百話』の語り手はだれか―	2024

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
人間と文化	宮本陽一郎	○セント・エルモス・ファイアー　～メルヴィル『白鯨』における＜狂気＞	2025
		○アメリカにおけるモダン・デザインの交差	2025
		○侵犯する女たち－フェミニズム的解釈によるファムファタール論	2025
情報	青木久美子	○国立韓国放送通信大学プライムカレッジの挑戦	2019
		○AI嗅覚を用いニオイを視覚化し発信する試み　―デジタルメディアでニオイの共有―	2021
		○デジタルデバイス初心者における文字入力の習得について	2022
		○情報通信機器使用に関する苦手意識の現状と低減に向けた支援の在り方の研究	2023
		○日本政府のICT化政策について	2024
		○ハイブリッド・ワークにおけるアイデア生成モデル構築の検討	2024
		○字幕付き落語会の実施とその効用の評価	2025
		○日本の鉄道の父　井上勝顕彰史	2025
		○機械翻訳を文芸作品へ使用することに対する意識の研究　―出版社の視点から	2025
	秋光淳生	○企業内におけるeラーニングを利用した業務スキル標準化	2007
		○高校数学を用いたC言語速習用プログラム作成	2007
		○家庭内の情報化の進展に伴うリスク対処に関する考察	2007
		○ネットワーク外部性のニューロンのモデルを用いた表現	2007
		○3DCGコンテンツ保護の仕組み　～その現状と今後の展望～	2008
		○インターネットサービスの導入・普及とその課題に関する考察	2008
		○パルスニューラルネットワークに関する研究	2008
		○データマイニングを用いた知識データベースの解析による、知識の有効利用法の研究	2009
		○システムエンジニアリングによる要件定義書の特質 ～システムエンジニアの文章力向上にむけて～	2009
		○ブログを続ける理由についての研究	2012
		○インターネットトラヒックの要因分析とモデル式	2018
		○オープンデータを活用したインフルエンザ流行要因の分析	2019
		○東京都医療従事者のCOVID−19性・年齢階級別罹患倍率の推計	2022
		○Logistic回帰分析によるCOVID−19感染者の推移と予測	2022
		○新型コロナウイルス前後における都道府県間人口移動傾向の分析	2024
		○LRTと他の交通機関との連続性の特徴と課題	2024
	浅井紀久夫	○カラーセンサによる肌色からの生体情報抽出の高精度化	2014
		○3次元流体の流線表示の間引き方に関する考察	2015
		○R−CNNを用いた機械学習による一般物体姿勢推定の研究	2016
		○UXカーブを用いたクチコミ支援ソフトウェアの実装	2019
		○画素のエントロピーから求める、配色の工夫	2019
		○塗料の調色演算　―簡易分光器による分光測色への取り組み―	2020
		○無線通信機器用アンテナの周波数広帯域化に関する調査と考察	2022
		○機械学習を用いた楽曲生成モデルの開発とその考察	2022
		○Grad-CAMを用いた注目領域の重点的マスキングによるデータ拡張手法	2023
		○小惑星の分類解析方法とデータの適用性	2023
		○VR空間におけるレイキャストとハンドトラッキングによるポインティングの比較	2024
		○大規模自然言語モデルを追加学習するための軽量ハイパーパラメータの提案	2025
	大西　仁	○商標権に関する数理的手法による一考察	2016
		○周波数領域法による実験モード解析用カーブフィットソフト（MDOF）の開発	2017
		○ゲーム理論による日本の連立政権（2003－2019）の研究	2020
		○ピアノ運指推定モデルとデータセットを用いた演奏者の運指の分析	2021
		○自衛隊大規模接種センターの実例からみた待ち行列ネットワーク	2022
		○鉄道ファンのニーズにあわせた大回り乗車プランの生成	2022
		○コロナ禍における音楽ライブに対する楽しみ方の変化の考察　―SNSデータ感情分析にて	2023
		○HyperNetworksの強化学習への適用	2023
		○数値予報の歴史と現在の数値予報	2024
	加藤　浩	○放送大学における孤独感の緩和と学習へのモチベーション向上を目的としたWebシステムの開発評価研究	2018
	近藤智嗣	○HMDを利用したVRジェットコースターの状況設定がVE酔いや楽しさに及ぼす影響	2018
		○理科の可視化の立体化についての研究	2019
		○博物館所蔵未公開標本の公開と評価　―鳥取県立博物館所蔵三朝成植物化石の事例―	2020

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
情報	芝　﨑　順　司	○IPv6 IPoE接続におけるセキュリティの課題	2017
	鈴　木　一　史	○プログラムの再利用	2015
		○ハッキングの歴史とその対策	2015
		○百人一首をエントロピーで分析する	2016
		○3Dグラフィックスソフトウェア POV-Rayを用いた可視化に関する研究	2016
		○数理最適化問題の初学時におけるPythonベースでの求解算出ソフトウェア構成勘案	2020
		○ESNによる非線形時系列データ学習と性能改善のための混合レザバー設計	2021
		○YOLOv7によるコマ枠の読み順ラベルの自動付与	2022
		○Python用量子計算ライブラリQiskitを用いた素因数分解プログラム	2023
		○GoogleドライブのOCR機能の認識率を改善する前置処理系の開発	2023
		○流れ解析とその可視化	2023
		○面状の3次元データにおける特徴量検討	2023
		○コンパイラの中間表現　―中間言語とアセンブリの相互変換を検証する―	2023
		○Pythonによる実社会の課題に対するアルゴリズムと並列・並行処理の有用性の指標	2023
		○カノープスの観測余裕度の算出および可視化	2024
		○自動作曲の技術とその評価方法の考察	2024
		○百人一首の機械学習による分類	2025
		○アオサギ、ダイサギをモデルとした画像による鳥類個体識別、近縁種への応用	2025
	辰　己　丈　夫	○定理証明支援系について	2016
		○コピーレフトを前提とした著作権法の弁証法的発展について	2018
		○情報セキュリティ人材の現状と育成について	2019
		○PID活動（言語活動）による工業高校「課題研究」の実践事例研究	2020
		○情報セキュリティ心理学への考察	2020
		○改正個人情報保護法下における生命保険給付金請求について	2021
		○東証マザーズ売上高上位100社の特許出願データに基づく企業の発明推移と傾向の考察	2021
		○自治体オープンデータカタログサイトおよび地域情報可視化サイトの構築	2021
		○高校生の大学科目等履修を支援する方策について	2023
		○思考に関するオントロジーの構築	2023
		○競技プログラミングの数学	2023
		○高校生がSNSを通して感じている社会的融和度についての分析	2023
		○仮想メモリ上のプログラム検証　―分離論理からのアプローチ	2024
		○仮想空間内でゲーミフィケーションを用いたサイバー防犯ボランティアの方法を考案する	2025
		○有限状態オートマトンに関する研究	2025
	辻　　靖　彦	○大規模言語モデルと文化の多様性	2024
	中　川　一　史	○院内学級での多様な実態の児童生徒をつなぐアセスメントについて ―タブレット端末を活用した資格アセスメントを通して―	2015
		○初めてマウスを使う子供にとってのユーザビリティの研究	2019
	中谷多哉子	○中小企業における業務用アプリケーションプログラム自社開発の研究	2017
		○品質向上のための画像による深層学習を用いたソフトウェアの不具合推論と検証	2018
		○ベイズ統計機械学習を用いたオープンソースソフトウェア信頼度評価法の提案	2020
		○Transformerからの双方向エンコーダ表現（BERT）を利用した大規模システムの故障報告トリアージ	2020
		○建築設備自動制御設備設計図書におけるソフトウェア機能表現についての研究	2021
		○テスト工程の欠陥を低減させるためのPSPに基づく若手エンジニアへの教育	2022
		○ChatGPTによるレガシーCOBOLプログラムからのビジネスルール抽出	2025
	仁　科　エ　ミ	○歌声を情報科学の見地から探る	2015
		○「脳の活性化に対する指先運動の有意性」の考察 手の進化、脳との関係、ピアニストの脳の研究から、指先運動の実験による検証	2017
		○情報学的アプローチの視点からみた音楽療法の効果測定の実証可能性とハイパーソニック・サウンドの応用可能性についての考察	2017
		○マンドリン音のカオス的ダイナミクスの研究	2017
		○ピアノ演奏と脳・心のはたらき	2018
		○音楽の心的作用と脳の活性化	2018
		○複音ハーモニカの音響特性	2024
		○鍼灸・リラクゼーションを施術する際に発生する音情報についての調査	2025

コース	氏　名	テ　ー　マ	年度
情報	葉田善章	○クラウドとの連携を指向した無線LANによるセンサデータ活用システムの試作	2015
		○低速回線における通信向上技術の検討	2019
		○家庭菜園でのトマト栽培における温度データの活用に関する研究	2020
		○住居室内における日常生活の状況に応じた温度制御の提案	2024
	伏見清香	○行政の広報誌における、発達障がい者に分かりやすいフォントの選択	2021
		○「情報」と近代的価値観の揺らぎに関する一考察　―情報社会論を手掛かりとして―	2023
	柳沼良知	○プロセス節同定による製品事故シナリオ可視化の研究	2019
		○顔の特徴を言語で記述したプロンプトによる画像生成における表現の違いと再現性の検証	2025
自然と環境	石崎克也	○偏微分方程式について	2013
		○離散力学系にあらわれる性質について	2014
		○複素関数におけるCauchyの積分定理とその応用に関する研究	2014
		○応用解析学に関する一考察	2017
		○国民健康・栄養調査の食品摂取量のゼロデータ比率の表章に関する検討	2020
		○微分方程式の基礎理論とLaplace変換　―その丁寧な理解―	2020
		○「複素解析について」 ―解析接続までの理解を目指して―	2021
		○数理モデルの種類と分類について	2021
		○微分方程式のラプラス変換を用いた解法について	2022
		○ディープラーニングにおける数学的手法の理解	2023
		○アストロサイトモデルを用いた統合失調症モデルの研究	2023
		○確率統計の数学：正規分布を解剖してみる	2024
		○【数式のため省略】となる関数の解析と統計学への応用について	2025
		○微分方程式の解と安定性について（固有値を軸に）	2025
		○ヒメジョオンの形とフラクタル	2025
		○$S=\int_A^B \nabla f \cdot dr$ となる関数の解析と統計学への応用について	2025
	大森聡一	○東京西部、南浅川における礫の研究	2013
		○姫川の岩石	2015
		○ランダムな信号の中に現れる意味について ～八甲田山の無人別荘から謎の119番通報を例にして～	2015
		○陶邑の須恵器と泉北丘陵地帯の土の層とのつながりを調べる	2016
		○地震波動の平面波伝搬時に於ける反射波の影響に関する考察	2016
		○地球のマントル対流について　―理論と実証過程のレビュー―	2017
		○長崎火山の火口跡について（稲佐山を例として）	2019
		○金星に固有磁場がない理由を考察する	2020
		○鳥取県西部の皆生温泉の泉質に関する研究	2020
		○大人も気になる子ども科学相談	2022
		○大気海洋中の二酸化炭素濃度を人為的に制御するシステムの構築について	2023
		○漂砂系の可視化による砂浜保全の可能性	2024
	加藤和弘	○カラスの生態と就塒前集合の研究およびムクドリとスズメについて	2015
		○外来植物ユウゲショウの生活史および生態的性質	2016
		○「鶴見川」と「多摩川」の中流域でアユの好む付着藻類を特定し、水質測定を行い、データを比較・考察する	2017
		○間伐率の違いによる水源林の下層植生の比較	2017
		○水域を主な生息地とする鳥類の移動経路としての都市河川の利用実態	2018
		○生物多様性保全に関する京都の取り組み　―希少植物保全の現状と今後の課題―	2018
		○湿原に生育する植物種の分布	2018
		○カエル捕獲調査を用いた環境評価法の検討	2019
		○能登半島における中大型野生動物の分布域拡大の要因	2019
		○ブドウ栽培におけるフルーツトレーを用いた害獣（ハクビシン）の被害対策について	2023
		○家庭菜園における連作障害防止のための作付け最適化手法の検討	2023
		○本州日本海側の海跡湖における沈水植物群落の多様性の低下とその要因	2023
		○トキ・コウノトリ及びタンチョウを指標種とするエコロジカル・ネットワークの取り組み	2024
		○ヨシ原の環境とヨシを利用する生きものの調査研究	2024
		○北海道におけるコウノトリの生息（繁殖）に必要な条件とは何か	2024
		○小野市近郊のカワウねぐらの年間定期観察による地域個体群の個体数変動傾向	2025
		○都市緑地の形状と鳥類の種組成の関係	2025

コース	氏　　名	テ　ー　マ	年度
自然と環境	岸 根 順 一 郎	○燃焼の物理化学：分子論的考察　水はなぜ燃えないのか	2013
		○手芸で壁紙群を実現する	2016
		○単純な電路の自己励磁発電装置を試作する	2016
		○モビリティシステムの進化と環境エネルギー	2017
		○数理物理学に関する一考察	2018
		○量子力学における対称性について	2019
		○可聴音域を利用した簡易流量測定法の検討	2020
		○物理的性質から見た和音と響きの関係	2020
		○作用変数と断熱不変量が前期量子論において果たした役割	2021
		○電動シリンダへの衝撃力を制限するImpact Force Limiter（衝撃力制限装置）の開発	2022
		○3d軌道の結晶場分裂：ルビーはなぜ赤いのか	2022
		○ギターの物理学	2023
		○非対称二重井戸型ポテンシャルにおけるDNA分子のプロトントンネリングの考察	2023
		○チンダル像（氷の内部融解像）について	2023
	隈　部　正　博	○論理パズルでみる数学の構造とヒラメキ	1998
		○原始帰納的関数の性質と例	1999
		○数学基礎論の広く浅い理解	2000
		○ゲーデル数化の方法について	2001
		○電子計算機の数学的理論	2001
		○チョムスキーの階層と計算の複雑さ	2002
		○ゲーデルの不完全性定理	2005
		○ゲーム理論の数学的構造に関する研究	2010
		○ゲーデルの不完全性定理と、情報科学における計算不能性および決定不能性に関する考察	2012
		○命題論理と述語論理	2016
		○集合・写像・論理の正確な理解による、算数・数学教育の考察	2018
		○「極限論と集合論」の理解	2018
		○数理論理学における不完全性	2018
		○JIS規格テキスト（JISQ27001：2014情報セキュリティマネジメントシステム）の共起ネットワーク図の処理過程に関する研究	2019
		○数学の未来について	2019
		○黒板モデルをベースにした無意識と意識のモデル化の試み	2022
		○確率プログラミングの形式的意味論による考察	2024
		○着物の帯の結び目にできる五角形の特徴　―正五角形との比較―	2024
		○初等整数論の基礎知識の理解	2025
	二　河　成　男	○微量金属のアトピー性皮膚炎における病態マーカーとしての有用性についての一考察	2014
		○手荒れのない有効な手洗いを目指して	2017
		○Algarroboの開花プロセスに影響を及ぼす環境因子の考察	2017
		○快楽物質ドーパミンを考える　―依存症との関係を探る―	2018
		○山中4因子によるiPS細胞について　―初期化に対する考察	2018
		○人工的な手法による生体構成低分子の製造過程確認	2019
		○セイヨウショウロの簡易培養における保存期間の成育や品質への影響	2019
		○大麦発酵エキスと組み合わせたジャガイモ栽培の違いから品質と機能性の評価の検証	2020
		○老化細胞研究の発展と展望	2022
		○生分解性プラスチック（酢酸セルロース）の実用化の考察	2022
		○ハニートリュフ菌糸体によるアスパラガスの根への感染過程の解析	2023
		○タンパク質構造予測データ「AlphaFold2」文献レビュー	2023
		○依存性物質等が脳に与える影響を考える　―自己治療での神経伝達物質と依存の関係を探る	2023
		○自家不和合性の打破　―自殖性の進化のストーリー	2024
		○遺伝子から見たケシ属におけるモルヒネ生合成経路の違いについて	2024
		○今、なぜ小水力発電なのか　―日欧の地理的文化的比較から―	2024
		○ウイルス配列解析入門　―デングウイルス研究を題材として―	2025
		○概日リズムの乱れと関連した神経変性疾患の予防に対するプロバイオティクスとエクササイズの効果における先行研究の動向と課題	2025
		○マイクロバブルによる植物の成長促進効果に関する研究	2025
		○デルフィニウムの栽培　横浜地区における公園の花づくり	2025

コース	氏　　名	テ　ー　マ	年度
自然と環境	橋　本　健　朗	◯シュレーディンガー方程式に関する一考察	2019
		◯空気中の放電電圧と温度および気圧がどの様な関わりがあるかの研究	2022
		◯量子系における数値計算の考察	2024
	安　池　智　一	◯仏教と古代の医療・薬　古代国分寺を通して考察する	2015
		◯微小ダイポールアンテナの指向性制御のFDTDシミュレーション	2015
		◯レニウム金属錯体を用いた二酸化炭素の光還元反応の解析	2016
		◯フラグメント分子軌道法によるリルゾールとNMDA受容体複合体の構造解析	2019
		◯新しい色のケミカルライトの設計	2020
		◯点群への理解を深め、応用する　―点群の指標表作成及びSALC形成を通じて―	2021
		◯BlenderとPythonによる分子軌道の可視化を通じて学ぶ量子化学	2023

19. 図書館の主な利用方法

(1) 放送大学附属図書館の利用について

① 来館利用する

本学附属図書館(大学本部敷地内)を利用するには「学生証」が必要です。入退館時や図書の貸出の際にも学生証を使用しますので、必ず持参してください。

② 所属学習センターを通じて本学附属図書館の図書を借用する

ア.「放送大学 OPAC (https://catalog.ouj.ac.jp/)」をご利用いただくとご自宅の PC、スマートフォン等から申込むことができます。詳細は「(3) 放送大学附属図書館ウェブサイトの利用について」をご参照ください。

イ.「放送大学附属図書館資料利用申込書」に必要事項を記入のうえ、所属学習センターへ提出することでもお申込むことができます。

なお、各種申込書様式は学習センターに備え付けてあります。また、本学附属図書館のウェブサイトからも入手できます。(https://lib.ouj.ac.jp/application_list.html)

ウ. 申込みのあった図書は、学習センターで受取り・返却することとなります。

③ 自宅配送サービスを利用して本学附属図書館の図書を借用する

ア.「放送大学 OPAC (https://catalog.ouj.ac.jp/)」をご利用いただくとご自宅の PC、スマートフォン等から申し込むことができます。詳細は「(3) 放送大学附属図書館ウェブサイトの利用について」をご参照ください。

イ.「放送大学附属図書館資料利用申込書」【学生自宅配送用】に必要事項を記入のうえ、所属する学習センターへ提出または学生証のコピーと共に郵送又は FAX で本学附属図書館へお送りいただくことでも申込むことができます。

ウ. 本学指定業者の着払い宅配便で図書をお送りします。図書受取時に料金をお支払いください。

エ. サービスの詳細は「利用申込書」に付随する「利用の手引き」をご覧ください。

④ 電子資料を利用する

本学附属図書館のウェブサイトから、本学が利用契約している電子ブック・電子ジャーナル・データベース等を利用できます。

ア. タイトル等の詳細は、ウェブサイトの「電子ブック・電子ジャーナル」(https://lib.ouj.ac.jp/e-resource.html)を確認してください。

イ. 附属図書館及び学習センター内の端末、無線 LAN からアクセス可能です。

ウ. 一部を除きリモートアクセスを使って、自宅等から利用できます。詳細は「(3) 放送大学附属図書館ウェブサイトの利用について」をご参照ください。

⑤ 学生図書リクエスト制度を利用する

ア.「放送大学 OPAC (https://catalog.ouj.ac.jp/)」をご利用いただくとご自宅の PC、スマートフォン等から申込むことができます。詳細は「(3) 放送大学附属図書館ウェブサイトの利用について」をご参照ください。

イ.「学生図書リクエスト申込票」に必要事項を記入のうえ、本学附属図書館又は所属する学習センターへ提出することでも申込むことができます。

ウ. 要望に添えない場合があること、また、利用可能になるまで多少時間を要することをご承知おきください。

エ. 購入された図書は附属図書館に配架され、利用方法は前述①から③によります。

詳細は、下記でご確認ください。

https://lib.ouj.ac.jp/service.html#Request

(2) 他大学図書館等の利用について

本学附属図書館が所蔵していない図書を利用したい場合は、他大学図書館等の訪問利用、現物貸借依頼、文献複写依頼等ができます。

① 連携協力館を訪問利用する

本学附属図書館と連携協力を行っている大学図書館等（以下「連携協力館」という。）を利用することができます。

ア. 連携協力館には、所属する学習センターの設置協力母体の大学等の図書館や、同一地域にある国立大学附属図書館等があります。

イ. 利用範囲や申込手続は、連携協力館により異なります。貸出を受けられる場合もありますが、一部閲覧のみとなる場合もあります。

ウ. 連携協力館の有無、利用範囲、申込手続等の詳細は、所属する学習センターに照会してください。

② 連携協力館以外の大学図書館を訪問利用する

本学附属図書館と連携協力を行っていない大学図書館でも、本学からの「資料利用依頼状（紹介状）」及び学生証を提示することで利用できます。

ア.「他大学図書館利用申込書」に必要事項を記入のうえ、所属する学習センターまたは附属図書館へ提出してください。附属図書館へのメールでのご相談も承ります。（資料利用に応ずるか否かについては、相手先の図書館に委ねられますので、利用できないこともあります。）追って利用が認められた場合には、「資料利用依頼状（紹介状）」をお送りします。

イ. 他大学の図書館を訪問利用する際に「資料利用依頼状（紹介状）」及び学生証を持参し、入館時に提示してください。

ウ. どのような利用ができるかは各図書館により異なります。通常は、館内閲覧及び文献複写に限られます。

※　他大学の図書館の利用は、当該大学の厚意と本学への理解によるものです。利用においては、当該大学図書館等の利用規則を十分に理解したうえで、先方の職員の指示に従ってください。

③ 本学附属図書館を通じて他大学図書館等の図書を利用する

他大学図書館等の所蔵する図書を、本学附属図書館を通じて借用することができます。

ア.「放送大学 OPAC（https://catalog.ouj.ac.jp/）」をご利用いただくとご自宅のPC、スマートフォン等から申し込むことができます。詳細は「(3) 放送大学附属図書館ウェブサイトの利用について」をご参照ください。この場合、現物貸借に応じる資料の範囲等については相手先の図書館に委ねられますので、借用できないこともあります。

イ.「他大学図書館等への現物貸借申込書」に必要事項を記入のうえ、所属する学習センターへ提出することでも申込むことができます。

ウ. 借用した図書は、送料と引き換えに所属する学習センターで受け取ることができます。利用は相手先の図書館の利用条件によりますので、自宅での利用が認められず、所属する学習センター内での閲覧に限られる場合があります。

エ. 資料借受けの際の郵送料等は、申込者の負担となります。

④ 本学附属図書館を通じて他大学図書館等の資料の複写物を取り寄せる

他大学図書館等が所蔵する資料の複写物を、本学附属図書館を通じて取り寄せることができます。

ア.「放送大学 OPAC（https://catalog.ouj.ac.jp/）」をご利用いただくとご自宅のPC、スマートフォン等から申込むことができます。詳細は「(3) 放送大学附属図書館ウェブサイトの利用について」をご参照ください。

イ.「他大学図書館等への文献複写申込書」に必要事項を記入のうえ、所属する学習センターへ提出することでも申込むことができます。

ウ. 複写物は、複写料金（送料等を含む）と引き換えに受け取ることができます。所属する学習センターで受け取ることができるほか、オンライン決済が可能であれば自宅での郵送受け取りを申し込むこともできます。詳細は下記でご覧ください。

https://lib.ouj.ac.jp/ill/mailing.html

(3) 放送大学附属図書館ウェブサイトの利用について

「放送大学附属図書館ウェブサイト（https://lib.ouj.ac.jp/）」は、研究・学習に役立つ資料への案内等、図書館のサービスの入口にもなっています。学術情報を探すためのガイドブック「リブナビ」「リブナビプラス」（https://lib.ouj.ac.jp/libnavi.html）も利用できますので、ご活用ください。

本学が利用契約している電子資料に自宅等から接続するリモートアクセスサービスは、ウェブサイトの「電子ブック・電子ジャーナル」（https://lib.ouj.ac.jp/e-resource.html）から利用できます。また、放送大学 OPAC（https://catalog.ouj.ac.jp/）からは、利用状況照会や各種申込（本学附属図書館所蔵資料の取り寄せ、他大学図書館等への貸借・複写依頼等の取り寄せサービス、学生図書リクエスト）を行うことができます。リモートアクセスの利用及び OPAC からの照会・申込に必要なログイン ID、パスワードは、システム WAKABA のログイン ID、パスワードと共通です。

リモートアクセスサービスの詳細については、下記でご確認ください。

https://lib.ouj.ac.jp/e-resource.html

取り寄せサービスの詳細については、下記でご確認ください。

https://lib.ouj.ac.jp/ill/ill-gaiyo.html

放送大学機関リポジトリとは

放送大学機関リポジトリ ManapiO（まなぴお）では、放送大学で生産された学術成果を収集・蓄積し、広く公開しています。

「放送大学研究年報」などの大学の刊行物、貴重書、博士学位論文、教員の発表した学術論文などを掲載しています。

https://ouj.repo.nii.ac.jp/

※　附属図書館の利用全般についてのお問い合わせは、附属図書館カウンター（電話 043 − 298 − 4302）へ平日の開館時間内（9:00 ～ 18:30）に、もしくは電子メール（tosho-joho@ouj.ac.jp）でお願いします。

文部科学省認可通信教育

卒業研究相談票及び質問票

質問希望のコース名 又は専任教員名					年　月　日提出
学生番号		コース名		氏名	
住所	〒 電話 FAX e-mail				
研究したい 分野・テーマ					
質問の種類 (どちらかにチェックしてください)	□研究テーマ・履修計画等の決定についての相談・質問等 (提出期間：6月1日（月）～7月31日（金）〔必着〕) □事前学習の進め方等についての相談・質問 (提出期間：11月23日（月）～11月30日（月）〔必着〕)				

(質問内容)

備考)
1．1枚に簡潔にまとめること。
2．提出先：入学・学修支援課卒業判定係
3．コピーして使用してください。
4．第四種郵便を利用できます。詳しくは『学生生活の栞』を確認してください。

＜新規申請＞

卒業研究申請書等の記入要領

卒業研究の履修申請にあたっては、「卒業研究履修の手引」および下記要領をよく読んだうえで、申請してください。また、指導教員の決定については、卒業研究の内容・テーマに応じて決定されるものであり、必ずしも希望通りになるとは限りません。このことを承諾のうえ、申請してください。

1.「氏名」欄について

「漢字」欄に記載せず、「フリガナ」欄のみ記載の方、氏名をかな・漢字以外で表記している方は、ファーストネーム（名）を先に、ラストネーム（姓）を後にし、ミドルネームは省略してカタカナで記入してください。

2.「所属コース」欄について

現在所属しているコースを〇で囲んでください。ただし、2026年度第2学期または2027年度第1学期から所属コースの変更を希望する方は、変更予定のコースを〇で囲んでください。（変更する場合は、所定の手続きが必要です。）

3.「所属学習センター」欄について

現在所属している学習センター名を記入してください。ただし、2026年度第2学期又は2027年度第1学期から所属センターの変更を希望する方は、変更を予定している学習センター名を記入してください。（変更する場合は、所定の手続きが必要です。）

4.「研究テーマ」欄について

40字以内で記入してください。なお、アルファベット及び数字については、一つの枠の中に2文字記入することもできます。

5.「希望する指導教員（本部専任教員）」欄について

「卒業研究履修の手引」をよく読んだうえ、記載されている本部専任教員のなかから指導を希望する教員の氏名を記入してください。また、必ずしも希望通りの指導教員になるとは限りません。（「所属学習センターの教員または近隣大学の教員」の指導を希望する場合は、申請前に所属学習センター所長との面談が必要です。なお、その場合、教員の指名をすることはできませんので、本項目は未記入のまま提出してください。また、面談は指導教員への依頼を行う際の参考として行うものであり、履修の可否を決定するものではありません。）

6.「現段階での研究計画」欄について

現段階で考えている研究計画（どのように進めていくか）を記入してください。（1200字程度）

パソコンで作成し、出力した用紙を貼り付けることもできます。貼り付ける場合は必ず片面一枚にまとめて枠内に収め、申請書からはがれないようにしっかりと糊付けしてください。大学本部での申請データスキャナ読み込みの妨げになりますので、複数枚の用紙を重ねて貼り付けたり、用紙を折り畳んで貼り付けたりしないでください。また、ホチキスや別紙添付はしないでください。

7.「卒業研究における修学上の合理的配慮」欄について

卒業研究履修において修学上の合理的配慮を希望する方は、「卒業研究における修学上の合理的配慮」欄に〇を記入してください。**希望者は7月末日までに所属学習センター所長との面談を必ず受けてください。**

※申請後、または卒業研究の履修中に修学上の合理的配慮を希望する場合は、随時、入学・学修支援課までご相談ください。

8. 提出する申請書の内容について、必要に応じて教員から照会することがあります。記入が済みましたら、コピーを取り必ず手元に保管してください。

9. 安全保障輸出管理に関する誓約書について

我が国では、武器や軍事転用可能な貨物や技術が、我が国の安全等を脅かすおそれのある国家やテロリスト等懸念活動を行うおそれのある者に渡ることを防ぐため、外国為替及び外国貿易法（外為法）に基づき、安全保障輸出管理を実施しております。

大学においても研究成果や研究資機材が大量破壊兵器等の懸念活動に利用されないよう、管理する必要があります。

放送大学では、研究に関わる学生に対し、研究内容にかかわらず、大学から提供を受けた研究上の技術情報等を、大学に無断で提供することのないよう誓約書を取得することとしております。

なお、研究過程において貨物の輸出や技術の提供について少しでも疑問や懸念がありましたら、指導教員または本学安全保障輸出管理担当（anpo@ouj.ac.jp）へご相談ください。

様式1を提出する際にあわせて、様式1－2も必ずご提出ください。

＊の欄は記入しないでください。

整　理　番　号
＊

2027年度履修希望者用

卒　業　研　究　申　請　書

卒業研究の履修申請にあたり、「卒業研究履修の手引」をよく読んだうえで、また、指導教員の決定については必ずしも希望通りになるとは限らないことを承諾したうえで申請いたします。

氏名	フリガナ			学生番号	－　－
	漢字	（姓）	（名）		
連絡先	電話番号	①（　　）－（　　）－（　　）		キャンパスメールアドレス	学生番号（ハイフンなし）を記入　@campus.ouj.ac.jp
		②（　　）－（　　）－（　　）			

所属コース	生活と福祉	心理と教育	社会と産業	人間と文化	情報	自然と環境

所属学習センター（サテライトスペース）		職種	

研究テーマ（40字以内）

本項目は必須記入です。テーマは指導教員と相談のうえ、微調整いただけます。現時点で予定しているテーマを必ず記入してください。

研究テーマ概要

希望する指導教員（本部専任教員）

教員氏名		教員の所属コース	コース

▼　必ずお読みください。▼

1．**希望する指導教員欄は必ず記入してください。**指導希望教員の探し方は、「卒業研究履修の手引」P.21をご確認ください。なお、学習センターにおける所長面談の結果、本部専任教員以外の教員を希望することになった場合は、未記入で申請してください。

2．**「卒業研究履修の手引」に記載のない教員名は記入できません。**
また、２名以上の教員名を記入することはできません。
各教員の専門領域、指導方針等はP.33以降の各教員のページをよくご確認ください。

注１　本申請書は必ずコピーを取り手元に保管しておいてください。
注２　本申請書の余白やメモ等を同封して、お問い合わせやご要望を記入いただいても対応いたしかねます。

きりとり

※パソコンで作成したものを貼り付ける場合は折り畳まずに片面1枚にまとめ、各枠内に収めて糊付けし、ホチキスや別紙添付はしないでください。

履修の動機	
研究テーマに関連ある既修得科目名（主なもの）	研究テーマに関連ある既読の文献（主なもの）

現段階での研究計画（どのように進めていくか）【1200字程度】

該当者のみ記入

※所長面談について
卒業研究においては、申請前の学習センターの相談窓口として、所長面談を実施しています。
特に、卒業研究における修学上の合理的配慮を希望する方は、**7月末までに所長面談を必ず受けてください**。
詳細は、P.12をご確認ください。

卒業研究における修学上の合理的配慮 ※希望者は下欄に〇を記入

様式１−２

令和　　年　　月　　日

誓　約　書

放送大学長　　殿

学生番号（学部）：

氏名：

貴学への卒業研究履修及び卒業後に関し、下記の事項を遵守することを誓約します。

1　在学中、無断で大学の所有物の提供及び学外への持ち出しを行いません。次のいずれかに該当する場合には、指導教員（受入教員）に相談するとともに、必要な場合には日本国政府が定める外国為替及び外国貿易法及びこれに基づく関係法令及び貴学の定める内部規程に従い所定の手続を行います。

一　研究上の技術情報を在学中に外国において提供し、若しくは非居住者若しくは非居住者の影響を強く受けている居住者（「特定類型」に該当する者という。）に対して提供しようとする場合、又はこれを在学後に提供することが在学中に明らかとなった場合

二　研究上の使用機器若しくは使用材料若しくは研究の結果得られた有体物を在学中に外国に輸出（海外へ送付又は持出し等）しようとする場合、又はこれらを在学後に輸出することが在学中に明らかとなった場合

2　卒業後、次のいずれかに該当する場合であって、必要な場合には、日本国政府が定める外国為替及び外国貿易法及びこれに基づく関係法令に従い所定の手続を行います。

一　貴大学より提供を受けた研究上の技術情報を外国において提供し、又は非居住者若しくは非居住者の影響を強く受けている居住者（「特定類型」に該当する者という。）に対して提供しようとする場合

二　貴大学における研究上の使用機器若しくは使用材料又は貴大学での研究の結果得られた有体物を外国に輸出（海外へ送付又は持出し等）しようとする場合

3　研究上の技術情報を、大量破壊兵器等（核兵器、化学兵器、生物兵器、ロケット、無人航空機等）、通常兵器又はこれらに使用される材料・部品・製品の開発、製造、使用又は貯蔵に用いず、当該技術情報の使用は民生用途に限ります。

以上

きりとり

※「特定類型」は以下を参照してください。

特定類型とは何か

- 特定類型とは、以下の①から③のような類型をいいます（※実際の規定内容は、役務通達1(3)サをご確認ください）。
- 特定類型は、あくまで個別に審査で確認する必要がある場合を類型的にまとめたものであり、**特定類型に該当するからといって安全保障上懸念がある者とみなされるわけではありません。**

類型①

契約に基づき、外国政府等・外国法人等の支配下にある者への提供

例①：外国大学と兼業（クロスアポイントメントを含む。）をしている本邦大学の教職員への提供

例②：外国企業（× 外資系企業）に勤務している社会人学生への提供

類型②

経済的利益に基づき、外国政府等の実質的な支配下にある者への提供

例①：外国政府から留学資金の提供を受けている学生への提供

例②：外国政府の理工系人材獲得プログラムに参加し、個人として（× 大学として、研究室として）多額の研究資金や生活費の提供を受けている研究者への提供

類型③

上記の他、国内において外国政府等の**指示**の下で行動する者への提供

例：日本における行動に関し外国政府等の指示や依頼を受けている者への提供

4

卒業研究履修において障がいがあることにより修学上の合理的配慮を希望される方は、本様式に必要事項を記入し、**7月末までに必ず所属学習センター所長と面談してください。** 面談は予約制のため、早めに学習センターに連絡し、日程を確保してください。

年　　月　　日

修学上の合理的配慮申込届（学部・卒研用）

フリガナ **申請者氏名**		**生年月日**	年　　月　　日
学生番号			
住所			
連絡先 （電話又はFAX）			
メールアドレス			
希望連絡方法	☐ 電話　☐ FAX　☐ E-mail　☐ その他（　　）		
緊急連絡先	氏名　（本人との関係：　　） 電話番号		
所属 **学習センター**	学習センター　サテライトスペース		
障がいの種類	☐ 視覚障がい　☐ 聴覚・言語障がい　☐ 肢体不自由等　☐ 病弱・虚弱 ☐ 発達障がい　☐ 精神障がい　☐ 知的障がい　☐ その他（　　）		
障がい名・病名	（差し支えない範囲でご記入ください）		
添付書類 （障害者手帳（写）や医師の診断書等）	☐ 身体障害者手帳　☐ 精神障害者保健福祉手帳　☐ 療育手帳 ☐ 診断書　☐ その他（　　）　☐ なし （提出方法：☐ この届に同封して提出　☐ 相談時に提出） ※教養学部入学時または在学中に既に提出済みの方で、障がいの状況や配慮内容に変更がない方は再提出は不要です。変更がある方のみ再提出をお願いします。		

【個人情報等の取り扱いについて】

(1) 放送大学は、合理的配慮の事前相談及び実施等に当たって知り得た個人情報（氏名、住所、障がいの内容、現在受けている介助・支援・受診状況等）の保護に十分留意し、支援業務に必要な範囲に限って使用します。

(2) 放送大学は、合理的配慮において連携する学外の第三者等と上記個人情報を共有することが適当であると判断した場合は、法令に基づく場合を除き、あらかじめ本人の同意を得ることとします。

【修学上の合理的配慮について】

合理的配慮の内容等の詳細は以下のページをご参照ください。

「障がいのある方への修学支援」

https://www.ouj.ac.jp/reasons-to-choose-us/accessibility/support/

本様式は、面談時に必ず持参のうえ、面談終了後、学習センター所長へご提出ください。

きりとり

※未定の項目や不明な項目は空欄のままでかまいません。

	希望する**支援内容**と支援が**必要な理由**
①卒業研究 自宅等でキャンパスメール利用、各種文書作成ソフトでの論文作成、ウェブ会議でゼミ形式や個別の研究指導を受ける。	(支援内容)
	(必要な理由)
②その他 卒業研究履修を始めるにあたり、気になっていることをご記入ください。	
IT機器、インターネット利用状況について (当てはまるところにチェックを入れてください)	(1) ご自宅で、パソコン、タブレット、スマートフォン等によるインターネットの閲覧、操作やメールの送受信はできますか。 □ できる　□ できない (2) 上記で「できる」とした方は以下の質問にお答えください ①システムWAKABAへのログインと、キャンパスメールは利用できましたか。 □できる　□できない　□試していない ②各種ウェブ会議は利用できましたか。 □できる　□できない　□試していない

これらの情報は、どのような支援が必要か、本学と申請者との相談・協議のためにお聞きするものです。お答えいただいた内容が、卒業研究の合否に影響するものではありませんのでご安心ください。

修学上の合理的配慮を申請済みの方においては、現在の障がいの状況や支援内容等について、卒業研究に必要な範囲で、指導教員等に提供する場合がありますのでご了承ください。

修学上の合理的配慮について

放送大学では、障がいの特性に応じた配慮として、以下のような合理的配慮を行っております。この修学上の合理的配慮は、それぞれの障がいの特性や大学側の状況などを勘案し、希望される方ご自身と本学とが相談・協議のうえ、決定されるものです。
以下に挙げる合理的配慮のすべてを保証するものではありませんので、ご留意ください。

≪合理的配慮の例≫
• 希望座席の確保　• 補助犬や介助者（手話通訳士・ノートテイカー等を含む）を伴っての受講、及び補助犬や介助者のための座席等の確保　• 車椅子での入室、車椅子用特製机の持参利用　• 録音機器の持ち込み　• 指導教員作成資料の電子データ提供　• 支援機器の持参利用（ノート・タブレットPC、補聴器・FM視聴システム、点字板・点字ディスプレイ・点字タイプライター、拡大鏡、照明器具等）

修学上の合理的配慮について
合理的配慮の内容等の詳細は以下のページをご参照ください。
「障がいのある方への修学支援」
https://www.ouj.ac.jp/reasons-to-choose-us/accessibility/support/

注：ご提出いただいた書類は返却できませんので、あらかじめご了承ください。

様式２

＊の欄は記入しないでください。

整　理　番　号
＊

2027年度履修希望者用

卒業研究再履修申請書

卒業研究の再履修申請にあたり、「卒業研究履修の手引」をよく読んだうえで、指導教員に現時点の研究進捗や計画の見直しを相談し、申請を承諾されたうえで申請いたします。

氏名	フリガナ			学生番号	ー　ー
	漢字	（姓）	（名）		
連絡先	電話番号	①（　　）－（　　）－（　　）		キャンパスメールアドレス	学生番号（ハイフンなし）を記入　@campus.ouj.ac.jp
		②（　　）－（　　）－（　　）			

所属コース	生活と福祉	心理と教育	社会と産業	人間と文化	情報	自然と環境

所属学習センター（サテライトスペース）		職種	

きりとり

再履修申請に関する注意事項

- 申請前に必ず指導教員に再履修を希望する旨をご相談ください。
- 原則、2026年度の指導を継続するものとなりますので、指導教員の変更や研究テーマの大幅な変更はございません（研究テーマの変更は、指導教員とご相談ください）。
- 指導教員、コースで審査のうえ、指導教員の変更が生じる場合があります。
  １月下旬の本決定通知にて、正式に通知いたします。
- 再履修は、現在までの研究進捗等をもとに、再度審査のうえ、履修可否を決定します。
- 再履修の場合も再度、科目登録と学費納入が必要です。

「卒業研究履修の手引」および上記注意事項を確認し、承諾したうえで申請します。

学生署名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　再履修回数：＿＿＿＿＿＿＿＿回目

※次年度が２年目の方 →１回目
３年目の方 →２回目

注１　本申請書は必ずコピーを取り手元に保管しておいてください。
注２　本申請書の余白やメモ等を同封して、お問い合わせやご要望を記入いただいても対応いたしかねます。

裏面の研究計画等も必須記入です

現在の研究テーマと概要	
現段階での研究の進捗と今後の研究計画【1200字程度】	

※パソコンで作成したものを貼り付ける場合は折り畳まずに片面1枚にまとめ、各枠内に収めて糊付けし、ホチキスや別紙添付はしないでください。

年　　月　　日

卒業研究の最終テーマについて　兼　掲載公開許諾書

放送大学　　御中

私が執筆した卒業研究報告書について、最終テーマを報告します。また、システム WAKABA・放送大学刊行物等への掲載公開について下記のとおり許諾します。

学生番号			
著者氏名	カタカナ記入		
	漢字等記入		
所属コース		所属学習センター（サテライトスペース）	
著者連絡先	住所	〒	
	TEL		
	E-mail		
指導教員氏名			
最終の研究テーマ ※卒業研究報告書の表紙のタイトルを記入してください。入りきらない場合は、副題を除いてください。		40字以内で記入してください。	

	研究テーマの公開	卒業研究報告書の全文の公開
システムWAKABA・放送大学刊行物等への掲載公開について **必須記入です**	システムWAKABA、放送大学刊行物等に前項で記入いただいた「研究テーマ」を掲載します。 ☐ 研究テーマの掲載を許諾する ☐ 非公開を希望する（許諾しない）	2～3月頃、各コースで審査し、優秀作品に選出された方は、報告書の全文を掲載します。該当者へは、個別にご連絡しますが、現時点での意向を記入してください。 ☐ 報告書全文の掲載を許諾する ☐ 非公開を希望する（許諾しない） ☐ 条件付きで許諾する （　　）

【記入上の注意】

本許諾書は、**卒業研究報告書と同封して必ずご提出ください**。また、卒業研究に他者の著作物を利用しており、著作権者にインターネットや放送大学刊行物等への掲載公開許諾を得ていない場合は全文の掲載公開については「非公開」に☑をしてください。なお、提出後に掲載公開の許諾内容が変更になった場合はその時点ですみやかに入学・学修支援課 shugaku-ka@ouj.ac.jp 宛にメールにてご連絡ください。

【個人情報の取扱について】

ご記入いただいた個人情報は、本学業務のみに使用し、第三者に公開されることはありません。

［問合先］　放送大学入学・学修支援課卒業判定係　shugaku-ka@ouj.ac.jp

きりとり

放送大学
イメージキャラクター
「まなぴー」

申請書提出先・問い合わせ先

放送大学

入学・学修支援課 卒業判定係
〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11
ＴＥＬ：043-276-5111（総合受付）　E-mail：shugaku-ka@ouj.ac.jp